

シラバス(授業計画)

SYLLABUS

令和6年度



関西看護医療大学

目 次

授業科目一覧	1
卒業要件	5
履修要件	6

【1 学年】

前 期

(一般教養科目)

セラピーと俳句	8
医療のための生物と化学	9
論理学入門	11
文章表現法	12
健康と運動の理論と実践	13
情報処理	14
英語Ⅰ	15
英語Ⅱ	17

(医学系科目)

人体構造機能学Ⅰ	19
----------	----

(専門科目)

基礎看護学Ⅰ（概論）	21
基礎看護学Ⅱ-a（生活の援助技術）	23

(実習科目)

基礎看護学実習（コミュニケーション）	24
--------------------	----

後 期

(一般教養科目)

統計学	25
心理学	26
人間と生き方（哲学）	27
社会と家族	28
芸術	29
人間関係論	30
人文教養特別講義Ⅰ（自然と文化①）	31
現代アメリカ事情	32
医療英語	34

(医学系科目)

人体構造機能学Ⅱ	36
生化学	38
病態治療学Ⅰ（総論）	39

(保健・福祉系科目)

食生活と看護	41
福祉教育の本質	42

(専門科目)

基礎看護学Ⅱ-b（生活の援助技術）	43
基礎看護学Ⅲ（診療の補助技術）	45
看護学原論	46
成人看護学Ⅰ（概論）	48

【2 学年】

前 期

(一般教養科目)

人文教養特別講義Ⅱ（自然と文化②）	49
法と人権	50

(医学系科目)

病態治療学Ⅱ	51
病態治療学Ⅲ	52
生命と倫理	55
公衆衛生学	56
薬理学Ⅰ（総論）	57

(保健・福祉系科目)

病態心理学	59
社会保障と社会福祉	60
医療と経済	61

(専門科目)

基礎看護学Ⅳ（フィジカルアセスメント）	62
基礎看護学Ⅴ（問題解決技法）	63
看護診断学Ⅰ	64
地域看護学Ⅰ（概論）	66
老年看護学Ⅰ（概論）	67
小児看護学Ⅰ（概論）	69
母性看護学Ⅰ（概論）	70
母性看護学Ⅱ-a（援助論）	71
精神看護学Ⅰ（概論）	72

(実習科目)

看護過程論実習Ⅰ	73
----------	----

後 期

(医学系科目)

薬理学Ⅱ（臨床薬理）	74
感染と免疫	75

(保健・福祉系科目)

医療と人権	77
カウンセリング論	78

(専門科目)

保健医療福祉行政論Ⅰ	79
在宅看護学Ⅰ（概論）	80
地域看護学Ⅱ（援助論）	82
成人看護学Ⅱ-a（急性期援助論）	83
成人看護学Ⅱ-b	84
成人看護学Ⅲ	86
老年看護学Ⅱ（援助論）	88
小児看護学Ⅱ（援助論）	90
母性看護学Ⅱ-b（援助論）	92
精神看護学Ⅱ（援助論）	93

(実習科目)

看護過程論実習Ⅱ	95
----------	----

【3 学年】

前 期

(一般教養科目)

健康と運動の理論と実践	96
情報処理	97
法と人権	98
英語Ⅲ	99

(医学系科目)

疫学	100
----	-----

(保健・福祉系科目)

在宅看護学Ⅱ（援助論）	101
-------------	-----

(専門科目)

公衆衛生看護学概論	103
公衆衛生看護活動論Ⅰ	104
成人看護学Ⅳ（援助方法論）	105
老年看護学Ⅲ（援助方法論）	107
小児看護学Ⅲ（援助方法論）	108
母性看護学Ⅲ（援助方法論）	110
精神看護学Ⅲ	112

(発展科目)

看護診断学Ⅱ	114
リスクマネジメント	116
国際看護学・災害看護学	117

後 期

(専門科目)

令和 4 年度生 公衆衛生看護活動論Ⅱ	119
地域看護診断論	120

(実習科目)

看護過程論実習Ⅲ	121
地域・在宅看護学実習	122
成人老年看護学実習Ⅰ	123
成人老年看護学実習Ⅱ	124
小児看護学実習	125
母性看護学実習	126
精神看護学実習	127

【4 学年】

前 期

(一般教養科目)

英語Ⅵ	128
-----	-----

(実習科目)

令和 3 年度生用 公衆衛生看護活動論Ⅲ	130
地域看護診断論	132
公衆衛生看護技術論	133
公衆衛生看護学実習Ⅰ	134
公衆衛生看護学実習Ⅱ	135
課題実習	136

通 年

(発展科目)

卒業研究	137
------	-----

後 期

(発展科目)

保健医療福祉行政論Ⅱ	139
公衆衛生看護管理論	140
看護管理論	141
看護倫理	142

関西看護医療大学カリキュラム

区分	授 業 科 目	単位	時間	必修	選択	卒業要件	年 次 配 当								
							1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期	計
基礎分野	情報処理	2	30	○		必修 13 単位 + 選択 6 単位	2								2
	医療のための生物と化学	2	30	○			2								2
	セラピーと俳句	1	15	○			1								1
	人文教養特別講義Ⅰ(自然と文化①)※	1	15		○		1								1
	思考と表現	2	30		○		2								2
	健康と運動の理論と実践	2	30		○		2								2
	統計学	2	30	○				2							2
	心理学	2	30	○				2							2
	人間と生き方(哲学)	2	30	○				2							2
	社会と家族	2	30	○				2							2
	芸術	2	30		○			2							2
	人間関係論	2	30		○				2						2
	人文教養特別講義Ⅱ(自然と文化②)	1	15		○				1						1
	法と人権	2	30		○	必修 2 単位 + 選択 2 単位				2					2
	英語Ⅰ	1	30	○			1								1
	英語Ⅱ	1	30	○				1							1
	英語Ⅲ	1	30		○				1						1
	英語Ⅳ	1	30		○					1					1
	英語Ⅴ	1	30		○						1				1
	英語Ⅵ	1	30		○	選択 2 単位							1		1
	中国語Ⅰ	1	30		○		1								1
	中国語Ⅱ	1	30		○			1							1
	韓国語Ⅰ	1	30		○		1								1
	韓国語Ⅱ	1	30		○			1							1
	計					25	13	13	4	3	1	0	1	0	35
専門基礎分野	人体構造機能学Ⅰ	2	60	○		(看) 必修 28 単位 + 選択 4 単位	2								2
	人体構造機能学Ⅱ	2	60	○				2							2
	生化学	2	30	○				2							2
	病態治療学Ⅰ(総論)	2	30	○				2							2
	病態治療学Ⅱ	2	60	○					2						2
	病態治療学Ⅲ	2	30	○					2						2
	生命と倫理	2	30	○					2						2
	公衆衛生学	1	15	○					1						1
	薬理学Ⅰ(総論)	2	30	○					2						2
	薬理学Ⅱ(臨床薬理)	2	30	○						2					2
	感染と免疫	2	30	○						2					2
	疫学 ☆	2	30		○						2				2
	食生活と看護	2	30	○		(保) 必修 31 単位 + 選択 2 単位		2							2
	福祉教育の本質	2	30		○			2							2
	病態心理学	2	30	○					2						2
	社会保障と福祉	2	30	○					2						2
	医療と経済	2	30		○				2						2
	保健医療福祉行政論Ⅰ	1	15	○						1					1
	医療と人権	2	30		○					2					2
	カウンセリング論	2	30		○					2					2
	保健医療福祉行政論Ⅱ ☆	1	15		○								1		1
	計					(看) 32 (保) 33	2	10	15	9	2	0	0	1	39

(留意事項)

①保健師国家試験受験資格を得るためには、以下の選択科目(9科目)をすべて履修することが必要です。

(カリキュラム表中の授業科目に☆及び★印の入っている科目)

【疫学】【保健医療福祉行政論Ⅱ】【公衆衛生看護活動論Ⅱ(対象別公衆衛生看護活動展開論①)】【公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動展開論②)】

【地域看護診断論】【公衆衛生看護技術論】【公衆衛生看護管理論】【公衆衛生看護学実習Ⅰ(個人・家族・集団・組織の支援実習)】

【公衆衛生看護学実習Ⅱ(公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)】

②また、☆印は看護師課程履修でも選択することができる科目を表し、★印は保健師課程履修者のみ選択することができます。

③※【人文教養特別講義Ⅰ(自然と文化①)】は選択必修科目です。

④基礎分野の選択科目については、1セメスターの履修登録上限を選択必修科目及び外国語科目を除いて2単位までとする。

関西看護医療大学カリキュラム

区分		授 業 科 目	単位	時間	必修	選択	卒業要件	年 次 配 当								
								1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	計
専 門 分 野	専 門 科 目	基礎看護学Ⅰ(概論)	2	30	○		(看) 必修72単位 +選択1単位	2								2
		基礎看護学Ⅱ(フィジカルアセスメントの技術)	1	45	○				1							1
		基礎看護学Ⅲ-a(生活の援助技術)	1	30	○			1							1	
		基礎看護学Ⅲ-b(生活の援助技術)	2	60	○				2						2	
		基礎看護学Ⅳ(診療の補助技術)	1	30	○					1					1	
		基礎看護学Ⅴ(問題解決技法)	2	30	○						2				2	
		看護学原論	1	30	○				1						1	
		看護診断学Ⅰ	1	30	○					1					1	
		在宅看護論Ⅰ(概論)	2	30	○						2				2	
		在宅看護論Ⅱ(援助論)	2	30	○							2			2	
		公衆衛生看護学概論	2	30	○					2					2	
		公衆衛生看護学活動Ⅰ(対象別公衆衛生看護学活動論)	1	15	○						1				1	
		公衆衛生看護学活動Ⅱ(対象別公衆衛生看護学活動展開論①)★	4	60		○						4			4	
		公衆衛生看護学活動Ⅲ(対象別公衆衛生看護学活動展開論②)★	2	30		○							2		2	
		地域看護診断論	★	2	30			○					2		2	
		公衆衛生看護技術論	★	2	30			○						2	2	
		公衆衛生看護管理論	★	1	15			○							1	
		成人看護学Ⅰ(概論)	1	15	○					1					1	
		成人看護学Ⅱ-a(急性期援助論)	2	30	○							2			2	
		成人看護学Ⅱ-b(急性期援助論)	1	15	○							1			1	
		成人看護学Ⅲ(慢性期援助論)	2	30	○							2			2	
		成人看護学Ⅳ(援助方法論)	1	45	○								2		1	
		老年看護学Ⅰ(概論)	1	15	○						1				1	
		老年看護学Ⅱ(援助論)	2	30	○							2			2	
		老年看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○								1		1	
		小児看護学Ⅰ(概論)	1	15	○						1				1	
		小児看護学Ⅱ(援助論)	2	30	○							2			2	
		小児看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○								1		1	
		母性看護学Ⅰ(概論)	1	15	○							1			1	
		母性看護学Ⅱ-a(援助論)	1	15	○							1			1	
		母性看護学Ⅱ-b(援助論)	1	15	○								1		1	
		母性看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○									1	1	
		精神看護学Ⅰ(概論)	1	15	○						1				1	
		精神看護学Ⅱ(援助論)	2	30	○							2			2	
	精神看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○							1		1			
	実 習 科 目	基礎看護学実習	3	135	○					3				3		
		看護過程論実習	3	135	○						3			3		
		在宅看護学実習	2	90	○								2	2		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の支援実習)★	2	90		○							2	2		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護学活動展開論及び公衆衛生看護管理論)★	3	135		○							3	3		
		成人看護学実習Ⅰ	2	90	○							2		2		
		成人看護学実習Ⅱ	2	90	○							2		2		
		老年看護学実習Ⅰ	1	45	○			1				1		1		
		老年看護学実習Ⅱ	2	90	○							2		2		
		小児看護学実習	2	90	○							2		2		
		母性看護学実習	2	90	○							2		2		
		精神看護学実習	2	90	○							2		2		
		課題実習	2	90	○								2	2		
		発 展 科 目	看護診断学Ⅱ	1	30	○						1			1	
	リスクマネジメント		1	30	○						1			1		
	国際看護学・災害看護学		2	30	○						2			2		
	卒業研究		4	60	○								4	4		
	看護管理論		1	15		○							1	1		
	看護倫理		1	15		○							1	1		
計							(看) 73 (保) 88	4	5	12	20	15	0	27	7	90
合 計							(看) 130 (保) 146	19	28	31	32	18	0	28	8	164

関西看護医療大学カリキュラム

令和4年度生～6年度生

令和4年度 カリキュラム表

区分	科目名	単位	時間	保健師 課程	卒業要件	年次配当							
						1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後
基礎分野	一般教養科目	セラピーと俳句	1	15		◎							
		医療のための生物と化学	2	30		◎							
		論理学入門	2	30		○							
		文章表現法	1	15		○							
		健康と運動の理論と実践	2	30	☆	○				○			
		情報処理	2	30	☆	○				○			
		統計学	2	30			◎						
		心理学	2	30			○						
		人間と生き方(哲学)	2	30			○						
		社会と家族	2	30			○						
		芸術	2	30			○						
		人間関係論	2	30			○						
		人文教養特別講義Ⅰ(自然と文化①)	1	15			◎						
		現代アメリカ事情	2	30			○						
		人文教養特別講義Ⅱ(自然と文化②)	1	15				○					
		法と人権	2	30	☆			○		○			
		医療英語	1	15			◎						
		英語Ⅰ	1	15		○							
		英語Ⅱ	1	15		○							
		英語Ⅲ(コミュニケーション)	2	30	☆					○			
専門基礎分野	医学系科目	人体構造機能学Ⅰ	2	60		◎							
		人体構造機能学Ⅱ	2	60			◎						
		生化学	2	30			◎						
		病態治療学Ⅰ(総論)	2	30			◎						
		病態治療学Ⅱ	2	60				◎					
		病態治療学Ⅲ	2	30				◎					
		生命と倫理	2	30				◎					
		公衆衛生学	1	15				◎					
		薬理学Ⅰ(総論)	2	30				◎					
		薬理学Ⅱ(臨床薬理)	2	30					◎				
		感染と免疫	2	30					◎				
		疫学	2	30	必					○			
	保健・福祉系科目	食生活と看護	2	30			◎						
		福祉教育の本質	2	30			○						
		病態心理学	2	30				◎					
		社会保障と社会福祉	1	15				◎					
		医療と経済	2	30				○					
		医療と人権	2	30					○				
		カウンセリング論	2	30					○				
		保健医療福祉行政論Ⅰ	1	15	必				◎				
		保健医療福祉行政論Ⅱ	2	30	必								保

(留意事項)

①カリキュラム表中の「◎」は必修科目を、「○」は選択科目を表しています。

②保健師国家試験の受験資格を得るためにはカリキュラム表中の「保健師課程」欄の必修科目(13科目)をすべて履修する必要があります。

※このうち、3科目(保健医療福祉行政論Ⅰ、地域看護学Ⅰ、地域看護学Ⅱ)については、看護師課程の必修科目と重複しており、看護師課程の履修によって保健師課程の条件も満たすことができます。

③カリキュラム表中の「保」は保健師課程履修者のみ履修することができる科目です。

④カリキュラム表中の「☆」は保健師課程修了時に養護教諭2種免許を修得できる科目です。(全4科目の8単位全て修得が必要)

区分		科目名	単位	時間	保健師 課程	卒業要件	年次配当								
							1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後	
専門分野	専門科目	基礎看護学Ⅰ(概論)	2	30		【看護師課程】 必修71単位 +選択1単位以上 【保健師課程】 必修90単位	◎								
		基礎看護学Ⅱ-a(生活の援助技術)	1	30			◎								
		基礎看護学Ⅱ-b(生活の援助技術)	2	60				◎							
		基礎看護学Ⅲ(診療の補助技術)	1	30				◎							
		基礎看護学Ⅳ(フィジカルアセスメントの技術)	1	45					◎						
		基礎看護学Ⅴ(問題解決技法)	2	30					◎						
		看護学原論	1	30				◎							
		看護診断学Ⅰ	1	30					◎						
		在宅看護論Ⅰ(概論)	2	30						◎					
		在宅看護論Ⅱ(援助論)	2	30							◎				
		地域看護学Ⅰ(概論)	1	15	必					◎					
		地域看護学Ⅱ(援助論)	1	15	必						◎				
		公衆衛生看護学概論	1	15	必							保			
		公衆衛生看護活動論Ⅰ(対象別公衆衛生看護活動論①)	3	45	必							保			
		公衆衛生看護活動論Ⅱ(対象別公衆衛生看護活動論②)	4	60	必								保		
		地域看護診断論	2	30	必								保		
		公衆衛生看護技術論	2	30	必									保	
		公衆衛生看護管理論	2	30	必									保	
		成人看護学Ⅰ(概論)	1	15						◎					
		成人看護学Ⅱ-a(急性期援助論)	2	30								◎			
		成人看護学Ⅱ-b(急性期援助論)	1	15								◎			
		成人看護学Ⅲ(慢性期援助論)	2	30								◎			
		成人看護学Ⅳ(援助方法論)	1	45									◎		
		老年看護学Ⅰ(概論)	1	15							◎				
		老年看護学Ⅱ(援助論)	2	30								◎			
		老年看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30									◎		
		小児看護学Ⅰ(概論)	1	15							◎				
		小児看護学Ⅱ(援助論)	2	30								◎			
		小児看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30									◎		
		母性看護学Ⅰ(概論)	1	15							◎				
		母性看護学Ⅱ-a(援助論)	1	15							◎				
		母性看護学Ⅱ-b(援助論)	1	15								◎			
		母性看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30									◎		
		精神看護学Ⅰ(概論)	1	15							◎				
		精神看護学Ⅱ(援助論)	2	30								◎			
		精神看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30									◎		
	実習科目	基礎看護学実習(コミュニケーション)	3	135					◎						
		看護過程論実習Ⅰ	2	90							◎				
		看護過程論実習Ⅱ	3	135								◎			
		看護過程論実習Ⅲ	1	45									◎		
		地域・在宅看護学実習	2	90									◎		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の生活支援実習)	2	90	必									保	
		公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開論実習及び公衆衛生看護管理論実習)	3	135	必									保	
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90										◎	
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90										◎	
小児看護学実習		2	90									◎			
母性看護学実習		2	90									◎			
精神看護学実習		2	90									◎			
課題実習		2	90										◎		
発展科目		看護診断学Ⅱ	1	30							◎				
		リスクマネジメント	1	30							◎				
		国際看護学・災害看護学	2	30							◎				
	看護倫理	1	15										○		
	看護管理論	1	15										○		
	卒業研究	4	60										◎		
			セメスター別配当単位数計			20	31	29	27	25	21	34	13		
			合計			(看)125 (保)145									

卒業要件

本学を卒業するには、本学に4年以上在学し、基礎分野・専門基礎分野・専門分野ごとに定められた、卒業に必要な単位は下記の通りです。

◎R2～3年度生は130単位以上（看護師）、146単位以上（保健師）の修得が必要になります。

◎R4～6年度生は125単位以上（看護師）、145単位以上（保健師）の修得が必要になります。

【卒業要件単位数】

〔R2～R3年度生〕

区	分	必修	選択	計
基礎分野	一般教養科目	(看)(保)15	(看)(保)10	(看)(保)25
専門基礎分野	医学系科目	(看) 21 (保) 23	(看) 4 (保) 2	(看) 32 (保) 33
	保健・福祉系科目	(看) 2 (保) 4		
専門分野	専門科目	(看) 41 (保) 52	(看) 1	(看) 73 (保) 88
	実習科目	(看) 23 (保) 28		
	発展科目	(看)(保) 8		
計		(看) 115 (保) 134	(看) 15 (保) 12	(看) 130 (保) 146

〔R4～R6年度生〕

区	分	必修	選択	計
基礎分野	一般教養科目	(看)(保) 7	(看)(保)15	(看)(保)22
専門基礎分野	医学系科目	(看) 27 (保) 31	(看) 4 (保) 2	(看) 31 (保) 33
	保健・福祉系科目			
専門分野	専門科目	(看) 71 (保) 90	(看) 1	(看) 72 (保) 90
	実習科目			
	発展科目			
計		(看) 105 (保) 128	(看) 20 (保) 17	(看) 125 (保) 145

1) 必修科目は、看護学を学ぶ上で必要不可欠な科目であり、決められた年次の開講科目は全て履修してください。

2) 選択科目は、選択により卒業要件として修得必要単位数を履修しなければならない科目です。

分野毎に履修すべき単位数が決められています。

- ① 「不開講科目の決定に関する内規」に基づき、受講希望者が5名以下の場合は、開講しないことがあります。
- ② 保健師課程を選択している学生で、養護教諭第2種免許の取得を希望する場合は、「法と人権」「健康と運動の理論と実践」を必ず選択してください。また、「英語Ⅴ」（令和4年～6年度生については「英語Ⅲ」）を出来る限り修得してください。

各科目の履修要件 (R2・3年度入学生)

授業科目	必・選	開講 セメスター	要件科目
全看護学実習 (保健師実習除く)			3年夏期に大学が指定する集中講義を受講していること。
在宅看護学実習	必	6 - 7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 在宅看護論Ⅰ } 単位修得 在宅看護論Ⅱ }
公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の支援実習)	選	7	疫学 保健医療福祉行政論Ⅰ } 単位修得 公衆衛生看護活動論Ⅰ } 公衆衛生看護活動論Ⅱ }
公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)	選	7	疫学 保健医療福祉行政論Ⅰ } 単位修得 公衆衛生看護活動論Ⅰ } 公衆衛生看護活動論Ⅱ }
成人看護学実習Ⅰ	必	6 - 7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 成人看護学Ⅱ-a } 単位修得 成人看護学Ⅱ-b } 成人看護学Ⅲ } 成人看護学Ⅳ }
成人看護学実習Ⅱ	必	6 - 7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 成人看護学Ⅱ-a } 単位修得 成人看護学Ⅱ-b } 成人看護学Ⅲ } 成人看護学Ⅳ }
老年看護学実習Ⅱ	必	6 - 7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 老年看護学Ⅰ } 単位修得 老年看護学Ⅱ } 老年看護学Ⅲ }
小児看護学実習	必	6 - 7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 小児看護学Ⅰ } 単位修得 小児看護学Ⅱ } 小児看護学Ⅲ }
母性看護学実習	必	6 - 7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 母性看護学Ⅰ } 単位修得 母性看護学Ⅱ-a } 母性看護学Ⅱ-b } 母性看護学Ⅲ }
精神看護学実習	必	6 - 7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 精神看護学Ⅰ } 単位修得 精神看護学Ⅱ } 精神看護学Ⅲ }
課題実習	必	7	原則として、全領域の看護学実習が終了しており、その全ての単位認定が見込まれること。

各科目の履修要件 (R2・3年度入学生)

授業科目	必・選	開講 セメスター	要件科目
基礎看護学実習	必	3	人体構造機能学Ⅰ } 単位修得 人体構造機能学Ⅱ } 基礎看護学Ⅰ } 基礎看護学Ⅱ } 基礎看護学Ⅲ-a } 基礎看護学Ⅲ-b } 基礎看護学Ⅳの受験資格を有している。
成人看護学Ⅱ-a (急性期援助論)	必	4	成人看護学Ⅰの単位取得
成人看護学Ⅱ-b (急性期援助論)	必	4	成人看護学Ⅰの単位取得
成人看護学Ⅲ (慢性期援助論)	必	4	成人看護学Ⅰの単位取得
老年看護学Ⅱ (援助論)	必	4	老年看護学Ⅰの単位取得
小児看護学Ⅱ (援助論)	必	4	小児看護学Ⅰの単位取得
母性看護学Ⅱ-b (援助論)	必	4	母性看護学Ⅰ・母性看護学Ⅱ-aの単位取得
精神看護学Ⅱ (援助論)	必	4	精神看護学Ⅰの単位取得
看護過程論実習	必	4	人体構造機能学Ⅰ } 単位修得 人体構造機能学Ⅱ } 基礎看護学Ⅰ } 基礎看護学Ⅱ } 基礎看護学Ⅲ-a } 基礎看護学Ⅲ-b } 基礎看護学Ⅳ } 基礎看護学実習 } 基礎看護学Ⅴの受験資格を有している。
在宅看護論Ⅱ (援助論)	必	5	在宅看護論Ⅰの単位取得
成人看護学Ⅳ (援助方法論)	必	5	成人看護学Ⅱ-a } 単位修得 成人看護学Ⅱ-b } 成人看護学Ⅲ }
老年看護学Ⅲ	必	5	老年看護学Ⅱの単位取得
小児看護学Ⅲ	必	5	小児看護学Ⅱの単位取得
母性看護学Ⅲ	必	5	母性看護学Ⅱ-bの単位取得
精神看護学Ⅲ	必	5	精神看護学Ⅱの単位取得
看護診断学Ⅱ	必	5	看護診断学Ⅰの単位取得

各科目の履修要件 (R4・R5・R6年度入学生)

授業科目	必・選	開講 セメスター	要件科目
公衆衛生看護活動論Ⅱ (対象別公衆衛生看護活動論②)	選	6・7	公衆衛生看護学概論 } 単位修得 公衆衛生看護活動論Ⅰ }
地域看護診断論	選	6・7	公衆衛生看護学概論 } 単位修得 公衆衛生看護活動論Ⅰ }
看護過程論実習Ⅲ	必	6・7	看護過程論実習Ⅱ 単位修得 地域・在宅看護学実習、成人・老年看護学 実習Ⅰ、成人・老年看護学実習Ⅱ、小児看 護学実習、母性看護学実習、精神看護学実 習の全てを履修し、終えている。
【各論実習共通】			看護過程論実習Ⅰ及び看護過程論実習Ⅱ の単位修得並びに専門基礎分野の必修科目 15科目27単位の修得
地域・在宅看護学実習	必	6・7	在宅看護論Ⅱ } 単位修得 地域看護学Ⅱ }
成人・老年看護学実習Ⅰ	必	6・7	成人看護学Ⅳ } 単位修得 老年看護学Ⅲ }
成人・老年看護学実習Ⅱ	必	6・7	成人看護学Ⅳ } 単位修得 老年看護学Ⅲ }
小児看護学実習	必	6・7	小児看護学Ⅲ 単位修得
母性看護学実習	必	6・7	母性看護学Ⅲ 単位修得
精神看護学実習	必	6・7	精神看護学Ⅲ 単位修得
公衆衛生看護技術論	選	7	公衆衛生看護学概論 } 単位修得 公衆衛生看護活動論Ⅰ }
課題実習	必	7	原則として、全領域の看護学実習が終了し ており、その全ての単位認定が見込まれる こと。
公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の生活支援実習)	選	7	公衆衛生看護学概論 } 単位修得 公衆衛生看護活動論Ⅰ }
公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開論実習及び 公衆衛生看護管理論実習)	選	7・8	公衆衛生看護学概論 } 単位修得 公衆衛生看護活動論Ⅰ }
公衆衛生看護管理論	選	8	公衆衛生看護活動論Ⅱ } 単位修得 地域看護診断論 公衆衛生看護技術論 }

各科目の履修要件 (R4・R5・R6年度入学生)

授業科目	必・選	開講 セメスター	要件科目
看護過程論実習Ⅰ	必	3	人体構造機能学Ⅰ } 単位修得 人体構造機能学Ⅱ 基礎看護学Ⅱ-a 基礎看護学Ⅱ-b 基礎看護学Ⅲ 基礎看護学実習 基礎看護学Ⅳ、基礎看護学Ⅴの受験資格を 有している。
地域看護学Ⅱ (援助論)	必	4	地域看護学Ⅰ 単位修得
公衆衛生看護学概論	必	4	地域看護学Ⅰ } 単位修得 地域看護学Ⅱ }
公衆衛生看護活動論Ⅰ (対象別公衆衛生看護活動論①)	必	4	地域看護学Ⅰ } 単位修得 地域看護学Ⅱ }
成人看護学Ⅱ-a (急性期援助論)	必	4	成人看護学Ⅰ 単位修得
成人看護学Ⅱ-b (急性期援助論)	必	4	成人看護学Ⅰ 単位修得
成人看護学Ⅲ (慢性期援助論)	必	4	成人看護学Ⅰ 単位修得
老年看護学Ⅱ (援助論)	必	4	老年看護学Ⅰ 単位修得
小児看護学Ⅱ (援助論)	必	4	小児看護学Ⅰ 単位修得
母性看護学Ⅱ-b	必	4	母性看護学Ⅰ・母性看護学Ⅱ-a 単位修得
精神看護学Ⅱ (援助論)	必	4	精神看護学Ⅰ 単位修得
看護過程論実習Ⅱ	必	4	基礎看護学Ⅳ } 単位修得 基礎看護学Ⅴ 成人看護学Ⅰ 看護過程論実習Ⅰ }
在宅看護論Ⅱ (援助論)	必	5	在宅看護論Ⅰ 単位修得
成人看護学Ⅳ (援助方法論)	必	5	成人看護学Ⅱ-a } 単位修得 成人看護学Ⅱ-b 成人看護学Ⅲ
老年看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	老年看護学Ⅱ 単位修得
小児看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	小児看護学Ⅱ 単位修得
母性看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	母性看護学Ⅰ } 単位修得 母性看護学Ⅱ-a 母性看護学Ⅱ-b
精神看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	精神看護学Ⅱ 単位修得
看護診断学Ⅱ	必	5	看護診断学Ⅰ 単位修得

【 1 学年】

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	セラピーと俳句 [Therapy and Haiku]	担 当 教 員 名	◎江川 隆子、三根 香南、高木 智念、 小平 京子、栗井 光代、箕浦 洋子			
期 間	1 年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1 単位 ・ 15時間		●			
授 業 形 態	講義		● - 必修 ・ ○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	1	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②③、2 - ②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 俳句作りの基本と心構え、独特の表現方法、俳句作りのポイントおよび俳句作りの実際と鑑賞を通して、現象を具体的にとらえ、その現象に潜む本質を表現する方法とその重要性を学修する。さらに現象の表現に伴うリフレクションが、自分自身の看護観の醸成と自己の癒しに繋がることを学修する。 [学修目標] 1. 俳句についての基本的な知識を説明できる。 2. 俳句作りのポイントが説明できる。 3. 俳句作りと鑑賞を通して、現象の奥の本質を文字に表現する重要性を述べるができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業外			目標時間
第 1 回	ガイダンス、俳句とは 【講義】(江川、三根、小平)		(準備学習の内容) ●俳句の作り方(教科書) ページ12～26ページを読む			各 3～4 時間
第 2 回	1 俳句作りの基本と心構え 【講義】(三根)		●教科書ページ28～54ページを読んで季語についてまとめる。			
第 3 回	2 俳句の独特の表現 【講義】(三根)		●教科書56～78ページを読む。 (220分程度)			
第 4 回	3 俳句の独特の表現 【講義】(三根)		●教科書56～78ページを読み、切字についてまとめる。			
第 5 回	4 俳句作りのポイント ・俳句をつくるころがけ・叙景と人事句の違い ・季重なりをさける・挨拶 / 贈答の俳句 【講義】(三根)		●教科書86～138ページを読む。			
第 6 回	5 俳句作りの実際と鑑賞 ・五七五の調べを整える・季語の使い方に注意・具体的に表現する・比喩やユーモアの用い方 【講義】(三根)		●教科書144～196・209～232ページを読む。			
第 7 回	6 作句と鑑賞 【演習】(三根、高木、江川、小平、栗井、箕浦)		・今までの経験を通して、兼題を基に3句俳句を詠みその1句とその背景になった出来事、または状況、思いについて600字以内にまとめて提出。			
第 8 回	7 作句と鑑賞 【演習】(三根、高木、江川、小平、栗井、箕浦)		・グループの俳句を読み、自分の好きな句を1句選んで、鑑賞をまとめる。			
学修評価の方法 基準 (割 合 %)	レポート：①自分の1句とその背景・状況・思いについて600字以内でまとめる。 ②他の俳句の中から1句好きなものを選びその鑑賞を100字以内でまとめる。(100%)					
フィードバックの方法	担当教員からコメントを入れて返却					
他 の 授 業 と の 関 連	特になし					
テ キ ス ト	①「俳句歳時記」夏・秋・冬(角川ソフィア文庫) ②「わかりやすい俳句の作り方・俳句作りの基本から句会、吟行まで」著：鈴木貞雄(日本文芸社) 2011					
参 考 図 書						
履修上の留意点	日本の伝統文化である「haiku」の名で国際社会に普及し、ユネスコの文化遺産入りを間近にしています。講義では、俳句の基本と作り方をお話しし、皆さんにも俳句を作る喜びを知って頂くとともに、自分自身の看護観の醸成と自己の癒しに繋がるように学修していきましょう。					
オフィスアワー	在室時は、状況によって調整し対応、不在時は、< egawa.kenkyu@kki.ac.jp> に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	①三根 香南(若葉、岬、柊の芽同人、看護師)、高木 智念(若葉、岬、柊の芽同人)、教員 ③江川 隆子(看護師)、④小平京子(看護師)、⑤栗井 光代(文学)、⑥箕浦 洋子(看護師)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	医療のための生物と化学 [Biology and Chemistry for Comedical Students]	担 当 教 員 名	◎百田 芳春			
期 間	1 年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間		●			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 本授業科目は高校での基礎生物と基礎科学で学習項目の中で、「人体構造機能学Ⅰ及びⅡ」「生化学」また医学系専門科目を学ぶ上で、前提になっている必須の基礎的な知識を復習し、学んでいきます。そのため、生物の基本的な原理（細胞分裂・減数分裂）生命を構築する主要な原子や分子の特徴や酸性やアルカリなどの化学的基本項目を学習していきます。これらの学修から、医療系に必要な生物と化学に関する基礎的能力を修得する。					
	[学修目標] 1. 人体を構成する原子、イオン、分子について説明できる。 2. 人体を構成する高分子について説明できるようになる。 3. 物理化学的な法則に従う血圧、空気の移動、表面張力、酸塩基、浸透圧などについて説明できる。 4. 細胞分裂ついて説明できる。 5. 遺伝と遺伝物質ついて説明できる。 6. 細胞と組織・器官について説明できる。 7. 発生・成長・老化について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	生体分子を構成する元素、原子、分子、イオンについて 原子の構造、同位元素について、化学結合、 イオン結合について 特に水分子の化学的性質を学習してください。		楽しくわかる生物・物理・化学（以下、 【楽】と略す）第1章P10～23を読んで内 容把握に努め、授業で学んだことを復習 してください。			4 時間
第 2 回	電気陰性度やイオン化傾向 分子と分子の引き合う力 復習時には水素結合・疎水結合・ファンデルワールス力などの 言葉を検索して調べてみてください。（物理化学的内容）		教科書の該当部分：【楽】第1章P10～23			4 時間
第 3 回	酸と塩基 酸・塩基の定義 水分子の解離とイオン積について 体液中に酸やアルカリ性物質が混ざったときの反応について 解っているようでわかりにくい酸と塩基が水分子の根本的な化 学的特徴であることを理解し、学習してください。（物理化学 的内容）宿題問題に取り組んでください。		教科書の該当部分：【楽】第1章P25～ 26、第9章P169～173および解剖生理学 （以下、【解】と略す）P 261～265			4 時間
第 4 回	生体物質について 無機物質・有機物質の区別 単糖、アミノ酸、脂肪酸、多糖類、タンパク質、脂質について 炭素を中心にした化学結合によって生体の主要分子が構成され ることを学習しましょう。（物理化学的内容）		教科書の該当部分：【楽】第2章			4 時間
第 5 回	細胞について 細胞内小器官と細胞膜の構造や働き 細胞内小器官の働き、細胞膜の組成と特徴、細胞膜タンパク質 の役割について学習しましょう。（生物学的的内容）		教科書の該当部分：【楽】第4章			4 時間
第 6 回	小型の物質の物質移動および浸透圧 細胞膜での物質の通路、エネルギーを要さない物質の移動と必要 な場合の物質の移動について 受動輸送・能動輸送について 細胞膜を物質が移動する現象は栄養素・酸素の吸収や二酸化炭 素の排出に関わることで、また電解質の細胞内外での移動現象は 細胞の根本的な機能になるためよく学習しましょう。（生物学的 的内容）		教科書の該当部分：【楽】第3章P60～ 64と【解】P51～53			4 時間
第 7 回	濃度計算について 物質の濃度計算、モル、モル濃度、電解質の濃度表記、浸透圧 の数値について 教科書の内容と、配布物による練習問題を解きながら学びま しょう。（物理化学的内容）		教科書の該当部分：【楽】第1章P23～ 27、P51、60～64			4 時間
第 8 回	遺伝情報 染色体とゲノム、遺伝情報からタンパク質の合成、染色体の構 造について DNA からタンパク質が合成過程 DNA の複製、染色体の種類、ゲノムに関して理解を深めま しょう。（生物学的的内容）		教科書の該当部分：【楽】第6章 【解】P54～55			4 時間

第 9 回	細胞分裂 ヒトにおける細胞分裂の過程、細胞の数が増えることについて細胞の増殖について、細胞分裂は人の細胞でも細菌でもおおよそ同じメカニズムです。抗癌剤や抗生物質の作用の理解にも繋がるのでよく学習しましょう。(生物学的内容)	教科書の該当部分：【楽】第7章P118～129【解】P56～57	4時間
第 10 回	減数分裂 減数分裂のプロセス、卵巣と精巣での卵子や精子の生産過程、遺伝子組み換え、減数分裂の生理学的な意義 減数分裂が卵子や精子を作るプロセスであることを意識して学習を進めてください。第一減数分裂前の遺伝子組み換えと染色体の分配の方法に注目して学習してください。(生物学的内容)	教科書の該当部分：【楽】第7章P118～135【解】P58～59	4時間
第 11 回	血液を動かす力 心臓の役割、血圧の生理的な役割、血圧の単位、圧力がエネルギーであること、血管の中を血液が流れる時のルールについて心臓の収縮力が血液に圧力を与えること、血管の中を血液が流れる仕組みについて、肺の呼吸運動によって呼吸ができる仕組みについて学びましょう。	【楽】第3章 宿題配布：教科書に記載されていないが、液体が管を流れる時の制約条件を調べてみよう。(物理化学的法則)(生物学的法則)	4時間
第 12 回	・空気を動かす力 大気圧と分圧、空気の移動、肺での空気の出入り、肺胞に加わる力について 肺の袋状の肺胞に空気が出入りする仕組みを理解する妙に、多気圧、分圧、表面張力などについて学習しましょう。(物理化学的法則)(生物学的法則)	教科書の該当部分：【楽】第3章P57～59【解】P231～233	4時間
第 13 回	ガスの運搬 酸素と二酸化炭素の運搬について 酸素解離曲線 ヘモグロビンの特徴 二酸化炭素と重炭酸系の応用的理解 外呼吸と内呼吸の仕組みは難解なために、該当する教科書の部分をよく読んで予習し、授業後に復習しましょう。	教科書の該当部分：【楽】P58～59【解】P242～246 宿題配布：表面張力が水分子の水素結合であることについてメカニズムを説明しなさい。(物理化学的法則)(生物学的法則)	4時間
第 14 回	人体の階層性構造及びホメオスタシス 人体構造機能学Ⅰと連動して再び、人体の器官系統、恒常性の維持機構について 人体構造機能学Ⅰで既に学んだ内容を含むが、特に複雑な上皮組織と結合組織について十分に学習しましょう。ホメオスタシス(恒常性)の意義と典型的な実例を学んで理解に努めましょう。(生物学的法則)	教科書の該当部分：【楽】第8章、第9章【解】P28～33	4時間
第 15 回	【教科書の該当部分：【楽】第11章 ヒトが生まれてから死ぬまでの整理機能の変化についても学びましょう。教科書には記載されていないが、受精卵から胎児に至る過程についての発生についても学んで学習を深めましょう。(生物学的法則)		4時間
学修評価の方法基準(割合%)	毎回の授業でおこなう確認テスト(30%)と課題(宿題)レポート(10%)、及び期末試験(60%)の合計点で評価する。		
フィードバックの方法	小テスト及び宿題の学修内容は授業において全員に解答を配布し、また、著しく誤って解釈している人には修正などを求めて、再度提出してもらいます。		
他の授業との関連	「人体構造機能学Ⅰ及びⅡ」や「生化学」の授業と関連する。		
テキスト	本授業では下記の教材にして授業を進めます。①を主要な教科書にし、②を補助的に用いる。 ①楽しくわかる生物・化学・物理 岡田隆夫 著 羊土社 ②ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学(第5版) 武田裕子・林正健二 編 株式会社メディカ出版		
参考図書	授業中に適宜紹介する。		
履修上の留意点	本科目は、「人体構造機能学Ⅰ・Ⅱ」と「生化学」に密接に関係するために、皆さんはすでに高校で学んだ事柄も含まれるかもしれないが、もう一度知識の強化に努めてください。		
オフィスアワー	在事前に用件を簡単に<y.momota@kki.ac.jp>に連絡してください。		
実務経験のある教員			

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	論理学入門 [Introduction to Formal Logic]	担 当 教 員 名	◎山本 道雄			
期 間	1年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間		○			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	2	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	2-①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>言語には報告、記述、伝達、命令、感情表出等々、多様な働きがある。これらの言語の働きのうち、「推理」と呼ばれる働きがある。推理とは一定の言語から別の言語を導出することである。前者を「前提」、後者を「結論」と呼ぶ。「これまで会った看護大の学生は皆アナムネという言葉を知っていた。だから次に会う看護大の学生もこの言葉を知っているだろう」という推理は、帰納法的推理と呼ばれる。その特色は前提が真であっても結論は必ずしも真とはならない点にある。これに対して、「花子が看護大学の出身なら、アナムネという言葉の意味を知っている。花子は看護大学の出身である。ゆえに花子はアナムネという言葉を知っている」において、前提を真と仮定すれば、結論も<u>必ず</u>真となる。このような推理を演繹推理という。この論理学の講義ではこの演繹推理について学ぶ。</p> <p>[学修目標]</p> <p>1. 論理的思考を記号に置き換えることができる。</p> <p>2. これらの記号を一定のルールに従って操作することができる。</p> <p>3. この操作によって推理の妥当性を判定することができる。</p> <p>4. 論理学を学ぶことによってより厳密な思考ができる。</p> <p>5. 議論、読解の技術について説明できる。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	論理とは何か 命題論理の基礎		<p>教科書第1部第1章を参照</p> <p>・ 個々の命題(要素命題)が命題結合子によって結合されてできたものを「複合命題」という。複合命題の真理値は要素命題の真理値によって決定される。このことを真理関数という。第5～6回の講義では、真理関数について詳しく考察する。</p> <p>・ 推理の妥当性を真理値の概念を用いて分析するのが、意味論的推理論である。第7～8回の講義はこの意味論的推理論の分析に当てられる。意味論的と呼ばれる理由は、この推理では真理値が主役を果たすからである。</p> <p>・ 教科書第2章を参照</p> <p>・ 教科書第3章を参照</p>			4 時間
第 2 回	命題結合子とは					4 時間
第 3 回	命題結合子 否定・連言・選言					4 時間
第 4 回	命題結合子 条件法・否定					4 時間
第 5 回	真理値分析 1					4 時間
第 6 回	真理値分析 2					4 時間
第 7 回	真理関数論					4 時間
第 8 回	恒真式・偶然式・恒偽式					4 時間
第 9 回	恒真・恒偽の判定方法					4 時間
第 10 回	推論の妥当性の判定方法 1					4 時間
第 11 回	推論の妥当性の判定 2 自然演繹法による					4 時間
第 12 回	推論規則 連言導入と連言消去					4 時間
第 13 回	推論規則 選言導入と選言消去					4 時間
第 14 回	推論規則 条件法導入と条件法消去、否定記号導入と否定記号消去					4 時間
第 15 回	命題論理学から述語論理学へ					4 時間
学修評価の方法 基 準 (割 合 %)	学修課題、授業業中での問題解答の状態が30%、期末の定期試験で70%の評価。					
フィードバックの 方 法	授業中に与えられた問題を回答し解説することによって、同時に復習や督励とします。					
他 の 授 業 と の 関 連	関連のある特定の授業はありません。論理学は思考の原理を分析する科学ですから、思考(理論・科学)のあるところ、そのすべてを論理分析の対象にすることができます。その意味ではすべての授業が論理的分析の対処になり得ます。					
テ キ ス ト	飯田他「論理学の基礎」昭和堂					
参 考 図 書	特になし。必要に応じて紹介します。					
履修上の留意点	論理学では実際の問題をとくことが大事なトレーニングになります。したがって授業ではテキストに載っている練習問題を解くことが不可欠の作業になります。					
オフィスアワー	質問は非常勤講師控え室で受け付けます。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	いません。					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	文章表現法 [Expressing Japanese in Writing]	担 当 教 員 名	◎栗井 光代			
期 間	1 年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1 単位・15 時間		○			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	1	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シー 番号	1 - ①③④ 2 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 将来専門職者となるために、日本語の技法に関する基本的な知識と技能を修得することが重要である。 この科目では、日本語の特質への理解、基礎的能力・態度を養うとともに、社会生活を営む上で必要となる文章表現の様々なスキルを学修する。 [学修目標] 1. 言語についての基本的な考え方を説明できる。 2. 言語についての基本的な概念を説明できる。 3. 言語についての特徴、機能、表記法を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス・ことばとは		授業ごとに予習・復習の内容を説明する。			合計 30 時間
第 2 回	話しことばの特性（文体、語順、指示語）		授業後に課題を出して、理解度を確認する。			
第 3 回	書きことばの特性（文体、段落、構成、推敲）		日々の生活の中で新聞、雑誌等に注意する。			
第 4 回	方言の特性とことば（地域差と世代差、分布）		使われている言葉を大切にする。			
第 5 回	文字と表記、文章の特性（句読点、標記符号、同音異義語、類義語）		授業の中で疑問に思ったことは質問する。			
第 6 回	文章の作成（1）事実を書く、考えを書く		疑問は自分で調べたり、考えたりすること。			
第 7 回	文章の作成（2）気持ちを書く、用件を書く		授業後には講義ノートを整理する。			
第 8 回	まとめ					
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	授業内課題（25%）、授業内感想文（25%）、課題・レポート（50%）をあわせて総合的に評価する。					
フィードバックの 方 法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。					
他 の 授 業 と の 関 連	全ての授業と関連する。					
テ キ ス ト	授業の中で適宜プリントを配布する。配布プリントはテキストに相当するものとして、使用するの、必ず毎回きちんと整理して持参すること。					
参 考 図 書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	言語について学び、表現力の向上をめざす。また、自らの考えを表現し、発信していく力を身に付ける。					
オフィスアワー	非常勤講師控え室で対応。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	健康と運動の理論と実践 [Theory and practice of health and exercise]	担 当 教 員 名	◎高見 栄喜			
期 間	1年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間		○			
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シー 番号	3-②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 現在、個人や社会において生活習慣病等に対する健康や運動・スポーツの持つ役割が注目されている。それらの現象や問題について、学生が多角的な視点を持ち、生涯にわたって豊かな生活を営むための健康や運動・スポーツの科学的・文化的認識の形成や、実践することの重要性を学ぶ。 [学修目標] 1. 現代的な健康の概念と、その変遷を理解し、多様な観点からの健康を説明できる。 2. 生涯にわたる運動・スポーツと健康との関わりを理論と実践から理解し、健康指導に活かし実践できる。 3. 生活習慣病の現状と課題を理解し、中高齢者の運動・スポーツ活動の生活化で、生きがいや楽しみながら、疾病の一次予防効果があることを説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス 健康（人生100年時代）と看護師	【講義】	講義・資料の復習			4 時間
第 2 回	小論文・小テスト・レポートの書き方について	【講義】	講義・資料の復習			4 時間
第 3 回	現代社会での健康について<理論編>	【講義】	講義・資料の復習			4 時間
第 4 回	－生活習慣病と健康から	【講義】	①p2～7の復習			4 時間
第 5 回	－予防医学、疫学の視点から	【講義】	①p7～13 ②p1～7の復習			4 時間
第 6 回	ライフステージと運動・スポーツ 生涯スポーツ	【講義】	③p55～65 ④p65～92の復習			4 時間
第 7 回	<学外実践編>－マレットゴルフ（生涯スポーツ実践）	【演習】	実習の振り返り			4 時間
第 8 回	<学外実践編>－マレットゴルフ（異世代交流）	【演習】	実習の振り返り			4 時間
第 9 回	<実践編>－卓球、テニス、室内バタンク（役割遂行）	【演習】	実習の振り返り			4 時間
第 10 回	<実践編>－卓球、テニス、室内バタンク（チームワーク）	【演習】	実習の振り返り			4 時間
第 11 回	<実践編>－卓球、テニス、室内バタンク（活動の楽しさ）	【演習】	実習の振り返り			4 時間
第 12 回	楽しむということ（フロー理論）－運動・スポーツ	【講義】	講義・資料の復習			4 時間
第 13 回	がんと健康・ケアについて（視聴覚教材）	【講義】	講義・資料の復習			4 時間
第 14 回	生活習慣病（メタボリック症候群等）の現状と課題	【講義】	③p91～101の復習			4 時間
第 15 回	まとめ 最終課題	【講義】	定期試験範囲の復習			4 時間
学修評価の方法 基準（割合％）	最終・課題レポート・気づき課題等（80%）、学修態度等の授業に臨む姿勢・振り返り等（20%）					
フィードバックの 方 法	レポート課題、振り返り等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをします。次回以降のレポート課題の参考になるようなコメントを心掛けたいです。					
他 の 授 業 と の 関 連	「疫学」や保健師課程科目での、運動・スポーツ活動による生活習慣の改善、さらに生活習慣病などの一次予防効果につなげるスキルの向上を希望します。					
テ キ ス ト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。					
参 考 図 書	①出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義第2版」杏林書院。②日本疫学会監修「はじめて学ぶやさしい疫学－疫学への招待－改訂第2版」南江堂。③青木高・太田壽監修、山口泰雄編「健康・スポーツの社会学」健帛社。④ M・チクセントミハイ著、今村浩明訳「楽しみの社会学」新思泉社。					
履修上の留意点	健康について皆さんと共に考え認識を深め、また、身体を使って楽しく学びたいと思っています。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< h.takami@kki.ac.jp >に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	情報処理 [Information processing]	担 当 教 員 名	◎高見 栄喜			
期 間	1 年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	2 単位 ・ 30 時間		○			
授 業 形 態	講義 ・ 演習		● - 必修 ・ ○ - 選択			
カリキュラム ・ ポリシー 番号	2	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	3 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療現場における定期的、定量的な観察、医療情報の入手や理解、カルテの電子化など、医療・看護保健分野における情報処理能力の必要性は高まっている。情報処理の基礎知識として、ワードによる文書作成、エクセルによる表計算やグラフ機能、パワーポイントによるプレゼンテーション資料作成の技術などを中心に学修する。学生がソフトウェアやネットワークを利用する上でのマナーや倫理、また医療職としてのコミュニケーションの側面からも学ぶ。					
	[学修目標] 1. 情報リテラシーを学び、情報コミュニケーションを円滑にするスキルを説明できる。 2. Office シリーズでの情報処理スキルを理解し、課題をそれらの機能を用いて処理し、グラフで視覚的に分かりやすく記述できる。 3. チームで協調しプレゼン課題に取り組み、チームとしての意見を統合し、パワーポイントでプレゼン発表ができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス、コミュニケーションツールとしての情報技術	【講義】	講義資料・便覧の復習			4 時間
第 2 回	情報コミュニケーションの基本の理解	【講義】	①p2～55			4 時間
第 3 回	情報リテラシー、情報セキュリティ、情報モラル	【講義】	①p58～92			4 時間
第 4 回	PC 等の基本的操作とワード・ドキュメントの使用法	【演習】	①p168～197			4 時間
第 5 回	ワードでの課題、データベース基礎文書作成	【演習】	演習課題の作成と復習			4 時間
第 6 回	ワードでの課題、案内状の作成	【演習】	演習課題の作成と復習			4 時間
第 7 回	エクセルでの表計算と関数の基礎	【演習】	演習課題の作成と復習			4 時間
第 8 回	エクセルでの課題、成績処理	【演習】	演習課題の作成と復習			4 時間
第 9 回	エクセルでの課題、視覚化（グラフの作成）	【演習】	演習課題の作成と復習			4 時間
第 10 回	エクセルでの課題、生化学データでの応用	【演習】	演習課題の作成と復習			4 時間
第 11 回	パワーポイントでのプレゼン資料の説明	【演習】	プレゼン課題作成と復習			4 時間
第 12 回	パワーポイントでのプレゼン資料の作成	【演習】	プレゼン課題作成と復習			4 時間
第 13 回	パワーポイントでのプレゼン発表（ピア評価）	【演習】	プレゼン課題作成と復習			4 時間
第 14 回	パワーポイントでのプレゼン発表（質疑応答）	【演習】	プレゼン課題作成と復習			4 時間
第 15 回	自己評価発表 まとめ	【演習】	資料・演習課題まとめ			4 時間
学修評価の方法 基準（割合％）	課題発表・最終課題（40%）、課題提出（40%）、学修態度等の授業に臨む姿勢・振り返り等（20%）					
フィードバックの 方 法	提出課題・プレゼン発表等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをする。					
他 の 授 業 と の 関 連	「統計学」で統計検定の結果を、エクセルのグラフ機能で描画し、またパワーポイントのプレゼン機能で研究発表のスキルを継続して向上してください。					
テ キ ス ト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。					
参 考 図 書	①大嶋淳俊著、情報活用学入門－情報化社会の「攻め方」・「守り方」、学文社。					
履修上の留意点	講義をきっかけとして、PC 室や自宅で積極的に PC 等を使用してください。苦手意識のある方は、1 日 1 回は PC 等に触れ、情報処理技術が身に付く習慣を持ってくださいね。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< h.takami@kki.ac.jp > に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	英語 I [English I]	担 当 教 員 名	◎西垣 有夏			
期 間	1年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・15時間		○			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	1、2	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シー 番号	1 - ④、2 - ③、5 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>英文精読に特化した教材を用い、基本的な英文構造を把握しながら読み進めていく。英文構造を把握したうえで英文内容の正しい理解、さらに英文ででてくる単語、熟語を活用して語彙力増強と用例理解につなげ、精読方法を学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <p>1. 基本的な英文で書かれた情報を正しく理解することができる。</p> <p>2. 基本単語を用いた英文を正しく精読することができる。</p> <p>3. グローバル化の進む現代に生きる医療従事者になるべく、継続して英語力に磨きをかけるための英語学習方法を習得できる。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	Lesson 1 Why Is the Ocean Salty—Reading。 ・ The reason for the saltiness of the ocean ・ Salt water is combination of fresh water and minerals, called salts. ・ These salts contain not just sodium and chloride, like table salt, but calcium, magnesium, and other minerals. ・ The saltiness of the world's oceans ranges from 30 to 38 grams per liter.		①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。			2時間
第 2 回	Lesson 1 Why Is the Ocean Salty—Post-Reading Tasks ・ Complete the sentences. ・ More on the Topic ・ Vocabulary ・ English Composition ・ What did you learn from the lesson?		①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間
第 3 回	Lesson 2 Water All Around Us—Reading ・ The water cycle is a balanced process at a global level. ・ Water in the air is a gas called vapor. ・ Water in lakes and the ocean is a liquid. ・ Frozen water, such as ice and snow, is a solid.		①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間
第 4 回	Lesson 2 Water All Around Us—Post-Reading Tasks ・ Complete the sentences. ・ More on the Topic ・ Vocabulary ・ English Composition ・ What did you learn from the lesson?		①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間
第 5 回	Lesson 3 Sky Art—Reading ・ Clouds must have weight, but they must be lighter than the air below them. ・ Often seen in summer, cumulus have a flat base and often look like they are dancing. ・ Stratus clouds are low-level clouds with a flat base and they often cover the entire sky. ・ Cirrus clouds are small, wispy clouds, and look like castles in the sky.		①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間

第 6 回	Lesson 3 Sky Art—Post-Reading Tasks ・ Complete the sentences. ・ More on the Topic ・ Vocabulary ・ English Composition ・ What did you learn from the lesson?	①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。	4時間
第 7 回	Lesson 4 The Illusion of a Rainbow—Reading ・ How to create a rainbow? ・ Each raindrop is like a mirror, because the light bounces off its back surface. ・ It is also like a prism, because sun light bends as it goes in and out of it. ・ The bending of light is called refraction, and the bouncing back of light is called reflection.	①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。	4時間
第 8 回	Lesson 4 The Illusion of a Rainbow—Post-Reading Tasks ・ Complete the sentences. ・ More on the Topic ・ Vocabulary ・ English Composition ・ What did you learn from the lesson?	①課題プリントの見直し。 ②授業内容の整理、復習。	4時間
学修評価の方法基準（割合％）	課題プリント（30％）、定期試験（70％）		
フィードバックの方法	課題プリントを採点し、必要に応じてコメントをつけて返却します。		
他の授業との関連	『英語Ⅱ』の履修をお勧めします。大学生のうちに英語の学習方法を習得しておきましょう。積極的に一般教養科目を履修し、学問の裾野を広げてください。		
テキスト	Mary Tadokoro 著 <i>Our Wonder-Filled World</i> . （朝日出版社）		
参考図書	英和辞典、『ジーニアス英和辞典第3版』（大修館書店）を推奨しますが、すでに所持している辞書があれば本講義で利用できることがあるので担当者に相談してください。		
履修上の留意点	毎時間課題プリントを配布するので次回授業時までに仕上げて提出してください。授業では毎時間学生にあてて学生の理解を確認しながら授業を進めます。受講生の英語力に合わせて基本的な文法説明を交えて授業進行しますが、主体性をもって取り組むようにしてください。常にテキストとプリント教材を持ち歩き、バスを待つ間など隙間時間を活用して少しでも英語に触れるようにしてください。反復学習が肝心です。		
オフィスアワー	随時、来室者の状況を配慮して調整します。西垣が研究室（1214）に在室し、来室者不在であればいいです。		
実務経験のある教員			

【単位に実質化に関する事項】

1 単位 45 時間の学修時間となります。この内訳は、授業 15 時間、授業時間外学習（準備学習） 30 時間となります。

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	英語Ⅱ [English Ⅱ]	担 当 教 員 名	◎西垣 有夏			
期 間	1年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・15時間		○			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	1、2	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ④、2 - ③、5 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<div>[授業の概要]</div> <div>英作文に特化した教材を用い、書くことによるコミュニケーション技法を身につけるため、基本的な英文構造を学ぶことで英文精読など発展的な学修につなげていく。基本的な構文説明の後に英作文問題の取り組み、さらに音読を徹底する。単語、熟語の用例理解を深めるために反復学習を行い、正しい用例を利用した英文作成を学修する。</div> <div>[学修目標]</div> <div>1. 書くことによるコミュニケーション手段として、基本的な英作文を書くことができる。</div> <div>2. 基本単語、文法、構文を理解したうえで英文を書くことができる。</div> <div>3. グローバル化の進む現代に生きる医療従事者になるべく、継続して英語力に磨きをかけるための英語学習方法を習得することができる。</div>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	Chapter 1 Weather and Climate ・ Unscrambling the words to complete the sentences ・ Learning grammatical construction of a sentence and sentence structure ・ Learning the basic words on weather and climat		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②テキストの英作文作成。			2時間
第 2 回	Chapter 2 Daily Life ・ Unscrambling the words to complete the sentences ・ Learning grammatical construction of a sentence and sentence structure ・ Learning the basic words on daily life		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②テキストの英作文作成。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間
第 3 回	Chapter 3 Campus Life ・ Unscrambling the words to complete the sentences ・ Learning grammatical construction of a sentence and sentence structure ・ Learning the basic words on campus life		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②テキストの英作文作成。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間
第 4 回	Chapter 4 Music ・ Unscrambling the words to complete the sentences ・ Learning grammatical construction of a sentence and sentence structure ・ Learning the basic words on music		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②テキストの英作文作成。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間
第 5 回	Chapter 5 Studies ・ Unscrambling the words to complete the sentences ・ Learning grammatical construction of a sentence and sentence structure ・ Learning the basic words on studies		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②テキストの英作文作成。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間

第 6 回	Chapter 6 Newspapers and Magazines ・ Unscrambling the words to complete the sentences ・ Learning grammatical construction of a sentence and sentence structure ・ Learning the basic words on newspaper and magazines	①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②テキストの英作文作成。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。	4時間
第 7 回	Chapter 7 Shopping ・ Unscrambling the words to complete the sentences ・ Learning grammatical construction of a sentence and sentence structure ・ Learning the basic words on shopping	①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②テキストの英作文作成。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。	4時間
第 8 回	Chapter 8 Eating out ・ Unscrambling the words to complete the sentences ・ Learning grammatical construction of a sentence and sentence structure ・ Learning the basic words on eating out	①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②テキストの英作文作成。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。	4時間
学修評価の方法基準（割合％）	課題プリント（30％）、定期試験（70％）		
フィードバックの方法	課題プリントを採点し、必要に応じてコメントをつけて返却します。		
他の授業との関連	『英語 I』の履修を強くお勧めします。大学生のうちに英語の学習方法を習得しておきましょう。また、積極的に一般教養科目を履修し、学問の裾野を広げてください。		
テキスト	Hiroyuki Tomi, Gordon Bateson 著 <i>English Writing Using Everyday Expressions</i> . (朝日出版社)		
参考図書	英和辞典、『ジーニアス英和辞典第3版』（大修館書店）を推奨しますが、すでに所持している辞書があれば本講義で利用できることがあるので担当者に相談してください。		
履修上の留意点	毎時間課題プリントを配布するので次回授業時までに仕上げて提出してください。授業では毎時間学生にあてて英作文問題、音読に取り組んでいきます。受講生の英語力に合わせて基本的な文法説明を交えて授業進行しますが、主体性をもって取り組むようにしてください。常にテキストとプリント教材を持ち歩き、バスを待つ間など隙間時間を活用して少しでも英語に触れるようにしてください。反復学習が肝心です。		
オフィスアワー	随時。来室者の状況を配慮して調整します。西垣が研究室(1214)に在室し、来室者不在であればいいです。		
実務経験のある教員			

【単位に実質化に関する事項】

1 単位45時間の学修時間となります。この内訳は、授業15時間、授業時間外学習（準備学習）30時間となります。

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	人体構造機能学Ⅰ [Anatomy and Physiology Ⅰ]	担 当 教 員 名	◎百田 芳春			
期 間	1 年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・ 時 間	2 単位・60 時間		●			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポ リ シー 番 号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シー 番 号	3 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護の対象（患者）の健康状態について科学的根拠を持って理解するために、正常な状態のヒトの生物学的な仕組み（構造と機能）を体系的に修得する。はじめに基礎的な解剖学的用語や細胞及び組織から順次、臓器別に構造と機能を学修する。 [学修目標] 1. 身体をマクロの視点で説明できる。 2. 組織を系統的に細胞レベルから器官・臓器レベルの視点で説明できる。 3. 骨と筋の組織、関節での骨の動き、主な骨と筋の名称、筋収縮のメカニズムについて説明できる。 4. 血液の組成・血液細胞の種々の役割を説明できる。心臓の働きについて説明でき。血管の特徴について説明できる。 5. 呼吸機器の構造と機能について説明できる。酸素と二酸化炭素の運搬について説明できる。 6. 体液の組成・浸透圧・体液の酸塩基平衡の調節のシステムについて説明できる。 7. 腎臓の構造と機能（糸球体濾過・尿細管の再吸収と分泌）及び膀胱の構造と排尿の生理について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	授業の進め方・教科書の利用の仕方の説明 ヒトの全身像に関する解剖生理学の基本的事項 ・学習目的と意義 ・身体を規定する方向性、頭蓋腔、胸腔、腹腔、脳、脊髄、心臓、肺、消化管など		人体の構造と機能の導入 教科書、以下、教と略する。 教 P18～21を参照し学習 教：P14～17、P22～27			1 時間
第 2 回	細胞と組織 身体を構成するしくみ ① ・細胞の構造、細胞小器官、細胞膜		細胞の基本事項の学習 教：P34～49			1 時間
第 3 回	細胞と組織 身体を構成するしくみ ② ・細胞膜の機能的タンパク質、上皮組織、結合組織、神経組織、筋組織		今後の授業で頻発する組織について学習 教：P64～85 「楽しくわかる生物・科学・物理」、以下、楽と略する。 楽：P137～148も補助的に参照し学習			1 時間
第 4 回	骨 身体を支えるしくみ ① ・骨の組織、骨に関する基礎的な用語、骨の合成と分解過程		骨の概観、骨の生成と分解 教：P86～88、92～97			1 時間
第 5 回	骨 身体を支えるしくみ ② ・頭蓋骨・体幹の骨		頭蓋骨・体幹の骨について 教：P98～105			1 時間
第 6 回	骨 身体を支えるしくみ ③ ・体肢の骨		体肢の骨 教：P106～121			1 時間
第 7 回	骨 身体を支えるしくみ ④ ・関節と関節での骨の動き		関節及び関節運動 教：P116～121			1 時間
第 8 回	筋 身体を動かすしくみ ① ・筋の概観・筋の機能		筋の種類、機能、収縮 教：P89～91、P122～127			1 時間
第 9 回	筋 身体を動かすしくみ ② ・筋の収縮と神経の働き		神経筋接合部、筋疲労、主働筋・拮抗筋 教：P128～132			1 時間
第 10 回	筋 身体を動かすしくみ ③ ・頭部・頸部・背部腹部の筋		身体それぞれの骨格筋 教：P133～135			1 時間
第 11 回	筋 身体を動かすしくみ ④ ・四肢の筋		身体それぞれの骨格筋 教：P136～144			1 時間
第 12 回	血液 ① ・血液の概観、構成成分、血液細胞の系譜		血液の概観、血液細胞の分類 教：P148～149、154～167			1 時間
第 13 回	血液 ② ・出血に対する対応機構		血小板と血液凝固系 教：P168～169			1 時間
第 14 回	血液 ③ ・血液型・輸血		ABO 式血液型、Rh 式血液型、輸血 教：P170～172			1 時間
第 15 回	心臓と循環系 ① ・心臓の構造と血管とのつながり		心臓循環系の解剖学的側面 教：P173～179			1 時間

第 16 回	心臓と循環系 ② ・血管の構造、役割、血圧	血管の構造と機能 教：P186～189、P202～203 案：P52～57も参照	1 時間
第 17 回	心臓と循環系 ③ ・心臓が血液を動脈血管に送り出す仕組み	心臓のポンプ機能と心電図 教：P180～185	1 時間
第 18 回	心臓と循環系 ④ ・心ポンプ機能の調節	心臓のポンプ機能の調節メカニズム 教：P185、P198～201	1 時間
第 19 回	心臓と循環系 ⑤ ・動脈血管系	主な動脈血管 教：P190～193	1 時間
第 20 回	心臓と循環系 ⑥ ・静脈血管系と胎児循環	主な静脈血管と出生前後の循環 教：P194～197、P198～201	1 時間
第 21 回	心臓と循環系 ⑦ ・リンパ系、毛細血管との役割分担	リンパ系と間質液との関係 教：P202～205、 案：P60～64も参照	1 時間
第 22 回	呼吸器系 ① ・呼吸器の構造と呼吸運動、肺気量区分	呼吸器の全体構造 呼吸運動 教：P210～241 案：P58～59も参照	1 時間
第 23 回	呼吸器系 ② ・酸素の運搬、二酸化炭素の運搬、酸素解離曲線	ガス運搬における赤血球の役割 教：P162～163、P242～246 案：P57～58も参照	1 時間
第 24 回	呼吸器系 ③ ・呼吸調節機構	呼吸運動を促進する状況下での呼吸運動の調節を学習する。 教：P247～255 案：P58～59も参照	1 時間
第 25 回	泌尿器系 尿を作るしくみ① ・腎臓の構造、ネフロン（糸球体）の構造と仕組み、ろ過の原理	腎臓の構造・腎臓の機能・糸球体濾過について学習する。 教：P272～282 案：P57も参照	1 時間
第 26 回	泌尿器系 尿を作るしくみ① ・再吸収と分泌の過程	尿細管での再吸収と分泌について学習する。 教：P276～283	1 時間
第 27 回	体液 体内の水分を調節するしくみ ・排尿の調節	・膀胱の構造と排泄調節について学習する。 教：P283～291	1 時間
第 28 回	体液 体内の水分を調節するしくみ ・体液の化学的組成、浸透圧、	水分と電解質の平衡・浸透圧 教：P51、P256、258～261、266～267、 案：P167～168も参照	1 時間
第 29 回	体液 体内の水分を調節するしくみ ・酸塩基平衡の仕組み（血液・肺・腎臓の共同作業として）	酸塩基平衡について学習する。 教：P262～265 案：P169～173も参照	1 時間
第 30 回	まとめ ・練習問題を解きながらこれまでの確認	テキスト及び配布物を確認して予習復習すること	4 時間
学修評価の方法 基準（割合）	確認テスト（30%）とび期末試験（70%）の合計点で評価する。		
フィードバックの方法	小テスト及びレポート課題の学修内容は授業において全員に解答を配布し、また、著しく誤って解釈している人には修正などを求めて、再度提出してもらいます。		
他の授業との関連	本学修項目は後期の人体の構造と機能Ⅱと連動しています。また2年次に学ぶ臨床薬理学Ⅰ・Ⅱや感染と免疫および病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの前提的な知識になります。		
テキスト	「ナースিং・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学（第5版）」 武田裕子・林正健二 編、株式会社メディカ出版、2023年		
参考図書	人体の正常構造と機能、坂井建雄編集、日本医事新報社、2021年 その他の教材は授業中に適宜紹介します。		
履修上の留意点	人体構造機能学Ⅰ及びⅡは、生命科学の基礎を学び、今後、学ぶ医療系の基礎科目のど d 師になるので、予習復習を通じて理解を深めていきましょう。		
オフィスアワー	対応時間は後日にお知らせします。不在時には <y.momota@kki.ac.jp> 連絡してください。		
実務経験のある教員			

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	基礎看護学Ⅰ（概論） [Basic Nursing I (Introduction)]	担 当 教 員 名	◎黒江 ゆり子、奥津 文子、 土井 香、山口 夏季			
期 間	1年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	2単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	1、2	ディプロマ・ ポリシー番号	1 - ①②③④、2 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療の歴史の変遷をふまえ、看護及び看護学の歴史の変遷について学修し、現代社会における看護の機能や役割の重要性について理解する。 [学修目標] 1. 医療の歴史の変遷の概要及び看護・看護学の歴史の変遷の概要を説明することができる。 2. 看護学の発展に寄与した諸理論における人間・健康・社会・看護の捉え方の多様性について考えを深め説明することができる。 3. 現代社会における看護の機能と役割における重要な事柄について倫理的側面を含め思考し、自分の言葉で説明することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	コースガイダンス 【講義】（奥津・黒江・土井・山口） 健康とは何かについて考える 自分と医療・看護との繋がりについて考える 【ミニレポート1の提出】		当該科目で何を学ぶのかを踏まえてテキスト全体に目を通す。			2時間
第 2 回	医療の歴史の変遷 【講義】（黒江、山口） 古代・中世・近代文化と医療、現代文化における医療の発展、健康の定義、QOL の概念の発展等		医療の歴史の変遷で自分が関心を抱いた内容を考え、書き留める。			2時間
第 3 回	看護の歴史の変遷1 【講義】（黒江、山口） 専門職としての看護の萌芽と発展、F. ナイチンゲールの看護活動、ナイチンゲール方式の看護教育の開始等		看護の歴史の変遷で自分が関心を抱いた内容を考え、書き留める。			2時間
第 4 回	看護の歴史の変遷2 【講義】（黒江、山口） ゴールドマークレポート＆ブラウンレポートの背景、看護学における大学・大学院の発展、看護理論家の誕生等		看護の歴史の変遷で自分が関心を抱いた内容を考え、書き留める。			2時間
第 5 回	看護学における人間のとらえ方 その1 人間ニーズ理論からみた人間・健康・社会・看護の特性：AH. マズローのニーズ理論、V. ヘンダーソンの考え方 【講義】（黒江、山口）		基盤となる諸理論の特性について考える			2時間
第 6 回	看護学における人間のとらえ方 その2 人間関係理論からみた人間・健康・社会・看護の特性：C. ロジャーズの理論、J. トラベルビーの考え方 【講義】（黒江、山口）		基盤となる諸理論の特性について考える			2時間
第 7 回	医療・看護の歴史の変遷について自分の関心を高め探求する①〔演習：グループ討議〕（黒江、奥津、土井、山口） 【ミニレポート2-1の提出】		グループワークのための準備 ミニレポート2-1の作成			3時間
第 8 回	医療・看護の歴史の変遷について自分の関心を高め探求する②：〔演習：グループワーク〕（黒江、奥津、土井、山口） 【ミニレポート2-2の提出】		探究した内容の発表のための準備 ミニレポート2-2の作成			3時間
第 9 回	医療・看護の歴史の変遷について自分の関心を高め探求する③：〔演習：探求したことの発表・共有〕（黒江、奥津、土井、山口） 【ミニレポート2-3の提出】		ミニレポート2-3の作成			3時間

第 10 回	看護学における人間のとらえ方 その3 システム理論からみた人間・健康・社会・看護の特性 【講義】（黒江、山口）	基盤となる諸理論の特性について考える	2時間
第 11 回	看護学における人間のとらえ方 その4 現象学的立場からみた人間・健康・社会・看護の特性 【講義】（黒江、山口）	基盤となる諸理論の特性について考える	2時間
第 12 回	現代社会における看護の機能と役割 生まれてからの自分と医療・看護との繋がりについて、看護の定義（日本看護協会、国際看護師協会等）、医療の場と医療職者 【講義】（黒江、山口）	現代社会における看護の機能と役割について考える	2時間
第 13 回	看護における倫理的側面 その1 倫理的側面から見た看護者の役割について 【講義】（土井、山口）	倫理とは何かを事前に調べておく	2時間
第 14 回	看護における倫理的側面 その2 看護実践の倫理原則について 【講義】（土井、山口）	看護における倫理的側面について復習する	2時間
第 15 回	看護とは何かについてのディスカッション〔演習〕 将来の看護についてのディスカッション〔演習〕 【ミニレポート3の提出】	当該科目で自分が何について理解を深め、何を考えたかを振り返る。ミニレポート3の作成。	3時間
学修評価の方法 基準（割合％）	ミニレポート（20％）、定期試験（80％）		
フィードバックの 方法	授業の中で適宜フィードバックを行う。		
他の授業と の関連	看護学原論の授業内容の基盤となるため、自分の思考と資料を大切に整理しておくこと。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学① 看護学概論、茂野かおる、医学書院		
参考図書	随時事業のなかで紹介する。		
履修上の留意点	「人間にとっての健康とは何か」から出発します。自分の思考能力を高め、思考の幅をひろげることが重要です。柔軟な思考ができるようにトレーニングしておいてください。		
オフィスアワー	月曜日・火曜日の12：20～13：10（黒江）、月曜日から金曜日12：20～13：10（土井）		
実務経験の ある教員	奥津 文子（看護師）、黒江 ゆり子（看護師）、土井 香（看護師）、山口 夏季（看護師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	基礎看護学Ⅱ-a（生活の援助技術） [Basic Nursing Ⅱ-a]	担 当 教 員 名	◎土井 香、奥津 文子、 黒江 ゆり子、山口 夏季			
期 間	1 年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1 単位・30 時間		●			
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポ リ シー 番 号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シー 番 号	2、3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護ケア技術および看護治療技術とは何かを理解し、対象にそれらの技術を用いることの意義を検討する。健康障害を持つ対象の療養上ニーズを検討し、安全で安楽な援助の方法について具体的に考えることの重要性を学ぶ。 [学修目標] ①看護ケア技術および看護治療技術とは何かを、具体例を用い説明できる。 ②スタンダードプリコーションに関する理解を基礎に、個人防護用具の着脱ができる。 ③安全・安楽な療養環境の重要性と整え方を説明できる ④日常生活における「よい姿勢」について説明できる。 ⑤ベッドメイキング・シーツ交換が実施できる。 ⑥移動動作のアセスメントに基づき、床上移動能力障害・移乗能力障害の患者の援助ができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	コースガイダンス 保助看法における看護師の業務 看護技術の基盤：安全・安楽・自律 【講義】（奥津）		看護師の業務とは何か調べる。 テキストの熟読。			1 時間
第 2 回	環境の調整Ⅰ：療養生活の環境・病室の環境のアセスメント 【講義】（土井）		望ましい入院生活の環境についてまとめる。			1 時間
第 3 回	環境の調整Ⅱ：病床の整え方、転倒転落防止と看護 【講義】（土井）		病床が備えるべき条件と安全対策について考える。			1 時間
第 4 回	感染防止の技術Ⅱ：スタンダードプリコーション 【講義】（土井）		感染防止対策について振り返りまとめる。			1 時間
第 5 回	感染防止の技術Ⅰ：衛生的手洗い 【講義】（土井）		衛生的手洗いとその意義、手順についてまとめる。			1 時間
第 6 回	感染防止の技Ⅲ：個人防護用具の着脱方法 【演習】（土井・黒江・奥津・山口）		より不潔な部分とそうでない部分の区別を考えながら、手順をまとめる。			1 時間
第 7 回	環境の調整Ⅲ：ベッドメイキング 【講義】（土井）		ベッドメイキングの意義をまとめる。			1 時間
第 8 回	Unit test、まとめ		スタンダードプリコーションに関する復習。			1 時間
第 9・10 回	環境の調整Ⅳ：ベッドメイキングの実際・シーツ交換 【演習】（土井・黒江・奥津・山口）		ベッドメイキング・シーツ交換について根拠に基づきながら手順を考える。			1 時間
第 11 回	活動・休息の援助Ⅰ：ADL とよい姿勢 基本体位と特殊体位 【講義】（奥津）		ADL とは何か、姿勢・体位の概念について調べる。自身の安楽な体位について、なぜ安楽なのか調べる。			1 時間
第 12 回	活動・休息の援助Ⅱ：安全・安楽な体位 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）		安全で安楽な体位について調べ、実践する。			1 時間
第 13 回	活動・休息の援助Ⅲ：移動・移送に関する基礎知識、アセスメントの視点 【講義】（奥津）		寝返り▶坐位・立位・移乗の動作について、使用する筋肉と関節をまとめる。			1 時間
第 14 回	活動・休息の援助Ⅳ：床上移動の実際 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）		床上移動の援助手順について根拠を明らかにしながらまとめる。			1 時間
第 15 回	体位変換・移動・移送の援助Ⅲ： 車椅子・ストレッチャーへの移乗と移動の援助 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）		車椅子・ストレッチャーの援助手順を、根拠を明らかにしながらまとめる。			1 時間
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	提出物：ワークシート（20%）、Unit test の合計（80%）、					
フィードバックの 方 法	各 Unit test 終了後、授業の中で解説する。					
他 の 授 業 と の 関 連	人体構造機能学Ⅰ・Ⅱ、生化学、基礎看護学Ⅰ【概論】、					
テ キ ス ト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院、系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参 考 図 書	看護技術プラクティス 学研					
履修上の留意点	技術の手順を検討することに加え、「なぜそのようにするのか」を、解剖学・生理学的な知識を基盤に理解し、「さらに良い方法」を考えることができるように、自ら主体的に探究する姿勢を身につけること。					
オフィスアワー	具体的な時間は設定しない。学生・教員双方の都合の良い時間を調整するので、事前に連絡すること。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	奥津 文子（看護師）、黒江 ゆり子（看護師）、土井 香（看護師）、山口 夏季（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	基礎看護学実習（コミュニケーション） [Basic Nursing Practicum（Communication）]	担 当 教 員 名	◎奥津 文子、土井 香、 山口 夏季、黒江 ゆり子			
期 間	1年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	3単位・135時間		●			
授 業 形 態	実 習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	5	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 学生同士のコミュニケーションを通して看護の対象である「人」を理解する過程を体験し、「対象理解」が看護の基盤であることを知る。また、看護活動の場に身を置き、患者・看護師のコミュニケーションを見学した上で患者とのコミュニケーションを実践、コミュニケーションスキルを学ぶ。 [学修目標] 1. 人として、コミュニケーションのあり方を考え、適切に対応できる。 2. 病む人を配慮したコミュニケーションについてディスカッションし、自分自身の考えを説明できる。 3. 見学した患者・看護師のコミュニケーションについて、目的・方法・留意点を説明できる。 4. 患者とのコミュニケーションを分析し、コミュニケーションにおける自身の特長及び課題を記述できる。					
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
実 習 計 画	自己PRの方法：「自己」について考える 自己についてのキャッチコピーおよびポスターの作成。 人としての対応のあり方 他者を尊重する姿勢、共感性について コミュニケーション論 接近的コミュニケーション 非接近的行動について コミュニケーションと服装 アサーティブコミュニケーション 患者・看護師のコミュニケーションのあり方 医療者同士のコミュニケーションのあり方 情報収集の技術 情報収集の実際 コミュニケーション障害への対応 脳血管疾患・認知症・難聴等 入院患者の生活の場とコミュニケーション方法の工夫 患者・看護師のコミュニケーションの実際 患者とのコミュニケーションのあり方 患者とのコミュニケーションの実際 自己のコミュニケーションの傾向と課題		ポートフォリオの作成。 自己の特長についてレポート作成。 ポスターおよびキャッチコピーについて、資料収集。 社会性とはについて調べまとめる。 基礎看護技術Ⅰ第一章、A、Bを要約する。 基礎看護技術Ⅰ第一章、C、Dを要約する。 基礎看護技術Ⅰ第一章、E、Fを要約する。 実習病院の概要について、インターネットで調べ、まとめる。 患者とのコミュニケーションの方法について、留意点を調べまとめる。 脳血管疾患・認知症・難聴等、コミュニケーション障害のある患者とのコミュニケーションの方法について、まとめる。			毎日 1～2 時間
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	評価表（実習要項に添付）による評価100%					
フィードバックの 方 法	実習・演習の中で、口頭あるいは記録内のコメントで適宜フィードバックする。					
他 の 授 業 と の 関 連	基礎看護学概論、基礎看護学Ⅱ a b、基礎看護学Ⅳ					
テ キ ス ト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院、系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参 考 図 書	随時提示する					
履修上の留意点	学修のために機会を提供してくださった患者・実習施設・指導者に対して感謝の気持ちを忘れず、主体的・積極的取り組むこと。 ルールを守らなかったり、患者に対して危険な行為を行った場合、評価の対象としないことがある。					
オフィスアワー	具体的な時間は設定しない。学生・教員双方の都合の良い時間を調整するので、事前に連絡すること。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	奥津 文子、土井 香、山口 夏季					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	統計学 [Statistics]	担 当 教 員 名	◎高見 栄喜			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	2単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	ディプロマ・ ポリシー番号	5-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療・保健分野においても統計学が広く活用されており、医療従事者は統計学の基礎知識とその活用法を習得することが求められる。記述統計学では、得られた標本データの分布や、その特徴を各種の統計量で要約するための技法を、事例を通して学修する。また推測統計学では、母集団から抽出された標本から得られる標本統計量の分布と、その分布に基づく統計的推定、検定の基本的な考え方や技法について、コンピュータでの課題演習を通して学修する。 [学修目標] 1. 代表値や散布度、ヒストグラムや標準正規分布等から、集団の特性を理解し説明できる。 2. 事例や仮説から独立変数と従属変数に区分でき、適切な検定法（各パラメトリック・ノンパラメトリック検定）を選択できる。 3. 統計的検定を用いて対象集団のデータを分析し、結果をグラフ化し視覚的に説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		目標時間	
第 1 回	統計学とナイチンゲールの関わり【講義】		課題提出		4 時間	
第 2 回	統計学的な結論の導き方 間隔・順序・分類尺度【講義】		① 1 章 1 ・テキスト		4 時間	
第 3 回	2群の背景因子とデータの偏り 量的・質的データ【講義】		① 2 ～ 3 ・テキスト		4 時間	
第 4 回	統計検定の流れ 有意差 仮説（帰無・対立）【講義】		① 4 ～ 6 ・テキスト		4 時間	
第 5 回	パラメトリック・ノンパラメトリック検定 相関【講義】		② p74 ～ 85 ・テキスト		4 時間	
第 6 回	調査計画、調査票、実査の方法 検定法の選択【講義】		② p87 ～ 93 ・テキスト		4 時間	
第 7 回	平均値と中央値 標準偏差と四分偏差【講義】		② p94 ～ 99 ・テキスト		4 時間	
第 8 回	確認テスト 度数分布表とヒストグラム 応用例【講義】		③ p48 ～ 61 ・テキスト		4 時間	
第 9 回	保健師国家試験過去問の演習と解説【講義】		国試過去問の解答		4 時間	
第 10 回	中間テスト【講義】		中間試験範囲の復習		4 時間	
第 11 回	統計的検定（対応のないステューデント t 検定）【演習】		演習課題①提出		4 時間	
第 12 回	統計的検定（対応のあるステューデント t 検定）【演習】		演習課題②提出		4 時間	
第 13 回	統計的検定（相関分析）【演習】		演習課題③提出		4 時間	
第 14 回	統計的検定 医療分野での応用例【演習】		演習課題④提出		4 時間	
第 15 回	まとめ 確認・中間テストの弱点補強【講義】		定期試験範囲の復習		4 時間	
学修評価の方法 基準（割合％）	定期試験（40%）、中間テスト・確認テスト・課題等（40%）、学修態度等の授業に臨む姿勢・振り返り等（20%）					
フィードバックの 方 法	中間・確認テスト、課題、振り返り等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをします。					
他 の 授 業 と の 関 連	「情報処理」でのエクセルの課題演習や、グラフ機能での描画スキルを継続して向上してください。検定結果の視覚化ツールとして活用していきます。					
テ キ ス ト	白戸亮吉、鈴木研太著「ていねいな保健統計学」羊土社。					
参 考 図 書	①山蔭道明監修、及川慶浩著「超入門からくらく使えるはじめての統計学」メディカ出版。②福富和夫・橋本修二著「保健統計・疫学5版」南山堂。③横川博英監修、藤林和俊著「統計と臨床疫学」学研メディカル秀潤社。					
履修上の留意点	統計学は、科学的研究や思考、また EBM（Evidence-Based Medicine）の基礎を支えます。1つ1つ着実に理解し、医療・看護・保健分野での応用や研究活動に、ぜひ活かせるようになってください。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< h.takami@kai.ac.jp > に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	心理学 [Psychology]	担 当 教 員 名	◎花村 カテリーナ			
期 間	1 年 後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間		○			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	1	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②、2 - ②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<div>[授業の概要]</div> <div>患者を理解するためには、まず自分を理解することが大切である。私たちの心の仕組みと人格の形成・発達について、基本的な心理学的知見を学修する。心理学の古典的研究に加えて、最新の研究成果を踏まえて、心の働きの生物学的基盤について学修する。</div> <div>[学修目標]</div> <div>1. 認知機能、感情、無意識等などの心のしくみ・発達・生物学的基盤について、自分のことを例に説明できる。</div> <div>2. 対人関係と集団内の人の心理的傾向について、自らを振り返りながら考えを述べられる。</div> <div>3. 人格の形成と発達について、自らを振り返りながら考えを述べられる。</div> <div>4. ストレスの心理的・生物学的基盤について説明できる。</div>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス。心の定義と心理学の歴史。		テキスト第1章を通読			3時間
第 2 回	認知心理学1：感覚・知覚のしくみと諸現象		テキスト第2章を通読			3時間
第 3 回	認知心理学2：注意のしくみと諸現象		授業資料・参考資料を通読。小テスト①に解答し提出			4時間
第 4 回	認知心理学3：記憶のしくみと諸現象		テキスト第3章を通読			3時間
第 5 回	認知心理学4：思考のしくみと問題解決の構造		テキスト第4章A・Bを通読			3時間
第 6 回	認知心理学5：知能 (知能の定義・多因子説・構造モデル・多重知能理論・知能の発達とJ.ピアジェの理論)		テキスト第4章C、第9章のB・Cを通読。小テスト②に解答し提出			5時間
第 7 回	感情の心理学 (感情の定義・諸理論・感情の発達過程)		テキスト第6章を通読			3時間
第 8 回	ストレスに強くなる心理学 (ストレッサーとストレス反応・汎適応症候群・ラザルスのストレス理論・ストレスケアの方法)		テキスト第10章Bと参考資料を通読。小テスト③に解答し提出			5時間
第 9 回	人間関係に強くなる心理学1：行動の仕組み (古典的条件づけ・オペラント条件付け・観察学習のメカニズムと日常生活における事例)		テキスト第5章を通読			3時間
第 10 回	人間関係に強くなる心理学2：私とあなた (対人知覚と対人魅力の諸現象)		テキスト第8章A・Bと参考資料を通読			3時間
第 11 回	人間関係に強くなる心理学3：私とみんな (集団の機能・集団内の心の諸現象)		テキスト第8章Cを通読。小テスト④に解答し提出			5時間
第 12 回	人間関係に強くなる心理学4：無意識のしくみ (無意識の発見・S.フロイドの理論・転移現象)		参考資料を通読			3時間
第 13 回	性格心理学：諸理論と自分の傾向を知る方法		テキスト第7章と通読			3時間
第 14 回	発達心理学 (乳幼児の発達の特徴、ライフサイクル論)		テキスト第9章を通読。小テスト⑤に解答し提出			5時間
第 15 回	まとめ (重要な概念の確認、提出物からみえてきたみなさんの疑問点に対する補足説明)		授業資料と参考資料を通読			4時間
学修評価の方法 基準 (割 合 %)	授業内課題 (15%) と授業后感想文 (15%)、授業後小テスト (30%)、期末試験 (40%)					
フィードバックの 方 法	Google Classroom を用いて授業内課題・感想文・小テスト・参考資料の配信と結果のフィードバックをします。感想文の内容について、次の授業の冒頭で総合して補足説明をします。					
他 の 授 業 と の 関 連	「人間関係論」「病態心理学」ほか、看護学の授業理解につながります。					
テ キ ス ト	系統看護学 講座基礎分野 心理学 医学書院					
参 考 図 書	学修目標達成状況に対応して、必要時、授業中に紹介します。					
履修上の留意点	「何かひとつ自分について発見をしよう」という気持ちで講義に臨んでください。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は < k.hanamura@kki.ac.jp > に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	花村 カテリーナ (臨床心理士、公認心理師)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	人 間 と 生 き 方 (哲 学) [People and Life (Philosophy)]	担 当 教 員 名	◎山本 道雄			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	2単位・30時間		○			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	1-③、2-①, ③	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	①、②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] われわれの生活は科学・技術によって規定されている。この講義では現代の科学・技術文化の根底にある世界観を取り出し、その歴史的に特殊な性格について学修する。まず、われわれの思考を規定している因果決定論の性格について学び、現代では因果決定論は統計的世界観に席を譲っていることについて学修する。次に、ダーウインの進化論に立ち入り、生物の進化が変異という偶然性に支配されていることについて学ぶ。続いて、社会と医療技術の交わりを臓器移植の問題をケーススタディとしてとりあげ、これによって人間の生死という概念が時代の医療技術や社会的要請によって規定されていることを学修する。 [学修目標] 1．現代の科学技術が自然を支配と利用の対象とみる特殊な見方に定位するものであり、伝統的な東洋的世界観と異質なものであることを説明することができる。 2．脳死概念の分析によって生と死の概念が、社会的状況によって影響されうることが説明できる。 3．現代では因果的世界解釈と並んで、統計的解釈も重要であることが説明できる。 4．心と身体関係を現代の心脳問題の分析によって、正確に理解できるようになる。 5．現代の科学技術世界の成立にはキリスト教的世界観が重要な役割を果たしたことが説明できるようになる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	総序：文化＝耕作＝破壊		山本作成・配布の講義ノート『人間と生き方』の該当箇所を、できればそこで紹介されている参考文献等を読んでおくこと。			4時間
第 2 回	現代の科学・技術文明の根底にある世界像					4時間
第 3 回	第一次科学革命：因果的・決定論的世界像1					4時間
第 4 回	第一次科学革命：因果的・決定論的世界像2					4時間
第 5 回	「自然は人間の作品である」という命題について					4時間
第 6 回	第二次科学革命：統計的世界像（「偶然を飼い慣らす」）					4時間
第 7 回	生命科学の展開：ダーウィンの進化論について					4時間
第 8 回	デカルト哲学：心身問題					4時間
第 9 回	心身問題の現代的展開：心脳問題					4時間
第 10 回	信仰・知識（科学）・生					4時間
第 11 回	脳死問題：理論的・歴史的考察					4時間
第 12 回	アメリカにおける心臓移植の経緯					4時間
第 13 回	日本における心臓移植の経緯					4時間
第 14 回	日本における心臓移植の経緯					4時間
第 15 回	心臓移植の法的・倫理的問題					4時間
学修評価の方法 基準（割合％）	ゲーグルミートの「クラスルーム」を利用した質問回答で30％、期末の定期試験で70％の評価。					
フィードバックの方法	毎回の小レポートによって理解度をチェックします。小レポートのうち幾つかを講義冒頭で紹介し、論評する。					
他 の 授 業 と の 関 連	論理学、生命と倫理					
テ キ ス ト	山本作成・配布の講義ノート『生命と倫理』を用いて講義する。					
参 考 図 書	講義中適宜紹介する。					
履修上の留意点	やや哲学的で抽象的な議論が多くなりますが、すこし辛抱してください。皆さんの関心の幅をなるべく増やすように努めます。					
オフィスアワー	質問は非常勤講師控え室で受け付けます。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	いない。					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	社会と家族 [Society and Family]	担 当 教 員 名	◎西村 由実子、山中 昌幸			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間		○			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	5	ディプロマ・ ポリシー 番号	5 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人は社会の中に生まれ、日常生活における他者との相互作用の中で様々な行動様式・規範を身につける 家族はその社会を構成する基本的な単位の一つである。多様かつダイナミックに変化し続ける現代社会と 家族のあり様を、主に家族社会学の視点を通して学ぶ。 [学修目標] 1. 家族に関する諸理論を理解し説明できる 2. 現代の社会と家族が抱える課題と解決のための方法を探り表現できる 3. 家族研究の方法論を理解し説明できる					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス：「4つの隅」で講義内容と評価方法、学生と教員が 知り合う 【講義】(西村)	好きな季節を考える			1時間	
第 2 回	家族の構造と機能：家族の定義と働きの変化を歴史的に振り返る 【講義】(西村)	[a] はじめに通読：未来の家設計図作成			4時間	
第 3 回	日本の近代家族論：住宅を通じて「近代家族」と日本の「イエ制度」 を知る 【講義】(西村)	[a] 第1、2章通読			3時間	
第 4 回	家族の比較文化論：文化相対主義で世界各地の家族のあり様を 探る 【講義】(西村)	課題①「この社会を通じて家族を考える」 配布資料を読みレポート作成。			10時間	
第 5 回	家族の人口学：合計特殊出生率で世界人口と自分のリプロを関 連づける 【講義】(西村)	[a] 第3章通読			2時間	
第 6 回	多様化する家族 (1)：法律婚と事実婚 / 家族法制に関わる新た な動きを知る 【講義】(西村)	[a] 第4章通読			3時間	
第 7 回	多様化する家族 (2)：同性婚と国際結婚 / マイノリティと社会 変化を考える 【講義】(西村)	[a] 第5章通読			3時間	
第 8 回	中間テスト：第1～7回の重要概念を問う問題に選択・記述で回 答する 【講義】(西村)	第1～7回の復習：重要概念を問うフォー ム問題で復習しましょう。			6時間	
第 9 回	ジェンダーとセクシュアリティ：多様性の中で「らしさ」とは 何かを考える 【講義】(西村)	[a] 第7章通読			4時間	
第 10 回	ファミリー・バイオレンス：親密性と子ども・高齢者・配偶者 への暴力を考える 【講義】(西村)	[a] 第8、10章通読			4時間	
第 11 回	子育てと介護：家族の「ケア」機能を社会で担う方法を考える 【講義】(西村)	[b] 3章通読			3時間	
第 12 回	コミュニティと地域社会：淡路島における地域創生 【講義】(山中)	[b] 7章通読			3時間	
第 13 回	国家と国際社会：国民国家の虚構性を知り世界システムをイメ ージする 【講義】(西村)	[b] 8章通読			3時間	
第 14 回	疾病・災害と遺児：親の疾病、戦争や災害による遺児の現状を 理解する 【講義】(西村)	[b] 7章通読			3時間	
第 15 回	家族研究の方法・まとめ：ライフストーリー手法で自らを振り 返る 【講義】(西村)	第1～14回の総復習			8時間	
学修評価の方法 基準 (割合%)	授業参加 (15%)、講義内でのニュース報告 (5%)、筆記式中間テスト (20%)、課題①レポート [ルーブリッ ク評価] (20%)、総まとめレポート (40%)					
フィードバックの 方 法	授業内で出欠確認質問の回答に対するフィードバックをします。提出物には個別のコメントと全体への講 評を行います。課題提出とフィードバックに Google Classroom を使います。					
他 の 授 業 と の 関 連	2年次に学ぶ「公衆衛生学」「社会保障と社会福祉」の基礎となる日本の人口構造変動や社会問題を学びま す。また多様化する家族やジェンダーの課題は看護全領域に関連します。					
テ キ ス ト	教科書は購入しません。参考となる内容を主に参考図書 [a] と [b] から抜粋し、準備学修資料として、 講義前半と後半に分けて配布します。各回の時間外学修で通読しましょう。					
参 考 図 書	[a] 「家族社会学を学ぶ人のために」井上眞理子編 (世界思想社) [b] 「ナーシング・グラフィカー健康支援と社会保障①健康と社会・生活」平野かよ子ら編 (メディカ出版) 最新版					
履修上の留意点	自分自身やクラスのメンバー、様々な組織や地域といった社会についての振り返り、気づきを通して学び ましょう。この授業ではワークや発表への積極的な参加を重視します。					
オフィスアワー	水曜日 12：00～15：00、意見や相談はメール y.nishimura@kki.ac.jp でいつでも受けます。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	山中 昌幸 (淡路ラボ事務局代表)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	芸術 [Art]	担 当 教 員 名	◎吉村 誠			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1 単位 ・ 30時間		○			
授 業 形 態	講義 ・ 演習		● - 必修 ・ ○ - 選択			
カリキュラム ・ ポリシー 番号	1	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 音楽や映像は、人間のさまざまな感情を表現したり喚起したりすることによって、心と身体の健康を向上させます。この授業では、音楽や映像を創造する人の立場から捉えることで、音楽や映像を意識的に使いこなす術を体得して、現代社会に生きるストレス解消や看護対象者への心のケアをはかる治療法を学びます。 [学修目標] 音楽療法や芸術療法を行うためには看護対象者への共感能力が必要です。この授業では共感能力の基である「聴く力」「観る力」を高めて、看護の現場で音楽や映像を使いこなせるようになることが目標です。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	芸術や音楽は「生きる力」を養う		好きな音楽や絵画を視聴確認			30分
第 2 回	映画『君に読む物語』から恋愛と老人医療と		『君に読む物語』場面検証			1時間
第 3 回	人間の「5 感覚」看護にとって大切な「共感力」		5つの感覚の確認と追体験			30分
第 4 回	映画『魔女の宅急便』から人間の成長とは何か		『魔女の宅急便』セリフ検証			1時間
第 5 回	ミラーニューロンの発見と「ヒトの共感」		「鏡の神経細胞」の感覚確認			30分
第 6 回	映画『コンテイジョン』からコロナ禍の問題		世界の医療機関について学習			30分
第 7 回	『探偵！ナイトスクープ』で喜怒哀楽を体感		家族や友人との会話を反芻			1時間
第 8 回	進化人類学の視点から「人間の身体」を知る		発声練習と身体部位の点検			30分
第 9 回	LGBTQ から人間の「個別的存在性」を考える		好きな絵画を読み解く練習			30分
第 10 回	映画『リリーのすべて』で知る LGBTQ の歴史		『リリーのすべて』場面検証			1時間
第 11 回	「ことば」の原理と「母語」について		母音の発声練習と童謡の歌唱			30分
第 12 回	映画『フラガール』からダンスと身体表現		『フラガール』の場面検証			1時間
第 13 回	「心の理論」と「ヒトの共感能力」について		「かけ声」の練習と実践			30分
第 14 回	映画『スラムドッグミリオネア』世界の現実		『スラムドッグ』の場面検証			1時間
第 15 回	まとめ「芸術」を使って効果的に看護する		課題「私の一曲」CD の作成			1時間
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	出席点50% 課題50%					
フィードバックの 方 法						
他 の 授 業 と の 関 連						
テ キ ス ト	講義内で資料を配布する					
参 考 図 書	吉村誠『お笑い芸人の言語学』（ナカニシヤ出版） 正高信男『ヒトはいかに人になったか』（岩波書店）					
履修上の留意点	興味と好奇心を持って音楽や映像を視聴してください。					
オフィスアワー	授業終了後					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	人 間 関 係 論 [Human Relation]	担 当 教 員 名	◎栗井 光代			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	2単位・30時間		○			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	1	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②③④、2 - ①②③④			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人間は一人で存在するわけではない。人は支え合い、影響を及ぼしあっている。様々な他者や自己のおかれている状況を解明・考察し、よい人間関係を築くための態度や能力を学修する。 [学修目標] 1. 心の働きにはどのような特徴があるのかを説明できる。 2. 人間関係を築くための基本的な知識を説明できる。 3. 組織・社会等で必要な人間関係を築くことができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス・心の働きとは		授業ごとに予習・復習の内容を説明する。 授業後に課題を出して、理解度を確認する。 人間関係論は人、生活に関係している。日々の生活の中で起こっていることを意識できるようにする。 このことが授業の内容に関連して、深く考えることができるようになる。			合計 60時間
第 2 回	心の発達（発達段階と各時期の発達課題）					
第 3 回	性格と行動の発達（類型論、特性論、生得説、経験説）					
第 4 回	人とのつながり（環境、行動することの意味）					
第 5 回	集団と心理（集団の特性、集団での問題、PM理論）					
第 6 回	自己とは（1）－自己の二重構造、自己概念、自己開示、ジョハリの窓）					
第 7 回	自己とは（2）－自己呈示、自己呈示行動）					
第 8 回	他者とは（1）－対人認知・対人認知プロセス、印象の形成、対人魅力、ラベリング）					
第 9 回	他者とは（2）－他者と関わる、対人恐怖、印象操作）					
第 10 回	非言語的コミュニケーション（対人態度、対人距離、パーソナルスペース）					
第 11 回	言語コミュニケーション（各場面の言葉かけ・言葉遣い、人との出会い・体験）					
第 12 回	対人コミュニケーション（対人感情、感情の持つ役割・コントロール、ストレス）					
第 13 回	組織内コミュニケーション（人間関係をつくる理論と技法）					
第 14 回	社会とコミュニケーション（コミュニティの希薄化、社会的孤立、援助・攻撃行動）					
第 15 回	まとめ					
学修評価の方法 基準（割合％）	授業内課題（25％）、授業内感想文（25％）、課題・レポート（50％）をあわせて総合的に評価する。					
フィードバックの 方 法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。					
他 の 授 業 と の 関 連	全ての授業と関連する。					
テ キ ス ト	授業の中で適宜プリントを配布する。配布プリントはテキストに相当するものとして、使用するの、必ず毎回きちんと整理して持参すること。					
参 考 図 書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	人間関係とは何かを探求し、円滑な人間関係を築くことができるようになる。					
オフィスアワー	非常勤講師控え室で対応					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	人文教養特別講義Ⅰ（自然と文化①） [Special Lectures on Humanities Japanese Nature and Culture ①]	担 当 教 員 名	◎栗井 光代			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・15時間		●			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	ディプロマ・ ポリシー番号	1 - ①②③④、2 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 将来専門職を目指すものにとって人間としての、あるいは社会人としての教養は自らの専門職を深めるためにも、また専門職であるが故に陥りがちな視野狭窄から免れるためにも、極めて重要である。「言語」に関わることについて学修する。 [学修目標] 1. 言語について基本的な考え方・概念を説明できる。 2. 言語についての特徴、機能、表現法を説明できる。 3. 言語を用いて多様な表現活動を実践することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス・ことばと表現		授業ごとに予習・復習の内容を説明する。			合計 30時間
第 2 回	表現・話すこと（スピーチ・説明）		授業後に課題を出して、理解度を確認する。			
第 3 回	敬語について（敬語の種類・用法）		各回テキスト、講義資料等を復習し整理すること。			
第 4 回	書くこと（1）要約、論作文		日々の生活の中で使われている言葉に注意を払うこと。			
第 5 回	書くこと（2）手紙文、案内文、ビジネス文書		授業で得た疑問等を解決するために調べたり、考えたりする。			
第 6 回	分析と考察について（1）グラフ・表					
第 7 回	分析と考察について（2）レポート・論文の構成					
第 8 回	まとめ					
学修評価の方法 基準（割合％）	授業内課題（25％）、授業内感想文（25％）、課題・レポート（50％）をあわせて総合的に評価する。					
フィードバックの 方 法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。					
他 の 授 業 と の 関 連	全ての授業と関連する。					
テ キ ス ト	大学生のための日本語表現実践ノート（改訂版）風間書房					
参 考 図 書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	表現に関する基本的な内容を身に付け、表現力の向上をめざす。					
オフィスアワー	非常勤講師控え室で対応。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	現代アメリカ事情 [The Present Situation in the United States of America]	担 当 教 員 名	◎西垣 有夏			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間		○			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ポリシー番号	1、2、4	ディプロマ・ポリシー番号	1-④、2-③、4-②、5-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] アメリカ合衆国と言えば日本にとって政治外交面、経済面などにおいて重要なパートナーと言っても過言ではない。海外からの日本への移住者は今後増加し、もちろん医療現場においても異文化理解は欠かせないものとなる。今もなお変化を続けるアメリカ合衆国を文化、人種、宗教などの観点から学ぶことによって国際感覚を身につけ、様々な視点で物事を解釈、考察し、自らの意見を述べることを学修する。 [学修目標] 1. 異文化や価値観の違いに対する理解、幅広い見識を身に着け、今後のアメリカと日本との国際関係や情勢に対する自分の意見を述べることができる。 2. 異文化に目を向け、多様性を理解することにより、客観的に日本を見つめ、国際的感覚を含んだうえで日本について自分の意見を述べることができる。 3. 急速に進むグローバル化の潮流に遅れることがなく、広い視野を持ち、世界で起こる様々な事柄について考察し、自分の意見を述べることができる。 4. 今後も著しい変革を遂げるグローバル化社会の未来を見据える力を身に着け、現代社会に生きる自らの立場や将来の展望について自分の意見を述べることができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス、自由の国アメリカ ・アメリカ合衆国概説 ・アメリカ合衆国の起源 ・アメリカ大陸に渡るビュリタン ・アメリカ合衆国独立の道のり		①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。			4時間
第 2 回	地域文化—中西部アメリカと西部アメリカ ・中西部と西部の地域文化 ・アメリカ合衆国の拡大 ・アメリカの植民地 ・アメリカ東海岸から内陸部へ進出 ・カウボーイが生んだ広大な平原地帯 ・heart land (心臓地帯) ・メキシコとの国境警備問題 ・アメリカ合衆国の原住民		①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。			4時間
第 3 回	地域文化—東部アメリカと南部アメリカ ・東部と南部の地域文化 ・アメリカ合衆国建国出発点 ・独立宣言の地、フィラデルフィア ・経済的・政治的影響力を持つニューヨーク ・多種多様な民族、宗教 ・現代文明を否定するアーミッシュ族 ・南北戦争敗北により孤立するアメリカ南部 ・ハイテク産業の活性		①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。			4時間
第 4 回	人種問題—移民の国アメリカ ・避難所国家としてのアメリカ合衆国 ・旧移民と新移民 ・日系移民と中国系移民 ・アメリカ合衆国における移民の歴史 ・不法入国者でも就労可能？ ・国策に利益をもたらす人材は誰でも大歓迎？ ・2016年当時の大統領、トランプによる不法移民排除		①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。			4時間
第 5 回	人種問題—同一コミュニティは何のため？ ・様々な人種が存在するアメリカ合衆国 ・ブラックパワーとレッドパワー ・日系、中国系アメリカ人 ・2001年同時多発テロをきっかけとした信徒攻撃 ・今なお根強いヘイトクライム、コロナ禍による影響。		①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。			4時間
第 6 回	宗教問題—神への強い信仰心 ・アメリカ合衆国独立のきっかけとなる宗教心 ・通貨に刻まれる "IN GOD WE TRUST" の文字 ・かつて存在した進化論禁止令 ・アメリカ合衆国の宗教活動 ・アメリカ合衆国の主な宗教 ・近代化による信仰の変化		①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。			4時間
第 7 回	宗教問題—アメリカ人はカルト好き？ ・神の存在を認めないのも宗教の自由のうち？ ・カルトの定義 ・既成宗教とカルトの比較。 ・カルト教団に勧誘されやすい人とは？ ・カルト教団入団による影響 ・世間を震撼させる日本における旧統一教会と政治との結びつき		①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。			4時間

第 8 回	政治システム—連邦政府と大統領制 ・連邦制をとるアメリカ合衆国 ・上院と下院に分かれる連邦議会 ・アメリカの二大政党 ・アメリカ大統領の選出方法、大統領に立候補する資格 ・大統領選挙人の役割	①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。	4時間
第 9 回	政治システム—国民が連邦政府を覆す？ ・大戦時の徴兵命令に背く国民 ・納税者としての意識が高い国民 ・弾劾裁判で大統領を罷免できるシステム ・ロビイストの役割 ・ボトムアップ思想—アメリカ民主主義の原点 ・リボルディングドアの役割 ・官民交流の問題点	①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。	4時間
第 10 回	アメリカの家族—夫婦関係は？子どもはいつ成人に？ ・アメリカの性教育 ・アメリカ人夫婦の一心同体とは？ ・アメリカ人の離婚要因 ・宗教と婚姻 ・アメリカ人が成人年齢に達するとどう扱われる？	①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。	4時間
第 11 回	アメリカの教育—義務教育でも学校に行かない？ ・アメリカの義務教育 ・アメリカの教育機関 ・徹底したリベラル化が生み出した教育現場の歪み ・アメリカの教育機関でのいじめ ・ホームスクール	①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。	4時間
第 12 回	銃規制—何のための銃？ ・銃所有はアメリカ国民の権利 ・銃所有の正当化 ・銃所有に反対するアメリカ国民 ・銃所有率と銃犯罪率は比例 ・相次ぐ乱射事件：バイデン政権下での銃規制強化	①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。	4時間
第 13 回	アメリカの経済—自由、効率、公正の三本柱 ・自由と自己責任 ・個性、自己能力重視で市場開拓 ・日米の経営システムの違い ・国際通貨としてのアメリカドル ・ビジネスチャンスを生み出す仕組み ・なぜサブプライムローンが金融危機を引き起こしたのか	①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。	4時間
第 14 回	アメリカの軍事力—ポスト冷戦時代の「世界の警察」 ・旧ソビエトとの冷戦体制が始まったきっかけ ・モンロー主義 ・孤立するラテンアメリカ植民地への武力介入 ・ハワイ併合とアラスカ買収 ・アジア圏への影響 ・中東問題	①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。	4時間
第 15 回	アメリカの外交姿勢—世界を視野に入れた外交スタンス ・膨張政策を支えた自由貿易の原則 ・ハードパワーとソフトパワー ・対日外交：日米安保条約 ・対中国外交：巨大市場の将来性 ・対北朝鮮外交：柔軟な外交路線の代償	①アメリカ情勢に関する報道を視聴する。 ②教員が説明する次回授業内容について予習する。 ③配布資料を確認し、期末レポートの下書き、作成に備える。 ④授業内容の整理。	4時間
学修評価の方法 基準（割合）	毎授業時のコメントペーパー（40%）、期末レポート（60%）		
フィードバックの 方法	毎時間講義のコメントをペーパーに書いてもらいます。コメントは次回の講義以降に復習に利用し、必要に応じて補足説明や解説をします。		
他の授業との 関連	積極的に一般教養科目を履修し、学問の裾野を広げてください。看護師として専門職に関わる人間として幅広い教養を身に着けることは専門性を高め、理解を深めることにつながります。		
テキスト	指定しません。授業時に資料を配布します。		
参考図書	随時紹介します。		
履修上の留意点	ニュースなどを見て国際情勢について関心をもってください。授業ではしっかりメモを取るように心がけてください。		
オフィスアワー	随時、来室者の状況を配慮して調整します。西垣が研究室（1214）に在室し、来室者不在であればいいです。		
実務経験のある 教員			

【単位の実質化に関する事項】

2単位90時間の学修時間となります。この内訳は、授業30時間授業時間外（準備学修）60時間となります。

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	医療英語 [Medical English]	担 当 教 員 名	◎西垣 有夏			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・15時間		●			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	1、2	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シー 番 号	1 - ④、2 - ③、5 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>医療現場で必要とされる英語表現を英作文、対話文、さらに医療専門書形式の英文購読方法を習得する。コロナが世界を席卷したことで医療現場において大きな変革が求められることとなり、医療分野のグローバル化が急速に進んでいる。そのため、日本の医療機関で就労する日本人でさえも医療英語の知識が要求される。本講義は基本英単語含んだ医療専門用語を用いた英文を精読し、書くことを習得する。</p> <p>[学修目標]</p> <p>1. 看護分野における異文化コミュニケーションの足掛かりを築くために、医療現場での英語表現できる。</p> <p>2. 医療現場の視点で異文化を理解、解釈をするために、医療専門用語について説明できる。</p> <p>3. グローバル化の進む現代に生きる医療従事者になるために、継続して英語力に磨きをかけるための英語学習方法について述べられる。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス、Unit 1 : Is this your first visit to this hospital?—KEY EXPRESSIONS ・ Nurses' Key Expressions ・ Patients' Key Expressions ・ Initial Questions ・ Communication Strategy ・ Writing Practice		①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。			2時間
第 2 回	Unit 1 : Is this your first visit to this hospital?—DIALOGUE ・ Dialogue at the Reception Desk ・ May I help you? ・ I have a pain in my back. ・ Dialogue at the Registration Desk ・ Please fill in this Registration Form.		①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間
第 3 回	Unit 2 : What's the matter?—KEY EXPRESSIONS ・ Nurses' Key Expressions ・ Patients' Key Expressions ・ Label the Parts of the Body ・ Writing Practice ・ Medical Vocabulary ・ Speaking Practice		①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間
第 4 回	Unit 2 : What's the matter?—DIALOGUE ・ Fill in the blanks. ・ What's the trouble? ・ Dr. Suzuki isn't on duty today. ・ Who can I see today? ・ Where exactly is the pain? ・ Your name will be called shortly.		①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間
第 5 回	Unit 3 : You need to see a Dermatologist—KEY EXPRESSIONS ・ Nurses' Key Expressions ・ Patients' Key Expressions ・ Communication Strategy ・ Speaking Practice ・ Writing Practice		①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。			4時間

第 6 回	Unit 3 : You need to see a Dermatologist—DIALOGUE ・ What's brought you here today? ・ Is this an emergency? ・ Are there any other problems? ・ Have you been under a lot of stress lately? ・ It's a good idea for a doctor to check it.	①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。	4時間
第 7 回	Unit 4 : Let me direct you to Radiology—KEY EXPRESSIONS ・ Nurses' Key Expressions ・ Patients' Key Expressions ・ Communication Strategy ・ Writing Practice ・ Speaking Practice	①次の時間に取り扱うテキストの箇所を確認。 ②テキストの英文構造把握。 ③課題プリントの取り組み。 ④返却された課題プリントの見直し。 ⑤授業内容の整理、復習。	4時間
第 8 回	Unit 4 : Let me direct you to Radiology—DIALOGUE ・ Can you tell me where the elevator are? ・ What's department are you looking for? ・ Radiology Department is the last room on the left. ・ If you have any trouble, just ask someone to help you.	①返却された課題プリントの見直し。 ②授業内容の整理、復習。	4時間
学修評価の方法 基準 (割合 %)	課題プリント (30%)、期末試験 (70%)		
フィードバックの 方法	課題プリントを採点して次講義時にコメント記載の上返却します。		
他の授業と の関連	『英語Ⅰ』『英語Ⅱ』の履修を強くお勧めします大学生のうちに英語の学習方法を習得しておきましょう。積極的に一般教養科目を履修し、学問の裾野を広げてください。		
テキスト	Margaret Yamanaka 編著 <i>English for Nurses</i> . (朝日出版社)		
参考図書	英和辞典。『ジーニアス英和辞典第3版』(大修館書店)を推奨しますが、すでに所持している辞書でも本講義で利用できる可能性があるので相談してください。		
履修上の留意点	毎時間課題プリントを配布するので次回授業時までに仕上げて提出してください。受講生の英語力に併せて、基本的な文法も交えて授業進行しますが、主体性をもって取り組んでください。		
オフィスアワー	随時。来室者の状況を配慮して調整します。西垣が研究室(1214)に在室し、来室者不在であればいいです。		
実務経験の ある教員			

【単位に実質化に関する事項】

1単位45時間の学修時間となります。この内訳は、授業15時間、授業時間外学習（準備学習）30時間となります。

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	人体構造機能学Ⅱ [Anatomy and Physiology Ⅱ]	担 当 教 員 名	◎百田 芳春			
期 間	1 年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2 単位・60 時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 前期に引き続き、人体の構造と機能を順次学びながら、ヒトの生命現象を体系的に学びます。この科目では、自律神経や内分泌系など、これらの学習から人体の構造と機能を統合的に学修する。 [学修目標] 1. 消化器系（口から肛門まで）の構造と機能について説明できる。 2. 中枢神経系の構造と機能について説明できる。 脳の内部構造と主な機能について説明できる。脊髄の構造と機能について説明できる。 伝道路について説明できる。睡眠と覚醒について説明できる。 末梢神経の構造と機能について説明できる（脳神経、脊髄神経、体性神経、自律神経）。 3. 特殊感覚、体性感覚、内臓間について説明できる。 4. 皮膚と体内の膜の構造と役割を説明できる。免疫系（自然免疫・獲得免疫）について説明できる。体温調節について説明できる。 5. 内分泌系に関する器官の構造と役割、ホルモン物質の作用の仕方、化学的性質について説明できる。 6. 男性および女性の生殖器の構造と機能について説明できるようになる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	消化器系 ① ・消化器系の概観、咀嚼と嚥下		食欲・咀嚼・嚥下のメカニズムと口腔での消化 教：P292 ～ 308			1 時間
第 2 回	消化器系 ② ・食道、胃、小腸の構造と機能		それぞれの消化管の共通構造と組織、食道、胃、小腸の構造と機能 教：P308 ～ 317			1 時間
第 3 回	消化器系 ③ ・消化管附属機関の構造と働き		肝臓、胆嚢、腎臓の構造と働き 教：P318 ～ 328			1 時間
第 4 回	消化器系 ④ ・小腸での消化と吸収		三大栄養素の消化と吸収、消化管付属物の構造と機能 教：P328 ～ 333			1 時間
第 5 回	消化器系 ⑤ ・大腸の役割、排便の調節、腸管運動		大腸の構造及び機能と排便の機構 教：P334 ～ 341			1 時間
第 6 回	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ ① ・神経系の概観と構成細胞		神経系の導入、共通事項 教：P342 ～ 351			1 時間
第 7 回	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ ② ・伝導と伝達		活動電位とシナプス 教：P352 ～ 356			1 時間
第 8 回	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ ③ ・中枢神経系		脳・脊髄の構造と機能 教：P359 ～ 369			1 時間
第 9 回	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ ④ ・中枢神経を保護する組織、伝導路、睡眠		授業内容に該当する部分の学習 教：P370 ～ 381			1 時間
第 10 回	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ ⑤ ・末梢神経		末梢神経の構造、脳神経、脊髄神経 教：P382 ～ 389			1 時間
第 11 回	神経系 情報を収集して判断し、伝達するしくみ ⑥ ・自律神経、神経系の発達、老化、障害		内臓への神経の作用、神経系の老化現象など 教：P390 ～ 395			1 時間
第 12 回	感覚系 外部からの情報を取り入れるしくみ ① ・感覚系の概観、視覚		感覚系の概観と眼の全体構造と機能 教：P400 ～ 417			1 時間
第 13 回	感覚系 外部からの情報を取り入れるしくみ ② ・聴覚と平衡覚		耳の全体構造と機能 聴覚と平衡感覚 教：P418 ～ 425			1 時間

第 14 回	感覚系 外部からの情報を取り入れるしくみ ③ ・化学的感覚、体性感覚	味覚、嗅覚、皮膚や筋、 教：P426～429	1 時間
第 15 回	感覚系 外部からの情報を取り入れるしくみ ③ ・体性感覚と痛覚	内臓感覚と痛覚 教：P430～435	1 時間
第 16 回	体を守る仕組み ① ・概観、免疫系・皮膚の役割	皮膚の役割と免疫系の大まかな仕組み 教：P438～464、楽：P177～181	1 時間
第 17 回	体を守る仕組み ② ・自然免疫と獲得免疫	免疫系の役割分担 教：P464～466、楽：P181～187	1 時間
第 18 回	体を守る仕組み ③ ・獲得免疫が形成される過程	マクロファージ、リンパ球の働き 教：P467～479、楽：P183～187	1 時間
第 19 回	体を守る仕組み ④ ・免疫反応の過剰反応と体温調節機構	アレルギー反応、体温調節の仕組み 教：P482～496	1 時間
第 20 回	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ ① ・ホルモンの概観と定義	内分泌系の概略、視床下部系のホルモン 教：P504～511	1 時間
第 21 回	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ ② ・脳にあるホルモン分泌機構	視床、視床下部、松果体の内分泌 教：P512～516	1 時間
第 22 回	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ ③ ・甲状腺と上皮小体	甲状腺、上皮小体が関与する内分泌系 教：P517～520	1 時間
第 23 回	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ ④ ・膵臓と副腎皮質及びストレスに対応するホルモン	膵臓と副腎の内分泌系 教：P521～527	1 時間
第 24 回	内分泌系 内部の環境を整えるしくみ ⑤ ・性腺及びその他の器官の分泌系	性腺（卵巣と精巣）消化管、心臓、腎臓、 脂肪組織の内分泌 教：P528～537	1 時間
第 25 回	子孫を残すしくみ ① ・体細胞分裂と減数分裂について	減数分裂の仕組みと生物学的意義 教：P58～63、楽：P129～134	1 時間
第 26 回	生殖系 子孫を残すしくみ ② ・生殖系の概観、女性生殖器の構造と機能	生殖系の概観と女性生殖器及 教：P538～553	1 時間
第 27 回	生殖系 子孫を残すしくみ ③ ・性周期	性周期と着床 教：P554～564	1 時間
第 28 回	生殖系 子孫を残すしくみ ④ ・不妊、妊娠、初期発生	不妊、受精、妊娠成立と初期発生 教：P564～573	1 時間
第 29 回	生殖系 子孫を残すしくみ ⑤ ・男性生殖器と機能	男性生殖器、精子、性ホルモン 教：P574～581	1 時間
第 30 回	まとめ ・練習問題を解きながらこれまでの確認	テキスト及び配布物を確認して予習復習 すること	1 時間
学修評価の方法 基準（割合）	毎回の授業でおこなう確認テスト（30%）と期末試験（70%）の合計点で評価する。		
フィードバックの 方 法	小テスト及びレポート課題の学修内容は授業において全員に解答を配布し、また、著しく誤って解釈している人には修正などを求めて、再度提出してもらいます。		
他 の 授 業 と の 関 連	本学修項目は後期の人体の構造と機能Ⅰで学習したことに連動しています。また2年次に学ぶ臨床薬理学Ⅰ・Ⅱや感染と免疫および病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの前提的な知識になります。		
テ キ ス ト	「ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学（第5版）」武田裕子・林正健二 編 株式会社メディカ出版		
参 考 図 書	人体の正常構造と機能、坂井建雄編集、日本医事新報社、2021 年		
履修上の留意点	その他の教材は授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー	人体構造機能学Ⅰ及びⅡは、生命科学の基礎を学び、今後、学ぶ専門医療系の基礎科目の土台になるので、予習復習を通じて理解を深めていきましょう。		
実 務 経 験 の あ る 教 員	対応時間は後日にお知らせします。不在時には＜y.momota@kiki.ac.jp＞連絡してください。		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	生化学 [Biochemistry]	担 当 教 員 名	◎芝崎 誠司、唐崎 美樹			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 生体内で起きている物質の変化の基礎や、代謝系の維持とその変化がどのように生理機能と関連するの かを学修する。また、生化学検査における数値の意味についても学修する。 [学修目標] 1. 生体を構成する成分である糖・脂質・タンパク質の役割を説明できる。 2. エネルギーの代謝とホメオスタシスについて学び、これらの異常がどのように疾患と関連するのか説 明できる。 3. 遺伝情報の流れと、遺伝子の変異がもたらす疾患について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	生体の成り立ちと生体分子	【講義】(芝崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 2 回	タンパク質の性質	【講義】(唐崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 3 回	酵素の性質と働き	【講義】(芝崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 4 回	糖質の代謝 1	【講義】(唐崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 5 回	糖質の代謝 2	【講義】(唐崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 6 回	脂質の代謝 1	【講義】(芝崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 7 回	脂質の代謝 2	【講義】(芝崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 8 回	タンパク質の代謝	【講義】(芝崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 9 回	生化学的診断	【講義】(芝崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 10 回	ホルモン	【講義】(芝崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 11 回	遺伝子のはたらき 1	【講義】(唐崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 12 回	遺伝子のはたらき 2	【講義】(唐崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 13 回	遺伝子のはたらき 3	【講義】(芝崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 14 回	病気と生化学	【講義】(芝崎)	高校(理科)履修内容の復習			2時間
第 15 回	まとめ	【講義】(芝崎)	14回目までの復習			2時間
学修評価の方法 基 準 (割 合 %)	出席と定期試験により成績評価します。適宜演習を行い評価に加えます。評価の内訳は、期末試験90%、 出席と演習10%とします					
フィードバックの 方 法	講義内で演習の解答、解説を行います。					
他 の 授 業 と の 関 連	本科目は「薬理学」「解剖生理学」と関連します。					
テ キ ス ト	「生命の科学」芝崎誠司(三共出版)2024年					
参 考 図 書	「Essential 細胞生物学(原書第4版)」中村桂子、松原謙一(南江堂)2016年					
履修上の留意点	双方向の講義を心がけますので、学生諸君の積極的な発言を期待します。					
オフィスアワー						
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	病態治療学Ⅰ（総論） [Pathophysiology and TherapeuticsⅠ (General Theory)]	担 当 教 員 名	◎川口 哲郎			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	ディプロマ・ ポリシー番号	3-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 病理病態論では看護を学ぶにおいて看護の基礎となる病理総論的な考え方、および遺伝子異常・先天異常、細胞・組織とその障害、腫瘍と過形成、炎症と修復、免疫、感染、循環障害、体液異常、代謝異常、中毒などの基本的な病変について学修する。 病態症候論では種々の症状や徴候の機序、およびそれを呈する疾患を学修する。 [学修目標] 1. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の病態を説明できるようになる。 2. 病態に関する医学用語を使用して多職種とコミュニケーションができるようになる。 3. 種々の症状や徴候を説明でき、その原因疾患を列記できるようになる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	病理病態論 1. バイタルサイン 体温、呼吸、脈拍、血圧、意識		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			4時間
第 2 回	2. 先天異常 細胞障害・変性と細胞死 遺伝子異常、染色体異常、胎芽病、胎児病、変性、壊死、アポトーシス、萎縮、過形成、化生と再生、老化		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			4時間
第 3 回	3. 腫瘍 炎症 腫瘍の原因、腫瘍の分類、腫瘍の進展様式、炎症の4大徴候（発赤、腫脹、発熱、疼痛）、炎症に関わる細胞		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			4時間
第 4 回	4. 免疫異常 抗原と抗体、液性免疫（免疫グロブリン）、細胞性免疫（顆粒球とリンパ球）、アレルギーと自己免疫		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			4時間
第 5 回	5. 感染 循環障害 プリオン、ウイルス、リケッチア、クラミジア、細菌、真菌、原虫、寄生虫、感染経路、感染予防、虚血、充血、うっ血、出血、側副血行路		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			4時間
第 6 回	6. 体液異常 浸透圧、電解質、アシドーシスとアルカローシス		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			4時間
第 7 回	7. 代謝異常 中毒 糖・タンパク・脂質・尿酸・ビリルビンの代謝異常、ビタミン・ホルモンの異常、薬物中毒、ガス・工業中毒、農薬中毒、食中毒		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			4時間
第 8 回	病態症候論 8. 胸痛、腹痛、腰背部痛、関節部痛、高体温、低体温、倦怠感、睡眠障害、皮膚搔痒 前半小テスト・解説		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成 前半小テスト予習			4時間
第 9 回	9. 食欲不振、悪心、嘔吐		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			4時間

第 10 回	10. 体重増加、体重減少、肥満、浮腫、脱水、尿量・排尿回数の異常、尿所見異常、リンパ節腫脹	テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成	4時間
第 11 回	11. ショック、意識障害、けいれん、めまい、嘔声、呼吸困難、咳嗽、喀痰、咯血	テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成	4時間
第 12 回	12. チアノーゼ、不整脈、貧血、レイノー症状	テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成	4時間
第 13 回	13. 腹水、腹部膨満、摂食・嚥下障害	テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成	4時間
第 14 回	14. 感覚過敏、感覚鈍麻、しびれ、吐血、下血、下痢、便秘、黄疸	テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成 後半小テスト予習	4時間
第 15 回	15. その他の症状（出血傾向、血栓傾向、視力・視野障害、難聴、耳鳴り、味覚障害、嗅覚障害、複視、眼瞼下垂、瞳孔の障害） 後半小テスト・解説	テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成	4時間
学修評価の方法基準（割合％）	毎回1問と授業中の50問2回の確認テスト（50％）、定期試験（50％）で成績評価を行います。		
フィードバックの方法	1回の授業ごとに1問の確認テストを行います。授業中に小テスト（50問、2回）を行い終了後に答え合わせと解説をします。 レポートは初回授業前に配布されます。最終授業終了後にレポートを提出してもらい、レポート提出後に解答（例）を配布します。		
他の授業との関連	病態治療学Ⅱ、Ⅲの基礎となる内容であり、2年前期の病態治療学Ⅱ、Ⅲに連動しています。		
テキスト	ナーシング・グラフィカ 疾患の成り立ちと回復の促進① 病態生理学 メディカ出版		
参考図書	系統看護学講座 疾患の成り立ちと回復の促進（1）病理学 医学書院 看護のための臨床病態学 南山堂		
履修上の留意点	予め配布するレジメを中心に講義を進めますが、テキストも必ず授業に持参してください		
オフィスアワー	火曜、木曜、授業終了後、午前10時45分から12時まで		
実務経験のある教員	川口 哲郎（医師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	食生活と看護 [Eating Habits and Nursing]	担 当 教 員 名	◎關戸 啓子、竹市 仁美			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	ディプロマ・ ポリシー番号	3-①、4-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 対象者の食生活や栄養状態をアセスメントし、適切な看護援助を提供するために必要な栄養学の基本知識について学修する。 [学修目標] 1. 5大栄養素の体内における役割と栄養学的意義を説明できる。 2. 日本人の食事摂取基準の考え方と利用方法を説明できる。 3. 栄養アセスメントの意義と方法を説明できる。 4. 健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活を説明できる。 5. 疾病回復のための食事療法についての根拠と方法を説明できる。 6. 疾病予防・健康増進のための食事指導および食育の留意点と方法を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	栄養とは（1）：栄養と栄養	【講義】（關戸）	（準備学修）の内容 ①各回の授業前、その時間に学習する授業の内容に該当するテキストのページを事前に読み、疑問点を整理する。 ②毎回の授業後、学修した要点を自分でノート（A4サイズで1～2ページ）にまとめる。			各回 4時間
第 2 回	栄養とは（2）：栄養素の分類	【講義】（關戸）				
第 3 回	検査食、治療による回復を促すための食事	【講義】（關戸）				
第 4 回	経口摂取できない患者のための栄養管理	【講義】（關戸）				
第 5 回	日本人の食事摂取基準	【講義】（竹市）				
第 6 回	栄養アセスメント	【講義】（竹市）				
第 7 回	食文化	【講義】（竹市）				
第 8 回	人生各期における健康生活と栄養	【講義】（竹市）				
第 9 回	運動と栄養	【講義】（竹市）				
第 10 回	疾患を治療するための食事（1）：消化器系疾患	【講義】（竹市）				
第 11 回	疾患を治療するための食事（2）：内分泌、代謝疾患	【講義】（竹市）				
第 12 回	疾患を治療するための食事（3）：循環器、腎疾患	【講義】（竹市）				
第 13 回	嚥下障害のある人のための食事	【講義】（竹市）				
第 14 回	食事指導・食育の実践	【講義】（竹市）				
第 15 回	まとめ（授業を振り返り、要点を確認する）	【講義】（竹市）				
学修評価の方法 基準（割合％）	小テストを3回実施し、小テストの結果（100％）で成績評価を行います。					
フィードバックの 方 法	小テストを実施した次の回の授業で、フィードバックを行います。					
他 の 授 業 と の 関 連	「生化学」はこの科目を理解する基盤になります。併せて理解しましょう。					
テ キ ス ト	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進（4）臨床栄養学第6版、メディカ出版 社会・環境と健康 健康管理概論第4版、講談社サイエンティフィク					
参 考 図 書	授業中に適宜紹介します。					
履修上の留意点	小テストについて授業の初回に説明します。小テストの日は特に欠席しないよう気を付けてください。					
オフィスアワー	授業の前後の時間、それで時間が不足する場合は申し出により時間を調整します。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	關戸 啓子（管理栄養士・看護師）、竹市 仁美（管理栄養士）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	福祉教育の本質 [Essence of Socio & Lifelong Education]	担 当 教 員 名	◎松岡 広路			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間		○			
授 業 形 態	講義＋ワークショップ		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	ディプロマ・ ポリシー番号	1－①②④、2－①②③、4－①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 社会福祉・現代的課題をめぐる福祉教育・ボランティア学習の理論・実践枠組みを概説するとともに、実践の具体的な方法を理解するためのワークショップを実施する。 [学修目標] ＜ふくし＞の現代的意義・理念・目的を、自分の受けてきた教育と比較しつつ理解し、具体的にどのような実践が求められるのかについての知識を修得しましょう。また、福祉教育・ボランティア学習の実際や新しい教育の方法論・技法への理解と関心を深め、関連する実践への主体性が高まることもねらいのひとつです。さらに、看護師・保健師の福祉教育実践における役割・責務の理解だけではなく、関係する他専門職（社教職員・教師・社会教育関係者）との関係づくりの必要性や具体的な方法についての哲学的理解も期待するところのものです。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	福祉教育・ボランティア学習の魅力					
第 2 回	ふくし教育への転換 新しい実践としてのふくし教育		前回の復習			0.5時間
第 3 回	生涯教育としての福祉教育		前回の復習			0.5時間
第 4 回	脱学校論を基盤とする実践		前回の復習			0.5時間
第 5 回	被抑圧者の教育学とエンパワメント 1		前回の復習			0.5時間
第 6 回	被抑圧者の教育学とエンパワメント 2		前回の復習			0.5時間
第 7 回	ニューエイジング時代の福祉教育 エイジズム批判		前回の復習			0.5時間
第 8 回	インクルーシヴ社会における実践の方法		前回の復習			0.5時間
第 9 回	災害支援と福祉教育・ボランティア学習		前回の復習			0.5時間
第 10 回	ESDとボランティア 1 SDGs時代のふくし教育		前回の復習			0.5時間
第 11 回	ESDとボランティア 2 当事者性学習論の可能性		前回の復習			0.5時間
第 12 回	福祉教育づくり技法 1 自分たちで創ってみよう		グループメンバーとの企画調整			0.5時間
第 13 回	福祉教育づくり技法 2 自分たちで創ってみよう		グループメンバーとの企画調整			0.5時間
第 14 回	福祉教育づくり技法 3 合評会		グループメンバーとの企画調整			0.5時間
第 15 回	総括討議 ふくし教育の大切なポイントは？		全体の整理と授業後のレポと作成			2時間
学修評価の方法 基準（割合％）	毎回の授業のリフレクションペーパー（授業フィールドノート）と、総括レポートによって評価します（概ね、優30％ 良50％ 可20％を目安とする）					
フィードバックの 方 法	授業の冒頭でのリフレクションシートへのコメントタイムを設けるとともに、第15回の授業で総括レポートシェアリングワークショップを行います。					
他 の 授 業 と の 関 連	看護学原論・地域看護学・保健学などの基礎的授業と関連の深い授業です。					
テ キ ス ト	2024年11月刊行予定の実践集を使用する予定です。					
参 考 図 書	フレイレ『被抑圧者の教育学』亜紀書房、2011、松岡広路『生涯学習論の探究』学文社、2006 など。その他、授業中に紹介します。					
履修上の留意点	授業中に具体的な実践を紹介しますので、積極的に参加してみましょう。					
オフィスアワー	非常勤のため、質問等があれば松岡まで遠慮なく連絡してください。mkoji@kobe-u.ac.jp					
実 務 経 験 の あ る 教 員	私は、福祉教育・ボランティア学習の実践者でもあります。（ESD プラットフォーム創成プロジェクト主宰）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	基礎看護学Ⅱ-b（生活の援助技術） [Basic Nursing Ⅱ-b]	担 当 教 員 名	◎土井 香、黒江 ゆり子、 奥津 文子、山口 夏季			
期 間	1 年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・60時間		●			
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポ リ シー 番 号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シー 番 号	2、3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護ケア技術および看護治療技術とは何かを検討し、対象にそれらの技術を用いることの意義を考える。 健康障害を持つ対象の療養上ニーズを検討し、安全で安楽な援助の方法について具体的に計画することの重要性を学ぶ。 [学修目標] ①安全・安楽に食事援助するための方法を説明できる。 ②排泄動作のアセスメントを基盤に、排泄セルフケア不足の患者に援助できる。 ③清潔動作のアセスメントを基盤に、清潔セルフケア不足の患者に援助できる。 ④ベッド上で動くことのできない患者に安全・安楽に寝衣交換ができる。					
	授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
	第 1 回	コースガイダンス、保助看法における看護業務 食事の援助Ⅰ：アセスメントの視点 【講義】（奥津）	看護技術の基盤について復習 消化・吸収の解剖生理について調べる			1時間 1.5時間
	第 2 回	食事の援助Ⅱ：食事に対する具体的援助方法 【講義】（奥津）	食事摂取の体位と動作について細かく振り返る			1.5時間
	第 3 回	食事の援助Ⅲ：嚥下困難と看護 【講義】（奥津）	嚥下のメカニズムについて調べる			1.5時間
第 4 回	Unit test、まとめ 【講義】（奥津）	食事の援助に関する復習			1時間	
第 5 回	清潔の援助Ⅰ：清潔援助の基礎知識 【講義】（土井）	皮膚の構造・機能について人体構造・機能学の復習			1時間	
第 6 ・ 7 回	清潔の援助Ⅱ：清拭の実際 【演習】（土井・黒江・奥津・山口）	清拭援助手順を、なぜそうするのかを明確にしながらまとめる			1.5時間	
第 8 回	清潔の援助Ⅲ：足浴 【講義】（土井）	足浴の効果についてまとめる			1時間	
第 9 ・ 10 回	清潔の援助Ⅳ：足浴の実際 【演習】（土井・黒江・奥津・山口）	足浴の援助手順を、なぜそうするのかを明確にしながらまとめる			1.5時間	
第 11 回	清潔の援助Ⅳ：陰部洗浄 【講義】（奥津）	陰部について、解剖学的・生理学的に復習する			1時間	
第 12 ・ 13 回	清潔の援助Ⅴ：陰部洗浄の実際 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）	陰部洗浄の援助手順を、根拠を明確にしながら留意点も併せてまとめる			1.5時間	
第 14 回	清潔の援助Ⅵ：洗髪 【講義】（奥津）	頭皮について復習する。			1時間	
第 15 ・ 16 回	清潔の援助Ⅵ：洗髪の実際 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）	洗髪の方法と手順を、根拠をふまえてまとめる。			1.5時間	
第 17 回	清潔の援助Ⅶ：口腔ケアの援助方法【演習】（土井）	口腔内の解剖・生理を復習する			1時間	
第 18 回	清潔の援助Ⅷ：口腔ケア 【演習】（土井・黒江・奥津・山口）	口腔内の清潔の援助について、根拠に基づいてまとめる			1.5時間	
第 19 回	Unit test、まとめ 【講義】（土井）	清潔の援助に関する復習			1.5時間	
第 20 回	排泄の援助Ⅰ：排尿・排便の基礎知識 【講義】（土井）	排泄のメカニズムについて、人体構造機能学を復習する			1.5時間	

第 21 回	排泄の援助Ⅱ：排泄における観察・アセスメントの視点 【講義】（土井）	排泄のメカニズムについて、人体構造機能学を復習し、排泄動作に使用する筋肉・関節についてまとめる	1.5時間
第 22 回	排泄の援助Ⅲ：排泄に対する具体的援助方法 【講義】（土井）	排泄について解剖・生理に基づいてまとめる	1時間
第 23 回	排泄の援助Ⅳ：床上排泄援助の実際 【演習】（土井・黒江・奥津・山口）	手順とその根拠と特に注意や配慮を要する点を考え、手順を考える	1.5時間
第 24 回	Unit test、まとめ 【講義】土井	排泄とその援助について復習	1時間
第 25 回	衣生活と看護Ⅰ：衣生活・衣環境の基礎知識、アセスメントの視点 【講義】（奥津）	衣服の意義、衣服の健康に及ぼす影響について調べる	1時間
第 26 回	衣生活と看護Ⅱ：寝衣・下着等交換の援助 【講義】（奥津）	自力での寝衣交換が不自由な患者に対する寝衣交換の方法を考える	1時間
第 27・28 回	衣生活と看護Ⅲ：寝衣交換の援助の実際 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）	援助の手順や留意点についてまとめる	1時間
第 29・30 回	Unit test（技術テスト） 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）	根拠に基づいた手順・留意点を反映した技術を演習する	1.5時間
学修評価の方法基準（割合％）	提出物：ワークシート（20％）Unit test の合計（80％）とする。		
フィードバックの方法	各 Unit test 毎に、授業の中で解説する。		
他の授業との関連	人体構造機能学Ⅰ・Ⅱ、生化学、基礎看護学Ⅰ概論、基礎看護学Ⅱa		
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院、系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		
参考図書	看護技術プラクティス 学研		
履修上の留意点	技術の手順を検討することに加え、「なぜそうするのか」を解剖学・生理学的な知識を基盤に理解し、「さらに良い方法」を考えることができるように、自ら主体的に探究する姿勢を身につけることを希望する。		
オフィスアワー	具体的な時間は設定しない。学生・教員双方の都合の良い時間を調整するので、事前に連絡すること。		
実務経験のある教員	黒江 ゆり子（看護師）、奥津 文子（看護師）、土井 香（看護師）、山口 夏季（看護師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	基礎看護学Ⅲ（診療の補助技術） [Basic Nursing Ⅲ]	担 当 教 員 名	◎土井 香、奥津 文子、 黒江 ゆり子、山口 夏季			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・30時間		●			
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	ディプロマ・ ポリシー番号	2、3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康状態の回復、障害の予防のために行なわれる治療の必要性を理解し、診療の補助技術を安全に提供するための知識と基本的な技術を学ぶ。 [学修目標] ①医療問題・看護診断・看護ケア問題の違いを具体的に説明できる ②洗浄・消毒・滅菌の違いと適切な取り扱いについて、説明できる ③清潔不潔の概念を理解し、無菌操作で滅菌手袋の装着ができる ④薬物療法における看護の役割を具体的に説明できる ⑤解剖学的・生理学的な知識に基づき、安全な浣腸の実施について説明できる ⑥一時的導尿の実施方法を清潔不潔の区別を意識しながら説明できる ⑦解剖学的・生理学的な知識に基づき、バイタルサインについて説明ができる					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	コースガイダンス、医療問題・看護診断・看護ケア問題について 【講義】(奥津)		保助看法における看護師の業務と看護診断について、復習病原微生物についてまとめる			1時間
第 2 回	感染予防Ⅰ：清潔とは？洗浄・消毒・滅菌のちがい 【講義】(土井)					1時間
第 3 回	感染予防Ⅱ：滅菌物の取り扱い 【講義】(土井)					1時間
第 4 回	感染予防Ⅲ：滅菌手袋の着脱 【演習】(土井、黒江・奥津・山口)		清潔不潔の区別を考えながら、手順についてまとめる。			1.5時間
第 5 回	Unit test、まとめ 【講義】(土井)		感染予防について復習			1時間
第 6 回	与薬と看護Ⅰ：薬物療法における看護師の役割 薬物動態、薬物の管理、誤薬防止 【講義】(土井)		薬物動態について 毒薬・劇薬、麻薬について			1.5時間
第 7 回	与薬と看護Ⅱ：経口薬・口腔内与薬、 他の与薬の方法について 【講義】(土井)		服用時間と適用について			1時間
第 8 ・ 9 回	与薬と看護Ⅲ：皮下注射・筋肉内注射 【講義】(土井)		筋肉・皮下注射に適する筋肉、注射部位について、解剖を復習する			1.5時間
第 10 回	与薬と看護Ⅳ：静脈注射・点滴、輸血 【講義】(土井)		静脈注射に適する静脈とその走行について、解剖の復習			1.5時間
第 11 回	Unit test、まとめ 【講義】(土井)		与薬と看護について復習			1.5時間
第 12 回	排泄に関する医療的な看護援助Ⅰ：浣腸 【講義】(奥津)		大腸の走行について、解剖を復習する			1.5時間
第 13 回	包帯法 【講義】(奥津)		包帯法についてまとめる			1時間
第 14 ・ 15 回	バイタルサイン：バイタルサインの基礎知識 バイタルサインの意味 【講義】(奥津) 【講義】(奥津)		バイタルサインとは何かをまとめる			1時間
学修評価の方法 基準（割合％）	Unit Test の点数の合計（80％）、提出物（20％）					
フィードバックの方法	各 Unit Test 終了後、授業の中で解説する。					
他 の 授 業 と の 関 連	人体構造・機能学Ⅰ・Ⅱ、薬理学、感染と免疫、成人看護学Ⅰ・Ⅱa・Ⅱb					
テ キ ス ト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院、系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院					
参 考 図 書	看護技術プラクティス 学研					
履修上の留意点	技術の手順を検討することに加え、「なぜそのようにするのか」を、解剖学・生理学的な知識を基盤に理解し、「さらに良い方法」を考えることができるように、自ら主体的に探究する姿勢を身につけること。					
オフィスアワー	具体的な時間は設定しない。学生・教員双方の都合の良い時間を調整するので、事前に連絡すること。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	黒江 ゆり子（看護師）、奥津 文子（看護師）、土井 香（看護師）、山口 夏季（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	看護学原論 [Nursing Principles]	担 当 教 員 名	◎江川 隆子、小平 京子、下舞 紀美代			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1 単位 ・ 30時間		●			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	1、2	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②③④、2 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護とは何か、豊かな人間性と倫理観を持つ看護師とはどのような資質や考え方、知識・技術、哲学・倫理、実践能力を持つ者なのか、看護大理論の購読を通して学び自身の考えを深め、看護大理論が現在の看護教育や看護実践にどのように影響しているかを学修する。 [学修目標] 1. 看護大理論の特徴について：各理論の基本となる前提、中・小範囲理論およびそれぞれの理論が推奨する看護の5概念、看護過程、さらにそれぞれの理論が生まれた社会背景（及び医療状況）について説明できる。 2. 看護の5概念の「看護目標・実践」における看護の倫理・哲学を述べることができる。 3. 現在の看護過程とそれぞれの理論が推奨する看護過程を比較し、現在への影響、特に「アセスメント」・「看護目標・実践」について説明できる。 4. 「看護目標・実践」について、これまでの学修を基に実際の援助方法を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス：看護理論の読み方、看護理論の基礎となる理論；システム理論 【講義】(江川)		(準備学習の内容) ・配布資料：パートⅠの資料を読んで、システム理論についてまとめる。			各1時間 合計 15時間
第 2 回	ガイダンス：看護理論の読み方、看護の5概念、看護理論の基礎となる理論：理論の種類やその特徴について、看護専門職者の特徴など 【講義】(江川)		・配布資料：パートⅠの資料を読んで、大理論と中範囲理論の違いについてまとめる。			
第 3 回	ナイチンゲールの理論：①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】(江川)		①ナイチンゲールの環境についてまとめる。			
第 4 回	ナイチンゲールの理論：①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】(江川)		①ナイチンゲールの看護援助の哲学についてまとめる。			
第 5 回	ヘンダーソン理論：①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】(江川)		②ヘンダーソンの14. 基本的看護の要素を読んで、①～⑦概要をまとめる。			
第 6 回	ヘンダーソン理論：①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】(江川)		ヘンダーソンの14. 基本的看護の要素を読んで、⑧～⑭について概要をまとめる。			
第 7 回	看護大理論の看護教育・看護実践への影響；①看護過程、②看護診断、③保助看法、④看護実践など 【講義】(江川)		・配布資料パートⅢを読んで、保助看法上における看護援助についてまとめる。			
第 8 回	オレム看護理論：①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】(小平)		・オレムのいう「セルフケア」の特徴をテキストから読み取り記述する。			
第 9 回	オレム看護理論：①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】(小平)		・オレムの言う「セルフケア」の3要件と、「セルフケア不足」とはどのような状況なのかをテキストから読み取り記述する。			

第 10 回	オレム看護理論；①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】（小平）	・オレムの看護援助の哲学についてテキストから読み取り記述する。
第 11 回	ロイの看護理論；①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】（下舞）	・指定テキストの p.7 の第 1 重要概念—人間、p. 第 2 の重要概念—環境についてまとめる。
第 12 回	ロイの看護理論；①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】（下舞）	・指定テキスト p.31 ～ 34 を参照し、焦点刺激、関連刺激、残存刺激についてまとめる。
第 13 回	ロイの看護理論；①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】（下舞）	・指定テキスト p.107 ～ 111 を参照し、ロイ適応理論における看護介入はどのようなことをまとめる。
第 14 回	ロイの看護理論；①特徴、②5概念、③看護援助・目標の哲学・倫理、④現在の看護実践への影響 【講義】（下舞）	・指定テキスト p.131 ～ 139 を参照し、生理的様式の 9 つの基本ニーズについてまとめる。
第 15 回	4 人の看護理論の現在の看護教育・看護実践への影響について、まとめ 【講義】（江川、小平、下舞）	4 人の看護援助の哲学についてまとめる。
学修評価の方法基準（割合％）	レポート（20％）一人の看護理論家を選び看護理論の特徴、考え方を論文形式でまとめる。 授業終了後の期末試験（筆記試験）（80％）	
フィードバックの方法	講義毎に質問を受けて各教員がその場で、あるいは次回の講義前に対応（口頭またはスライドを用いて）する。また、必要な学生については個別に対応する。	
他の授業との関連	基礎看護学Ⅰ（概論）	
テキスト	看護の基本となるもの（日本看護協会出版会） V.ヘンダーソン著／湯槇ます他 訳（2012） フロレンス・ナイチンゲール看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護（日本看護協会出版会） 小玉香津子・尾田葉子訳（2014） オレム看護論入門—セルフケア不足看護理論へのアプローチ（医学書院） コニー・M・デニス著／小野寺杜紀 監訳（2012） ロイ適応看護論入門（医学書院） ヒーサー A.アンドリュース シスター C.ロイ著／松本光子 監訳（2010）	
参考図書		
履修上の留意点	各看護大理論にかかわる用語については、個々にテキスト・資料を確認して理解を深めること。	
オフィスアワー	在室時は、状況によって調整し対応、不在時は、< egawa.kenkyu@kki.ac.jp > に連絡ください。	
実務経験のある教員	江川 隆子（看護師）、小平 京子（看護師）、下舞 紀美代（看護師）	

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	成人看護学Ⅰ（概論） [Adult Nursing I（Introduction）]	担 当 教 員 名	◎神谷 千鶴			
期 間	1年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・15時間		●			
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	ディプロマ・ ポリシー番号	1-①②③、2-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 成人期にある人を全人的（身体・心理・社会的な統合体）にとらえ、生活者としての健康の維持・破綻・回復過程における特性及び健康問題の特徴の理解を図り、看護を実践するための理論的知識を学修する。 [学修目標] 1. 成人看護の対象である成人を、成長・発達の視点から理解する。 2. 成人期にある人の家族および社会における役割とともに、成人の健康・福祉に係る法律・制度・政策について説明できる。 3. 成人の健康のとらえ方と健康障害の特性について説明できる。 4. 成人看護の目標および役割と機能について説明できる。 5. 健康障害によって生じる成人の反応や現象を説明する理論やモデルを理解し、健康レベルに応じた看護実践の考え方について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	成人看護の目標（成人とは、成人期の特徴）		①教科書の該当ページを読んでくること。			毎回 2時間 程度
第 2 回	成人をとりまく今日の状況：家族・仕事・日常生活・環境問題・死生観）		②授業開始時、終了時に確認のための小テストを実施する。小テストで分からなかったこと、誤った問題については正答を確認し、ノートに記載する。			
第 3 回	成人期にある人の健康（健康とは、成人保健と今日の健康動向、保健・医療・福祉政策と今日の健康課題）					
第 4 回	成人期にある人の健康（生活習慣・職業・生活ストレス・セクシャリティ・更年期に関連する健康障害））					
第 5 回	成人期にある人を看護するための基本的な考え方・成人の反応や現象を説明する理論やモデルの理解①（ケアリング、エンパワメント、パートナーシップ）		与えられた課題について、レポートの作成ならびに発表資料を作成する。			2コマで 18時間 程度
第 6 回	成人期にある人を看護するための基本的な考え方・成人の反応や現象を説明する理論やモデルの理解②（ストレスコーピング、危機、セルフケア、セルフエフィカシー、アンドラゴジー）					
第 7 回	健康状態に応じた看護（ヘルスプロモーション、生活機能障害、急性期、慢性期、終末期）		①教科書の該当ページを読んでくること。 ②業開始時、終了時に確認のための小テストを実施する。小テストで分からなかったこと、誤った問題については正答を確認し、ノートに記載する。			毎回 2時間 程度
第 8 回	成人看護を充実させる実践的環境看護者の倫理綱領					
学修評価の方法 基準（割合％）	筆記試験80％・レポート課題10％・小テスト10％により評価する。					
フィードバックの 方 法	小テストはその時間のうちに解答解説を行う。レポート課題については評価指標に基づき点数化し、個別に返却を行う。筆記試験は後日解答解説の時間を設ける。					
他 の 授 業 と の 関 連	生命倫理に関する授業は準備性を高めるために重要である。成人・人間の理解のために基礎看護学の授業は重要である。					
テ キ ス ト	林直子他編集（2020）：成人看護学概論（改訂第3版）、南江堂、東京					
参 考 図 書	基礎看護学概論、看護学原論で使用したテキストおよび資料					
履修上の留意点	☆小テストは適宜、授業時間内で Google classroom から解答してもらうので、通信環境を整えておくこと。					
オフィスアワー	水曜日17：30～18：30、臨地実習で不在時は〈c.kamiya @kki.ac.jp〉まで連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	神谷 千鶴（看護師）					

【単位の実質化に関する事項】

1 単位45時間の学修時間となります。この内訳は、授業15時間、授業時間外（準備学修）30時間となります。

【2学年】

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	人文教養特別講義Ⅱ（自然と文化②） [Special Lectures on Humanities Japanese Nature and Culture ②]	担 当 教 員 名	◎栗井 光代			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・15時間			○		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②③④、2 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 将来専門職を目指すものにとって人間としての、あるいは社会人としての教養は自らの専門職を深めるためにも、また専門職であるが故に陥りがちな視野狭窄から免れるためにも、極めて重要である。「自然・文学」に関わることにについて学修する。 [学修目標] 1. 自然と文学について学ぶ意義を説明できる。 2. 自然と文学について基本的な概念を説明できる。 3. 文学を通して自然、命、文化、社会、歴史などについての説明を深めることができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		目標時間	
第 1 回	ガイダンス・文学とは		授業ごとに予習・復習の内容を説明する。		合計 30時間	
第 2 回	文学から自然を見る（１）－文学史、文学の種類・意味、 『古事記』に見る淡路島		授業後に課題を出して、理解度を確認する。			
第 3 回	文学から自然を見る（２）－『万葉集』に見る自然		次回扱う資料（作品等）読み理解してくること。			
第 4 回	文学から命を考える（１）－宮沢賢治		授業後には講義ノートを整理まとめること。			
第 5 回	文学から命を考える（２）－吉野弘					
第 6 回	文学から自然現象を知る（１）－『方丈記』・大火・辻風					
第 7 回	文学から自然現象を知る（２）－『方丈記』・飢饉・大地震					
第 8 回	まとめ					
学修評価の方法 基準（割合％）	授業内課題（25％）、授業内感想文（25％）、課題・レポート（50％）をあわせて総合的に評価する。					
フィードバックの 方 法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。					
他 の 授 業 と の 関 連	全ての授業と関連する。					
テ キ ス ト	授業の中で適宜プリントを配布する。配布プリントはテキストに相当するものとして、使用するので、必ず毎回きちんと整理して持参すること。					
参 考 図 書	適宜紹介する。					
履修上の留意点	文学作品、作者への理解を通して速読法・読解力を身に付け、書く力の育成をめざす。					
オフィスアワー	非常勤講師控え室で対応。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	法と人権 [law and human rights]	担 当 教 員 名	◎白鳥 義彦			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			○		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	1-①③、2-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 近代的な人権思想が成立してきた背景や展開の過程を概観した上で、立憲主義の考え方を踏まえながら、日本国憲法の主要原理である国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に学ぶ。さらに憲法に定められる統治機構（内閣、国会、裁判所）についても学修する。 [学修目標] 看護者として、またそれ以前に人間として必要不可欠な、人権の知識と人権感覚を身につける。そのために、憲法ならびに国際的な諸法規が保障する人権の歴史的展開や内容やその意義、社会的に不利な立場の人々が直面する人権問題について、具体例を交えて説明できる。さらに法と人権との関わりという観点から現実をとらえる視点を心得、人権を保障するための制度としての統治機構についての基本的な知識を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	Q & A 暮らしの中の人権問題		①授業前後の、授業の内容に関する予習と復習。 ②毎回の授業後に理解に関する学習内容を記述し整理。 ③授業に関連する時事問題に関心を広げる。			毎回 4時間
第 2 回	人権の履歴書（１）－西欧での人権思想のあゆみ					
第 3 回	人権の履歴書（２）－西欧での人権思想のあゆみ					
第 4 回	人権の履歴書（３）－日本での人権思想のあゆみ					
第 5 回	人権思想の現代的な展開（１）－西欧社会を中心に					
第 6 回	人権思想の現代的な展開（２）－非西欧社会を中心に					
第 7 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表（１）					
第 8 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表（２）					
第 9 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表（３）					
第 10 回	国際機関と人権					
第 11 回	憲法と人権					
第 12 回	統治機構－歴史的、国際的な考察					
第 13 回	統治機構－内閣					
第 14 回	統治機構－国会					
第 15 回	統治機構－裁判所					
学修評価の方法 基準（割合％）	各授業後のコメント（10％）、グループ発表（20％）、テスト（70％）					
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成状況は、毎回の授業後に提出されるコメントの記述内容により確認します。また各授業後のコメントに対しては、次の授業時に重要なものを取り上げてフィードバックします。グループ発表に対しては、授業の中で発表後にフィードバックします。					
他 の 授 業 と の 関 連	特に関連の深い授業は「医療と人権」であり、医療に限定されない人権、およびその基盤にある憲法について、「法と人権」で学ぶ。					
テ キ ス ト	通常の授業はプリントを配布して行う。					
参 考 図 書	樋口陽一著『一語の辞典 人権』三省堂 渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1人権』、『憲法2統治』有斐閣					
履修上の留意点	具体的な事例とも関連づけながら授業を進めたいと思いますので、ニュース等にも幅広く関心を持ってください。人権を自らの問題と感じられるよう、楽しく授業を進めていきたいと思います。					
オフィスアワー						
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	病態治療学Ⅱ [Pathophysiology and Therapeutics Ⅱ]	担 当 教 員 名	◎川口 哲郎			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・60時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポ リ シ ー 番 号	3	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3 - ①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護を学ぶにおいて必要な各臓器の代表的な内科的疾患について、定義、概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて学修する。循環器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、消化器系、肝・胆道系、内分泌系、代謝系、血液・造血器系、アレルギー系、膠原病・自己免疫系、神経・筋肉系疾患に分類して学修する。 [学修目標] 1. 看護に必要な臨床医学の基礎知識を修得し説明できる。 2. 代表的な内科的疾患の定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法及び予後についての内容を理解し説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	呼吸器疾患（構造と機能、検査）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 2 回	呼吸器疾患（先天異常、感染症；上気道炎、下気道炎、肺炎、結核）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 3 回	呼吸器疾患（閉塞性障害；喘息、慢性気管支炎、肺気腫、COPD、拘束性障害；間質性肺炎、じん肺、サルコイドシシス）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 4 回	呼吸器疾患（肺がん、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群、気胸）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 5 回	循環器疾患（構造と機能、検査）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 6 回	循環器疾患（虚血性心疾患；心筋梗塞、狭心症、心不全）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 7 回	循環器疾患（高血圧、低血圧、不整脈）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 8 回	循環器疾患（弁膜症、感染性心内膜炎、心筋症、心タンポナーゼ）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 9 回	循環器疾患（先天性心疾患、解離性大動脈瘤、大動脈炎症候群、末梢動脈疾患、静脈性疾患 肺塞栓症）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 10 回	腎・泌尿器疾患（構造と機能、CKD、腎不全、急性腎障害、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 11 回	腎・泌尿器疾患（尿細管間質性腎疾患、腎血管病変、尿路感染症、腎結石、腎腫瘍、膀胱癌、前立腺癌、前立腺肥大症）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成 小テストの予習			1時間
第 12 回	小テスト・解説 消化器疾患（構造と機能、検査、口腔疾患）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 13 回	消化器疾患（食道癌、胃食道逆流症、胃十二指腸潰瘍）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 14 回	消化器疾患（胃癌、潰瘍性大腸炎、クローン病、ヘルニア、腸閉塞、大腸癌、痔）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間
第 15 回	肝・胆道・膵疾患（構造と機能、肝炎、肝硬変、肝癌）		テキストとレジメの予習、課題レポートの解答作成			1時間

第 16 回	肝・胆道・膵疾患（胆石、胆嚢癌、膵炎、膵臓癌）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 17 回	内分泌疾患（下垂体腫瘍、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、成長ホルモン、）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 18 回	内分泌疾患（性ホルモン、乳汁分泌ホルモン、乳腺疾患、抗利尿ホルモン、副甲状腺ホルモン）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成 小テストの予習	1時間
第 19 回	小テスト・解説 代謝疾患（糖尿病、）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 20 回	代謝疾患（肥満症、脂質異常症、高尿酸血症）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 21 回	血液・造血器疾患（血液の成分と機能、輸血、骨髄移植）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 22 回	血液・造血器疾患（赤血球の異常；貧血、白血球の異常；白血病、悪性リンパ腫）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 23 回	血液・造血器疾患（血小板の異常；血小板減少性紫斑病、血友病、DIC）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 24 回	アレルギー疾患（アレルギーの分類、アナフィラキシー、免疫不全）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 25 回	膠原病・自己免疫疾患（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、AIDS）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成 小テストの予習	1時間
第 26 回	小テスト・解説 神経・筋疾患（構造と機能、検査）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 27 回	神経・筋疾患（頭蓋内圧亢進症状、脳ヘルニア 脳死）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 28 回	神経・筋疾患（脳卒中 脳腫瘍、水頭症、脊髄疾患）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
第 29 回	神経・筋疾患（末梢神経疾患 重症筋無力症、多発硬化症、筋萎縮性側索硬化症、てんかん、パーキンソン病、認知症）	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成 小テストの予習	1時間
第 30 回	神経・筋疾患（リハビリテーション） 小テスト・解説	テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成	1時間
学修評価の方法 基準（割合％）	基本的に期末テストの結果で（100％の割合）成績評価を行います。		
フィードバックの 方 法	1回の授業ごとに1問の確認テストを行います。授業中に小テスト（50問、4回）を行い、終了後に答え合わせと解説をします。 レポートは初回授業前に配布されます。最終授業終了後にレポートを提出してもらい、レポート提出後に解答例を配布します。		
他 の 授 業 と の 関 連	人体構造機能学Ⅰ、Ⅱ、及び病態治療学Ⅰ、で修得した知識を基礎に内科系疾患の病態を、看護学の基礎に結びつけられるように理解し知識を深めます。病態治療学Ⅲの授業（外科系疾患）の理解に必要な内容も含まれているため、病態治療学Ⅱの授業の項目の方が病態治療学Ⅲの授業の項目より先行するようにしています。		
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2～15]		
参 考 図 書	新体系看護学全書 疾患の成り立ちと回復の促進（第4巻～13巻）メヂカルフレンド社		
履修上の留意点	予め配布するレジメを中心に講義を進めますが、テキストも必ず授業に持参してください		
オフィスアワー	火曜、木曜、授業終了後、午前10時45分から12時まで		
実 務 経 験 の あ る 教 員	川口 哲郎（医師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	病態治療学Ⅲ [Pathophysiology and Therapeutics Ⅲ]	担 当 教 員 名	◎川口 哲郎・浦浜 憲永・藤岡 政行・ 百田 芳春・松井 祥治・藺 潤			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 外科的治療を成功に導く諸因子の中で看護の果たす役割は大きい。この授業では主に外科に関する臨床看護学に必要な知識と技術、考え方や理念を学修する。また、各臓器の代表的な疾患について、病因、病理、病態および外科的治療法を学修する。 [学修目標] 1. 周術期（術前・術中・術後）の看護に必要な知識や技術を修得し、考えを述べられる。 2. 頭部および頸部、肺および胸部、心臓および脈管系、消化器系、脳神経系、運動器系など各臓器の疾患の外科的治療法について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		目標時間	
第 1 回	1. 外科診断、外科治療の基本的な考え方 【講義】（川口） 手術の目的、外科の進歩、画像診断		テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成		4時間	
第 2 回	2. 腫瘍、外傷、熱傷 【講義】（川口） 手術侵襲、炎症、腫瘍の分類、熱傷（面積と深達度）		テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成		4時間	
第 3 回	3. 麻酔法、輸血療法、体液・栄養管理 【講義】（川口） 麻酔の種類、周術期（術前、術中、術後）の管理、 輸血療法、電解質異常、栄養管理		テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成		4時間	
第 4 回	4. 放射線診療 【講義】（川口） 画像診断 放射線治療、放射線防護		テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成		4時間	
第 5 回	5. 呼吸管理 酸素療法と機械的人工換気 【講義】（川口） 酸素療法、気道の確保、換気の種類、人工呼吸器		テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成		4時間	
第 6 回	6. 緩和治療 【講義】（浦浜） 病気が診断されたときから終末期を経て死別までの期間 における、疼痛を含む身体症状の緩和、精神的およびス ピリチュアルな支援の提供、患者および家族の生活の質 （QOL）を改善、医療ケア		テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成		4時間	
第 7 回	7. 外傷とショック 【講義】（藤岡） ショックの定義・分類・症状		テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成		4時間	
第 8 回	8. 救急処置法 【講義】（藤岡） BLS（一次救命処置）とALS（二次救命処置）、心肺蘇 生法		テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成		4時間	
第 9 回	9. 災害医療 【講義】（川口） 災害医療と救急医療、応急救護所、トリアージ、高エネ ルギー外傷		テキストとレジメの予習、課題 レポートの解答作成		4時間	

第 10 回	10. 外科的処置が必要な疾患（病態と基礎及び治療の実態） 【講義】（百田） 外科治療の基本的事項	テキストとレジメの予習	4時間
第 11 回	11. 外科的処置が必要な疾患（各論）①消化器及び腹部 【講義】（松井） 胃十二指腸潰瘍、食道・胃・大腸・肝臓・膵臓癌、内および外鼠径ヘルニアの治療	テキストとレジメの予習	4時間
第 12 回	12. 外科的処置が必要な疾患（各論）②頭頸部および運動器 【講義】（川口） 口腔・舌・唾液腺・甲状腺疾患、 皮膚・筋・腱・神経・骨・関節の外傷	テキストとレジメの予習	4時間
第 13 回	13. 外科的処置が必要な疾患（各論）③脳及び神経 【講義】（川口） 頭部外傷、脳血管障害、脳腫瘍	テキストとレジメの予習	4時間
第 14 回	14. 外科的処置が必要な疾患（各論）④肺及び胸部 【講義】（園） 気胸、肺癌の治療	テキストとレジメの予習	4時間
第 15 回	15. 外科的処置が必要な疾患（各論）⑤心臓及び脈管系 【講義】（園） 冠動脈疾患、先天性心疾患、胸部および腹部大動脈瘤	テキストとレジメの予習	4時間
学修評価の方法 基準（割合％）	授業前に配付した学修課題の内容（10％）、定期試験（90％）で成績評価を行います。		
フィードバックの 方 法	レポートは初回授業前に配布されます。最終授業終了後にレポートを提出してもらい、レポート提出後に解答例を配布します。		
他 の 授 業 と の 関 連	病態治療学Ⅱの応用となる内容も含まれているため、病態治療学Ⅱの授業の項目の方が必ず先行するようにしています。		
テ キ ス ト	系統看護学講座 臨床外科看護総論および各論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院		
参 考 図 書	新体系看護学 別巻 臨床外科看護学Ⅰ・Ⅱ メヂカルフレンド社、 スタンダードテキストブック 標準外科学 医学書院、ナースの外科学 改定4版 中外医学社		
履修上の留意点	人体構造機能学Ⅰ、Ⅱ、病態治療学Ⅰ、Ⅱで修得した知識を基礎に、外科系疾患の病態を理解し、なぜそういう治療をするのか、なぜそういう看護をするのかを十分に理解することが大切です。		
オフィスアワー	火曜、木曜、授業終了後10時45分から12時まで		
実 務 経 験 の あ る 教 員	川口 哲郎（医師）、浦浜 憲永（医師）、藤岡 政行（医師）、松井 祥治（医師）、藺 潤（医師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	生命と倫理 [Bio-Ethics]	担 当 教 員 名	◎山本 道雄			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	2-①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護の臨床で求められる倫理の前提にある諸問題を、したの〔授業内容〕に見られるように、倫理学の原理的次元から順を追って学ぶ。 [学習目標] 1. マニュアル的に倫理を理解するのではなく、倫理の背景にある原理や歴史まで理解できる。 2. 倫理的判断を下す場合、その原理がどこにあるのか、理解できる。 3. 倫理的判断で論争になった場合、それぞれの判断のよって立つ原理を自覚することで、論争の調停を計ることができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	倫理の規範としてのメタ倫理		配布した講義ノート『生命と倫理』の該当箇所をよく読んでおくこと。			4時間
第 2 回	規範倫理					4時間
第 3 回	義務倫理					4時間
第 4 回	功利主義 (1)					4時間
第 5 回	功利主義 (2)					4時間
第 6 回	徳倫理					4時間
第 7 回	応用倫理としてのバイオエシックス (1)		指示した文献をよく読んでくること			4時間
第 8 回	応用倫理としてのバイオエシックス (2)					4時間
第 9 回	現代バイオエシックスの歴史 (1)					4時間
第 10 回	現代バイオエシックスの歴史 (2)					4時間
第 11 回	看護倫理					4時間
第 12 回	患者の権利という思想 (1)					4時間
第 13 回	患者の権利という思想 (2)					4時間
第 14 回	インフォームドコンセント					4時間
第 15 回	終末期医療の問題					4時間
学修評価の方法 基 準 (割 合 %)	グーグルミートのクラスルームを利用した毎回の小レポート (30%) と、期末の定期試験で判定する (70%)					
フィードバックの 方 法	毎回の小レポートで理解度をチェックして進みます。					
他 の 授 業 と の 関 連	哲学 (人間と生き方)					
テ キ ス ト	山本執筆の『講義ノート 生命と倫理』を教科書として用います。配布します。					
参 考 図 書	授業中適宜紹介します。					
履修上の留意点	毎回の小レポート (クラスルーム) 作成に真剣に取り組んで下さい。					
オフィスアワー	質問は非常勤講師控え室で受け付けます。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	いません					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	公衆衛生学 [Public Health]	担 当 教 員 名	◎西村 由実子			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シー 番 号	3-①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人々が疾病を予防し健康を維持・促進するには、そのための仕組や環境が必要である。視点を個人から 集団、組織、地域社会、国、地球へと広げ、公衆衛生学の基礎を学ぶ。基本的な概念や歴史をおさえた上で、 集団を把握し人々にアプローチするための方法と多様な健康課題を実践的に学ぶ。 [学修目標] 1. 公衆衛生の基本理念を理解し、具体的事例と関連させて説明できる 2. 健康指標と行動理論の意味を理解し活用できる 3. 学校や職場などの特性と健康課題を把握し説明できる 4. 地球規模の諸課題を理解し説明できる					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	公衆衛生の概念と歴史：ドラマ「仁」より、 少年をとりまく環境を考える		テキスト第1章通読			2時間
第 2 回	日本の地域保健活動の歩み：「命を守る者たち」戦後の保健活動の担い手は？		テキスト第1、3、8章通読 課題レポート「地域保健活動成功の鍵」作成			10時間
第 3 回	健康指標と疫学（1）ワーク“5歳未満児死亡率を 比べる”世界格差と健康指標		テキスト第2、8B 章通読			3時間
第 4 回	健康指標と疫学（2）ワーク“クロス集計でデー タを集約する”リスク比の計算		テキスト第4章通読			3時間
第 5 回	健康教育と行動理論：「やる気スイッチはど こ？」健康行動理論の7つの条件		テキスト第8章通読			3時間
第 6 回	学校保健と産業保健：ライフステージに沿った 健康増進・集団アプローチをする		テキスト第9、10章通読			3時間
第 7 回	地球環境と国際保健：人間だけ健康ならよいの か？プラネタリーヘルスの視点		テキスト第5、7章通読			3時間
第 8 回	感染症・まとめ： 世界流行（HIV/エイズ、新 型コロナウィルス感染症）を考える		テキスト第6、11章通読			3時間
学修評価の方法 基準（割合％）	授業参加（24％）、課題レポート〔ルーブリック評価〕（26％）、定期試験（50％） 各回の出欠確認で小テストをします。定期試験（選択問題と記述問題）は、その出欠確認小テストと同様 の問題で構成されるので丁寧な復習しましょう。					
フィードバックの 方 法	授業内で出欠確認小テストへのフィードバックをします。課題レポートには個別のコメントと全体への講 評を行います。課題提出・フィードバックに Google Classroom を使います。					
他 の 授 業 と の 関 連	「社会保障と社会福祉」「疫学」の基礎となる考え方を学びます。また「保健医療福祉行政論」や「地域看 護学」などの看護分野にもつながります。					
テ キ ス ト	神馬征峰ら『系統看護学講座・専門基礎・健康支援と社会保障制度②・公衆衛生』医学書院（最新版） ＊この教科書は「保健医療福祉行政論Ⅰ」「地域看護学Ⅰ・Ⅱ」でも使います。					
参 考 図 書	平野かよ子ら編「ナースング・グラフィカー健康支援と社会保障①健康と社会・生活」（メディカ出版） 最新版					
履修上の留意点	地域や社会を俯瞰的（鳥の目）にとらえて健康課題を考えます。ワークを交えて実践的に学び視野を世界 へ広げましょう。					
オフィスアワー	水曜日12：00～15：00、意見や相談はメール y.nishimura@kki.ac.jp でいつでも受けます。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	西村 由実子（WHO モーリシャス勤務）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	薬理学Ⅰ（総論） [General Pharmacology]	担 当 教 員 名	◎百田 芳春			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 薬物を患者にと与える行為は看護師として介入と言われる行為である。そのため、本授業では皆さんは、看護師として知るべき薬物の全般の取り扱い方、薬物の作用の仕方、薬物の体内での動き（吸収、分布、代謝、排泄）、更に個々の薬物の薬理作用と有害作用を学修する。 [学修目標] 1. 医薬品の分類や投与方法、薬物の作用様式（受容体、作動薬、拮抗薬）に付いて説明できる。 2. 細胞内情報伝達系について説明できる。 3. 薬物動態について説明できる。 4. 小児、妊婦、高齢者の薬物治療における注意点を説明できる。 5. ガン治療薬の概要を説明できる。 6. 抗菌薬の概要を説明できる。 7. 自律神経系の薬物全般を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	臨床薬理学を学ぶ意義及び医薬品総論 ・薬の種類と概観		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 2 回	薬理作用 薬物の作用点 - 受容体について ・受容体、拮抗薬、作動薬、阻害		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 3 回	薬理作用 薬物の作用点 - 受容体について ・薬物の効力の比較、拮抗作用のあり方		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 4 回	薬理作用 細胞内への作用 ・cAMP とはなにか。 ・細胞内情報伝達系		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 5 回	薬理作用 細胞内への作用 ・各種細胞内情報伝達系		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 6 回	薬物の投与方法と剤型 ・薬物の投与方法は複数の方法がある。 ・薬物を目的の臓器組織に運ぶまでに剤型が大切である。		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 7 回	体内動態（薬物の吸収から排泄まで） ・薬を目的の病変部にとどける効率的な考え方・法則		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 8 回	体内動態（薬物の吸収から排泄まで） ・血液中の薬物濃度の変化 ・薬物は体内からなぜ消えるのかを学ぶ		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 9 回	薬物の分解過程と有害作用及び副作用 ・薬物は体内で化学的な変化を受けて、有害物質に変わることもある。		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 10 回	小児、妊婦、高齢者の薬物治療 小児、妊婦、老人への薬物投与時に注意すべきことを学ぶ。		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 11 回	がん治療の総論 ・ガンや腫瘍の治療薬の作用の様式、投与方法など		テキストとレジメの予習及び復習			4時間

第 12 回	抗生物質の総論 ・ 抗菌薬の発展の歴史的側面、抗菌薬が無効になる場合など、抗菌薬全般について学ぶ。	テキストとレジメの予習及び復習	4時間
第 13 回	薬理学と自律神経の関係 ・ 自律神経の研究の歴史から薬理学が誕生した。	テキストとレジメの予習及び復習	4時間
第 14 回	薬理学と自律神経の関係 ・ 心臓循環系の薬物の理解の基礎になる自律神経の確認	テキストとレジメの予習及び復習	4時間
第 15 回	まとめ	前期学習事項の復習	4時間
学修評価の方法 基準（割合％）	小テストの合計点（30％）と期末試験（70％）の合計100％で評価。		
フィードバックの 方 法	出席について休み回数が3回になると該当する人に通知します。グループ発表に参加し、著しく誤って解釈している人には修正などを求めて、発表原稿などを再度提出してもらい、全員に周知します。		
他 の 授 業 と の 関 連	看護系の専門科目とつながる。カリキュラムツリーを参照のこと。		
テ キ ス ト	「ナーシング・グラフィカ疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学（第7版）赤瀬智子・柳田俊彦 編、株式会社メディカ出版、2023年		
参 考 図 書	「人体の正常構造と機能」坂井建雄編集、日本医事新報社、2021年 授業中に適宜紹介します。		
履修上の留意点	臨床的な薬物の適用、患者情報への理解につながるため、薬理学Ⅰの薬物の全般的な性質を学習することは重要です。		
オフィスアワー	対応時間は後日にお知らせします。不在時には< y.momota@kki.ac.jp> 連絡してください。		
実 務 経 験 の あ る 教 員			

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	病態心理学 [Pathopsychology]	担 当 教 員 名	◎花村 カテリーナ			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①③、3 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 病気になると人は様々な心理的变化を体験する。そこにはいくつかの共通傾向がみられる。それらを理解するために、患者の心理と行動の一般的な特徴や、それぞれの疾病に特有の心の状態（感情・考え・行動）について具体的な事例を通して学修する。 [学修目標] 1. 病に対する人間の精神的反応（心理のプロセス）を説明できる。 2. 次に挙げる様々な状態および健康障害に特徴的な心の状態、特に「何がどうしてつらいのか」を説明できる。また、望ましい関わり方について自分の考えを述べられる。①糖尿病、がん ②ストレスによる健康障害 ③うつ（気分障害） ④神経性やせ症／神経性過食症 ⑤神経症性障害 ⑥依存症 ⑦神経発達障害 ⑧小児・思春期・成人・老年期の心の不適応 ⑨性別違和と LGBTQ+ 3. 患者の家族に生じる心理的・社会的変化について自分の考えを述べられる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス。心理学の観点から捉える「病」		講義資料と参考図書を通読			3時間
第 2 回	患者になることによって生じる心理的变化		授業後小テスト①を提出			4時間
第 3 回	疾病の心理特性1 糖尿病とがんに伴う心理的苦痛の特徴と要因		事例検討課題①を提出			4時間
第 4 回	疾病の心理特性2 ストレス反応と健康障害の特徴と対応のコツ		事例検討課題②を提出			5時間
第 5 回	疾病の心理特性3 うつの特徴と対応のコツ		授業後小テスト②を提出			3時間
第 6 回	疾病の心理特性4 神経性やせ症／神経性過食症の特徴と対応のコツ		事例検討課題③を提出			5時間
第 7 回	疾病の心理特性5 神経症性障害 (病態水準の概念・神経症性障害の基本的なメカニズム・パニック症の特徴と対応のコツ)		事例検討課題④を提出			5時間
第 8 回	疾病の心理特性6 様々な依存症 (依存症になるメカニズム・人間関係の変化・自我の変化・対応のコツ)		授業後小テスト③を提出			3時間
第 9 回	神経発達障害：ASD・ADHD・LD の特徴、年齢による困りごとの違いと対応のコツ		事例検討課題⑤を提出			5時間
第 10 回	子どもの心理的特徴と不適応事例		授業後小テスト④を提出			3時間
第 11 回	思春期・青年期の心理的特徴と不適応事例		事例検討課題⑥を提出			5時間
第 12 回	性別違和と LGBTQ+ (定義の難しさ・心理的苦痛の要因)		授業後小テスト⑤を提出			3時間
第 13 回	加齢に伴う心の変化と不適応事例		事例検討課題⑦を提出			5時間
第 14 回	患者の家族に生じる心理的变化		授業後小テスト⑥を提出			3時間
第 15 回	患者による暴力行為の理解、対応、予防		授業後小テスト⑦を提出			4時間
学修評価の方法 基 準（割 合％）	授業内課題（20％）、授業後小テスト①～⑦（40％）、授業後事例検討課題①～⑦（40％）。授業後事例検討課題はルーブリック評価とします。					
フィードバックの 方 法	Google Classroom を用いて授業内課題、授業資料、授業後小テスト、授業後事例検討課題を配信し、結果をフィードバックします。評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。					
他 の 授 業 と の 関 連	「心理学」「精神看護学Ⅱ」					
テ キ ス ト	プリントを配布します。					
参 考 図 書	学修目標達成状況に対応して、必要時、授業中に紹介します。					
履修上の留意点	事例検討課題は授業資料と参考図書を十分に通読の上、取り組んでください。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< k.hanamura@kki.ac.jp > に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	花村 カテリーナ（臨床心理士、公認心理師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	社会保障と社会福祉 [Social Security and Social Welfare]	担 当 教 員 名	◎西村 由実子、池田 英生、丹野 康之			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1 単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	4	ディプロマ・ ポリシー 番号	4 - ②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 社会保障と社会福祉の歴史と基本的な考え方を学び、現代の我が国における意義と課題を理解する。特に、人々の健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉の諸制度について、法的基盤や行政の仕組みなどの実践体系を具体的に学ぶ。 [学修目標] 1. 社会保障と社会福祉の歴史と基本的な考え方を理解し説明できる 2. 実践において必要な社会保障と社会福祉の諸制度を理解し説明できる 3. 医療従事者として人々の社会生活全体を関連づけることができる					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス / 社会保障・社会福祉とは 【講義】(西村) セイフティネットと公的扶助の仕組み		1章・6章熟読			3時間
第 2 回	児童家庭福祉 【講義】(西村) こども権利条約、児童福祉法、こども基本法		7章 C 熟読			3時間
第 3 回	障害者福祉 【講義】(西村) 障害者の自立生活：ゲストスピーカー講話		7章 B 熟読、課題レポート「安心に暮らすために」作成			9時間
第 4 回	社会保険制度 【講義】(池田) 年金・医療・労災・雇用・介護		3章・5章熟読			3時間
第 5 回	介護保険制度の概要 【講義】(池田) 歴史としくみ、改正と展開		4章・7章 A 熟読			3時間
第 6 回	社会福祉実践 【講義】(池田) ソーシャルワーク、ケースワーク他		8章 A ～ E 熟読			3時間
第 7 回	地域における医療と福祉の連携 【講義】(丹野) 地域包括ケアシステム、多職種協働		8章 F ～ H 熟読			3時間
第 8 回	社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 【講義】(西村) 救貧から幸福追求・自己実現の支援へ		2章・9章熟読			3時間
学修評価の方法 基 準 (割 合 %)	授業参加 (24%)、課題レポート (16%)、定期試験 (60%) 各回の出欠確認で小テストをします。定期試験 (選択問題と記述問題) は、その出欠確認小テストと同様の問題で構成されるので丁寧に復習しましょう。					
フィードバックの 方 法	授業内で出欠確認小テストへのフィードバックをします。課題レポートには個別のコメントと全体への講評を行います。課題提出・フィードバックに Google Classroom を使います。					
他 の 授 業 と の 関 連	「社会と家族」と「福祉教育の本質」「医療と経済」はこの講義を学ぶために役に立ちます。また、この講義は「保健医療福祉行政論Ⅰ・Ⅱ」を学ぶための基礎となります。					
テ キ ス ト	福田素生ら『系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉』医学書院・最新版					
参 考 図 書	増田雅暢ら編「ナースング・グラフィカ・健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障」メディカ出版 (最新版)					
履修上の留意点	生活者としての基本知識であり看護の重要な周辺領域です。社会保障・社会福祉社制度について具体的なイメージをもつことと、看護師国家試験準備を意識して学びましょう。					
オフィスアワー	水曜日 12：00 ～ 15：00、意見や相談はメール y.nishimura@kki.ac.jp でいつでも受けます。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	池田 英生 (社会福祉士・介護支援専門員) 丹野 康之 (社会福祉士・介護支援専門員・介護福祉士)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	医療と経済 [Health Care and Economics]	担 当 教 員 名	◎永合 位行			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			○		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シー 番 号	5 - ②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療を取り巻く問題を考えるにあたっては、複眼的な視点、とりわけ経済学的な視点も持つ必要があります。授業では、前半で経済学の基本的な考え方とツールを学修し、後半でそれらを用いて医療情報の非対称性、医療保障制度、国民医療費、医療供給体制等の医療を取り巻く諸問題について学修する。 [学修目標] 1. 経済学の基礎を学び、その基本的な考え方やツールを説明できる。 2. 医療情報の非対称性の問題を経済学的視点に基づいて説明できる。 3. 医療保障制度の問題を経済学的視点に基づいて説明できる。 4. 国民医療費の問題を経済学的視点に基づいて説明できる。 5. 医療供給体制の問題を経済学的視点に基づいて説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	授業概要と経済学的視点の必要性の説明		復習と小テストの準備			3時間
第 2 回	経済学の基本的な考え方の説明		復習と小テストの準備			3時間
第 3 回	市場の機能（1）：需要についての説明		復習と小テストの準備			4時間
第 4 回	市場の機能（2）：供給についての説明		復習と小テストの準備			4時間
第 5 回	市場の機能（3）：市場と効率性の説明		復習と小テストの準備			4時間
第 6 回	医療サービスの性質の説明		復習と小テストの準備			4時間
第 7 回	医療サービスの性質の説明		復習と小テストの準備			4時間
第 8 回	医療情報の非対称性の問題の説明		復習と小テストの準備			4時間
第 9 回	医療情報の非対称性の問題の説明		復習と小テストの準備			4時間
第 10 回	医療保障制度の説明		復習と小テストの準備			4時間
第 11 回	医療保障制度の説明		復習と小テストの準備			4時間
第 12 回	国民医療費の問題の説明		復習と小テストの準備			4時間
第 13 回	国民医療費の問題の説明		復習と小テストの準備			4時間
第 14 回	医療供給体制の問題の説明		復習と小テストの準備			4時間
第 15 回	医療供給体制の問題の説明		復習と定期試験の準備			6時間
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	各回に実施する小テスト（30%）、および定期試験（70%）で評価する。					
フィードバックの 方 法	各回の最初に、前回の小テストの答え合わせをすることによって、前回の学習内容のフィードバックを行う。					
他 の 授 業 と の 関 連	一般教養科目ならびに「社会保障と社会福祉」と関連する。					
テ キ ス ト	テキストは使用せず、毎回、授業資料を配布する。					
参 考 図 書	河川洋行『医療の経済学第4版』日本評論社、2020年 真野俊樹『入門医療経済学』中公新書、2006年					
履修上の留意点	医療を取り巻く様々な問題が社会問題化しています。それらの問題について深く考え、主体的に学修していきましょう。					
オフィスアワー	非常勤講師のため、質問等があれば、授業時に遠慮なくするようにしてください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	基礎看護学Ⅳ（フィジカルアセスメント） [Basic Nursing Ⅳ]	担 当 教 員 名	◎奥津 文子、黒江 ゆり子、 土井 香、山口 夏季			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・45時間			●		
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3、4	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 臨床における看護判断の根拠となる身体に関する情報の必要性和その意味について理解し、身体アセスメン トの知識と技術について学修する。 [学修目標] 1. フィジカルアセスメントの項目と収集できる情報について記述できる。 2. 基本的な身体情報の正常と異常を区別できる。 3. 呼吸器・循環器・消化器、筋・骨格・神経の、手や聴診器を使った身体診察ができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	フィジカルアセスメントとは 【講義】（奥津） 1. フィジカルアセスメントの意義と目的 2. セルフケア能力のアセスメント		ADL動作のアセスメント内容の復習			
第 2 回	フィジカルアセスメントに共通する技術 【講義】（奥津） 視診・触診・聴診・打診		入室から診察開始までのアセスメン トについて			
第 3・4 回	バイタルサインの技術Ⅰ：血圧測定 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）					
第 5 回	バイタルサインの技術Ⅱ：脈拍・呼吸・体温・意識 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）		脈拍・呼吸・体温測定と意識レベル チェックの手順・留意点			
第 6・7 回	バイタルサインの技術Ⅲ：バイタルサインすべての測定 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）		バイタルサイン測定の手順・留意点			
第 8 回	筋・骨格・神経系のフィジカルアセスメント 【講義】（奥津） 1. 筋・骨格・神経系の基礎知識 2. フィジカルアセスメントの方法					
第 9 回	筋・骨格・神経系のフィジカルアセスメント 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）		筋・骨格・神経のフィジカルアセ スメントの手順と留意点			
第 10 回	循環器系のフィジカルアセスメント 【講義】（奥津） 1. 循環器系の基礎知識 2. フィジカルアセスメントの方法					
第 11 回	Unit test、まとめ 【講義】（奥津）					
第 12 回	消化器系のフィジカルアセスメント 【講義】（奥津） 1. 消化器系の基礎知識 2. フィジカルアセスメントの方法					
第 13 回	消化器系のフジカルアセスメント 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）		消化器のフィジカルアセスメントの 手順と留意点			
第 14 回	呼吸器系のフィジカルアセスメント 【講義】（奥津） 1. 呼吸器系の基礎知識 2. フィジカルアセスメントの方法					
第 15 回	呼吸器系のフジカルアセスメント 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）		呼吸器のフィジカルアセスメントの 手順と留意点			
第 16 回	Unit test、まとめ 【講義】（奥津）					
第 17 回	心理的側面のアセスメント 【講義】（奥津）		心理面の評価尺度を調べて、自分で 測定してみよう			
第18・19・20回	演習：フィジカルアセスメントの技術Ⅰ 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）		呼吸器・循環器・消化器、筋・骨格・ 神経のフィジカルアセスメントの手 順と留意点			
第21・22・23回	演習：フィジカルアセスメントの技術チェック 【演習】（奥津・黒江・土井・山口）					
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	技術ノート（20%）、Unit test の合計点（60%）、技術チェック到達状況（20%）					
フィードバックの 方 法	各 Unit test 後、授業の中でフィードバックする。技術チェック実施中に、具体的にフィードバックする。					
他 の 授 業 と の 関 連	人体構造機能学Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学Ⅱ a b、基礎看護学Ⅲ、基礎看護学Ⅴ					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院					
参 考 図 書	看護がみえる Vol3 フィジカルアセスメント メディックメディア					
履修上の留意点	知識と技術の習得の前提として、解剖学・生理学を理解していることが必須である。常時、人体構造機能学の教科書を振り返ること。 各フィジカルアセスメントを実施する目的と、データの意味を考える姿勢を持つこと。					
オフィスアワー	具体的な時間は設定しない。学生・教員双方の都合の良い時間を調整するので、事前に連絡すること。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	黒江 ゆり子（看護師）、奥津 文子（看護師）、土井 香（看護師）、山口 夏季（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	基礎看護学Ⅴ（問題解決技法） [Basic Nursing Ⅴ]	担 当 教 員 名	◎奥津 文子			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義・演習		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	ディプロマ・ ポリシー番号	2、3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 対象を統合体として把握し、看護ケア問題を抽出する思考過程と、看護ケア問題を解決するための計画・実施・評価のプロセスについて学修する。 [学修目標] 1. 看護師が科学的に看護実践するための思考過程である看護過程について説明できる。 2. 看護過程のそれぞれの段階と展開方法について説明できる。 3. 事例に基づき看護過程を展開し、看護ケア問題の抽出・看護計画の立案ができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	保助看法における看護業務 看護過程とは 看護過程の構成要素 看護過程と看護診断過程 クリティカルシンキング 【講義】(奥津)		医学書院：基礎看護技術Ⅰのテキスト、第5章の精読。疑問点の抽出。			4時間
第 2 回	看護過程における情報収集（データベース） 情報収集の内容・方法 【講義】(奥津) 看護過程におけるアセスメントシート ADLに関するケア問題の分析 【講義】(奥津)		ゴードンのデータベースの枠組みと内容について調べる			4時間
第 3 回	看護計画の立案Ⅰ：移乗能力障害 歩行障害 【講義】(奥津)		移乗能力障害・歩行障害の一般的看護計画を調べてまとめる			4時間
第 4 回	看護計画の立案Ⅱ：摂食セルフケア不足 排泄セルフケア不足 【講義】(奥津)		摂食・排泄セルフケア不足の一般的看護計画を調べてまとめる			4時間
第 5 回	計画の実施・評価・修正 【講義】(奥津) 看護ケア問題と看護診断の違いについて		ケアを実施した時何で評価するか、考えまとめる。			4時間
第 6 回	看護過程展開の実際Ⅰ：大腿津頸部骨折 事例Ⅰ：データベース、アセスメントシート 【演習】(奥津)		看護過程展開について復習し疑問点を抽出する。			4時間
第 7 回	看護過程展開の実際Ⅰ：大腿津頸部骨折 事例Ⅰ：計画立案 【演習】(奥津)		事例Ⅰでまとめたデータベース・アスメントシートを見直し、必要な看護計画について調べる。			4時間
第 8 回	確認テスト まとめ 【講義】(奥津)		看護過程展開について復習			4時間
第 9 回	ADLケア問題とフィジカルアセスメント、日常生活動作とMMT・ROMとの関連 【講義】(奥津)		ADLに関するフィジカルアセスメントの内容・方法を調べる。			4時間
第 10 回	看護過程展開の実際Ⅱ：急性心筋梗塞 事例Ⅱ：データベース、アセスメントシート 【演習】(奥津)		リフレクションについてまとめ、自分自身の日頃の思考と比較する			4時間
第 11 回	看護過程展開の実際Ⅱ：急性心筋梗塞 事例Ⅱ：計画立案 【演習】(奥津)		事例Ⅱでまとめたデータベース・アスメントシートを見直し、必要な看護計画について調べる。			4時間
第 12 回	確認テスト まとめ 【講義】(奥津)		看護過程の復習			4時間
第 13 回	看護過程展開の実際Ⅲ：慢性腎不全 事例Ⅲ：データベース、アセスメントシート 【演習】(奥津)		医学書院:基礎看護技術Ⅰのテキスト、第5章: D看護記録を精読。まとめる。			4時間
第 14 回	看護過程展開の実際Ⅲ：慢性腎不全 事例Ⅲ：計画立案 【演習】(奥津)		事例Ⅲでまとめたデータベース・アスメントシートを見直し、必要な看護計画について調べる。			4時間
第 15 回	看護記録について 看護記録とは 記録の記載上の留意点 【講義】(奥津)		医学書院:基礎看護技術Ⅰのテキスト、第5章: D看護記録を精読。疑問点の抽出。			4時間
学修評価の方法 基準（割合％）	各確認テストおよび定期テストを合計し、100点換算する。					
フィードバックの 方 法	確認テスト首領時、授業の中で解説する。テストで間違いの多かった点について、丁寧に解説する。					
他 の 授 業 と の 関 連	人体構造機能学Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学Ⅰ（概論）、看護診断学、基礎看護学Ⅱa b					
テ キ ス ト	江川隆子；ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、ヌーベルヒロカワ 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 医学書院					
参 考 図 書	江川隆子；かみくだき看護診断過程、日総研					
履修上の留意点	授業時間だけでは看護診断過程の理解・習得は不可能であり、主体的・積極的に学習に取り組むことが必要不可欠である。準備学修には必ず取り組んだうえで授業に参加すること。					
オフィスアワー	必ず事前に連絡調整してください。学生・教員双方の都合の良い時間を設定します。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	奥津 文子（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	看護診断学Ⅰ [Nursing DiagnosisⅠ]	担 当 教 員 名	◎江川 隆子、笠岡 和子			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シー 番 号	3-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護実践における臨床判断である＜看護過程＞について、その過程であるアセスメント、分析・判断、 成果・計画・実施・評価について学修する。さらに臨床判断である＜看護診断または看護概念＞について、 その歴史や背景となる諸理論。生理学・病態学との関係、および看護診断の意義や意味について学修する。 [学修目標] 1. 看護過程のそれぞれの概念について説明できる。 2. 看護診断の背景になっている諸理論を説明できる。 3. 看護診断のその定義、診断指標、関連因子・リスク因子について説明できる。 4. 看護診断に対するアセスメントについて説明できる。 5. 看護診断に対する看護治療（看護援助）、および評価、さらに看護診断に対する看護師の責任につい て説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	看護過程および看護新診断の基本的構造、歴史と 意義について 【講義】(江川)		(準備学習の内容) ・配付資料と教科書①P14～28を読んで、 看護過程の基本的構造をまとめる。			各1時間 合計 15時間
第 2 回	看護過程および看護診断と保助看法、看護実践に おける看護師の責任について 【講義】(江川)		・配布資料と教科書①P4～14を読んで、 保助看法と看護過程、看護診断の関係に ついてまとめる。			
第 3 回	臨床判断における看護過程と看護診断について 【講義】(江川)		・配付資と教科書①P14～28を読んで、 看護過程と看護診断の関係についてまと める。			
第 4 回	看護過程①（講義）情報収集・アセスメント） 【講義】(江川)		・教科書①のP30～36を読んで観察とは何 かをまとめる。 教科書①のP38～58を読んでアセスメン トとアセスメントの枠組みにとは何かを まとめる。			
第 5 回	看護過程②（講義）(情報の分析、看護診断と成果・ 計画・評価の関係) 【講義】(江川)		・教科書①のP60～74、を読んで情報の解 釈・分析統合とは何かについてまとめる。			
第 6 回	看護過程③看護診断とその背景理論について 【講義】(江川)		・教科書①のP78～96を読んで看護診断の 構造についてまとめる			
第 7 回	看護過程④成果・看護計画・実施・評価について 【講義】(江川)		・教科書①のP98～120を読んで、それぞ れの関係についてまとめる。			
第 8 回	生理学的看護診断について(栄養／代謝パターン) 【講義】(笠岡)		・教科書の②P32～172、P338～396につ いて、授業毎に提示するページを読むこ と。			
第 9 回	生理学的看護診断について(活動／運動パターン) 【講義】(笠岡)		・教科書の②P32～172、P338～396につ いて、授業毎に提示するページを読むこ と。			

第 10 回	生理学的看護診断について (睡眠 / 休息パターン) 【講義】 (笠岡)	・教科書の② P32 ～ 172、P338 ～ 396 について、授業毎に提示するページを読むこと。
第 11 回	生理学的看護診断について 【講義】 (笠岡)	・教科書の② P32 ～ 172、P338 ～ 396 について、授業毎に提示するページを読むこと。
第 12 回	心理・社会的看護診断とその背景となる諸理論 (健康知覚 / 健康管理パターン) 【講義】 (江川)	・教科書②の P16 ～ 31 と 177 ～ 327 について、授業毎に提示するページを読むこと。
第 13 回	心理・社会的看護診断とその背景となる諸理論 (自己知覚 / 自己概念パターン) 【講義】 (江川)	・教科書②の P16 ～ 31 と 177 ～ 327 について、授業毎に提示するページを読むこと。
第 14 回	心理・社会的看護診断とその背景となる諸理論 (役割 / 関係パターン) 【講義】 (江川)	・教科書②の P16 ～ 31 と 177 ～ 327 について、授業毎に提示するページを読むこと。
第 15 回	看護実践と看護記録について 【講義】 (江川、笠岡)	・教科書①の P124 ～ 156 を読んで、事例の病態をまとめる。 ・教科書③の P119 ～ 126、P137 ～ 141、P146 ～ 196、P223 ～ 234 の看護介入の実際と看護記録について読んでくる。
学修評価の方法 基準 (割合 %)	授業終了後の定期試験 (100%)	
フィードバックの方法	講義毎に質問を受けてその場で、あるいは次回の講義前に対応する。また、必要な学生については個別に対応する。	
他の授業との関連	人体機能学Ⅰ、Ⅱ、基礎看護学Ⅴ (問題解決技法)	
テキスト	①江川隆子編 (2016) : ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、第6版、ヌーベルヒロカワ、②江川隆子編 (2013) : これなら使える看護診断、コンパクト新版、医学書院、③江川隆子編 (2010) : これなら使える看護介入、医学書院。『かみくだき看護診断過程』 (日総研出版) 江川隆子 / 笠岡和子	
参考図書	人体機能学Ⅰ、Ⅱ、基礎看護学Ⅴ (問題解決技法) での資料他	
履修上の留意点	授業の内容に沿って、教科書を読んで来る。	
オフィスアワー	在室時は、状況によって調整し対応、不在時は、< egawa.kenkyu@kki.ac.jp> に連絡ください。	
実務経験のある教員	江川 隆子 (看護師)、笠岡 和子 (看護師)	

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	地域看護学Ⅰ（概論） [Community Health NursingⅠ（Introduction）]	担 当 教 員 名	◎伊木 智子			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	ディプロマ・ ポリシー番号	4－①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人々の「暮らし」の拠点としての「地域」について学び、「健康」とのつながりを理解する。地域に暮らす人々について理解を深めるとともに、健康に関するデータを読み解き、生活習慣と健康課題、地域の文化について学修する。 [学修目標] 1. 地域看護学における個人・家族と集団を対象とした活動の目的や特徴を説明できる。 2. 地域看護学の社会的背景と基盤となる理論について説明できる。 3. 地域看護活動の対象理解とニーズのとらえ方について説明できる。 4. 障害・疾病をもちながら在宅で生活している方が、地域で暮らし続けるための、看護上のニーズを説明できる。 5. 地域看護活動の特徴と展開方法について説明できる。 6. 地域看護活動における多職種・多機関連携 社会資源について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外（準備学修）の内容		目標時間	
第 1 回	1. オリエンテーション 地域と生活 ・生活のとらえ方、地域のとらえ方、地域、生活、健康の関係性		学修内容から考察を記述		1時間	
第 2 回	2. 地域看護の背景 ・社会的背景と国民の価値観の変容、地域看護の変遷と課題		学修内容から考察を記述		1時間	
第 3 回	3. 地域看護の基盤となる概念 ・ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケア等		学修内容を考察し記述		1時間	
第 4 回	4. 地域看護の対象理解 ・地域に暮らす人々との関わり、ニーズのとらえ方（Y氏）		①課題レポートを作成し提出		12時間	
第 5 回	5. 地域看護活動の展開方法 ・個人・家族、集団・組織、地域全体を対象とした看護の特徴		学修内容を考察し記述		1時間	
第 6 回	6. 地域看護における家族のとらえ方 ・家族とは、家族のアセスメント、家族に関する基礎理論		学修内容を考察し記述		2時間	
第 7 回	7. 地域アセスメント ・地域アセスメントとその意義、コミュニティ・アズ・パートナーモデル		②課題レポートを作成し提出		10時間	
第 8 回	8. 地域看護活動における多職種・多機関連携 社会資源 ・地域における複合的な連携、社会資源とは、社会資源の活用、整備		学修内容を考察し記述		2時間	
学修評価の方法 基準（割合％）	レポート課題（No.4,7回の授業後提出）20％は、ルーブリック評価とします。終講の筆記試験80％、記述問題への解答を点数化して80点満点とし、合わせて100点評価とします。					
フィードバックの方法	学修過程における目標達成状況は、毎回の授業後に提出される記述内容より確認します。レポート課題の学修内容は、授業において全員にその傾向と課題をフィードバックします。適宜、必要に応じて個々に学修課題を提示し、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。					
他 の 授 業 と の 関 連	「公衆衛生学」「社会保障と社会福祉」「地域看護学Ⅱ」「保健医療福祉行政論Ⅰ」「在宅看護学Ⅰ・Ⅱ」および保健師課程の公衆衛生看護学の全科目・実習に連動する基盤となる重要な科目です。					
テ キ ス ト	臺 優佳ら他編：ナースンググラフィカ－地域・在宅看護学Ⅰ 地域療養を支えるケア（メディカ出版）最新版 神馬征峰ら『系統看護学講座・専門基礎・健康支援と社会保障制度②・公衆衛生』医学書院					
参 考 図 書	平野かよ子ら編：ナースング・グラフィカ－健康支援と社会保障①健康と社会・生活（メディカ出版）最新版					
履修上の留意点	地域で暮らす人々への看護の役割や活動の多様性、病気をもつ人だけでなく健康な人への看護についても理解すること。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は＜t.iki@kki.ac.jp＞に連絡ください。					
実務経験のある教員	伊木 智子（保健師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	老年看護学Ⅰ（概論） [Geriatric NursingⅠ（Introduction）]	担 当 教 員 名	◎下舞 紀美代			
期 間	2 年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1 単位 ・ 15 時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修 ・ ○ - 選択			
カリキュラム ・ ポ リ シ ー 番 号	2	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②③ 2 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>老年期の発達課題と健康課題について理論に基づきその特性を学ぶ。また、身体、心理・社会的側面から、倫理的配慮の視点をもって看護支援するための基礎的能力を養う。高齢者に関連する行政の取り組み、保健行動の特徴を知り、自立的な健康維持・増進及び疾病・事故の予防を目指した健康支援と環境調整の方法について学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <p>1. 老年看護学の理念と目標を説明できる。</p> <p>2. 老年期にある人の発達課題と健康問題について、加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化と特徴を踏まえて、看護支援について説明できる。</p> <p>3. 高齢者を取りまく社会としての家族および保健医療福祉システムの現状と課題を知り、社会適応のための老年看護学の役割について説明できる。</p> <p>4. 高齢者の倫理的課題と権利擁護について考察し、高齢者の尊厳と権利擁護のための看護支援について説明できる。</p> <p>5. 高齢者の健康目標について、生活機能の観点から自律的な健康維持・増進及び疾病・事故の予防を目指した健康支援および環境調整の方法を説明できる。</p> <p>6. 高齢者のコミュニケーションの特徴を知り、対象に応じたコミュニケーションについて説明できる。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	授業ガイダンス 第1章：老いるということ、老いを生きるということ 第2章：超高齢社会と社会保障 ④高齢社会の統計的輪郭		1 回目：生理的老化と病的老化の違い、加齢に伴う身体的側面の4つの力の低下についてノートにまとめてくる。			4 時間
第 2 回	第2章：超高齢社会と社会保障 ⑤高齢社会における保健医療福祉の動向 ⑥高齢社会における権利擁護		2 回目：介護保険制度の仕組みについてノートにまとめてくる。			4 時間
第 3 回	第3章：老年看護のなりたち ・老年看護のなりたち ・老年看護の役割 ・老年看護における理論・概念 第4章：高齢者のヘルスアセスメント ・ヘルスアセスメントの基本 身体的加齢変化		3 回目：⑤高齢社会における保健医療福祉の動向⑥高齢社会における権利擁護、についてノートにまとめてくる。			4 時間
第 4 回	第5章：高齢者の生活機能を整える看護 ⑦日常生活を支える基本的活動 ⑧食事、食生活		4 回目：転倒の看護とああアセスメントについてノートにまとめてくる。			4 時間
第 5 回	第5章：高齢者の生活機能を整える看護 ⑨排泄 ⑩清潔 ⑪生活リズム		5 回目：廃用性症候群の主な症状についてノートにまとめてくる。			4 時間
第 6 回	第5章：高齢者の生活機能を整える看護 ⑫コミュニケーション ⑬セクシュアリティ ⑭社会参加		6 回目：高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害についてノートにまとめてくる。			3 時間
第 7 回	第6章：健康逸脱からの回復を促す看護 ⑮症候のアセスメントと看護 ⑯身体疾患のある高齢者の看護		7 回目：高齢者の発熱、痛みについてノートにまとめてくる。			3 時間

第 8 回	第6章：健康逸脱からの回復を促す看護 ③身体疾患のある高齢者の看護 ④認知機能障害のある高齢者の看護	8回目：認知症についてノートにまとめとめてくる。	4時間
学修評価の方法 基準（割合％）	評価は、定期試験（80％）、小テスト（20％）の評価で行います。小テストは、2回目から8回目の授業内で計7回実施します。問題は授業外課題から出題します。解答例に基づき評価します。		
フィードバックの方法	授業中の小テストで学修目標の達成状況を確認します。目標到達状況に応じて授業においてフィードバックします。必要に応じて個々に学習過程を提示します。評価内容は求めに応じて個々に提示し説明します。		
他の授業との関連	本科目は、「老年看護学Ⅱ・Ⅲ」「成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」に連動するため継続的に学修を積み重ねましょう。		
テキスト	北川公子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院		
参考図書	学修目標達成状況に鑑み必要に応じて授業中に紹介します。		
履修上の留意点	老年看護学に関する知識や理論に基づいて深く考え、主体的に学修していきましょう。		
オフィスアワー	材質時は来室者などの状況で調整し対応致します。不在時は、「k.shimomai@kki.ac.jp」に連絡ください。		
実務経験のある教員	下舞 紀美代（看護師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	小児看護学Ⅰ（概論） [Pediatric NursingⅠ（Introduction）]	担 当 教 員 名	◎箕浦 洋子			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②③、2 - ①②③、3 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 小児看護の特徴と理念、健康な子どもの成長・発達とその家族の特徴を理解し、こどもの権利、社会情勢や母子保健の動向を捉えた子どもをめぐる法律、保健政策などから、子どもとその家族が心身ともに健やかに成長・発達するための看護の役割について学修する。 [学修目標] 1. 子どもの権利と倫理的課題について説明できる。 2. 小児看護学の基盤となる概念について、知識や理論に基づいて説明できる。 3. 小児各期の成長・発達の特徴とその過程を説明できる。 4. 小児各期の成長発達の評価方法について説明できる。 5. 現代家族の特徴と家族アセスメントについて説明することができる。 6. 小児と家族を支援するための法律と政策について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	1. 小児看護の特徴と理念 【講義】（箕浦） ・小児看護の変遷・小児と家族の諸統計・小児看護の課題		学修内容の復習と第2回課題の予習。			3時間
第 2 回	2. 小児看護の基盤となる理論と概念 【講義】（箕浦） ・愛着理論・心理発達理論・子どもの権利と倫理課題		学修内容から考察を記述。			5時間
第 3 回	3. 子どもの成長・発達 【講義】（箕浦） ・成長・発達の進み方（一般原則）・成長の評価・発達の評価		発達めやす表作成と学修内容の復習。			3時間
第 4 回	4. 乳幼児期の子どもの成長・発達と養育および看護 【講義】（箕浦） ・成長・発達にかかる特徴・遊びの支援・事故防止と育児支援		発達めやす表作成と学修内容の復習。			3時間
第 5 回	5. 乳幼児期の子どもの成長・発達と養育および看護 【講義】（箕浦） ・成長・発達に関わる特徴・遊びの支援・事故防止と育児支援		発達めやす表作成と学修内容の復習。			3時間
第 6 回	6. 学童期・思春期の子どもの成長・発達と養育および看護 【講義】（箕浦） ・成長・発達に関わる特徴・学習と遊び・生活習慣に関わる教育		発達めやす表作成と学修内容の復習。			3時間
第 7 回	7. 家族の特徴とアセスメント 【講義】（箕浦） ・子どもと家族・家族アセスメント・家族の役割		発達めやす表作成、提出。			5時間
第 8 回	8. 子どもと家族に関わる法律と政策 【講義】（箕浦） ・関係する法律・予防接種・学校保健・特別支援教育		学修内容から考察を記述。			5時間
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	発達めやす表20%、正解解答数に応じて採点します。ポストテスト10%、レポート課題（第2回、8回）20%はルーブリック評価、終講の筆記試験50%は、解答例に基づく評価とします。					
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成状況は、毎回のポストテストおよび課題の記述内容により確認し、授業においてポストテストの解説を行い、全員にその傾向と課題をフィールドバックします。					
他 の 授 業 と の 関 連	本科目は「小児看護学Ⅱ・Ⅲ」「小児看護学実習」に連動し、対象者の理解に必要な重要な講義となります。理解を深め継続的に学修を積み重ねましょう。					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論、小児臨床看護総論 医学書院					
参 考 図 書	学修目標達成状況に鑑み必要に応じて授業中に紹介します。					
履修上の留意点	対象理解のための礎となる授業です。発達めやす表の作成を行いながら、小児の成長・発達について理解を深めるように学修しましょう。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< y.minoura@kki.ac.jp >に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	箕浦 洋子（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	母性看護学Ⅰ（概論） [Maternal NursingⅠ（Introduction）]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子、永峰 啓子			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義・演習		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1－①②③、2－①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人間の生涯における性の発達と健康、生命と性と生殖の意義について学び自らの考えを深め、母性看護の基盤となる概念、母性看護における倫理的課題、母性看護の対象理解と対象を取り巻く社会の変遷と現状、女性と男性のライフサイクルにおける発達課題、新しい家族の誕生期にある人々の健康生活支援について学修する。 [学修目標] 1. 生命と性と生殖の意義、人間の生涯における性の発達と健康についての考えを述べられる。 2. 母性看護の基盤となる概念について学び、知識や理論に基づいて説明できる。 3. 女性と男性のライフサイクルにおける発達課題と健康について説明できる。 4. 母性看護における倫理的課題とリプロダクティブ・ヘルス／ケアについて説明できる。 5. 母性看護の対象理解と対象を取り巻く社会の変遷と現状について説明できる。 6. 新しい家族の誕生期にある人々の健康生活支援について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		目標時間	
第 1 回	1. 生命と性と生殖の意義、人間の生涯と性の発達 【講義】（松村） ・生命と法と生命倫理・性と生殖と生命倫理・生命のライフサイクル		学修内容を考察し記述整理		4時間	
第 2 回	2. 女性と男性のライフサイクルにおける発達課題と健康 【講義】（松村） ・女性と男性の健康・各ライフステージにおける健康課題		発達課題の学修課題レポート作成準備		3時間	
第 3 回	3. 母性看護の基盤となる概念 【講義】（松村） ・母性と父性・子育て・親性と育児性・親子関係と家族発達		課題レポートを作成し提出		4時間	
第 4 回	4. 母性看護の基盤となる概念 【講義】（永峰） ・ヒューマンセクシュアリティ・リプロダクティブヘルス／ライツ		学修内容を考察し記述整理		4時間	
第 5 回	5. リプロダクティブヘルスケア 【講義・演習】（永峰） ・いのちの性教育・家族計画・性感染症と人工妊娠中絶等の防止		課題レポートを作成し提出		4時間	
第 6 回	6. 母性看護における倫理的課題と母性看護の対象理解 【演習】（松村） ・生命倫理と看護倫理・看護における倫理的意思決定		学修内容を考察し記述整理		3時間	
第 7 回	7. 母性看護の対象理解と対象を取巻く社会の変遷と現状 【講義】（松村） ・母性看護の歴史的変遷と現状・母性看護の提供システム		学修内容を考察し記述整理		4時間	
第 8 回	8. 新しい家族の誕生期にある人々の健康生活支援 【講義・演習】（松村） ・少子社会の子育ての様相・親と子と家族のコミュニケーション		課題レポートを作成し提出		4時間	
学修評価の方法 基 準（割 合％）	レポート課題（No.2,4,6回の授業後提出）30％は、ルーブリック評価とします。ポストテスト10％と終講の筆記試験60％、記述問題への解答を点数化して60点満点とし、合わせて100点評価とします。					
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成状況は、毎回の授業後に提出される記述内容より確認します。レポート課題の学修内容は、授業において全員にその傾向と課題をフィードバックします。適宜、必要に応じて個々に学修課題を提示し、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。					
他 の 授 業 と の 関 連	「生命と倫理」に関する学修は準備性を高めるため重要です。本科目の履修合格後「母性看護学Ⅱ・Ⅲ」「母性看護学実習」に連動するため継続的に学修を積み重ねましょう。					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学Ⅰ 母性看護学概論 医学書院					
参 考 図 書	学修目標達成状況に対応して、必要時、授業中に紹介します。					
履修上の留意点	母性看護学に関する知識や理論に基づいて色々と深く考え、主体的に学修していきましょう。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は＜ k.matsumura@kki.ac.jp ＞に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	松村 恵子（助産師）、永峰 啓子（助産師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	母性看護学Ⅱ -a（援助論） [Maternal Nursing Ⅱ -a（Assistance Theory）]	担 当 教 員 名	◎神谷 映里、小笠原 百恵			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	ディプロマ・ ポリシー 番号	3-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] マタニティサイクルの中で妊娠期・分娩期の母子（胎児）とその家族に焦点をあて、身体的変化、心理・社会的特徴を学修する。また、妊娠期・分娩期の母子（胎児）やその家族がセルフケア能力の向上に必要な健康管理方法や望ましい日常生活を学修する。 [学修目標] 1. 妊婦・産婦の身体的特徴や経過を説明することができる。 2. 胎児の発育や健康状態について説明することができる。 3. 妊婦・産婦の心理・社会的特徴や変化を説明することができる。 4. 妊婦・産婦の正常からの逸脱を予防するための援助と看護を説明することができる。 5. 妊婦・産婦やその家族の看護に必要な援助方法を説明することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	正常な妊娠経過 【講義】（神谷） 妊娠期の定義、妊娠の成立、妊娠週数、妊娠の経過と胎児の発育、母体の生理的变化		事前学習として女性生殖器、受精と胎児の発生を復習する			3時間
第 2 回	妊婦と胎児のアセスメント 【講義】（神谷） 妊娠とその診断、妊娠期に行う検査、胎児の発育と健康状態 ハイリスク妊娠 高齢妊婦、若年妊婦、血液型不適合妊娠、母子感染症		課題レポートを作成し提出する			4時間
第 3 回	妊娠期に起こり得る正常からの逸脱と看護 【講義】（神谷） 妊娠悪阻、妊娠貧血、妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群		プリントを使用し復習する			4時間
第 4 回	妊婦の健康生活とアセスメント 【講義】（神谷） 食生活、排泄、活動と休息、清潔、性生活、嗜好品（喫煙、アルコール、カフェイン）、妊娠による不快症状		プリントを使用し復習する			4時間
第 5 回	妊婦の心理および社会的特性、妊婦と家族の看護 【講義】（神谷） 妊婦の心理、母子保健サービス、妊婦の健康相談・教育、親になるための準備教育 正常な分娩の経過 【講義】（小笠原） 分娩の定義・3要素、分娩の機序		プリントを使用し復習する			4時間
第 6 回	産婦と胎児、家族のアセスメント 【講義】（小笠原） 分娩による母子への影響		課題レポートを作成し提出する			4時間
第 7 回	産婦と家族の看護 【講義】（小笠原） 産婦の心理・社会的変化		プリントを使用し復習する			3時間
第 8 回	分娩期に起こり得る正常からの逸脱と看護 【講義】（小笠原） 産道・陣痛・娩出物の異常、胎児機能不全、急速遂娩、分娩時異常出血、分娩時の損傷		プリントを使用し復習する			4時間
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	課題20％はルーブリック評価とします。 定期試験80％は解答例に基づいて評価します。					
フィードバックの 方 法	課題の学修内容は授業においてその傾向をフィードバックします。評価内容は求めに応じて個々に提示して説明します。					
他 の 授 業 と の 関 連	母性看護学Ⅰに引き続いての授業です。母性看護学Ⅱ b、母性看護学Ⅲ、母性看護学実習と連動していくので継続的に学修を積み重ねてください。					
テ キ ス ト	母性看護学Ⅱ 周産期各論（医歯薬出版） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論（医学書院）					
参 考 図 書	目で見える妊娠と出産（文光堂）、病気がみえる 産科（メデックメディア）					
履修上の留意点	マタニティサイクルを理解する上で基礎となります。暗記するだけでなく身体変化等、なぜそうなるのかを理解していきましょう。全8回の授業です。欠席回数に注意してください。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は＜ e.kamiya@kki.ac.jp ＞に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	神谷 映里（助産師）、小笠原 百恵（助産師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	精神看護学Ⅰ（概論） [Psychiatric NursingⅠ（Introduction）]	担 当 教 員 名	◎小出水 寿英			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 精神的側面から人間を生活者として理解し自らの学びを深化するために、精神看護の対象理解と対象を取りまく社会の変遷と現状、精神看護の基盤となる概念、精神看護における倫理的課題、精神看護に係る保健・医療・福祉制度に関連する基本的知識について学修する。 [学修目標] 1. 精神看護の対象を取りまく社会の変遷と現状について考えを述べられる。 2. 精神看護の基盤となる概念について学び、知識や理論について説明できる。 3. 精神看護に係る保健・医療・福祉制度について説明できる。 4. 精神看護における倫理的課題と精神科看護師の役割について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		目標時間	
第 1 回	精神障がいに関する基本的考え方 【講義】(小出水) ・精神の構造と働き・防衛機制と危機介入・リカバリーと支援		テキスト該当部分の通読と 課題レポート作成		2時間 25分	
第 2 回	ライフサイクルと発達課題 【講義】(小出水) ・情緒体験と相互交流・各ライフサイクルの特徴と精神的課題		テキスト該当部分の通読と 課題レポート作成		2時間 25分	
第 3 回	メンタルヘルスと現代社会 【講義】(小出水) ・社会と精神的な健康課題・ストレスと心身の反応		テキスト該当部分の通読と 課題レポート作成		3時間	
第 4 回	家族が抱える課題と家族支援 【講義】(小出水) ・精神疾患と家族関係・依存症と家族関係・家族のリカバリー		テキスト該当部分の通読と 課題レポート作成		3時間	
第 5 回	精神看護の倫理と人権擁護 【講義】(小出水) ・精神科医療における権利擁護・行動制限（隔離、拘束）と人権擁護		テキスト該当部分の通読と 課題レポート作成		3時間	
第 6 回	精神医療の歴史と精神看護 【講義】(小出水) ・諸外国の精神科医療の歴史・日本の精神科医療の歴史		テキスト該当部分の通読と 課題レポート作成		3時間	
第 7 回	精神保健医療福祉に関する法律 【講義】(小出水) ・精神保健福祉法の概要・入院形態と入院患者の処遇・守秘義務		テキスト該当部分の通読と 課題レポート作成		3時間	
第 8 回	精神保健医療福祉における精神科看護師の役割 【講義】(小出水) ・精神科看護師の専門性・精神科医療における他職種連携		テキスト該当部分の通読と 課題レポート作成		3時間	
学修評価の方法 基準（割合％）	レポート課題の提出状況（10％）、期末テストの結果（90％）で評価する。					
フィードバックの 方 法	レポート課題の学修内容は講義において全員にフィードバックを行う。個々の必要に応じて個別に課題学修内容を説明する。講義内容及びメンタルヘルスに関する質問には随時対応する。筆記試験問題の解説は筆記試験終了後に個々人の必要性に応じてフィードバックを行う。					
他 の 授 業 と の 関 連	「心理学」「人間と生き方（哲学）」「病態心理学≪臨床心理学≫」「生命と倫理」に関する学修は準備性を高めるため重要である。本科目は「精神看護学Ⅱ・Ⅲ」「精神看護学実習」に連動するため継続的に学習を積重ねて下さい。					
テ キ ス ト	ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本、MC メディカ出版、最新版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の基本、MC メディカ出版、最新版					
参 考 図 書	学修目標到達状況を鑑み必要に応じて講義中に紹介する。					
履修上の留意点	精神看護学に関する知識、理論、人権について考え、主体的に学修して下さい。					
オフィスアワー	在室時は来談者の状況に応じ対応し、不在時は< t.koizumi@kki.ac.jp >に連絡して下さい。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	小出水 寿英（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	看護過程論実習Ⅰ [Nursing Process PracticumⅠ]	担 当 教 員 名	◎笠岡 和子 成人看護学他、基礎・在宅・老年・ 小児・母性・精神看護学領域教員			
期 間	2年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・90時間			●		
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	ディプロマ・ ポリシー番号	1-①②③④、2-①②③、3-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 対象者の健康状態・治療状況に応じた情報収集を行い、それらに影響される対象者の日常生活動作についてアセスメントし、明確にした対象者の問題に応じた計画立案・実施・評価を通して、看護の基盤となる基礎的理論や基礎的看護技術を学修する。 [学修目標] 1. 健康状態・治療状況に影響を受ける日常生活動作について説明・記述できる。 2. 対象者の日常生活動作に関する情報について説明・記述できる。 3. 対象者の日常生活動作（食事、排泄、活動・休息、清潔・衣生活、呼吸・循環を整える援助）に関するアセスメントおよび看護の必要性を説明・記述できる。 4. 日常生活動作に対する看護目標を設定し、具体的にその援助計画立案・実施する方法を説明・記述できる。 5. 実施した看護援助の評価を説明・記述できる。 6. 看護援助を通して、看護師として必要な倫理的判断・行動を説明することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容		目標時間
実 習 計 画	臨地での実習期間を通して対象者一人を受け持ち、看護過程の展開を行う。 ・受け持ち対象者の健康状態（病態・検査・症状等）治療状況について、指導者より説明を受ける。 ・対象者の健康状態・治療状況に影響を受ける日常生活動作の情報収集を行う。 ＊カルテ、観察、コミュニケーション、バイタルサイン測定・援助の見学、リハビリテーションの見学等 ・収集した日常生活動作の情報から対象者に必要な看護を考える。 ・学生・実習指導者・教員とのカンファレンスによって、学生の考える看護の方向性を確認する。 ・導き出した対象者に必要な看護から具体的な日常生活動作に対する援助計画を立案する。 ・立案した援助計画に基づいた援助を行う。 ・実施した援助に対して評価を行う。 ・受け持ち対象者の援助に対する評価・修正・記録の整理を行う。 ・得た学びをクラス全員で共有し、看護師として必要な倫理的判断・行動について考える。 ・担当教員との面接を行い、実習の振り返りを行う。 ・実習の自己評価を記述する。			(準備学修)の内容 すべての学修目標を達成するために、看護過程展開方法についての知識と実際の援助を統合させ、倫理に基づいた援助が実施・評価できるように学修する。		毎日 1時間
学修評価の方法 基準（割合％）	毎日の実習における主体的に実習に取り組む姿勢と倫理（言動含む）的態度、実習の目的・目標の到達度（80%）、実習準備状況（10%）、学びの共有における主体性（10%）を実習評価表に基づき評価する。					
フィードバックの 方 法	日々の実習の中、カンファレンス等で対話的に学修内容をフィードバックし、必要に応じて個々に課題を提示する。					
他 の 授 業 と の 関 連	基礎看護Ⅴ（看護過程・看護診断論Ⅰ）、基礎看護Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ-a、Ⅲ-b、Ⅳ、基礎看護学実習					
テ キ ス ト	今まで学んだ基礎看護で使用した教科書・資料					
参 考 図 書	人体構造機能学，病態生理学，基礎看護学で学んだ資料。					
履修上の留意点	看護過程論実習Ⅰの目的・目標の達成を目指して学修し、主体的に学修に取り組む姿勢を育てる。					
オフィスアワー	毎日の実習において、状況に合わせて対応する。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	◎笠岡 和子（看護師）、神谷 千鶴（看護師）、小平 京子（看護師）、原田 美穂子（看護師）、 下舞 紀美代（看護師）、奥津 文子（看護師）、黒江 ゆり子（看護師）、土井 香（看護師）、 山口 夏季（看護師）、國政 ちとせ（看護師）、古川 秀敏（保健師）、箕浦 洋子（看護師）、 谷口 英雄（看護師）、松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、神谷 映里（助産師）、 小笠原 百恵（助産師）、永峰 啓子（助産師）、小出水 寿英（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	薬理学Ⅱ（臨床薬理） [Clinical Pharmacology]	担 当 教 員 名	◎百田 芳春			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	3 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 本科目では皆さんは臨床薬理学Ⅰに引き続き、代表的な薬物の薬理作用と有害作用を学び、臨床的に多用される薬物の取り扱い及び薬の特徴全般についての知識を学修する。 [学修目標] 以下に示す症治療薬・薬の薬理作用と特筆すべき有害作用について説明できるようになる。 ・心臓・循環系疾患治療薬について説明できる。 ・血液造血系疾患治療薬・代謝・内分泌系疾患治療薬・呼吸器疾患治療薬・消化器系・患治療薬・泌尿器・生殖器系疾患治療薬・感覚器疾患治療薬					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	末梢神経系作用薬 ・アドレナリン受容体作用薬 ・ムスカリン受容体作用薬		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 2 回	末梢神経系作用薬及び麻酔薬 ・ニコチン受容体作用薬 ・鎮静薬など		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 3 回	中枢神経作用薬 ・てんかんの治療薬 ・ Parkinson 病の治療薬 ・認知症の治療薬		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 4 回	中枢神経作用薬 ・抗精神薬（統合失調症、抑うつ、不安、睡眠障害の治療薬）		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 5 回	循環器系作用薬 ・高血圧、心不全の治療薬		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 6 回	循環器系作用薬 ・狭心症、心筋梗塞、不整脈の治療薬		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 7 回	循環器系作用薬 ・動脈硬化の治療薬 ・循環系治療薬のまとめ		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 8 回	泌尿器系の治療薬 ・利尿薬について ・排尿特尿障害の治療薬に付いて		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 9 回	炎症の治療薬 ・アレルギーの治療薬 ・喘息の治療薬 ・解熱鎮痛薬について		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 10 回	消化器系の治療薬 ・胃潰瘍治療薬 ・嘔吐を抑制する治療薬		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 11 回	血液・造血気疾患の治療薬 ・貧血の治療薬 ・血液凝固に関する治療薬		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 12 回	代謝、内分泌型に関する薬物 ・糖尿病の治療薬 ・脂質代謝異常を治す薬物 ・甲状腺疾患治療薬		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 13 回	代謝、内分泌型に関する薬物 ・脂質代謝異常を治す薬物、カルシウム代謝異常を調節する薬物		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 14 回	生殖器作用薬 ・不妊治療薬、前立腺肥大治療薬		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
第 15 回	まとめ ・難解な薬理作用などの確認。重要点の再度の見直し。		テキストとレジメの予習及び復習			4時間
学修評価の方法 基 準（割 合％）	小テストの合計点（30％）と期末試験（70％）の合計100％で評価。					
フィードバックの 方 法	グループ発表に参加し、著しく誤って解釈している人には修正などを求めて、発表原稿などを再度提出してもらい、全員に周知します。					
他 の 授 業 と の 関 連	看護系の専門科目とつながる。カリキュラムツリーを参照のこと。					
テ キ ス ト	「ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学（第7版）」 赤瀬智子・柳田俊彦 編、株式会社メディカ出版、2023年					
参 考 図 書	授業中に適宜紹介します。					
履修上の留意点	薬理学Ⅰで学んだことを土台にして、各種薬物の有用性や有害作用などについて学び、今後のより臨床的な授業科目の理解のために必要な知識になる。					
オフィスアワー	対応時間は後日にお知らせします。不在時には< y.momota@kki.ac.jp> 連絡してください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	感染と免疫 [Microbiology and Immunology]	担 当 教 員 名	◎百田 芳春			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>病原微生物について、特性、その生理、感染方法を学び、感染に対する制御方法、検査方法、代表的な感染症を発症した場合の症状などの知識を学修する。医療従事者が基本的に熟知されていると望まれていることを学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <p>1. 病原性微生物の種類と特徴を説明できる。</p> <p>2. 感染（感染経路、感染経路の遮断など）に関して説明できる。</p> <p>3. 免疫系に関して説明できる。</p> <p>4. 免疫系を含めて生体防御について説明できるようになる。</p> <p>5. 感染症の制御方法について説明できる。</p> <p>6. 化学療法と耐性菌について説明できる。</p> <p>7. 代表的な細菌、真菌、原虫、蠕虫、ウイルスによる疾患を説明できる。</p> <p>8. 各臓器・組織における代表的な感染症を説明できる。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	微生物の基礎知識・微生物学の基礎① ・微生物発見から治療方法の開発史 微生物の特徴		教科書第1章と第2章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。			2時間
第 2 回	微生物の基礎知識② ・細菌・ウイルスの構造、細菌やウイルスの増殖方法など		第2章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。			4時間
第 3 回	微生物と感染症 ・感染症の成立、感染経路、感染経路の遮断、感染症など		第3章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。			4時間
第 4 回	免疫と生体防御機構① ・免疫の全体像、非特異的免疫など 特異的免疫・非特異的免疫の区別がつけられ、免疫における自己と非自己について学習しましょう。		第4章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。			5時間
第 5 回	免疫と生体防御機構② ・特異的免疫など		第4章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。			5時間
第 6 回	免疫と生体防御機構③ ・ABO式血液型やRh式血液型は特異的免疫と関連していること、免疫反応の悪い側面（アレルギー反応・移植臓器の拒絶なん方）などについて学習しましょう。		第4章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。			4時間
第 7 回	感染症の制御 ・感染症法・予防接種法・ワクチン・滅菌と消毒及びその方法・医療関連感染症・標準的予防対策など		第5章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。			4時間
第 8 回	化学療法と耐性菌 ・感染症治療薬の作用機序・感染症治療における薬物の治療法・耐性菌に対する対応など		第6章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。			4時間
第 9 回	B型肝炎訴訟団による特別講義 ・日本における予防接種が原因のB型肝炎の蔓延と医療行政の対応		集団予防接種によるB型肝炎ウイルスへの感染と発症患者の経験を聞き、B型肝炎ウイルスによる肝炎の病態と、その予防策、発症患者さんへの接し方を学ぶ。			4時間

第 10 回	細菌による感染症の各論① ・グラム陽性菌	第7章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。	4 時間
第 11 回	細菌による感染症の各論② ・グラム陰性菌・マイコプラズマ・リケッチャ・クラミジア	第7章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。	4 時間
第 12 回	ウイルスによる感染症の各論① ・DNA ウイルス	第8章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。	4 時間
第 13 回	ウイルスによる感染症の各論② ・RNA ウイルス	第8章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。	4 時間
第 14 回	真菌・原虫・蠕虫による感染症の各論 ・真核生物の病原性微生物	第9章～第11章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう。	4 時間
第 15 回	臓器・組織別感染症 ・臓器・器官別の代表的な感染症を	第12章を読んで予習復習を行い、学習を深めましょう	4 時間
学修評価の方法 基準（割合％）	小テストの合計点（30％）と期末試験（70％）の合計100％で評価。		
フィードバックの 方 法	小テスト及びレポート課題の学修内容は授業において全員に解答を配布し、また、著しく誤って解釈している人には修正などを求めて、再度提出してもらいます。		
他 の 授 業 と の 関 連	病院実習や看護系の専門科目とつながる。カリキュラムツリーを参照のこと。		
テ キ ス ト	「感染性行の基本がわかる微生物学・免疫学」増澤俊幸著、羊土砂、2023年		
参 考 図 書	必要に応じて授業中に適宜紹介します。		
履修上の留意点	将来の医療従事者として自らが感染しないこと、感染を拡大させないこと、また、感染症に適切に対応できることを学修を通じて考えることは大切です。		
オフィスアワー	対応時間は後日にお知らせします。不在時には< y.momota@kki.ac.jp> 連絡してください。		
実 務 経 験 の あ る 教 員			

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	医療と人権 [Health and Human Rights]	担 当 教 員 名	◎西村 由実子			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			○		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	2-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 現在の日本では、医療技術の発展に伴い、出生前診断、脳死・臓器移植、尊厳死など、人の生と死に関わる様々な課題が存在する。一方、世界では、貧困や紛争の渦中において基本的な生きる権利が蝕まれている人たちがいる。これらの課題に人として医療従事者としてどう向きあうことができるのか、人権の視点から学ぶ。 [学修目標] 1. 医療と人権にかかわる今日的な課題を理解し説明できる 2. 諸課題に対して、様々な立場があることを知り認めることができる 3. 諸課題について、自分の意見を表現することができる					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス / ワーク“私は誰と誰”色鉛筆で個性のグラデーションに気づく 【講義】(西村)	「自己紹介」で何を聞きたいかを考えてくる			2時間	
第 2 回	人権の思想：ワーク“無言の芸術家”世界人権宣言を表現する 【講義】(西村)	「世界人権宣言」熟読			3時間	
第 3 回	生殖医療の発展と人権 (1) 映画「サイダー・ハウスルール」人工妊娠中絶を考える 【講義】(西村)	「シネマの中の人間と医療」熟読			3時間	
第 4 回	生殖医療の発展と人権 (2) 女性の権利、ロー・ウェイド判決 【講義】(西村)	[a] 11章熟読			3時間	
第 5 回	生殖医療の発展と人権 (3) 人工授精・体外受精・代理出産・出生前 / 着床前診断 【講義】(西村)	[a] 11章熟読			3時間	
第 6 回	人生の最終段階の医療と人権：アドバンス・ケア・プランニングをやってみる 【講義】(西村)	[a] 16章熟読			3時間	
第 7 回	脳死・臓器移植 (1) 「医療倫理の4原則」で脳死・臓器移植を考える 【講義】(西村)	日本臓器移植ネットワーク検索			3時間	
第 8 回	脳死・臓器移植 (2) 生体移植の現状 / 中間テスト：前半の重要概念を確認する 【講義】(西村)	[a] 15章熟読／第1～7回復習			6時間	
第 9 回	平和と生きる権利 (1) ワーク“平和の輪” / 学徒出陣・丹下健三を知る 【講義】(西村)	[a] 1、2章熟読			3時間	
第 10 回	平和と生きる権利 (2) 南あわじ市の「若人の広場公園」をバスで訪問する 【講義】(西村)	訪問レポート作成			8時間	
第 11 回	平和と生きる権利 (3) 資料や施設を観て感じた「平和」を言葉で表現する 【講義】(西村)	訪問レポート作成			8時間	
第 12 回	健康・医療の情報と人権：「いのちは誰のものか」自律尊重と情報の重さ 【講義】(西村)	[a] 10章 / 「リスボン宣言」熟読			3時間	
第 13 回	研究倫理と人権：タスキギー事件、IRB、研究倫理指針 【講義】(西村)	[a] 19章 / 「ヘルシンキ宣言」熟読			3時間	
第 14 回	医療資源の配分：ワーク“パンを分け合う”公正な配分、神様委員会 【講義】(西村)	[a] 17章熟読			3時間	
第 15 回	貧困と生きる権利・まとめ：絶対的貧困、世界の格差、用水路がもたらす恵み 【講義】(西村)	総復習			6時間	
学修評価の方法 基 準 (割 合 %)	授業参加 (30%)、日の出 / 日の入レポート (5%)、筆記式中間テスト (20%)、訪問レポート [ルーブリック評価] (15%)、総まとめレポート (30%)					
フィードバックの 方 法	授業内で出欠確認質問の回答に対するフィードバックをします。レポートには個別のコメントと全体への講評を行います。課題提出とフィードバックに Google Classroom を使います。					
他 の 授 業 と の 関 連	「生命と倫理」「法と人権」はこの授業を学ぶ上で役に立ちます。この授業は「看護倫理」を学ぶための基礎となります。					
テ キ ス ト	テキストは購入しません。プリントを配布します。					
参 考 図 書	[a] 赤林朗編「【改訂版】入門・医療倫理Ⅰ」(勁草書房) 「Q&A 医療・福祉と患者の権利【第2版】」患者の権利オンブズマン編 (明石書店)					
履修上の留意点	一人では答えが出せない様々な課題についてワークや討議を通じて仲間と共に考えます。「若人の広場公園」は戦没学徒を思い平和を考える施設で、大学生は一度は訪れてほしいです。					
オフィスアワー	水曜日 12：00 ～ 15：00、意見や相談はメール y.nishimura@kki.ac.jp でいつでも受けます。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	カウセリング論 [Counseling Theories]	担 当 教 員 名	◎花村 カテリーナ			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			○		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	1	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②③④、2 - ②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護の仕事においてカウセリングの技術は極めて重要な役割を担う。カウセリングの理論的基盤には大きく分けて人間主義的心理学、精神分析、行動主義心理学の3つがある。これら3つの学派の基礎的理論と具体的なアプローチ方法について、ロールプレイおよび看護現場の事例を通して学修する。 [学修目標] 1. 看護現場におけるカウセリングマインドの重要性と特性について考えを述べられる。 2. 人々との相互の関係を成立させるために必要とされるコミュニケーション技法について、3つの学派のカウセリング理論に基づいて説明できる。 3. コミュニケーションの相互作用について理解し、傾聴と共感を基本とした言語的・非言語的なコミュニケーション技術を実施できる。 4. 自分の傾向を知り、自分の課題を意識してコミュニケーションを取ることができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス。自己モニタリング		講義資料と参考図書を通読			3時間
第 2 回	基本的スキルとスタンス：聴き方、伝え方		講義資料と参考図書を通読			3時間
第 3 回	基本的スキルとスタンス：受け止め方、意図と気持ちの読み取り方		記述課題①に解答し、提出			5時間
第 4 回	人間性心理学派（来談者中心療法）の理論：性善説・会話の中の「安心」と「安全」・無条件の受容・共感的理解・自己理解		講義資料と参考図書を通読			3時間
第 5 回	応答練習1：非言語レベル、言語レベルで話し手と波長合わせをするテクニックを実践する		応答練習レポート①を記述し、提出			4時間
第 6 回	応答練習2：3つの傾聴スキル（感情、捉え方、事実の傾聴）を実践する		応答練習レポート②を記述し、提出			4時間
第 7 回	精神分析学派の理論1：無意識の役割、抵抗と転移に関わる諸現象		講義資料と参考図書を通読			3時間
第 8 回	精神分析の理論2：防衛機制の理論と事例検討		記述課題②に解答し、提出			4時間
第 9 回	認知行動療法の理論：認知のクセ・ストレスと認知の関係・コラム表		記述課題③に解答し、提出			4時間
第 10 回	応答練習3：話し手の考え方や捉え方に注目して理解するテクニックを実践する		応答練習レポート③を記述し、提出			4時間
第 11 回	行動主義学派の理論：行動と学習のメカニズム・行動の分析方法		記述課題④に解答し、提出			4時間
第 12 回	サイコロジカル・ファーストエイド：基本的スタンスとスキル・ガイドラインの紹介		記述課題⑤に解答し、提出			5時間
第 13 回	看護カウセリングの特性		講義資料と参考図書を通読			3時間
第 14 回	モデルケースの検討 （看護場面の事例を1つ取り上げて、これまでの理論に基づいて多角的な分析を行う）		記述課題⑤に解答し、提出			4時間
第 15 回	応答練習4：モデルケースの場面を再現して、これまでのテクニックを総合して実践する		応答練習レポート④を記述し、提出			5時間
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	記述課題（30%）と応答練習レポート（40%）はルーブリック評価とします。合わせて、授業中のグループワークとロールプレイへの参加度（30%）を観察によって評価します。					
フィードバックの 方 法	Google Classroomを用いて授業資料、記述課題、応答練習レポートの配信、結果のフィードバックをします。それぞれの理論と技法の理解の程度に応じて、授業の中で総合的に補足説明をします。					
他 の 授 業 と の 関 連	「基礎看護学実習（コミュニケーション）」「人間関係論」「心理学」					
テ キ ス ト	プリントを配布します。					
参 考 図 書	学修目標達成状況に対応して、必要時、授業中に紹介します。					
履修上の留意点	積極的にいろんな方法を試しながら、自身の得意な技法を1つ見つけてみましょう。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< k.hanamura@kki.ac.jp >に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	花村 カテリーナ（臨床心理士、公認心理師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	保健医療福祉行政論Ⅰ [Public health and social policy administrationⅠ]	担 当 教 員 名	◎伊木 智子			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	ディプロマ・ ポリシー番号	4-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] わが国の保健医療福祉制度の成り立ちを理解し、人々の健康や生活を守るために必要な保健・医療・福祉の法律や制度について理解を深める。行政におけるしくみや法律・制度・政策について理解し、様々なライフサイクルや健康課題をもつ対象者のニーズに応じた支援の概要を学修する。 [学修目標] 1. わが国の保健医療福祉行政の仕組みと活動の概要について説明できる。 2. 保健所や市町村保健センター等の役割について説明できる。 3. 地域の人々の暮らしと健康を守るための制度とその活用について説明できる。 4. サポートが必要な人とその家族を守るための制度とその活用について説明できる。 5. わが国の医療提供体制について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	1. オリエンテーション(授業の進め方、成績評価等) ・保健医療福祉行政の根拠、法律と政策・施策・事業の位置づけ		【予習】シラバスを読み概要の理解 【復習】を考察し記述する ①事前課題：障害者総合支援法			1時間 1時間 4時間
第 2 回	2. 障害(児)者とその家族を守る制度 ・障害者総合支援法、障害者の就労支援対策		【復習】学習内容を考察し記述する			1時間
第 3 回	3. 母子(親子)と家族を守る制度 ・母子保健行政、母子保健法の概要、母子保健の動向		【予習】母子保健法：教科書読む 【復習】学習内容を考察し記述する ②事前課題：地域包括ケアシステム 地域共生社会について調べまとめる			1時間 1時間 4時間
第 4 回	4. 多機関・多職種連携包括ケアシステム ・保健医療福祉の連携の実例(DVD視聴・事例展開)、 地域包括ケアシステム、地域共生社会		【復習】学習内容を考察し記述する ③課題(事例展開①)保健医療福祉 の連携における個別支援			1時間 4時間
第 5 回	5. 国、都道府県・市区町村の行政のしくみと役割 ・一般公衆衛生行政、労働衛生行政、環境衛生行政、 学校保健行政		【予習】地域保健法：教科書読む 【復習】学習内容を考察し記述する			1時間 1時間
第 6 回	6. 医療制度と政策、医療提供体制について ・医療計画、医療法、医療圏、地域医療構想、日本の 医療保険制度としくみ		【予習】医療法：教科書読む 【復習】学修内容を考察し記述する			1時間 1時間
第 7 回	7. 精神保健福祉対策 ・精神保健福祉、精神障害に対応した地域包括ケアシ ステム、地域共生社会、地域保健とメンタルヘルス		【予習】精神保健福祉法：教科書読 む 【復習】学習内容を考察し記述する ④課題(事例展開②)保健医療福祉 の連携における個別支援			1時間 1時間 4時間
第 8 回	8. 保健医療福祉の地域づくりを推進する看護職の活動 まとめ ・保健医療福祉の連携における事例展開解説、連携、 看護職の役割		【復習】学習内容を考察し記述する			2時間
学修評価の方法 基準(割合%)	事前課題(No2. 4授業後提出)10%、事例展開の課題(No. 4. 7)20%は、ルーブリック評価とします。 終講の筆記試験70%、記述問題への解答を点数化して70点満点とし、合わせて100点評価とします。					
フィードバックの 方 法	学修過程における目標多成状況は、毎回の授業後に提出される記述内容、ミニテストより確認します。事前課題、事例展開の課題の学修内容は、授業において全員にフィードバックします。評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。					
他 の 授 業 と の 関 連	公衆衛生学、社会保障と社会福祉、地域看護学Ⅰ・Ⅱ、在宅看護学Ⅰ・Ⅱ、および保健師課程の公衆衛生看護学の全科目・実習に連動する基盤となる重要な科目です。					
テ キ ス ト	・臺 優佳ら他編：ナーシンググラフィカ-地域・在宅看護学Ⅰ 地域療養を支えるケア(メディカ出版) ・神馬征峰ら『系統看護学講座・専門基礎・健康支援と社会保障制度②・公衆衛生』医学書院 ・福田素生ら『系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉』医学書院					
参 考 図 書	学修目標達成状況に対応して、必要時、授業中に紹介します。					
履修上の留意点	保健医療福祉行政を取り巻く社会情勢の変化に対し関心を持ちましょう。 住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように保健医療福祉行政対策と医療提供体制の整備が重要です。その中での看護職の役割・機能について理解していきましょう。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は<tiki@kki.ac.jp>に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	伊木 智子(保健師)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	在宅看護学Ⅰ（概論） [Home Health Care Nursing Theory I (Introduction)]	担 当 教 員 名	◎古川 秀敏			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポ リ シ ー 番 号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3 - ①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護ニーズを持つ居宅生活者とその家族を理解し、わが国の在宅療養に関する背景および看護支援に必要な知識を学修する。あわせて、在宅療養に関わる制度についても学修する。 [学修目標] 1. 在宅看護学の概念および特性と機能について説明することができる。 2. 在宅ケアシステムにおける看護の役割と機能について説明することができる。 3. 在宅看護に係る制度について説明することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	オリエンテーション・在宅看護の概念、在宅看護の歴史と現状—わが国の在宅看護の変遷		在宅看護を取り巻く背景を知る。			4時間
第 2 回	在宅療養と家族の支援—在宅療養と家族の支援、家族に関する中範囲理論、訪問看護の対象者とは誰か、在宅療養の成立要件		在宅看護の対象者と在宅看護の成立の要件を知る。			4時間
第 3 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護①—社会資源とは何か、高齢者に対する制度の変遷、認知症対策		在宅看護に係る制度を知る。			4時間
第 4 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護②—介護保険制度について（申請とその流れ、要介護度について、提供されるサービスについて）		在宅看護に係る制度を知る。			4時間
第 5 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護③—地域包括ケアシステムとは何か、ケアマネジメントとは何か		在宅看護に係る制度を知る。			4時間
第 6 回	在宅看護の倫理と基本理念、高齢者虐待、リスクマネジメント		高齢者虐待、在宅看護におけるリスクマネジメントを知る。			4時間
第 7 回	在宅看護が展開される様々な場と方法、災害時の在宅看護、在宅における感染症とその対応		在宅看護における災害対応、感染対策を知る。			4時間
第 8 回	在宅療養に向けての継続看護・退院指導、服薬管理		在宅療養に向けての退院指導、在宅での服薬管理を知る。			4時間
第 9 回	急性増悪・転倒予防、在宅看護を深める方法		在宅での急性増悪への対応、転倒予防策を知る。			4時間
第 10 回	在宅療養における心理社会的課題①—家族の介護疲れ、療育の困難、家族による虐待の要因とその支援方法について		家族の介護疲れ、家族による虐待について知る。			4時間
第 11 回	在宅療養における心理社会的課題②—生活困窮、社会的孤立、劣悪な住環境の要因とその支援方法について		生活困窮、社会的孤立について知る。			4時間
第 12 回	訪問看護の対象・小児—乳幼児期の発達のアセスメントについて、医療的ケア児とは誰か、小児における訪問看護の実践について		医療的ケア児、小児への訪問看護を知る。			4時間

第 13 回	訪問看護の対象・難病①—指定難病とは何か、不随意運動に関する用語の理解、難病患者の療養の時期分類について	指定難病、不随意運動に関する用語、難病を持つ人への支援を知る。	4時間
第 14 回	訪問看護の対象・難病②—代表的な神経難病（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィー）の病態について	代表的な神経難病・筋疾患の病態を知る。	4時間
第 15 回	地域包括ケアの実際—高齢者の現状と今後について、都市周辺地区（柏市、和光市）や地方都市（熊本県）の高齢者対策について	高齢者の健康寿命を延伸する支援策、地域包括ケアシステムの精神領域、母子保健領域への展開を知る。	4時間
学修評価の方法 基準（割合％）	レポート（20％）、定期試験（80％）		
フィードバックの 方 法	Classroom による出席確認に疑問、質問を記載してください。次回の講義時に、講義の冒頭で必要に応じて、スライドを用いながらフィードバックします。		
他 の 授 業 と の 関 連	老年看護学、小児看護学、成人看護学、精神看護学		
テ キ ス ト	地域療養を支えるケア 第7版（ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 1）		
参 考 図 書	都度、紹介する		
履修上の留意点	講義には既修の学修内容を踏まえた内容がたくさんあります。それらの知識を活用しながら学修してください。		
オフィスアワー	火曜日5限		
実 務 経 験 の あ る 教 員	古川 秀敏（看護師・保健師）		

【単位の実質化に関する事項】

2単位30時間の学修時間となります。この内訳は、授業20時間、授業時間外（準備学修）10時間となります。

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	地域看護学Ⅱ（援助論） [Community health Nursing Ⅱ （Assistance Theory）]	担 当 教 員 名	◎伊木 智子、溝畑 智子 柳 尚孝、桂 香織			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1 単位 ・ 15時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修 ・ ○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	4 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域で暮らす人々の健康レベル・ライフステージ、場の特性に応じた看護の多様性と看護活動の展開について学修する。 [学修目標] 1. 各発達課題、健康課題、健康レベル、場の特性に応じた対象別の看護活動を説明できる。 2. 対象別における看護活動の法的根拠や制度について説明できる。 3. 地域看護活動の基盤となる理論、健康支援の方法を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	1. オリエンテーション、多様な場における看護活動 【講義】（伊木） ・ライフステージ、健康レベルに応じた看護活動		学修内容から考察を記述			1時間
第 2 回	2. 親子（母子）保健活動 学校保健・看護活動 【講義】（伊木） 【講義】（桂）		①課題レポートを作成し提出			5時間
第 3 回	3. 成人保健活動 産業保健看護活動 【講義】（伊木）		学修内容を考察し記述			3時間
第 4 回	4. 難病保健活動 障害者保健活動 【講義】（伊木）		②課題レポートを作成し提出			5時間
第 5 回	5. 障害児への保健活動 医療的ケア児への支援 【講義】（伊木）		学修内容を考察し記述			1時間
第 6 回	6. 精神保健福祉活動 当事者の体験から学ぶ 【講義】（柳）		③課題レポートを作成し提出			12時間
第 7 回	7. 国際保健活動の実際 グローバルヘルスと保健活動～アフリカでの活動～ 【講義】（溝畑）		学修内容を考察し記述			1時間
第 8 回	8. 健康な人への予防的介入・支援方法 ・ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ等 【講義】（伊木）		学修内容を考察し記述			2時間
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	レポート課題（No.2.4.6回の授業前後提出）10%は、ルーブリック評価とします。終講の筆記試験70%、記述問題への解答を点数化して70点満点とし、合わせて100点評価とします。					
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成状況は、毎回の授業後に提出される記述内容より確認します。レポー課題の学修内容は、授業において全員にその傾向と課題をフィールドバックします。適宜、必要に応じて個々に学修課題を提示し、評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。					
他 の 授 業 と の 関 連	「公衆衛生学」「社会保障と社会福祉」「地域看護学Ⅰ」「保健医療福祉行政論Ⅰ」「在宅看護学Ⅰ・Ⅱ」および保健師課程の公衆衛生看護学の全科目・実習に連動する基盤となる重要な科目です。					
テ キ ス ト	・ 臺 優佳ら他編：ナーシンググラフィカ - 地域・在宅看護学Ⅰ 地域療養を支えるケア（メディカ出版） ・ 神馬征峰ら『系統看護学講座・専門基礎・健康支援と社会保障制度②・公衆衛生』医学書院 ・ 福田素生ら『系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉』医学書院					
参 考 図 書	学修目標達成状況に対応して、必要時、授業中に紹介します。					
履修上の留意点	地域看護学Ⅰでの学びをもとに、地域で生活するあらゆる健康レベル、発達段階にある人々がどのように暮らし、どのような健康課題があるのか関心を持ち主体的に学習に臨んでください。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< tiki@kki.ac.jp >に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	伊木 智子（保健師）、柳 尚孝（精神保健福祉士）、溝畑 智子（保健師）、桂 香織（養護教諭）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	成人看護学Ⅱ-a（急性期援助論） [Adult Nursing Ⅱ-a（Acute care Nursing）]	担 当 教 員 名	◎原田 美穂子、笠岡 和子			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3 - ①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 急性期・回復期における成人期・壮年期対象者を理解するために、急性期看護実践の基本となる基礎知識から科学的な根拠に基づく臨床判断を持ち、看護過程を展開する力を学修する。 [学修目標] 1. 急性期・回復期における患者の特徴を説明することができる。 2. 周術期看護・クリティカル看護における知識から、科学的な根拠に基づく臨床判断を説明ができる。 3. 急性期・回復期の看護を提供するための必要な援助を根拠に基づき説明することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容				授業時間外(準備学修)の内容	目標時間
第 1 回	授業ガイダンス・急性期看護の概要：急性期、回復期における患者の特徴 【講義】（原田）				(準備学修) の内容 ①講義前後の予習と復習 ②毎回の講義後に理解に関する学修内容を記述する	毎回 2時間
第 2 回	周手術期看護にある対象の治療・処置および看護 【講義】（笠岡）					
第 3 回	①手術侵襲と生体の反応 【講義】（笠岡）					
第 4 回	②麻酔の影響と合併症に対する看護 【講義】（笠岡）					
第 5 回	③手術後の創部治癒と痛みへの援助 【講義】（笠岡）					
第 6 回	④腹部手術を受ける対象の看護：胃・直腸切除術 【講義】（笠岡）					
第 7 回	⑤胸部手術を受ける対象の看護：肺摘出術 【講義】（笠岡）					
第 8 回	⑥脳神経疾患の治療をうける対象の看護：クモ膜下出血・脳梗塞 【講義】（笠岡）					
第 9 回	クリティカルケア看護：救急看護について（ショック・熱傷など） 【講義】（笠岡）					
第 10 回	クリティカルケア看護：循環不全（急性心不全・循環補助装置など） 【講義】（原田）					
第 11 回	循環不全のある対象の臨床判断と看護援助方法 【講義】（原田）					
第 12 回	クリティカルケア看護：呼吸器不全（ARDS・SARS など） 【講義】（原田）					
第 13 回	呼吸器不全のある対象の臨床判断と看護援助方法 【講義】（原田）					
第 14 回	クリティカルケア看護：急性腎不全・臨床判断と看護援助方法 【講義】（原田）					
第 15 回	周術期 事例の対象に応じた看護過程 【講義】（原田）					
学修評価の方法 基 準（ 割 合 ％）	定期試験80%、事例展開20%、合計100%					
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成状況は、毎回の講義後に提出される記述内容より確認する。適宜、必要に応じて個々に学修課題を提示し、評価内容は求めに応じて説明する。					
他 の 授 業 と の 関 連	病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、基礎看護学Ⅳ、成人看護学Ⅰ（概論）の知識が前提です。本科目は「成人看護学Ⅱb急性期援助論」に続き、また「成人看護学Ⅲ（慢性期援助論）」と並走し、「成人看護学Ⅳ（援助方法論）」「成人老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」に連動するため、継続的に学修を積み重ねが必要です。					
テ キ ス ト	系統看護学講座専門分野Ⅱ成人看護学 [2-15]、別巻「臨床外科総論」「臨床外科各論」「救急看護」医学書院					
参 考 図 書	学修目標達成状況に鑑み、必要に応じて講義中に紹介する。					
履修上の留意点	人体構造学、病態生理学の知識が必要です。事前学習が必要である。					
オフィスアワー	m.harada@kki.ac.jp に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	原田 美穂子（看護師）、笠岡 和子（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	成人看護学Ⅱ-b [Adult Nursing Ⅱ-b]	担 当 教 員 名	◎笠岡 和子、原田 美穂子			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	ディプロマ・ ポリシー番号	3-①②、4-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 回復期・終末期にある成人の健康問題の特性を理解し、急性期を経過した患者の在宅復帰に向けた退院支援への援助知識や、終末期を迎える対象の身体的・精神的苦痛に対する看護を実践するための基礎知識・技術について学修する。 [学修目標] 1. 急性期から回復期に向かう疾患の特徴と看護の特性（アセスメント・看護援助 等）を説明することができる。 2. 終末期にある対象の特徴と看護の特性、必要な援助について説明することができる。 3. 終末期にある対象の思いや希望にそった日常生活援助について説明することができる					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	急性期・回復期看護：性・生殖器疾患の看護【講義】（原田） ・生殖器疾患患者の特徴と身体的・心理・社会的問題への援助 ・乳がん・精巣がん疾患の看護の特徴と看護（アセスメント・看護援助）。		性・生殖器疾患看護について予習・復習を行う			4時間
第 2 回	急性期・回復期看護：アレルギー・膠原病・感染症疾患の看護【講義】（笠岡） ・免疫の仕組みとアレルギー疾患の看護（アセスメント・看護援助）。 ・SLE、関節リウマチ、ベーチェット病・感染症患者の疾患の特徴と症状に対する看護（アセスメント・看護援助）。 ・HIV 感染症と看護の役割		アレルギー・膠原病・感染症疾患看護について予習・復習を行う			4時間
第 3 回	急性期・回復期看護：内分泌・代謝疾患の看護【講義】（原田） ・糖尿病患者の血糖の変動に伴う急性合併症の特徴と症状に対する看護（アセスメント・看護援助）。 ・視床下部・甲状腺疾患患者の急性症状と看護（アセスメント・看護援助）。		内分泌・代謝疾患看護について予習・復習を行う			4時間
第 4 回	急性期・回復期看護・感覚器疾患の看護【講義】（笠岡） ・皮膚疾患の看護の特徴と症状に対する看護（アセスメント・看護援助）。 ・眼疾患（外傷・結膜炎・緑内障）患者の看護の特徴と症状に対する看護（アセスメント・看護援助）。 ・耳鼻咽喉疾患（突発性難聴・メニエール氏病）患者の看護の特徴と症状に対する看護（アセスメント・看護援助）。 ・歯・口腔疾患（口腔がん）患者の看護の特徴と症状に対する看護（アセスメント・看護援助）。		感覚器疾患看護について予習・復習を行う。			4時間
第 5 回	急性期・回復期看護：化学療法・放射線療法【講義】（笠岡） ・化学療法・放射線療法等を受ける前・中・後の看護の特徴とアセスメント、看護援助、副作用に対する看護		各疾患の化学療法・放射線療法を受ける患者の看護部分の予習・復習を行う。			3時間
第 6 回	急性期・回復期看護：リハビリテーション期にある対象の特徴と看護援助【講義】（原田） ・呼吸器・循環器・運動器リハビリテーションを行う患者の特徴と看護が行うべきリハビリテーション		呼吸器・循環器・運動器疾患の復習を行う。 リハビリテーションに対する看護の特徴を予習・復習を行う。			4時間

第 7 回	終末期看護：緩和ケア 【講義】（長尾） ・緩和ケアの現状とチームアプローチ、コミュニケーションスキル、緩和ケアにおける倫理的課題 ・全人的ケアの意味と緩和ケア・臨死期のケアの目標とケアの実際	緩和ケアの予習・復習を行う。	3時間
第 8 回	看護過程展開：回復期・終末期事例 【講義】（笠岡） ・短事例を用いて看護過程の展開を行う	事前に提示する事例を読み、病態生理の予習をしてくる。	4時間
学修評価の方法基準（割合％）	定期試験 80％ 小テスト10％ 事例展開10％ で評価する。		
フィードバックの方法	講義毎に質問を受けてその場で、あるいは次回の講義前に対応する。また、必要な学生について個別に対応する。		
他の授業との関連	成人看護学Ⅱ－a、人体構造学Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、基礎看護学Ⅳの知識が必要である。また、「成人老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」に連動するため、継続的に学修を積み重ねることが必要である。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2～15]、別巻「がん看護学」「緩和ケア」「リハビリテーション看護」「臨床放射線医学」医学書院		
参考図書	随時提示する。		
履修上の留意点	人体構造学、病態生理学の復習が必要である。		
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し、不在時は＜ k.kasaoka@kki.ac.jp ＞に連絡ください。		
実務経験のある教員	笠岡 和子（看護師）、原田 美穂子（看護師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	成人看護学Ⅲ [Adult Nursing Ⅲ (Chronic care Assistance)]	担 当 教 員 名	◎神谷 千鶴、下舞 紀美代、蔭山 恵美			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シー 番号	3 - ①②、4 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 慢性期にある成人の疾患と治療によって生じる機能および健康問題の特性を理解し、病とともにその人らしく生きる過程を支えるための看護についての基礎知識を学修する。 [学修目標] 1。慢性的な健康課題を有する患者と家族の状況を査定し、疾病管理に向けた看護援助方法について説明できる。 2。慢性的な健康課題を有する患者と家族を理解し、療養生活の看護援助方法について説明できる。 3。慢性的な健康課題を有する患者と家族が地域で生活できるよう、社会資源の活用方法について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	慢性期にある人と家族の理解、慢性期看護の理解、慢性期看護で用いられる理論 【講義】(神谷)		教科書の当該ページを読んでくる			3時間
第 2 回	慢性期看護の展開(健康学習支援、急性増悪悪化の予防と症状緩和) 【講義】(神谷)		教科書の当該ページを読み、慢性疾患に用いられる理論についてノートにまとめる			3時間
第 3 回	慢性期にある人・家族への看護 ①慢性閉塞性肺疾患(疾患の概要、COPDと共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア) 【講義】(神谷)		教科書の当該ページを読んでくる。 当該疾患に関する人体構造機能学・病態生理学について復習してくる。 各疾患の病態関連図を作成する。 各疾患の看護について予習をしてくる。(全回)			各 4時間
第 4 回	②気管支喘息(疾患の概要、気管支喘息と共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア) 【講義】(神谷)					
第 5 回	③慢性心不全(疾患の概要、慢性心不全と共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア) 【講義】(下舞)					
第 6 回	④白血病(疾患の概要、白血病と共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア、主に化学療法を受ける人の看護) 【講義】(神谷)					
第 7 回	⑤潰瘍性大腸炎・クローン病(疾患の概要、潰瘍性大腸炎・クローン病と共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア) 【講義】(下舞)					
第 8 回	⑥脳梗塞後遺症(疾患の概要、脳梗塞後遺症と共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア) 【講義】(神谷)					
第 9 回	⑦慢性腎臓病(疾患の概要、慢性腎臓病と共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア、CKD,CKMを含む) 【講義】(神谷)					

第 10 回	⑧2型糖尿病（疾患の概要、2型糖尿病と共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア） 【講義】（神谷）		
第 11 回	⑨全身性エリテマトーデス（疾患の概要、SLE と共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア、他の膠原病も含む） 【講義】（神谷）		
第 12 回	⑩関節リウマチ（疾患の概要、関節リウマチと共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア） 【講義】（神谷）		
第 13 回	⑪筋萎縮性側索硬化症（疾患の概要、ALS と共にある生活理解のアセスメント、看護介入、家族へのケア） 【講義】（神谷）		
第 14 回	慢性疾患を持つ患者の事例展開①【神谷】 疾患、症状、治療、検査のデータから、病態関連図を作成する 【演習】（神谷・蔭山）	事例を読み込み、分からない用語について調べ、ノートに記載する。事例のアセスメントを記録冊子に記載する。講義後必要な看護計画を立案する。	事例展開について 10時間
第 15 回	慢性疾患を持つ患者の事例展開②【演習】（神谷・蔭山） 病態関連図から明らかになった情報、看護に必要な情報をゴードンの機能的健康パターンを基にデータベースに記載する。必要な看護上の問題を取り上げ、優先順位を記載する。取り上げた看護上の問題について看護計画を立案する。		
学修評価の方法 基準（割合％）	筆記試験80％・小テスト10％・事例展開10％として評価する。		
フィードバックの方法	小テストは授業時間内に解答解説を行う。筆記試験については、定期試験期間終了後、口頭または文章にて解答解説を行う。		
他の授業との関連	基礎看護学ならびに成人看護学Ⅰ（概論）、人体構造と機能、病態治療学は準備性を高めるために重要である。また本科目は、成人看護学Ⅳ、看護過程論実習Ⅱ、成人老年看護学実習Ⅰ・Ⅱに連動するため継続的な学修が必要である。		
テキスト	黒江ゆり子編（2020）新体系 看護学全書 経過別成人看護学 慢性期看護（第1版） 系統看護学講座 専門分野 成人看護学「2～15」医学書院 江川隆子他（2014）：関連図でよくわかる病態・看護診断・看護記録、かみくだき看護診断過程、日総研、東京。基礎看護学Ⅴ（問題解決技法）で用いるテキスト		
参考図書	林直子他編集（2016）：成人看護学概論（改訂第2版）、南江堂、東京。		
履修上の留意点	☆小テストは適宜、授業時間内で Google classroom から解答してもらうので、通信環境を整えておくこと。		
オフィスアワー	水曜日17：30～18：30、臨地実習で不在時は〈c.kamiya @kki.ac.jp〉まで連絡ください。		
実務経験のある教員	神谷 千鶴（看護師）、下舞 紀美代（看護師）、蔭山 恵美（看護師）		

【単位の実質化に関する事項】

2単位90時間の学修時間となります。この内訳は、授業30時間、授業時間外（準備学修）60時間となります。

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	老年看護学Ⅱ（援助論） [Geriatric Nursing (Assistance Theory)]	担 当 教 員 名	◎下舞 紀美代			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3 - ①②、4 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 老年期の代表的な障害や疾病をもつ高齢者の健康問題を取りあげ、生活に及ぼす影響や、生活の質 を考えた看護援助及び人生の最終段階にある高齢者への看護援助方法を学修する。超高齢社会の中で多様な背景をもつ高齢者とその家族を尊重した看護援助について学修する。 [学修目標] 1. 老年期に特有な健康障害の特徴が説明できる。 2. 老年期の生活機能と具体的な看護方法が説明できる。 3. 人生の最終段階にある高齢者とその家族への看護援助について説明できる。 4. 超高齢化社会における多様な生活背景を持つ高齢者とその家族の看護援助について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	授業ガイダンス テキスト1. 第7章：治療を必要とする高齢者の看護 【講義】（下舞） ・高齢者が受けることの多い検査 ・検査を受ける高齢者への援助 ・高齢者に特徴的な薬物有害作用		手術を受ける高齢者の看護につ いてノートにまとめる。			4時間
第 2 回	テキスト1. 第8章：エンドオブライフケア ・高齢者におけるエンドオブライフケア ・意思決定への支援 ・末期段階に求められる援助 テキスト1. 第9章：生活・療養の場における看護 【講義】（下舞） ・老年期のヘルスプロモーション ・介護予防 ・保険医療福祉施設および移住施設における看護		人の終末段階に求められる援助 をノートにまとめる。			4時間
第 3 回	テキスト1. 第10章：高齢者のリスクマネジメント付章：看護過程の展開 【講義】（下舞） ・高齢者の看護過程の考え方 問題解決型思考から目標志向型思考への転換		高齢者と災害、高齢者と救命救 急につて ノートにまとめる。			2時間
第 4 回	テキスト2. 序章：「超高齢社会」における老年看護への期待 【講義】（下舞） ・高齢者の定義 ・超高齢化社会の到来		高齢者の定義、加齢との違いに ついてノートにまとめる。			4時間
第 5 回	第1章：高齢者の生理的特徴 【講義】（下舞） ・老化、老化と寿命 ・認知・知覚機能、呼吸・循環機能、消化・吸収・代謝、 排泄機能、免疫、運動機能等の老化		高齢者の生理的变化について ノートにまとめる。			4時間
第 6 回	第2章：老年症候群 【講義】（下舞） ・老年症候群の特徴 ・急性期疾患に付随する症状		老年症候群の急性疾患に付随す る症状についてノートにまとめ る。			4時間

第 7 回	第 3 章：高齢者の健康状態の把握と総合機能評価 【講義】（下舞）	高齢者のフィジカルアセスメントについてノートにまとめる。	4 時間
第 8 回	第 4 章：高齢者の疾患の特徴 ④認知症 ⑤精神・神経疾患 ⑥循環器系疾患 【講義】（下舞）	アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体を伴う認知症、前頭側頭型認知症、クロイツフェルトーヤコブ病の症候、診断、治療についてまとめる。	4 時間
第 9 回	第 4 章：高齢者の疾患の特徴 ⑦呼吸器系の疾患⑧消化器系の疾患 ⑨内分泌・代謝系の疾患 【講義】（下舞）	呼吸器機能について解剖学、生理学をノートにまとめる。	4 時間
第 10 回	第 4 章：高齢者の疾患の特徴 ⑩自己免疫疾患⑪血液の疾患 ⑫腎・泌尿器系の疾患 【講義】（下舞）	造血機能について、解剖学、生理学をノートにまとめる。	4 時間
第 11 回	第 4 章：高齢者の疾患の特徴 ⑬運動器の疾患 ⑭皮膚の疾患 【講義】（下舞）	大腿骨頸部骨折、腰部脊柱管狭窄症の症候、診断、治療についてノートまとめる。	4 時間
第 12 回	第 4 章：高齢者の疾患の特徴 ⑮感覚器の疾患 ⑯歯・口腔の疾患⑰感染症 【講義】（下舞）	高齢者に多い感染症についてノートにまとめる。	4 時間
第 13 回	第 5 章：高齢者の薬 第 6 章：高齢者のリハビリテーション 第 7 章：高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア 【講義】（下舞）	高齢者リハビリテーションの特徴、呼吸器リハビリテーション、心臓リハビリテーションについてまとめる。	4 時間
第 14 回	病態理解のための病態関連図： 高齢者の誤嚥性肺炎 高齢者の大腿骨頸部骨折（回復期） 【講義】（下舞）	高齢者に多い肺炎についてノートにまとめる。	4 時間
第 15 回	病態理解のための病態関連図： 高齢者のアルツハイマー認知症 認知症患者のリラクゼーション 【講義】（下舞）	アルツハイマー型認知症の治療についてノートにまとめる。	4 時間
学修評価の方法 基準（割合）	学修過程における目標達成状況は、定期試験（80％）小テスト（20％）で確認します。 解答例に基づき評価します。		
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成状況は、小テストの記述内容で確認します。授業において課題達成状況および残された課題について提示し、説明します。適宜、必要に応じて学習課題を提示します。評価内容は求めに応じて個々に提示し説明します。		
他 の 授 業 と の 関 連	老年看護学Ⅰ・Ⅲ、老年看護学実習、人体構造学Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと連動します。基本的な人体構造、病態治療を理解したうえでの老年看護学における特性を学習します。		
テ キ ス ト	1. 北川公子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 佐々木秀忠他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論 医学書院		
参 考 図 書	人体構造学Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの講義資料		
履修上の留意点	老年看護学Ⅱでは、加齢に伴う生理的、心理的、社会的変化を加味したうえで、その疾病及び看護方法を理解する必要があります。人体構造学や病態治療学を継続的に学修し、積み重ねていきましょう。準備学習用のノートは A4 サイズで準備ください。授業の際は持参ください。		
オフィスアワー	在室時は来客等の状況で調整し対応、不在時は「k.shimomai@kki.ac.jp」に連絡ください。		
実 務 経 験 の あ る 教 員	下舞 紀美代（看護師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	小児看護学Ⅱ（援助論） [Pediatric Nursing Ⅱ] (Assistance Theory)]	担 当 教 員 名	◎箕浦 洋子			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義・演習		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	1－①②③、2－①②③、3－①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<p>[授業の概要]</p> <p>健康障害を持つ子どもによくみられる症状及び疾患と治療によって生じる健康問題を理解し、対象者の成長・発達段階と健康レベルに応じて、子どもとその家族に必要な看護を実践するための基礎知識を学修する。</p> <p>[学修目標]</p> <p>1. 治療や検査を行う子どもの発達段階に応じた説明と同意について説明できる。</p> <p>2. 健康障害を持つ子どもが受ける治療・検査等が子どもに与える影響について説明できる。</p> <p>3. 急性期の子どもにみられる症状および疾患・治療が子どもがと家族に及ぼす影響と必要な看護を説明できる。</p> <p>4. 慢性的な疾患・障害がある子どもにみられる症状および疾患・治療が子どもと家族に及ぼす影響と必要な看護が説明できる。</p> <p>5. 終末期にある子どもにみられる症状および疾患・治療が子どもと家族に及ぼす影響と必要な看護が説明できる。</p> <p>6. 特別な状況にある（身体障害、発達障害、心の問題、児童虐待、災害）子どもと家族の特徴と必要な看護を説明できる。</p>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	発達段階に応じた子どもへの説明と同意 【講義】（箕浦） ・プレパレーションの概要と実際・発達段階に応じた同意と説明へのアプローチ		学修内容の復習と課題の予習。			3時間
第 2 回	発達段階に応じた子どもへの説明と同意【講義・演習】（箕浦） ・プレパレーションの概要と実際・発達段階に応じた同意と説明へのアプローチ		学修内容から考察を記述。			3時間
第 3 回	健康障害をもつ子どもと家族の看護 【講義】（箕浦） ・入院中の子どもと家族の看護 ・外来における子どもと家族の看護		学修内容の復習と課題の予習。			3時間
第 4 回	急性期にある子どもと家族の看護 【講義】（箕浦） ・急性期にみられる症状および疾患・治療と看護（発熱、嘔吐・下痢、脱水）		学修内容の復習と課題の予習。			3時間
第 5 回	急性期にある子どもと家族の看護 【講義】（箕浦） ・急性期にみられる症状および疾患・治療と看護（意識障害、けいれん、呼吸困難、発疹）		学修内容の復習と課題の予習。			3時間
第 6 回	急性期にある子どもと家族の看護 【講義】（箕浦） ・手術をうける子どもと家族の看護 ・救急救命処置が必要な子どもと家族の看護		学修内容の復習と課題の予習。			3時間
第 7 回	急性期にある子どもと家族の看護 【講義・演習】（箕浦） ・急性期事例（川崎病）のアセスメントと必要な看護援助		学修内容から考察を記述。			5時間
第 8 回	慢性期にある子どもと家族の看護 【講義】（箕浦） ・慢性期にみられる症状および疾患・治療と看護（Ⅰ型糖尿病、喘息、先天性心疾患）		学修内容の復習と課題の予習。			3時間
第 9 回	慢性期にある子どもと家族の看護 【講義】（箕浦） ・慢性期にみられる症状および疾患・治療と看護（ネフローゼ、泌尿器疾患、神経疾患）		学修内容の復習と課題の予習。			3時間

第 10 回	慢性期にある子どもと家族の看護 【講義】（箕浦） ・在宅療養を受ける子どもと家族への看護援助 ・移行期医療への問題と必要な看護援助	学修内容の復習と課題の予習。	3 時間
第 11 回	慢性期にある子どもと家族の看護 【講義・演習】（箕浦） ・慢性期事例（1型糖尿病）のアセスメントと必要な看護援助	学修内容から考察を記述。	5 時間
第 12 回	終末期にある子どもと家族の看護 【講義・演習】（箕浦） ・終末期の特徴と子どもの死のとりえ方 ・末期における多職種チームアプローチ	学修内容から考察を記述。	5 時間
第 13 回	特別な状況にある子どもと家族の看護【講義・演習】（箕浦） ・身体障害と医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護 ・災害を受けた子どもと家族の看護	学修内容から考察を記述。	6 時間
第 14 回	特別な状況にある子どもと家族の看護 【講義】（箕浦） ・発達障害のある子どもと家族の看護 ・心の問題を抱える子どもと家族の看護	学修内容の復習と課題の予習。	6 時間
第 15 回	特別な状況にある子どもと家族への援助【講義・演習】（箕浦） ・児童虐待を受けた子どもと家族の看護 ・まとめ	学修内容から考察を記述。	6 時間
学修評価の方法 基準（割合）	レポート課題（第2回、7回、11回、13回、14回、15回）60%はルーブリック評価、終講の筆記試験40%は、解答例に基づく評価とします。		
フィードバックの 方法	学修過程における目標達成状況は、課題の記述内容により確認し、授業において全員にその傾向と課題をフィードバックします。		
他の授業と の関連	本科目は、「小児看護学Ⅰ」で学修した対象者の成長・発達を基盤とし、健康障がいのある対象者の看護について考えます。「小児看護学Ⅲ」「小児看護学実習」に連動し、健康障がいのある対象者の理解に必要な重要な講義となります。理解を深め継続的に学修を積み重ねましょう。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 1 小児看護学概論、小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院		
参考図書	学修目標達成状況に鑑み必要に応じて授業中に紹介します。		
履修上の留意点	発達めやす表を活用しながら、対象者の成長・発達段階と健康レベルを理解し、対象者と家族に必要な看護を考えて行きます。小児の成長・発達について復習をしながら学修を深めていきましょう。		
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は＜ y.minoura@kki.ac.jp ＞に連絡ください。		
実務経験の ある教員	箕浦 洋子（看護師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	母性看護学Ⅱ -b (援助論) [Maternal Nursing Ⅱ -b (Assistance Theory)]	担 当 教 員 名	◎神谷 映里、小笠原 百恵			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・15時間			●		
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	ディプロマ・ ポリシー番号	3-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] マタニティサイクルの中の褥婦・新生児とその家族に焦点をあて、褥婦の身体的、心理・社会的特徴、新生児の胎外生活適応への過程を学修する。また、新しい家族を迎えた褥婦とその家族がセルフケア能力の向上に必要な健康管理方法や望ましい日常生活を学修する。 [学修目標] 1. 褥婦の身体的特徴や経過を説明することができる。 2. 褥婦の心理・社会的特徴を説明することができる。 3. 新生児の生理的变化を説明することができる。 4. 褥婦と新生児の正常からの逸脱を予防するための援助と看護を説明することができる。 5. 褥婦と新生児やその家族の看護に必要な援助を説明することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容				授業時間外(準備学修)の内容	目標時間
第 1 回	正常な産褥の経過と正常からの逸脱 【講義】(神谷) 産褥期の定義、産褥期の身体的特徴、全身の変化、生殖器の変化、乳房の変化				事前学習として妊娠 期・分娩期の看護 を復習する	3時間
第 2 回	褥婦の健康と生活のアセスメント 【講義】(神谷) 全身状態、子宮復古、分娩による損傷の状態、清潔、食事と栄養、排泄、 活動と休息、母乳育児の状況、栄養法、児への愛着と育児行動、褥婦の 心理・社会的状態				プリントを使用し 復習する	4時間
第 3 回	褥婦と家族の看護 【講義】(神谷) 心理・社会的変化、身体機能の回復、児との関係確立、育児、施設退院後				課題レポートを作 成し提出する	4時間
第 4 回	産褥期に起こり得る正常からの逸脱と看護 【講義】(神谷) 子宮復古不全、産褥熱、乳房トラブル(乳腺炎含む)、産後うつ病、マ タニティブルー、帝王切開術後				プリントを使用し 復習する	3時間
第 5 回	新生児の生理的变化 【講義】(小笠原) 新生児の定義・分類・体格・在胎週数別標準体重の体格分類・姿勢				プリントを使用し 復習する	4時間
第 6 回	新生児のアセスメント 【講義】(小笠原) 新生児の評価、健康状態のアセスメント				課題レポートを作 成し提出する	4時間
第 7 回	新生児とその家族の看護 【講義】(小笠原) 出生直後の看護、出生後から退院までの看護、生後1か月健診に向けた 退院時の看護				プリントを使用し 復習する	4時間
第 8 回	新生児に起こり得る正常からの逸脱と看護 【講義】(小笠原) 早産児、低出生体重児、高ビリルビン血症、新生児ビタミン K 欠乏症、 新生児蘇生				プリントを使用し 復習する	4時間
学修評価の方法 基 準 (割 合 %)	課題20%はルーブリック評価とします。 定期試験80%は解答例に基づいて評価します。					
フィードバックの 方 法	課題の学修内容は授業においてその傾向をフィードバックします。評価内容は求めに応じて個々に提示し て説明します。					
他 の 授 業 と の 関 連	母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ a に引き続いての授業です。母性看護学Ⅲ、母性看護学実習と連動していく ので継続的に学修を積み重ねてください。					
テ キ ス ト	母性看護学Ⅱ 周産期各論(医歯薬出版) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論(医学書院)					
参 考 図 書	目で見える妊娠と出産(文光堂)、病気がみえる 産科(メデックメディア)					
履修上の留意点	マタニティサイクルを理解する上で基礎となります。暗記するだけでなく身体変化等、なぜそうなるのか を理解していきましょう。全8回の授業です。欠席回数に注意してください。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< e.kamiya@kki.ac.jp >に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	神谷 映里(助産師)、小笠原 百恵(助産師)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	精神看護学Ⅱ（援助論） [Psychiatric Nursing Ⅱ（Assistance Theory）]	担 当 教 員 名	◎小出水 寿英			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間			●		
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ イ ブ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3 - ①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 精神看護の実践に必要な専門的知識を修得するとともに、観察、診療の補助、生活援助、患者・家族教育、他職種連携等の精神看護における重要な機能に結び付け、看護過程を展開する力を修得するために、主要な精神・心身の健康障がい、ならびに検査、治療に伴う人間の反応を学修する。 [学修目標] 1. 精神・心身の健康障がいについて記述し説明できる。 2. 精神・心身の健康障がいに対する人間の反応を記述し説明できる。 3. 精神・心身の健康障がいに関する検査、治療について記述し説明できる。 4. 精神・心身の健康障がいに関するリハビリテーションについて記述し説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	精神・心身の健康障がいについて 【講義】（小出水） ・精神障がいの概念・原因論・関係法規の変遷・入院形態		テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出			3時間
第 2 回	精神・心身の健康障がいに対する人間の反応について① 【講義】（小出水） ・自我障害・特徴的な症状の観察・身体的心理的検査		テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出			3時間
第 3 回	精神・心身の健康障がいに対する人間の反応について② 【講義】（小出水） ・精神症状の把握・神経伝達物質と精神機能・睡眠		テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出			3時間
第 4 回	内因性精神障がいについて① 【講義】（小出水） ・統合失調症の特徴・薬物療法・精神療法 ・リハビリテーション		テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出			3時間
第 5 回	内因性精神障がいについて② 【講義】（小出水） ・気分障害の特徴・薬物療法・精神療法・リハビリテーション		テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出			3時間
第 6 回	心因性精神障がいについて① 【講義】（小出水） ・不安症群／不安障害群および強迫症／強迫性障害の特徴・薬物療法・精神療法		テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出			3時間
第 7 回	心因性精神障がいについて② 【講義】（小出水） ・心的外傷およびストレス関連障がい群および心身症の特徴・薬物療法		テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出			3時間
第 8 回	身体因性精神障がいについて① 【講義】（小出水） 器質性精神障がいおよび症状性精神障がいの特徴・薬物療法・精神療法		テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出			3時間
第 9 回	身体因性精神障がいについて② 【講義】（小出水） ・物質依存、ギャンブル障害・てんかんの特徴・薬物療法・精神療法		テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出			3時間
第 10 回	児童・青年期精神障がいについて① 【講義】（小出水） 自閉スペクトラム症／自閉性スペクトラム障がいおよびADHDの特徴・薬物療法・精神療法		テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出			3時間

第 11 回	児童・青年期精神障がいについて② 【講義】（小出水） パーソナリティ障害および睡眠障がいの特徴・薬物療法・ 精神療法	テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出	3時間
第 12 回	精神療法（心理療法）について 【講義】（小出水） 各精神療法（精神分析的精神療法、クライエント中心療法、 認知行動療法、芸術療法など）の特徴	テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出	3時間
第 13 回	薬物療法について 【講義】（小出水） 向精神薬（抗精神病薬、抗うつ薬、気分安定薬、抗不安薬、 抗てんかん薬、睡眠薬、精神刺激薬）の効果と副反応	テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出	3時間
第 14 回	精神科リハビリテーション① 【講義】（小出水） ・退院支援と他職種連携について	テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出	3時間
第 15 回	精神科リハビリテーション② 【講義】（小出水） ・地域生活支援と他職種連携について	テキスト該当部分の通読と課題 レポート作成と提出	3時間
学修評価の方法 基準（割合％）	レポート課題の提出状況（10％）、期末テストの結果（90％）で評価する。		
フィードバックの 方法	レポート課題の学修内容は講義において全員にフィードバックを行う。個々の必要に応じて個別に課題学 修内容を説明する。講義内容及びメンタルヘルスに関する質問には随時対応する。筆記試験問題の解説は 筆記試験終了後に個々人の必要性に応じてフィードバックを行う。		
他 の 授 業 と の 関 連	「薬理学Ⅰ（総論）＜臨床薬理Ⅰ＞」「薬理学Ⅱ（臨床薬理）＜臨床薬理Ⅱ＞」「カウンセリング論」「在宅 看護論Ⅰ（概論）＜在宅看護学Ⅰ＞」「保健医療福祉行政論Ⅰ＜保健医療福祉と行政Ⅰ＞」に関する学修 は準備性を高めるため重要である。本科目は「精神看護学Ⅲ」「精神看護学実習」に連動するため継続的 に学習を積重ねて下さい。		
テ キ ス ト	①上島国利、渡部雅幸編著：ナースの精神医学、中外医学社、最新版 ②萱間真美編著：パーフェクト臨床実習ガイド精神看護、照林社、最新版		
参 考 図 書	精神看護学Ⅰで使用した以下の図書 ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本、MC メディカ出版、最新版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の基本、MC メディカ出版、最新版		
履修上の留意点	精神・心身の健康障がいや検査、治療に伴う人間の反応について深く考え、主体的に学修して下さい。		
オフィスアワー	在室時は来談者の状況に応じ対応し、不在時は＜ t.koizumi@kki.ac.jp ＞に連絡して下さい。		
実 務 経 験 の あ る 教 員	小出水 寿英（看護師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	看護過程論実習Ⅱ [Nursing Process Practicum]	担 当 教 員 名	◎下舞 紀美代： 老年看護学他、基礎・在宅・成人・小児・ 母性・精神看護学領域全教員			
期 間	2年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	3単位・135時間			●		
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②③④ 2 - ①②③ 3 - ①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護過程・看護診断の基本構造に関する知識及び問題解決思考を基に、健康障害を持ち療養生活を送っている対象者の多様な状況を踏まえて身体的・心理的・社会的側面に関わる情報収集を行い、それらを基に対象者の問題や日常生活動作のケアの援助計画立案・実施・評価することを学修する。 [学修目標] 1. 対象者の生活者としての多様な背景について説明・記述できる。 2. 対象者の健康状態・治療状況および身体的・心理的・社会的側面に関わる情報について説明・記述できる。 3. 身体的側面を中核にした病態関連図を作成し説明・記述できる。 4. 得られた情報の関連性を考え系統的に・継続的にアセスメントし、対象者に対する問題について説明・記述できる。 5. 対象者の問題の優先順位を記述できる。 6. 看護援助の成果や目標を設定し、具体的に計画立案・実施する方法を説明・記述できる。 7. 実施した看護を評価する方法を説明・記述できる。					
	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容				目標時間
実 習 計 画	1. 急性・慢性的な疾患を持ちながら生活する対象者の社会的背景や、これまでの生活習慣および生きた過程を踏まえ、成人期または老年期にある対象者を、身体的・精神的・社会的な側面から理解し看護過程の展開をする。 2. 対象者がセルフケア能力や、問題を解決する能力を獲得するために、個別性を重視した援助を実施する。 3. 対象者を尊厳ある一人の人間として向き合い、看護学生として責任ある行動をとる。	・対象者の意思尊重を踏まえ、実習誓約書、同意を得るための説明内容をまとめてくる。 ・敬語、尊敬語について調べノートにまとめてくる。 ・受け持ち患者の疾患の病態関連図を書いてくる。 ・受け持ち患者の疾患に関連する病態、治療、検査、看護についてまとめてくる。 ・受け持ち患者に必要な情報項目をデータベースに記載してくる。 ・不足情報を確認してくる ・患者の情報からどのような問題があるかを看護過程記録用紙に記述してくる。 ・受け持ち患者の問題に対して計画立案を看護過程記録用紙に記述してくる。 ・実習全ての日程で、一日の行動目標を挙げ、その目標を達成するための具体的な計画を記述してくる。				毎日 1～2 時間
学修評価の方法 基準（割合％）	看護過程に基づく実践（50％）倫理的態度（30％）学修課題（10％） 事前課題学習（10％）を評価基準表に基づき評価する。					
フィードバックの 方 法	看護過程記録は日々の記録にコメントや助言として行います。 倫理実習態度は、不適切な行為があればその場で説明し改善を求めます。					
他 の 授 業 と の 関 連	看護過程論Ⅰ、看護過程論実習Ⅰ、看護過程論Ⅱ、人体構造機能学、病態治療学					
テ キ ス ト	上記関連科目全ての資料、テキスト、薬理学Ⅰで使用したテキスト。					
参 考 図 書	適宜紹介します					
履修上の留意点	3週間の実習です。事前の健康管理は各自でお願いします。					
オフィスアワー	＊各施設で対応する教員を記載し、メールで対応します。メールアドレス一覧別紙配布					
実 務 経 験 の あ る 教 員	◎下舞 紀美代（看護師）、神谷 千鶴（看護師）、笠岡 和子（看護師）、小平 京子（看護師）、 原田 美穂子（看護師）、奥津 文子（看護師）、黒江 ゆり子（看護師）、土井 香（看護師）、 山口 夏季（看護師）、古川 秀敏（保健師）、箕浦 洋子（看護師）、谷口 英雄（看護師）、 松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、神谷 映里（助産師）、小笠原 百恵（助産師）、 永峰 啓子（助産師）、小出水 寿英（看護師）、國政 ちとせ（看護師）					

【3 学年】

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	健康と運動の理論と実践 [Theory and practice of health and exercise]	担 当 教 員 名	◎高見 栄喜			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間				○	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3-②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 現在、個人や社会において生活習慣病等に対する健康や運動・スポーツの持つ役割が注目されている。それらの現象や問題について、学生が多角的な視点を持ち、生涯にわたって豊かな生活を営むための健康や運動・スポーツの科学的・文化的認識の形成や、実践することの重要性を学ぶ。 [学修目標] 1. 現代的な健康の概念と、その変遷を理解し、多様な観点からの健康を説明できる。 2. 生涯にわたる運動・スポーツと健康との関わりを理論と実践から理解し、健康指導に活かし実践できる。 3. 生活習慣病の現状と課題を理解し、中高齢者の運動・スポーツ活動の生活化で、生きがいや楽しみながら、疾病の一次予防効果があることを説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス 健康（人生100年時代）と看護師	【講義】	講義・資料の復習			4時間
第 2 回	小論文・小テスト・レポートの書き方について	【講義】	講義・資料の復習			4時間
第 3 回	現代社会での健康について<理論編>	【講義】	講義・資料の復習			4時間
第 4 回	－生活習慣病と健康から	【講義】	①p2～7の復習			4時間
第 5 回	－予防医学、疫学の視点から	【講義】	①p7～13 ②p1～7の復習			4時間
第 6 回	ライフステージと運動・スポーツ 生涯スポーツ	【講義】	③p55～65 ④p65～92の復習			4時間
第 7 回	<学外実践編>－マレットゴルフ（生涯スポーツ実践）	【演習】	実習の振り返り			4時間
第 8 回	<学外実践編>－マレットゴルフ（異世代交流）	【演習】	実習の振り返り			4時間
第 9 回	<実践編>－卓球、テニス、室内バタンク（役割遂行）	【演習】	実習の振り返り			4時間
第 10 回	<実践編>－卓球、テニス、室内バタンク（チームワーク）	【演習】	実習の振り返り			4時間
第 11 回	<実践編>－卓球、テニス、室内バタンク（活動の楽しさ）	【演習】	実習の振り返り			4時間
第 12 回	楽しむということ（フロー理論）－運動・スポーツ	【講義】	講義・資料の復習			4時間
第 13 回	がんと健康・ケアについて（視聴覚教材）	【講義】	講義・資料の復習			4時間
第 14 回	生活習慣病（メタボリック症候群等）の現状と課題	【講義】	③p91～101の復習			4時間
第 15 回	まとめ 最終課題	【講義】	定期試験範囲の復習			4時間
学修評価の方法 基 準（割 合％）	最終・課題レポート・気づき課題等（80%）、学修態度等の授業に臨む姿勢・振り返り等（20%）					
フィードバックの 方 法	レポート課題、振り返り等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをします。次回以降のレポート課題の参考になるようなコメントを心掛けたいです。					
他 の 授 業 と の 関 連	「疫学」や保健師課程科目での、運動・スポーツ活動による生活習慣の改善、さらに生活習慣病などの一次予防効果につなげるスキルの向上を希望します。					
テ キ ス ト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。					
参 考 図 書	①出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義第2版」杏林書院。②日本疫学会監修「はじめて学ぶやさしい疫学－疫学への招待－改訂第2版」南江堂。③青木高・太田壽監修、山口泰雄編「健康・スポーツの社会学」健帛社。④M・チクセントミハイ著、今村浩明訳「楽しみの社会学」新思索社。					
履修上の留意点	健康について皆さんと共に考え認識を深め、また、身体を使って楽しく学びたいと思っています。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< h.takami@kai.ac.jp >に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	情報処理 [Information processing]	担 当 教 員 名	◎高見 栄喜			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間				○	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	2	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療現場における定期的、定量的な観察、医療情報の入手や理解、カルテの電子化など、医療・看護・保健分野における情報処理能力の必要性は高まっている。情報処理の基礎知識として、ワードによる文書作成、エクセルによる表計算やグラフ機能、パワーポイントによるプレゼンテーション資料作成の技術などを中心に学修する。学生がソフトウェアやネットワークワークを利用する上でのマナーや倫理、また医療職としてのコミュニケーションの側面からも学ぶ。 [学修目標] 1. 情報リテラシーを学び、情報コミュニケーションを円滑にするスキルを説明できる。 2. Office シリーズでの情報処理スキルを理解し、課題をそれらの機能を用いて処理し、グラフで視覚的に分かりやすく記述できる。 3. チームで協調しプレゼン課題に取り組み、チームとしての意見を統合し、パワーポイントでプレゼン発表ができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス、コミュニケーションツールとしての情報技術 【講義】		講義資料・便覧の復習			4時間
第 2 回	情報コミュニケーションの基本の理解 【講義】		① p2 ～ 55			4時間
第 3 回	情報リテラシー、情報セキュリティ、情報モラル 【講義】		① p58 ～ 92			4時間
第 4 回	PC 等の基本的操作とワード・ドキュメントの使用法 【演習】		① p168 ～ 197			4時間
第 5 回	ワードでの課題、データベース基礎文書作成 【演習】		演習課題の作成と復習			4時間
第 6 回	ワードでの課題、案内状の作成 【演習】		演習課題の作成と復習			4時間
第 7 回	エクセルでの表計算と関数の基礎 【演習】		演習課題の作成と復習			4時間
第 8 回	エクセルでの課題、成績処理 【演習】		演習課題の作成と復習			4時間
第 9 回	エクセルでの課題、視覚化（グラフの作成） 【演習】		演習課題の作成と復習			4時間
第 10 回	エクセルでの課題、生化学データでの応用 【演習】		演習課題の作成と復習			4時間
第 11 回	パワーポイントでのプレゼン資料の説明 【演習】		プレゼン課題作成と復習			4時間
第 12 回	パワーポイントでのプレゼン資料の作成 【演習】		プレゼン課題作成と復習			4時間
第 13 回	パワーポイントでのプレゼン発表（ピア評価） 【演習】		プレゼン課題作成と復習			4時間
第 14 回	パワーポイントでのプレゼン発表（質疑応答） 【演習】		プレゼン課題作成と復習			4時間
第 15 回	自己評価発表 まとめ 【演習】		資料・演習課題まとめ			4時間
学修評価の方法 基準（割合％）	課題発表・最終課題（40%）、課題提出（40%）、学修態度等の授業に臨む姿勢・振り返り等（20%）					
フィードバックの 方 法	提出課題・プレゼン発表等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをする。					
他 の 授 業 と の 関 連	「統計学」で統計検定の結果を、エクセルのグラフ機能で描画し、またパワーポイントのプレゼン機能で研究発表のスキルを継続して向上してください。					
テ キ ス ト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。					
参 考 図 書	①大嶋淳俊著、情報活用学入門－情報化社会の「攻め方」・「守り方」、学文社。					
履修上の留意点	講義をきっかけとして、PC 室や自宅で積極的に PC 等を使用してください。苦手意識のある方は、1日1回は PC 等に触れ、情報処理技術が身に付く習慣を持ってくださいね。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< h.takami@kki.ac.jp >に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	法と人権 [law and human rights]	担 当 教 員 名	◎白鳥 義彦			
期 間	3 年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間				○	
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	2	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シー 番号	1 - ①③、2 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 近代的な人権思想が成立してきた背景や展開の過程を概観した上で、立憲主義の考え方を踏まえながら、日本国憲法の主要原理である国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に学ぶ。さらに憲法に定められる統治機構（内閣、国会、裁判所）についても学修する。 [学修目標] 看護者として、またそれ以前に人間として必要不可欠な、人権の知識と人権感覚を身につける。そのために、憲法ならびに国際的な諸法規が保障する人権の歴史的展開や内容やその意義、社会的に不利な立場の人々が直面する人権問題について、具体例を交えて説明できる。さらに法と人権との関わりという観点から現実をとらえる視点を心得、人権を保障するための制度としての統治機構についての基本的な知識を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	Q & A 暮らしの中の人権問題		①授業前後の、授業の内容に関する予習と復習。 ②毎回の授業後に理解に関する学習内容を記述し整理。 ③授業に関連する時事問題に関心を広げる。			毎回 4 時間
第 2 回	人権の履歴書（１）－西欧での人権思想のあゆみ					
第 3 回	人権の履歴書（２）－西欧での人権思想のあゆみ					
第 4 回	人権の履歴書（３）－日本での人権思想のあゆみ					
第 5 回	人権思想の現代的な展開（１）－西欧社会を中心に					
第 6 回	人権思想の現代的な展開（２）－非西欧社会を中心に					
第 7 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表（１）					
第 8 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表（２）					
第 9 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表（３）					
第 10 回	国際機関と人権					
第 11 回	憲法と人権					
第 12 回	統治機構－歴史的、国際的な考察					
第 13 回	統治機構－内閣					
第 14 回	統治機構－国会					
第 15 回	統治機構－裁判所					
学修評価の方法 基準（割合％）	各授業後のコメント（10％）、グループ発表（20％）、テスト（70％）					
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成状況は、毎回の授業後に提出されるコメントの記述内容により確認します。また各授業後のコメントに対しては、次の授業時に重要なものを取り上げてフィードバックします。グループ発表に対しては、授業の中で発表後にフィードバックします。					
他 の 授 業 と の 関 連	特に関連の深い授業は「医療と人権」であり、医療に限定されない人権、およびその基盤にある憲法について、「法と人権」で学ぶ。					
テ キ ス ト	通常の授業はプリントを配布して行う。					
参 考 図 書	樋口陽一著『一語の辞典 人権』三省堂 渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法１人権』、『憲法２統治』有斐閣					
履修上の留意点	具体的な事例とも関連づけながら授業を進めたいと思いますので、ニュース等にも幅広く関心を持ってください。人権を自らの問題と感じられるよう、楽しく授業を進めていきたいと思います。					
オフィスアワー						
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	英語 III	担 当 教 員 名	◎ William C. Simmons			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・30時間				○	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	1.2	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ④、2 - ③、5 - ①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] This class will cover common terms, situations, and circumstances for nurses dealing with patients in English. [学修目標] This class is designed to boost students' confidence in using English, both in the medical field and in daily life, regardless of their current level of English proficiency.					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	Introductions- Meeting Patients					1 時間
第 2 回	Taking a Medical History		Audio 1-11, 1-12 p.12-13			1 時間
第 3 回	Assessing Patients' Symptoms		Audio 1-18, 1-19 p.18-19			1 時間
第 4 回	Taking Vital Signs		Audio 1-28, 1-29 p.26-27			1 時間
第 5 回	Taking a Specimen		Audio 1-35, 1-36 p.32-33			1 時間
第 6 回	Group Project -Role Play- Blood, Urine Sample		Project preparation			1 時間
第 7 回	Conducting Medical Examinations		Audio 1-41, 1-42 p.38-39			1 時間
第 8 回	Assessing Pain		Audio 2-03, 2-04 p.48-49			1 時間
第 9 回	Advising about Medication		Audio 2-11, 2-12 p.54-55			1 時間
第 10 回	Improving Patients' Mobility		Audio 2-19, 2-20 p.60-61			1 時間
第 11 回	Group Project -Role Play-Medication, Mobility		Project preparation			1 時間
第 12 回	Maintaining a Good Diet		Audio 2-28, 2-29 p.68-69			1 時間
第 13 回	Caring for Inpatients		Audio 2-35, 2-36 p.74-75			1 時間
第 14 回	Coping with Emergencies		Audio 2-42, 2-43 p.80-81			1 時間
第 15 回	Group Project and Review for Final		Project preparation			1 時間
学修評価の方法 基準 (割 合 %)	Participation in class and homework (45%) Group Role Play Projects (30%) , Final Paper Test (25%)					
フィードバックの 方 法	Spoken feedback will be given during daily in class exercises.					
他 の 授 業 と の 関 連						
テ キ ス ト	Caring for People					
参 考 図 書	Download Flashcards app. Twitter : @FlashcardsNKO iOS version or web version					
履修上の留意点	Talking or making a clear effort to talk in English is a must. This is not a lecture. Participation is important.					
オフィスアワー						
実 務 経 験 の あ る 教 員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	疫学 [Epidemiology]	担 当 教 員 名	◎西村 由実子			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間				○	
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 疫学は、地域社会や組織など集団における疾病や健康の分布や決定要因を探り、疾病予防および健康増進対策に寄与する科学である。広く公衆衛生に貢献することを目的として、疫学的思考方法の基礎と国内外の健康動向を学ぶ。 [学修目標] 1. 疫学研究で使われる基本的な指標を理解し、計算することができる 2. 様々な研究デザインの特徴を理解し、説明することができる 3. 疫学研究の成果を地域における健康増進対策に役立てる方法を理解する					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス／疫学の概念：身近な天気予報から疫学的思考を考える		★1章 熟読 レポート「この人を通じて疫学を学ぶ」作成			4時間
第 2 回	集団の健康状態の把握 (1) 頻度の指標〔・有病率、罹患率、累積罹患率、致命率〕		★2章 熟読			4時間
第 3 回	集団の健康状態の把握 (2) 死亡率〔年齢調整死亡率の計算〕		★2/9章 熟読			4時間
第 4 回	集団の健康状態の把握 (3) 曝露効果の指標〔相対危険、寄与危険、オッズ比の計算〕		★2章 熟読			4時間
第 5 回	疫学的研究方法 (1) 研究デザイン全体像：各デザインの特徴、長所、短所		★3章 熟読			4時間
第 6 回	疫学的研究方法 (2) 研究における誤差、バイアス、交絡とその制御法		★3章 熟読			4時間
第 7 回	疫学的研究方法 (3) 因果推論、標本抽出、質問紙調査法、インタビュー法		★3章 熟読			4時間
第 8 回	疾病登録：感染症サーベイランスとがん疾病登録／中間テスト：前半総復習		★5章 熟読／総復習			4時間
第 9 回	疾病の予防とスクリーニング：スクリーニングの要件、感度、特異度、ROC 曲線		★4章 熟読			4時間
第 10 回	おもな疾患の疫学：主な疾患の罹患、有病、死亡の最新状況を網羅的に把握する		★6章 熟読			4時間
第 11 回	疫学と公衆衛生看護：社会疫学、政策疫学、臨床疫学の目的と特徴を理解する		★7章 熟読			4時間
第 12 回	保健統計学の基礎 (1) ワーク“データを集め集約する”連続変数とカテゴリ変数		★8章 熟読 統計レポート「データを集約する」作成			4時間
第 13 回	保健統計学の基礎 (2) 統計学的推定と検定の考え方を理解する		★8章 熟読			4時間
第 14 回	人口統計の基礎・保健統計調査：人口指数の計算、各種基幹統計の特徴		★9/10章 熟読			4時間
第 15 回	保健医療情報の管理・活用／まとめ：改正個人情報保護法と研究倫理指針		★11章 熟読／総復習			4時間
学修評価の方法 基準 (割 合 %)	授業参加 (15%)、レポート「この人を通じて疫学を学ぶ」(5%)、中間テスト (20%)、統計レポート (10%)、定期試験 (50%) 各回の出欠確認で問題を出します。中間テストと定期試験は、その出欠確認問題と同様の問題で構成されるので丁寧に復習しましょう。					
フィードバックの 方 法	授業内で出欠確認問題へのフィードバックをします。レポートには個別のコメントと全体への講評を行います。課題提出・フィードバックに Google Classroom を使います。					
他 の 授 業 と の 関 連	「統計学」「公衆衛生学」はこの授業を理解する上で役に立ちます。この授業では「卒業研究」で必要となる研究デザインについて詳細に解説します。					
テ キ ス ト	牧本清子ら著「標準保健師講座別巻2疫学・保健統計学」医学書院 (最新版)・・・★					
参 考 図 書	大木秀一著「基本からわかる看護疫学入門」(医歯薬出版株式会社) 浅野嘉延著「看護学生のための疫学・保健統計」(南山堂)					
履修上の留意点	保健師国家試験受験希望者は必修です。その他のみなさんも歓迎します。根拠に基づく医療および看護の担い手となるためには、疫学的思考と情報処理力は必須です。					
オフィスアワー	水曜日12:00～15:00、意見や相談はメール y.nishimura@kiki.ac.jp でいつでも受けます。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	西村 由実子 (WHO モーリシャス勤務)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	在宅看護学Ⅱ（援助論） [Home Health Care Nursing Theory II (Assistance Theory)]	担 当 教 員 名	◎古川 秀敏			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間				●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ イ ブ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護ニーズを持つ居宅生活者とその家族を理解し、わが国の在宅療養に関する背景および看護支援に必要な知識を学ぶ。あわせて、在宅療養に関わる制度についても学ぶ。さらに、在宅での療養者に対する看護過程の展開を学修する。 [学修目標] 1. 在宅看護学の概念および特性と機能を説明できる。 2. 在宅ケアシステムと在宅ケアシステムにおける看護の役割と機能を説明できる。 3. 在宅看護に係る制度、法律を説明できる。 4. 在宅における看護過程を展開できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	在宅看護を支える訪問技術①—訪問看護の概要（地域包括ケアシステムについて、訪問看護ステーションと保険制度について、介護保険について）		地域包括ケアシステムを理解する。ケアマネジメントとは何かを知る。訪問看護ステーションと保険制度について知る。			4時間
第 2 回	在宅看護を支える訪問技術②—訪問看護の実際（訪問看護の特徴とは何か、訪問看護に必要な能力とは何か、訪問看護の対象者とは誰か、訪問看護における看護過程とはどんなものか）		訪問看護の特徴を知る。訪問看護に必要な能力を知る。訪問看護の対象者を知る。訪問看護における看護過程を知る。			4時間
第 3 回	在宅療養者と家族を支える技術①—日常生活援助技術（在宅における食事摂取能力、清潔、移動についてのアセスメントと援助技術について）		在宅における食事摂取能力のアセスメントと援助の技術、清潔のアセスメントと援助の技術、移動のアセスメント援助の技術を知る。			4時間
第 4 回	在宅療養者と家族を支える技術②—日常生活援助技術（在宅における排泄のアセスメントと援助の技術、膀胱留置カテーテルの管理方法について）		在宅における排泄のアセスメントと援助の技術、膀胱留置カテーテルの管理方法について知る。			4時間
第 5 回	在宅療養者と家族を支える技術③—血液ガス分析における検査項目とその基準値について、在宅酸素療法に必要な物品、使用方法、管理方法における療養者（とその家族への）支援について		在宅での呼吸管理のための看護、在宅酸素療法を行う療養者（とその家族）への指導内容を知る。			4時間
第 6 回	在宅療養者と家族を支える技術④—在宅での経管栄養法と観察点およびその支援方法について、在宅での中心静脈栄養法の方法と観察点およびその支援方法について		在宅での栄養管理のための看護、在宅経管栄養療法および在宅中心静脈栄養療法を行う療養者と家族への指導内容を知る。			4時間
第 7 回	在宅療養者と家族を支える技術⑤—在宅でのスキンケアについて、在宅での膀胱留置カテーテルの観察点および管理方法について、腹膜透析（CAPD）の方法と観察点およびその注意点について		在宅看護におけるスキンケア、カテーテルの固定方法、および腹膜透析を知る。			4時間
第 8 回	在宅療養者と家族への状態別支援①—在宅でのがん性疼痛への対応方法について、在宅での看取りとその支援方法について		ターミナル期を知る。ターミナルケアにおける訪問看護師の役割、在宅におけるがん性疼痛への対応、臨終の際に必要な家族への指導内容を知る。			4時間

第 9 回	在宅療養者と家族を支える技術⑦—在宅で療養する精神疾患や難病をもつ人への社会資源や支援制度について、在宅で療養する小児における社会資源、支援制度について	在宅で療養する精神疾患患者への看護、在宅で療養する小児への看護、在宅で療養する難病患者の社会資源を知る。	4時間
第 10 回	看護過程①—紙面事例における病態関連図の作成してみよう。	病態関連図を作成する。	4時間
第 11 回	看護過程②—紙面事例をアセスメントしてみよう。	整理・解釈・総合の作成。	4時間
第 12 回	看護過程③—紙面事例についてアセスメントした内容を統合する。	アセスメントした内容を統合する。	4時間
第 13 回	看護過程④—看護診断を考えよう。	看護診断を照合する。	4時間
第 14 回	看護過程⑤—目標を設定し、看護計画を立案しよう。	目標を設定し、看護計画を立案する。	4時間
第 15 回	まとめ—紙面事例の看護過程の解説	展開した看護過程を評価する。	4時間
学修評価の方法基準（割合％）	看護過程（30％）、定期試験（70％）		
フィードバックの方法	Classroom による出席確認に疑問、質問を記載してください。次回の講義時に、講義の冒頭で必要に応じて、スライドを用いながらフィードバックします。		
他の授業との関連	老年看護学、小児看護学、成人看護学、精神看護学		
テキスト	地域療養を支えるケア 第7版（ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 1）（2年時購入済み）		
参考図書	都度、紹介する		
履修上の留意点	講義には既修の学修内容を踏まえた内容がたくさんあります。それらの知識を活用しながら学修してください。		
オフィスアワー	火曜日5限		
実務経験のある教員	古川 秀敏（保健師）		

【単位の実質化に関する事項】

2単位30時間の学修時間となります。この内訳は、授業20時間、授業時間外（準備学修）10時間となります。

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	公衆衛生看護学概論 [Public Health Nursing (Introduction)]	担 当 教 員 名	◎伊木 智子			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・15時間				●保健師	
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	ディプロマ・ ポリシー番号	4-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 公衆衛生看護の歴史的背景、公衆衛生看護の概念と公衆衛生看護活動を担う保健師の役割・機能について学修する。公衆衛生看護活動の対象である個人・家族、集団・グループ・組織、地域のとらえ方、活動の場と方法の特徴を踏まえ、公衆衛生看護活動の今後の課題、保健所・市町村の保健師に求められる役割・機能、専門性について学修する。 [学修目標] 1. 公衆衛生看護の理念と機能を説明できる。 2. 公衆衛生看護活動の基盤となる概念を説明できる。 3. 公衆衛生看護活動の対象と展開方法、活動方法を説明できる。 4. 公衆衛生看護活動の対象とその特徴を説明できる。 5. 公衆衛生看護の歴史的背景から今後の保健師活動を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	1. オリエンテーション ・ 公衆衛生看護の基本理念、定義、倫理 ・ 保健師に求められる基本的な資質・能力		教科書1章A・D 学修内容から考察を記述			4時間
第 2 回	2. 公衆衛生看護活動の基盤となる理論 ・ ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケア等		教科書1章B・C 学修内容から考察を記述			4時間
第 3 回	3. 公衆衛生看護活動の対象 ・ 公衆衛生看護の対象とその特徴、公衆衛生看護の場		教科書2章 学修内容から考察を記述			4時間
第 4 回	4. 公衆衛生看護活動の展開の基盤 ・ 基盤となる概念（生活モデルと医療モデル、予防） ・ ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ		教科書5章B 学修内容から考察を記述			4時間
第 5 回	5. 公衆衛生看護活動の基本的な展開方法 ・ 個別・家族、集団・グループ、地域、施策化・事業化へのアプローチ		教科書5章C 学修内容から考察を記述			4時間
第 6 回	6. 公衆衛生看護活動の法的根拠と活動の場① ・ 都道府県・保健所における保健師の役割と活動		教科書3章A 学修内容から考察を記述			3時間
第 7 回	7. 公衆衛生看護活動の法的根拠と活動の場② ・ 市町村における保健師の役割と活動		教科書3章A 学修内容から考察を記述			3時間
第 8 回	8. 公衆衛生看護の歴史 まとめ		教科書10章A 学修内容から考察を記述			4時間
学修評価の方法 基準（割合％）	課題提出物（10％）、小テスト（10％）、試験（80％）					
フィードバックの 方 法	授業中の小テストで学習目標の達成状況を確認する。目標到達状況に応じて授業においてフィードバックする。評価内容は求めに応じて個々に提示し説明する。授業の中で課題のフィードバックを行う。					
他 の 授 業 と の 関 連	地域看護学Ⅰ・Ⅱ、保健医療福祉行政論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅰ					
テ キ ス ト	標 美奈子ら他著：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論（医学書院） 最新版					
参 考 図 書	・ 無名の語り 保健師が「家族」に出会う12の物語（医学書院） ・ ふみしめて70年 日本公衆衛生協会 奥山則子					
履修上の留意点	・ 2年次に履修した地域看護学Ⅰ・Ⅱ、保健医療福祉行政論Ⅰで学修した内容と深く関連しているためレジュメ・資料を確認しましょう。 ・ 保健師課程科目の基盤となる科目です。自己学習を十分に行い、主体的に学修すすめるようにしましょう。					
オフィスアワー	メールで事前に予約をお願いいたします。 伊木智子（tiki@kki.ac.jp）					
実 務 経 験 の あ る 教 員	伊木 智子（保健師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	公衆衛生看護活動論Ⅰ [Public Health Nursing Activities Ⅰ]	担 当 教 員 名	◎臼井 香苗			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	3単位・45時間				●保健師	
授 業 形 態	講義・演習		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 公衆衛生看護の対象、場の特性に応じた看護活動のあり方と保健指導の展開について、講義や演習を通じて学修する。 [学修目標] 1. 公衆衛生看護活動における保健指導の基本と展開方法を理解する。 2. 各発達課題、健康問題、健康レベル、場の特性に応じた対象別の保健指導を理解する。 3. 対象別保健活動の法的根拠や制度について理解する。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	保健活動の対象と場面、健康課題解決への支援 【講義】		【予習】 教科書の該当箇所や参考書に目を通して概要を把握しておく。 【復習】 教科書や配布された資料の内容、授業中のノートをもとに理解を深める。			各 3～4 時間 合計 90時間
第 2 回	地域における親子保健（母子保健）活動の基本 【講義】					
第 3・4 回	地域における親子保健活動の展開：新生児家庭訪問計画の作成 【演習】					
第 5 回	地域における親子保健活動の展開：新生児家庭訪問計画の発表とディスカッション 【演習】					
第 6 回	乳幼児健康診査の視点 【講義】					
第 7 回	親子保健（母子保健）活動における今日的課題 【講義】					
第 8 回	地域における成人保健活動の基本 【講義】					
第 9 回	地域における成人保健活動の展開 【講義】					
第 10 回	特定健診・特定保健指導 【講義】					
第 11 回	特定健康診査問診の展開 【演習】					
第 12 回	地域における高齢者保健活動の基本 【講義】					
第 13 回	地域における高齢者保健活動の展開 【講義】					
第 14 回	成人・高齢者保健活動における今日的課題 【講義】					
第 15 回	地域における精神保健活動の基本 【講義】					
第 16 回	地域における精神保健活動の展開 【講義】					
第 17 回	地域における難病保健活動 【講義】					
第 18 回	地域における障害者（児）保健活動 【講義】					
第 19 回	歯科口腔保健の基本・健康教育媒体 【講義】					
第 20 回	歯科口腔保健活動の展開：教育媒体作成 【演習】					
第 21 回	歯科口腔保健活動の展開：健康教育媒体の発表・ディスカッション 【演習】					
第 22 回	感染症保健活動 【講義】					
第 23 回	結核保健対策の実際・まとめ 【講義】					
学修評価の方法 基 準（割 合％）	定期試験50％、ミニテスト・ミニレポート30％、グループワーク成果物・参加状況20％					
フィードバックの 方 法	口頭または文書にてフィードバックします。					
他 の 授 業 と の 関 連	4年次の公衆衛生看護学実習Ⅱにつながる科目のため、継続的に学修を深めていきましょう。					
テ キ ス ト	標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院					
参 考 図 書	必要に応じて資料を配布します。					
履修上の留意点	これまでの公衆衛生看護学関連の科目での学びをもとに、地域で生活するあらゆる健康レベルや発達段階にある人々がどのように暮らし、どのような健康課題があるのか関心持ち主体的に学習してください。グループワークや演習を用いて学習を促進するので、積極的に参加してください。					
オフィスアワー	状況に応じて在室時に随時対応します。不在時は k.usui@kki.ac.jp に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	臼井 香苗（保健師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	成人看護学Ⅳ（援助方法論） [Adult Nursing Science Ⅳ (Assistance Methodology)]	担 当 教 員 名	◎原田 美穂子、神谷 千鶴、笠岡 和子、 下舞 紀美代、蔭山 恵美、村田 節子			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・45時間				●	
授 業 形 態	講義・演習		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	4－①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 生体機能検査や周手術期、救急・集中治療、慢性疾患の治療および、看護診断に対応する看護介入をうける成人期の対象を理解し、看護援助を行うための看護技術の方法とその根拠を学修する。 [学修目標] 1. 生体の機能を把握するための検査の介助（心電図モニターの電極の装着）について学ぶ。 2. 周手術期の看護技術（無菌操作・創傷処置／管理・ドレーン管理・膀胱留置カテーテル）を実践する。 3. 救急・集中治療時の看護技術（気管吸引・輸液療法／管理）を実践する。 4. 慢性疾患におけるセルフケアマネジメントを促す技術(血糖自己測定・酸素療法・吸入・経管栄養・フットケア）を実践する。 5. 看護診断に対応する看護介入技術（関節可動域訓練・筋力強化訓練）を実践する。 6. 患者教育					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス 1) 生体の機能を把握するための検査の介助： 心電図モニターの電極装着 【講義】（原田）		(準備学修) の内容			なし
第 2 回	2) 周術期の看護技術： ①無菌操作 ②創傷処置／管理・ドレーン管理 【講義】（原田） ③膀胱留置カテーテル 【講義】（笠岡）					
第 3 回	3) 救急・集中治療時の看護技術： ①気管吸引 【講義】（原田） ②輸液療法／管理 【講義】（神谷）					
第 4 回	4) 慢性疾患におけるセルフケアマネジメントを促す技術： ①血糖自己測定 【講義】（下舞） ②酸素療法 【講義】（笠岡）					
第 5 回	4) 慢性疾患におけるセルフケアマネジメントを促す技術： ③経管栄養 【講義】（下舞） ④フットケア 【講義】（神谷）					
第 6 回	5) 看護診断に対応する看護介入技術： ①関節可動域訓練 【講義】（笠岡） ②筋力強化訓練 【講義】（原田）					
第 7 回	2)－①無菌操作 ②創傷処置／管理・ドレーン管理 【演習】（原田）					
第 8 回	2)－③膀胱留置カテーテル 【演習】（笠岡）					
第 9 回	3)－①気管吸引 【演習】（原田）					
第 10 回	3)－②輸液療法／管理 【演習】（神谷）					
第 11 回	3)－②輸液療法／管理 【演習】（神谷）					
第 12 回	4)－①血糖自己測定 【演習】（下舞）					

第 13 回	4) - ②酸素療法	【演習】(笠岡)	
第 14 回	4) - ③経管栄養	【演習】(下舞)	
第 15 回	4) - ④フットケア	【演習】(神谷)	
第 16 回	5) - ①関節可動域訓練	【演習】(笠岡)	
第 17 回	5) - ②筋力強化訓練	【演習】(原田)	
第 18 回	患者教育	【演習】(神谷)	
第 19 回	患者教育	【演習】(神谷)	
第 20 回	周術期の看護技術：技術確認 【演習】(原田、神谷、笠岡、下舞、蔭山、村田)		
第 21 回	救急・集中治療時の看護技術：技術確認 【演習】(原田、神谷、笠岡、下舞、蔭山、村田)		
第 22 回	慢性疾患におけるセルフケアマネジメントを促す技術： 技術確認 【演習】(原田、神谷、笠岡、下舞、蔭山、村田)		
第 23 回	看護診断に対応する看護介入技術：技術確認 【演習】(原田、神谷、笠岡、下舞、蔭山、村田)		
学修評価の方法 基準(割合%)	援助技術は技術チェック表に沿って学修状況を確認します。また周手術期の看護技術の中から1項目(10%評価)、救急・集中治療時の看護技術の中から1項目(10%評価)、慢性疾患におけるセルフケアマネジメントを促す技術の中から1項目(10%評価)、看護診断に対応する看護介入の看護技術の中から1項目(10%評価)の技術確認を行います。対象となる項目については、随時お知らせします。また定期試験(筆記)を(60%評価)とします。技術確認の4項目の評価と定期試験の評価を合わせて100%(点)になります。		
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成は、定期的に提出する課題で確認し、口頭またはコメントでフィードバックを行います。援助技術は、技術確認において、個別に口頭でフィードバックを行います。		
他 の 授 業 と の 関 連	「成人看護学Ⅰ(概論)」「成人看護学Ⅱa、b(急性期援助論)」「成人看護学Ⅲ(慢性期援助論)」の知識が前提です。「成人老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ」に連動し、臨地実習で行う援助技術も含まれています。系統的に学修を積み重ねましょう。		
テ キ ス ト	看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術 生きた臨床技術を学び看護実践能力を高める、2023、南江堂。		
参 考 図 書	看護技術プラクティス、看護がみえる vol.2臨床看護技術		
履修上の留意点	人体構造学、病態生理学、成人看護学(援助論)の知識が必要です。事前学習が必要になります。		
オフィスアワー	m.harada@kki.ac.jp に連絡ください。		
実 務 経 験 の あ る 教 員	原田 美穂子(看護師)、神谷 千鶴(看護師)、笠岡 和子(看護師)、下舞 紀美代(看護師)、蔭山 恵美(看護師)、村田 節子(看護師)		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	老年看護学Ⅲ（援助方法論） [Geriatric Nursing Ⅲ (Methodology of Assistance)]	担 当 教 員 名	◎下舞 紀美代、神谷 千鶴、笠岡 和子、 原田 美穂子、蔭山 恵美、村田 節子				
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4	
単 位 数 ・ 時 間	1単位・30時間				●		
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択				
カリキュラム・ ポリシー 番号	4	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	3-②、4-①②③				
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] あらゆる健康障害レベルの健康課題（問題）をもつ高齢者とその家族を対象に必要な援助を計画し、看護援助を実践するための看護技術を学修する。看護援助実施における高齢者とその家族への尊厳について学修する。 [学修目標] 1. 高齢者（紙上事例）の身体・心理・社会変化、生活歴を踏まえた全体像が説明できる。 2. 高齢者（紙上事例）の生活の質を支えるために必要な看護援助を計画立案できる。 3. 高齢者（紙上事例）の生活の質を支えるために必要な看護援助が実施できる。 4. 看護援助の根拠を説明し、看護援助実施における高齢者とその家族の尊厳について議論することができる。						
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間	
第 1 回	ガイダンス 紙上事例の看護過程の展開 事例説明、情報収集 病態関連図・事例関連図作成 【講義】（下舞）		加齢に伴う生理的変化の嚥下障害を図に書いてくる。			各回 1時間 合計 15時間	
第 2 回	データベース記載 病態関連図・事例関連図作成 【演習】（下舞、神谷、笠岡、原田、蔭山、村田）		病態関連図を書いてくる				
第 3 回	事例の関連図 関連図の症状を裏付ける情報の記入。 【演習】（下舞、神谷、笠岡、原田、蔭山、村田）		事例関連図を書いてくるアセスメントに必要な情報を書いてくる				
第 4 回	情報を基にアセスメントし、健康問題を明確にする。 【演習】（下舞、神谷、笠岡、原田、蔭山、村田）		健康問題を、ガイドラインを参考に書いてくる。				
第 5 回	計画立案 【演習】（下舞、神谷、笠岡、原田、蔭山、村田）		計画立案の一部を書いてくる				
第 6 回	事例展開発表会・議論 【演習】（下舞、神谷、笠岡、原田、蔭山、村田）		自らの意見が述べられるように、まとめてくる				
第 7 回	体圧測定・体圧分散 【講義】（下舞） 口腔ケア・嚥下訓練 【講義】（下舞） タッチングケア 【講義】（下舞）		技術の目的方法を確認し、事例展開の対象者に必要な看護ケアをノートに書いてくる。				
第 8 回	【演習】（下舞、神谷、笠岡、原田、蔭山、村田）		第8回～第13回は高齢者への身体的侵襲を最小限に実施するために必要な看護技術の手順と必要物品を資料で確認する。				
第 9 回	体圧測定・体圧分散 } ローテーション						
第 10 回	口腔ケア・嚥下訓練 }						
第 11 回	タッチングケア }						
第 12 回	体圧測定・体圧分散 } ローテーション						
第 13 回	口腔ケア・嚥下訓練 }						
第 14 回	タッチングケア }						
第 15 回	技術確認 【演習】（下舞、神谷、笠岡、原田、蔭山、村田） 技術確認 【演習】（下舞、神谷、笠岡、原田、蔭山、村田）						
学修評価の方法 基準（割合）	事例展開記録（30％）ルーブリック評価、技術確認（30％）評価基準表で評価する。 定期試験（40％）で行う。定期試験は解答例に基づいて行う。						
フィードバックの方法	事例展開記録は、回収後個別対応コメントでフィードバックする。技術確認評価は、技術解説で個別に解説する。 評価内容は求めに応じて提示し説明する。						
他 の 授 業 と の 関 連	看護過程論実習Ⅱ、老年看護学Ⅰ・Ⅱ、成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱと連動する。						
テ キ ス ト	亀井智子編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版 医学書院						
参 考 図 書	江川隆子編集：ゴードンの健康パターンに基づく看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA. 北川公子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院。 佐々木秀忠他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院。 小坂橋喜久代編集：ナーシングマッサージ入門 日本看護協会出版会。 他、看護診断、看護介入、人体構造学Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの講義資料						
履修上の留意点	深い視座から分析した課題発見と、目標達成を目指す研究姿勢を自ら育てましょう。						
オフィスアワー	在室時は来客等の状況で調整し対応、不在時は「k.shimomai@kki.ac.jp」に連絡ください。						
実 務 経 験 の あ る 教 員	下舞 紀美代（看護師）、神谷 千鶴（看護師）、笠岡 和子（看護師）、原田 美穂子（看護師）、 蔭山 恵美（看護師）、村田 節子（看護師）						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	小児看護学Ⅲ（援助方法論） [Pediatric Nursing Ⅲ] (Methodology of Assistance)]	担 当 教 員 名	◎箕浦 洋子、西菌 貞子、谷口 英雄			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1 単位 ・ 30時間				●	
授 業 形 態	講義 ・ 演習		● - 必修 ・ ○ - 選択			
カリキュラム ・ ポリシー 番号	4	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①②、4-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康障害のある子どもとその家族に対する健康回復に向けた看護援助について、IBL 思考を取り入れ事例を用いて看護過程の展開を行い理解を深め、看護実践に必要な子どもの成長・発達段階、健康レベルに応じた観察（バイタルサインの測定など）や、小児看護に必要な援助技術（コミュニケーション、プレパレーション・ディストラクション、ベビーマッサージ等）など基本となる看護技術について、講義及び視聴覚教材・演習を通し学修する。 [学修目標] 1. IBL展開を通じて、事実から知識、情報を自ら探究しながら、統合し推論することの意味について説明できる。 2. IBL展開を通じて、チームで協働することの意味について説明することができる。 3. 事例を通して健康障害のある子どもと家族のアセスメントが説明できる。 4. 事例を通して健康障害のある子どもと家族の看護過程の展開を説明できる。 5. 健康障害のある子どもと家族に対し、成長・発達段階、健康レベルに応じた観察について説明することができる。 6. 健康障害のある子どもと家族に対し、看護援助に必要な看護技術（コミュニケーション、プレパレーション・ディストラクション、安全、ベビーマッサージ）について説明することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス 【講義】（箕浦） 小児看護の特徴を踏まえた看護過程の展開 ・小児看護に必要な情報収集、データベースの記入		学修内容の復習と課題の予習。			1 時間
第 2 回	IBL を用いた事例展開 【講義・演習】（西菌・箕浦） ・IBL の考え方 ・グループ演習： Part 1 【事実、仮設、必要な情報、調べる項目】		学修内容の復習と課題の予習。			1 時間
第 3 回	IBL を用いた事例展開 【講義・演習】（西菌・箕浦） ・グループ演習： Part 1 【事実、仮設、必要な情報、調べる項目】		学修内容の復習と課題の予習。			1 時間
第 4 回	IBL を用いた事例展開 【講義・演習】（西菌・箕浦） ・グループ演習： Part 2 【事実、仮設、必要な情報、調べる項目】		学修内容の復習と課題の予習。			1 時間
第 5 回	IBL を用いた事例展開 【講義・演習】（西菌・箕浦） ・グループ演習： Part 2 【現時点での事実と推論のまとめ】		学修内容の復習と課題の予習。			1 時間
第 6 回	IBL を用いた事例展開 【講義・演習】（箕浦） ・グループ発表		学修内容の復習と課題の予習。			1 時間
第 7 回	IBL を用いた事例展開 【講義・演習】（箕浦） ・グループ発表 まとめ		学修内容から考察を記述。 レポート①			1 時間
第 8 回	小児看護の特徴を踏まえた看護過程の展開 【講義】（箕浦） ・病態関連図、看護アセスメント		学修内容の復習と課題の予習。			1 時間
第 9 回	IBL を用いた事例展開 【講義・演習】（箕浦） ・看護計画の立案（グループ）		学修内容から考察を記述。			1 時間
第 10 回	IBL を用いた事例展開 【講義・演習】（箕浦） ・看護計画の立案（グループ）		学修内容から考察を記述。 レポート②			1 時間

第 11 回	小児看護に必要な看護技術 【講義・演習】（箕浦） ・ベビーマッサージ、プレパレーション・ディストラクション、安全、バイタルサイン測定	学修内容から考察を記述。 レポート③	1 時間
第 12 回	小児看護に必要な看護技術 【講義・演習】（箕浦・谷口） ・シミュレーション演習 コミュニケーション、プレパレーション・ディストラクション、バイタルサイン測定	学修内容の復習と課題の予習。	1 時間
第 13 回	小児看護に必要な看護技術 【講義・演習】（箕浦・谷口） ・シミュレーション演習 コミュニケーション、プレパレーション・ディストラクション、バイタルサイン測定	学修内容の復習と課題の予習。	1 時間
第 14 回	小児看護に必要な看護技術 【講義・演習】（箕浦・谷口） ・シミュレーション演習 コミュニケーション、プレパレーション・ディストラクション、バイタルサイン測定、振り返り	学修内容から考察を記述。 レポート④	1 時間
第 15 回	小児看護における看護過程の展開 【講義】（箕浦） ・小児看護の特徴を理解した看護過程の展開について（総括）	学修内容から考察を記述。 レポート⑤	1 時間
学修評価の方法 基準（割合）	レポート課題（第8回、10回、11回、14回、15回）75%はルーブリック評価で、25%はグループディスカッションでの参加、チームでの協働態度など参加態度を評価します。		
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成状況は、課題の記述内容により確認し、授業において全員にその傾向と課題をフィードバックします。		
他 の 授 業 と の 関 連	本科目は、「小児看護学Ⅰ、Ⅱ」で学修した対象者の成長・発達と健康障害のある対象者の看護の実際を、演習を行いながら経験します。「小児看護学実習」に連動する重要な授業となります。理解を深め継続的に学修を積み重ねましょう。		
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論、小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院		
参 考 図 書	学修目標達成状況に鑑み必要に応じて授業中に紹介します。		
履 修 上 の 留 意 点	子どもの成長・発達、健康レベルなど小児看護の特徴を踏まえ看護過程を展開します。看護過程の展開には、子どもの成長・発達を理解していることが基盤となりますので、小児看護学Ⅰ、Ⅱで学修した内容を復習しておきましょう。演習が多い授業となります。演習の中で、チームで協働しながら思考を深める過程を学修していきますので積極的に参加しましょう。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は＜ y.minoura@kki.ac.jp ＞に連絡ください。		
実 務 経 験 の あ る 教 員	箕浦 洋子（看護師）、西園 貞子（看護師）、谷口 英雄（看護師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	母性看護学Ⅲ（援助方法論） [Maternal Nursing Ⅲ（Methodology of Assistance）]	担 当 教 員 名	◎小笠原 百恵、永峰 啓子、 神谷 映里、尾筋 淑子			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・30時間				●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	3	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②、2 - ①②③④			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 母性看護学の対象である、妊婦、産婦、褥婦、新生児およびその家族を理解し、必要となる支援を学修する。 具体的にはローリスクの妊・産・褥婦および新生児の事例展開を行い、母子の心身の状態や母親の親役割獲得過程を分析し、対象に応じて必要となる支援を導く思考過程や基礎的な看護技術の方法を学修する。 ハイリスクな対象に対する看護についても学修する。 [学修目標] 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康状態をアセスメントするための観察項目およびアセスメントの視点を説明できる。 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康保持・増進を促すケアの方向性を説明できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦および新生児に必要な基礎的な看護技術や支援を説明できる。 4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の家族についてアセスメントする視点を説明できる。 5. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の家族に必要な支援を説明できる。 6. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	妊娠期・分娩期・産褥期の身体的特性と心理・社会的特性、胎児の発育と健康状態、新生児の生理 【講義】（小笠原）		課題 A を作成し提出。			1時間
第 2 回	妊娠経過、妊娠期に行う検査、胎児の発育と健康状態 【講義】（小笠原） ・事例展開：妊娠36週、ローリスク妊婦		課題 A を作成し提出。			1時間
第 3 回	妊婦と胎児の経過のアセスメント、妊婦と家族の看護 【講義】（小笠原） ・事例展開：妊娠36週、ローリスク妊婦		提示された事例を基にアセスメントを記述し、整理。課題 A を作成し提出。			1時間
第 4 回	産婦と胎児の健康状態、産婦と家族の心理・社会面 【講義】（永峰） ・事例展開：妊娠39週、ローリスク産婦、分娩第1期		課題 A を作成し提出。			1時間
第 5 回	分娩の進行と産婦・胎児・家族のアセスメント、産婦と家族の看護 【講義】（永峰） ・事例展開：妊娠39週、ローリスク産婦、分娩第1期		提示された事例を基にアセスメントを記述し、整理。課題 A を作成し提出。			1時間
第 6 回	妊娠期における看護 【演習】（小笠原、永峰、神谷、尾筋） ・妊婦の健康相談・教育の実際、親になるための準備教育、ハイリスク妊婦への看護		提示された事例を基にアセスメントを記述し、整理。			1時間
第 7 回	分娩期における看護 【演習】（小笠原、永峰、神谷、尾筋） ・安全・安楽な分娩への看護、出産体験が肯定的になるための看護、産婦の基本的ニーズに関する看護、ハイリスク産婦への看護		提示された事例を基にアセスメントを記述し、整理。			1時間
第 8 回	褥婦の健康状態、心理・社会的な変化 【講義】（小笠原） ・事例展開：産褥2日目、ローリスク初産婦		課題 A を作成し提出。提示された事例を基にアセスメントを記述し、提出（課題 B）。			1時間
第 9 回	産褥経過、褥婦の健康状態のアセスメント、褥婦の身体機能回復および進行性変化への看護 【講義】（小笠原） ・事例展開：産褥2日目、ローリスク初産婦		課題 A を作成し提出。提示された事例を基にアセスメントを記述し、提出（課題 B）。			1時間

第 10 回	<p>新生児の機能・健康状態 【講義】（小笠原）</p> <p>・事例展開：生後2日目、ローリスク新生児</p>	<p>課題 A を作成し提出。提示された事例を基にアセスメントを記述し、提出（課題 B）。</p>	1 時間
第 11 回	<p>新生児の機能・健康状態のアセスメント、出生直後から退院時までの看護 【講義】（小笠原）</p> <p>・事例展開：生後2日目、ローリスク新生児</p>	<p>課題 A を作成し提出。提示された事例を基にアセスメントを記述し、提出（課題 B）。</p>	1 時間
第 12 回	<p>産褥期における看護 【演習】（小笠原、永峰、神谷、尾筋）</p> <p>・褥婦の身体機能回復および、進行性変化への看護</p>	<p>提示された事例を基にアセスメントを記述し、提出（課題 B）。</p>	1 時間
第 13 回	<p>産褥期における看護 【演習】（小笠原、永峰、神谷、尾筋）</p> <p>・育児にかかわる看護、ハイリスク褥婦への看護</p>	<p>提示された事例を基にアセスメントを記述し、提出（課題 B）。</p>	1 時間
第 14 回	<p>新生児期における看護 【演習】（小笠原、永峰、神谷、尾筋）</p> <p>・新生児の出生後から退院時までの看護</p>	<p>提示された事例を基にアセスメントを記述し、提出（課題 B）。</p>	1 時間
第 15 回	<p>新生児期における看護 【演習】（小笠原、永峰、神谷、尾筋）</p> <p>・褥婦の施設退院後の看護、生後1か月健診に向けた新生児の看護、ハイリスク新生児への看護</p>	<p>提示された事例を基にアセスメントを記述し、提出（課題 B）。</p>	1 時間
学修評価の方法基準（割合）	<p>形成的評価は、講義内で提示する課題 A・B の提出とする（50%）。 総括的評価は、終講筆記試験とする（50%）。</p>		
フィードバックの方法	<p>学修過程における目標達成は、定期的に提出する課題 A・B の記述内容により学修状況を確認します。全員にその傾向と課題をフィードバックします。適宜個々に課題を提示し、質の向上を目指します。</p>		
他の授業との関連	<p>本科目は「母性看護学Ⅰ・Ⅱ」で学修した知識を基に展開していきます。また「母性看護学実習」にも連動するため、継続的に学修を積み重ねましょう。</p>		
テキスト	<p>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論、医学書院 最新版 ・母性看護学Ⅱ 周産期各論、医歯薬出版株式会社 最新版</p>		
参考図書	<p>・目で見える妊娠と出産、文光堂 ②病気がみえる 産科、メディックメディア</p>		
履修上の留意点	<p>母性看護学Ⅰ、Ⅱ-a、Ⅱ-b の内容を復習し、主体的に学修していきましょう。</p>		
オフィスアワー	<p>研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。</p>		
実務経験のある教員	<p>小笠原 百恵（助産師）、永峰 啓子（助産師）、神谷 映里（助産師）、尾筋 淑子（助産師）</p>		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	精神看護学Ⅲ [Psychiatric Nursing Ⅲ] (Assistance Methodology)	担 当 教 員 名	◎小出水 寿英			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・30時間				●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3 - ①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 精神・心身の病（やまい）を患う人の臨床推論の根拠を導き出し、生活者として全人的に捉えるために、精神看護の実践的理論、回復過程の段階に応じた基本的看護実践の理解、多様な場の特性に応じた協働での精神看護の役割について学修する。 [学修目標] 1. 精神看護の実践理解に必要な理論等について説明できる。 2. 対象者が持つ健康障がいと生活のしづらさについて、身体的・心理的・社会的側面から捉え、精神看護における実践の必要性について説明できる。 3. 精神科医療福祉機関の種類とその特性について説明できる。 4. 保健・医療・福祉における協働の目的、意義、看護の役割について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	精神の病（やまい）の多様性について【講義】（小出水） ・統合失調症寛解過程・特異症状と非特異症状（一般症状）・気分障害の経過		テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。			1時間
第 2 回	精神看護実習における看護記録について① 【講義】（小出水） ・臨地実習で使用する精神科看護記録用紙の構成と記録の意味		テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。			1時間
第 3 回	精神看護実習における看護記録について② 【講義・演習】（小出水） ・精神科救急における隔離室使用中の統合失調症急性期事例による演習		テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。			1時間
第 4 回	精神看護実習における看護記録について③ 【講義・演習】（小出水） ・精神科救急における隔離室使用中の統合失調症急性期事例による演習のフィードバック		テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。			1時間
第 5 回	精神看護の実践理解に必要な理論と概念① 【講義】（小出水） ・ヒルデガード・ペプロウの対人関係論		テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。			1時間
第 6 回	精神看護の実践理解に必要な理論と概念② 【講義】（小出水） ・オレム・アンダーウッドセルフケア理論		テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。			1時間
第 7 回	精神看護の基本的実践の理解【講義・演習】（小出水） ・視聴覚教材を使用した統合失調症急性期の事例演習とフィードバック		テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。			1時間
第 8 回	精神看護の基本的実践の理解【講義・演習】（小出水） ・視聴覚教材を使用した統合失調症慢性期の事例演習とフィードバック		テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。			1時間
第 9 回	精神看護の基本的実践の理解【講義・演習】（小出水） ・視聴覚教材を使用したうつ病の事例演習とフィードバック		テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。			1時間

第 10 回	精神看護の基本的実践の理解 【講義】 (小出水) ・地域移行支援・地域定着支援の理解	テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。	1時間
第 11 回	精神看護の基本的実践の理解 【講義】 (小出水) ・精神看護における訪問看護の理解	テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。	1時間
第 12 回	精神看護の基本的実践の理解 【講義】 (小出水) ・包括型地域生活支援プログラム (ACT) の理解①	テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。	1時間
第 13 回	精神看護の基本的実践の理解 【講義】 (小出水) ・包括型地域生活支援プログラム (ACT) の理解②	テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。	1時間
第 14 回	精神看護の基本的実践の理解 【講義】 (小出水) ・発達障害を持つ人への支援の理解	テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。	1時間
第 15 回	精神看護の基本的実践の理解 【講義】 (小出水) 保健・医療・福祉における当事者活動の理解	テキストの該当する部分を通読し、課題レポートを作成し提出する。	1時間
学修評価の方法 基準 (割合 %)	レポート課題の提出状況 (10%)、期末テストの結果 (90%) で評価する。		
フィードバックの 方 法	レポート課題の学修内容は講義において全員にフィードバックを行う。個々の必要に応じて個別に課題学修内容を説明する。講義内容及びメンタルヘルスに関する質問には随時対応する。筆記試験問題の解説は筆記試験終了後に個々人の必要性に応じてフィードバックを行う。		
他 の 授 業 と の 関 連	「在宅看護論Ⅱ (援助論) ≪在宅看護学Ⅱ≫」「公衆衛生看護活動論Ⅱ (対象別公衆衛生看護活動展開論① ≪在宅看護学Ⅱ≫)」に関する学修は準備性を高めるため重要である。本科目は「精神看護学実習」に連動するため継続的に学習を積重ねて下さい。		
テ キ ス ト	①中井久夫、山口直彦編著：看護のための精神医学、医学書院、最新版 ②宮本真巳著：看護場面の再構成 感性を磨く技法Ⅰ、日本看護協会出版会 ③一般社団法人日本精神科看護協会監修 草地仁史ら編：精神看護学実習ハンドブック、中央法規出版		
参 考 図 書	精神看護学Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト、ならびに講義中に明示した資料および参考図書		
履修上の留意点	精神・心身の病 (やまい) を患う人の臨床推論の根拠、基本的看護実践、生活者としての捉え方、他職種連携について深く考え、主体的に学修して下さい。		
オフィスアワー	在室時は来談者の状況に応じ対応し、不在時は < t.koizumi@kki.ac.jp > に連絡して下さい。		
実 務 経 験 の あ る 教 員	小出水 寿英 (看護師)		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	看護診断学Ⅱ [Nursing Diagnosis I]	担 当 教 員 名	◎笠岡 和子、江川 隆子			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・30時間				●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	2、3	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①②、4-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護実践における臨床判断である＜看護過程＞について、看護師の責任（保助看法）と看護診断の定義と理論的背景、看護過程における概念（アセスメント・分析・判断、成果・計画・実施・評価）について学修する。さらに臨床でよく用いられる＜看護診断または看護概念＞とそのアセスメントおよび、計画・成果・評価・看護記録について、事例を用いて学修する。 [学修目標] 1. 看護過程のそれぞれの概念について説明できる。 2. 看護診断のその定義、診断指標、関連因子・リスク因子について説明できる。 3. 看護診断に対する看護師の責任（保助看法）につい説明することができる。 4. 事例の病態と看護診断との関係について説明できる。 5. 事例における看護診断に対する看護治療（看護援助）・成果・計画・記録について説明することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	看護診断Ⅰの振り返り：看護過程、保助看法 【講義】（江川）		・ 事前のテキストの講読、配布資料の復習をする。			各 1時間 合計 15時間
第 2 回	実習で疑問になった看護診断と看護診断の理論的背景 【講義】（江川）					
第 3 回	実習で疑問になった看護診断と看護診断の理論的背景 【講義】（江川）		・ 2回～4回までは、疑問になった看護診断が含まれる教科書（p48～58）を読む。			
第 4 回	実習で疑問になった看護診断と看護援助（看護治療）について 【講義】（江川）					
第 5 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 ：活動／運動 関連図① 【演習】（笠岡）		・ 5回から14回までは、各事例の病態関連図・看護過程の展開をまとめる。			
第 6 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 ：活動／運動 関連図② 【演習】（笠岡）					
第 7 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 ：活動／運動 整理・解釈・総合① 【演習】（笠岡）					
第 8 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 ：活動／運動 整理・解釈・総合② 【演習】（笠岡）					
第 9 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 ：活動／運動 分析① 【演習】（笠岡）					
第 10 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 ：活動／運動 分析・計画 【演習】（笠岡）					
第 11 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 【演習】（笠岡）					

第 12 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 ：栄養／代謝、役割／関係 関連図 【演習】（笠岡）		
第 13 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 ：栄養／代謝、役割／関係 整理・解釈・総合【演習】（笠岡）		
第 14 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 ：栄養／代謝、役割／関係 分析・計画 【演習】（笠岡）		
第 15 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程と看護診断 まとめ（疑問点を明確にする） 【演習】（笠岡）	・演習で行った事例を復習し疑問点を挙げてくる。	
学修評価の方法 基準（割合％）	定期試験（70％）演習の参加度（10％）事例展開記録（20％）で評価する。		
フィードバックの 方 法	講義毎に質問を受けてその場で、あるいは次回の講義前に対応する。また、必要な学生について個別に対応する。		
他 の 授 業 と の 関 連	人体機能学Ⅰ、Ⅱ、基礎看護学Ⅴ（問題解決技法）、看護診断Ⅰ、病態治療学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ		
テ キ ス ト	①江川隆子編（2016）：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、第6版、ヌーベルヒロカワ、②江川隆子編（2013）：これなら使える看護診断、コンパクト新版、医学書院、③江川隆子編（2010）：これなら使える看護介入、医学書院 ④江川隆子編（2018）：関連図でよくわかる病態・看護診断・看護記録 かみくだき看護診断過程、第1版、日総研		
参 考 図 書	人体機能学Ⅰ、Ⅱ、基礎看護学Ⅴ（問題解決技法）での資料他、日本看護診断学会監訳：NANDA-I 看護診断定義と分類、医学書院（学校で購入した本、卒業生が使用した本を利用）		
履修上の留意点	授業の内容に沿って、教科書を読んで来る。		
オフィスアワー	在室時は、状況によって調整し対応、不在時は、< k.kasaoka@kki.ac.jp> に連絡ください。		
実 務 経 験 の あ る 教 員	江川 隆子（看護師）、笠岡 和子（看護師）		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	リスクマネジメント [Risk Management]	担 当 教 員 名	◎笠岡 和子			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1単位・30時間				●	
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	4	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シー 番号	2 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護を展開するにあたり、対象の尊厳と生命を守る医療者としての責務を遂行するために、リスクマネジメントにおける対象の安全と安寧を図る理念・知識・技術について学修する。 [学修目標] 1. リスクマネジメントの概念と看護職の法的責任について説明できる。 2. 医療事故・医療過誤の定義、原因、安全対策について説明できる。 3. KYT を通して事故の実際と防止対策について説明できる 4. 医療安全文化を形成する一員としての自覚と実践する意思を述べる事が出来る。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	リスクマネジメントの概念理解と看護法的責任 【講義】		①授業前の予習と復習を行う ② KYT 事例に関しては、テキストの事例を予習しておく			各 1時間 合計 15時間
第 2 回	リスクマネジメントへの取り組みと医療の質の評価 【講義】					
第 3 回	事故発生のメカニズムと防止対策 【講義】					
第 4 回	医療機関における安全対策：組織の取り組み 【講義】					
第 5 回	看護における安全対策：看護業務事故発生要因 【講義】					
第 6 回	事故防止対策—KYT 事例：患者取り違え 【演習】					
第 7 回	事故防止対策—KYT 事例：転倒転落 【演習】					
第 8 回	事故防止対策—KYT 事例：皮膚障害 【演習】					
第 9 回	事故防止対策—KYT 事例：医療機器・ライントラブル 【演習】					
第 10 回	事故防止対策—KYT 事例：針刺し・注射・服薬 【演習】					
第 11 回	事故防止対策—KYT 事例：誤嚥・経管栄養 【演習】					
第 12 回	事故防止対策—KYT 事例：検査・処置時 【演習】					
第 13 回	事故防止対策—KYT 事例：電子カルテ等情報伝達時 【演習】					
第 14 回	看護学生の実習と安全 【講義】					
第 15 回	医療事故後の対応 【講義】					
学修評価の方法 基 準（ 割 合 ％）	定期試験（80％）、グループワーク参加（20％）で評価する。					
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成状況は、毎日の授業後に提出される記述内容によって確認する。また KYT においては事例展開の内容の理解によって個々にフィードバックする。					
他 の 授 業 と の 関 連	基礎看護学Ⅱ - a、Ⅱ - b、Ⅲ、Ⅳ					
テ キ ス ト	松下由美子他編集：ナースング・グラフィカ看護の統合と実践②医療安全、メディカ出版					
参 考 図 書	随時提示する。					
履修上の留意点	医療事故関係の新聞報道に着目。積極的にグループ討議に参加する。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し、不在時は< k.kasaoka@kki.ac.jp >に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	笠岡 和子（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	国際看護学・災害看護学 [Global Nursing & Disaster Nursing]	担 当 教 員 名	◎奥津 文子、山本 あい子			
期 間	3年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・ 時 間	2単位・30時間				●	
授 業 形 態	講義		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポ リ シー 番 号	4	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シー 番 号	4、5			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	<div>[授業の概要]</div> <p>国内外で災害が多発し、災害への備えや対応等が模索されている。本科目では、災害看護の発展の歴史を学ぶと同時に、災害により人々の生活や健康に何が生じるのかを概観する。さらに、災害への備えや災害直後から中・長期的な時期における看護活動や制度等について講義を通して基盤となる必要な知識を学修する。これらを通して、災害という危機状況における看護の役割や国際的な看護活動の可能性について考える。さらに、国際的な視点で人々の健康問題を捉え、保健医療分野における国際協力の意義と実際について学修する。</p> <div>[学修目標]</div> <div>1. 災害看護に関する基礎的知識について説明できる。</div> <div>2. 災害時要配慮者の特徴と支援の必要性について説明できる。</div> <div>3. 災害時の被災者及び援助者の心理と援助について説明できる。</div> <div>4. 災害サイクル各期における看護職の役割について説明できる。</div> <div>5. 災害の種類に応じた防災・減災や備えについて説明できる。</div> <div>6. 限られた資材と人材で、適切なトリアージと処置について説明できる。</div> <div>7. 災害対策の考え方や法律／制度について説明できる。</div> <div>8. 災害時における倫理的課題について気づくことができる。</div> <div>9. グローバリゼーションが進む中での世界の健康問題について説明できる。</div> <div>10. 異文化理解と国内外における国際看護活動の実際について説明できる。</div>					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンスと災害看護学の意義 【講義】(山本)		「阪神淡路大震災において看護が果たした役割」を調べ、レポートする。			34時間
第 2 回	災害看護の歩み、災害と災害看護の定義 ・災害看護の基礎知識 【講義】(山本)		教科書の該当箇所を読む			予習復習 各1.5時間
第 3 回	災害による人々の生活と健康特性 ―高齢者と子ども― 【講義】(山本)		教科書の該当箇所を読む			予習復習 各1.5時間
第 4 回	災害による人々の生活と健康特性 ―妊産褥婦と成人― 【講義】(山本)		教科書の該当箇所を読む			予習復習 各1.5時間
第 5 回	災害サイクルと看護活動・看護の役割 ・災害サイクル各期の特徴と看護 【講義】(山本)		教科書の該当箇所を読む			予習復習 各1.5時間
第 6 回	災害時の心のケア（支援者を含む） 【講義】(山本)		教科書の該当箇所を読む			予習復習 各1.5時間
第 7 回	災害に対する備えと看護の役割 ・防災・減災、備えについて 【講義】(山本)		課題：自身の避難袋の準備と自宅周辺の災害時標識の探索			予習復習 各1.5時間
第 8 回	災害に関連する法律／制度、国内外における災害時の支援・協力の仕組み 【講義】(山本)		教科書の該当箇所を読む			予習復習 各1.5時間
第 9 回	災害と看護倫理 【講義】(山本)		教科書の該当箇所を読む			予習復習 各1.5時間

第 10 回	国際看護学とは 世界の健康問題、国際看護の対象	【講義】（奥津）	映画「風に立つライオン」を視聴し、感想文を書く 国際看護に関連した用語の概念整理	5時間 1.5時間
第 11 回	国際紛争と看護 国際紛争の現状と紛争地における看護	【講義】（奥津）	近年に起こった国際紛争について調べる	1.5時間
第 12 回	国際看護活動の実際と課題 —国際協力のしくみ、文化を考慮した看護—	【講義】（奥津）	テキスト第4章C Dを読んで、疑問点を抽出する。	1.5時間
第 13 回	発展途上国と看護 発展途上国の健康問題と看護	【講義】（奥津）	発展途上国が抱える健康関連の問題を抽出し、現状について調べまとめる。	1.5時間
第 14 回	国際救護と看護 国内外の難民の現状、国際救援活動の理念	【講義】（奥津）	国際赤十字・赤新月運動について、調べまとめる	1.5時間
第 15 回	国際看護における研究の実践例 国際看護学の研究倫理	【講義】（奥津）	国際看護学に関連したテーマで興味のある看護研究を検索し、要旨をまとめる。 動画「もし世界が100人の村だったら」を視聴し、感想文を書く	1.5時間
学修評価の方法 基準（割合％）	定期（筆記）試験100％（災害看護60％・国際看護40％）			
フィードバックの方法	学修過程における目標達成は、授業中でのディスカッション等の発言内容、毎回の授業終了時のクラスルームへの送信内容により状況を確認する。全員にその傾向と課題をフィードバックする。			
他の授業との関連	生命と倫理、公衆衛生学、医療と人権、疫学、看護倫理			
テキスト	竹下喜久子編集：系統看護学講座、災害看護学・国際看護学、看護の統合と実践③ 医学書院			
参考図書	授業の中で適宜紹介する			
履修上の留意点	授業前の予習90分／授業後の復習90分を、毎授業時に行うこと			
オフィスアワー	必ず事前に連絡調整してください。学生・教員双方の都合の良い時間を設定します。			
実務経験のある教員	山本 あい子（看護師）、奥津 文子（看護師）			

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	令和4年度生 公衆衛生看護活動論Ⅱ [Public Health Nursing Activities Ⅱ]	担 当 教 員 名	◎白井 香苗、伊木 智子、松崎 洋子 桂 香織、鮫島 真理子			
期 間	3年後期・4年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	4単位・60時間				●保健師	●保健師
授 業 形 態	講義・演習		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	4	ディプロマ・ ポリシー 番号	1、2、3、4、5			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] Ⅰ．学校保健・産業保健の目的と理念について理解し、公衆衛生看護活動に必要な基礎的な知識を修得する。 Ⅱ．地域の小集団を対象とした健康教育の目的と理論を教授し、計画・実施・評価をすることでPDCA サイクルの実践能力を修得する。 [学修目標] Ⅰ． 1．学校保健の目的と理念、制度とシステムについて理解し、学校保健活動における養護教諭の果たす役 割とその実際について説明できる。 2．産業保健の目的と理念、労働安全衛生関連法規を理解し、産業保健看護活動における産業保健看護職 の果たす役割とその実際について説明できる。 Ⅱ． 1．健康教育の目的と理論について説明できる。 2．地域の小集団を対象とした健康教育について、健康教育の理論に基づきグループで計画を作成し、実 践・評価することで、PDCA サイクルの視点について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	ガイダンス	【講義】(伊木)	①授業前の予習と復習の実施 ②グループ課題への積極的な参 加と成果物の作成			各 4 時間 合計 120時間
第 2 回	学校保健の理念と目的、関係法規	【講義】(伊木)				
第 3 回	養護教諭の活動の実際、特別支援教育の理解	【講義】(桂)				
第 4 回	産業保健の理念と目的、労働安全衛生関連法規	【講義】(伊木)				
第 5 回	産業保健看護職の役割と実際	【講義】(鮫島)				
第 6 回	健康教育の理念	【講義】(白井)				
第 7 回	健康教育の理論	【講義】(白井)				
第 8、9 回	健康教育企画書作成	【演習】				
第 10 回	健康教育企画書の発表とディスカッション	【演習】				
第 11、12 回	健康教育の指導案作成	【演習】				
第 13～17 回	健康教育のシナリオ・媒体作成	【演習】				
第 18 回	健康教育予演とディスカッション①	【演習】				
第 19、20 回	実習報告会①	【演習】				
第 21 回	健康教育予演とディスカッション②	【演習】				
第 22、23 回	実習報告会②	【演習】				
第 24 回	健康教育予演とディスカッション③	【演習】				
第 25、26 回	実習報告会③	【演習】				
第 27～29 回	健康教育実践・評価	【演習】				
第 30 回	まとめ	【講義】(白井)				
学修評価の方法 基 準 (割 合 %)	グループワークの参加状況：40%、グループレポート等の提出物：40、試験：20%					
フィードバックの 方 法	発表内容や準備の進捗状況等を鑑み、必要に応じて個別・グループにフィードバックします。					
他 の 授 業 と の 関 連	公衆衛生看護学関連の科目、特に公衆衛生看護技術論、公衆衛生看護学実習Ⅱと深く連動している科目で す。学習の振り返りと積み重ねを繰り返すことで、公衆衛生看護の実践の理解を深めましょう。					
テ キ ス ト	①標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院（公衆衛生看護技術論と兼用） ②標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院（3年次の公衆衛生看護活動論Ⅰで購入済）					
参 考 図 書	必要に応じて授業時間内で紹介します。					
履修上の留意点	授業時間外でのグループワークの取り組みを必要とするため、空き時間を活用し、グループで計画的に進 めていくことが重要となります。実習と連動して行われる箇所もあるため、総合的に学習することが必要 です。					
オフィスアワー	状況に応じて在室時に随時対応します。不在時は k.usui@kki.ac.jp に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	白井 香苗（保健師）、伊木 智子（保健師）、松崎 洋子（保健師）、桂 香織（養護教諭） 鮫島 真理子（産業保健看護職）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	地域看護診断論 [Community Health Assessment]	担 当 教 員 名	◎臼井 香苗			
期 間	3年後期・4年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間				●保健師	●保健師
授 業 形 態	講義・演習		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポ リ シ ー 番 号	4	ディプロマ・ ポ リ シ ー 番 号	3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域看護診断の概念と目的を理解し、保健師として人々が生活する地域を対象とした支援技術、地域全体の健康を向上するための方法、臨地実習予定となっている地域に顕在・潜在している課題をアセスメントするための展開方法など基本的な技術を学修する。 [学修目標] 1. 臨地実習予定となっている地域の健康課題を抽出するために、地域看護診断のモデル（コミュニティ・アズ・パートナーモデル）を用いて地域の特性に関わる情報収集を行う。 2. 情報収集したデータの意味を解釈し、アセスメントを行い、地域の健康課題を抽出する。 3. 地域看護診断のモデルを活用して。実習地域のデータ・情報をアセスメントし、地域の健康課題の立案をする。 4. 地区のデータのアセスメントや地区踏査から得られた地区特性と地域の健康課題について、グループごとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	オリエンテーション、地域看護診断の概念と目的、意義 【講義】		実習先の自治体からの地域に関する資料、ホームページを閲覧して情報を整理する。			各 4 時間 合計 60 時間
第 2 回	地域診断の理論 【講義】					
第 3～5 回	コミュニティ・アズ・パートナーモデルの地域の概要とコアの情報収集 【演習】		地区特性の把握と健康課題の抽出、優先順位についてグループで検討する。			
第 6～8 回	コミュニティ・アズ・パートナーモデルの地域のサブシステムの情報収集とアセスメント 【演習】		得られたデータと課題についてプレゼンテーション資料を作成する。			
第 9 回	地区踏査の意義と方法 【講義】					
第 10 回	地区踏査計画の作成 【演習】					
第 11、12 回	地区踏査の実施 【演習】					
第 13 回	データと地区踏査の結果の統合、地域の健康課題の抽出、地区特性の明確化 【演習】					
第 14、15 回	グループ発表、ディスカッション 【演習】					
学修評価の方法 基 準（ 割 合 ％）	1. まとめのテスト（30％） 2. 個人レポート（20％） 3. 地区踏査計画（10％） 4. グループワーク提出物、グループワークやディスカッションでの積極性（40％）					
フィードバックの 方 法	課題・提出物はコメントをつけて返却するとともに、グループ発表に対しては発表後にフィードバックします。					
他 の 授 業 と の 関 連	4年次の公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論Ⅱと連動して実施する科目です。実習の準備性を高めるためにも重要な科目となります。継続的に学習を深めましょう。					
テ キ ス ト	最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 メヂカルフレンド社（4年次にも使用します）					
参 考 図 書	必要に応じて授業時間内で紹介します。					
履修上の留意点	授業時間外でのグループワークの取り組みを必要とするため、空き時間を活用しグループで協力して計画的に作業を進めていくことが重要です。公衆衛生看護学実習（行政実習）において必要とされる基礎的な知識、技術を修得する科目です。主体的に学習を深めてください。					
オフィスアワー	状況に応じて在室時に随時対応します。不在時は k.usui@kki.ac.jp に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	臼井 香苗（保健師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	看護過程論実習Ⅲ [Nursing Process Practicum Ⅲ]	担 当 教 員 名	◎箕浦 洋子 小児看護学他、基礎・在宅・成人・老年・ 母性・精神看護学領域教員			
期 間	3 年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1 単位・45時間				●	
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポ リ シ ー 番 号	3	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①②、4-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護過程・看護診断の基本構造に関する知識および問題解決思考を基に、様々な発達段階、健康レベル、 生活の場にある対象者の健康状態・治療状況、身体的・心理的・社会的側面に関わる情報を収集し、住み 慣れた地域で生活するために必要な看護（継続看護、退院支援・退院調整等）を考えたアセスメントを行 い、保健・医療・福祉の連携を行いながら対象者の問題に応じた計画・実施・評価することを学修する。 [学修目標] 1. 対象者の地域での健康支援の必要性について説明・記述できる。 2. 対象者の健康状態・治療状況および身体的・心理的・社会的側面に関わる情報について説明・記述で きる。 3. 得られた情報のから系統的・継続的にアセスメントし、住み慣れた地域で生活するために対象者に必 要な看護（継続看護、退院支援・退院調整等）について説明・記述できる。 4. 対象者に必要な看護（継続看護、退院支援・退院調整等）を実施するために必要な多職種連携・協働 について具体的に説明・記述できる。 5. 看護目標（成果・目標）を設定し、計画立案・実施する方法を説明・記述できる。 6. 実施した看護を評価する方法を説明・記述できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		目標時間	
実 習 計 画	【臨地実習の概要】 病院および施設等において、対象者が地域で生活するた めに必要な看護（継続看護、退院支援・退院調整等）について、 シミュレーション実習を通して、計画立案、実施、評価する。 【実施および見学内容】 ・対象者の健康状態・治療状況および身体・心理・社会的側 面に関わる情報収集の実施 ・得られた情報から地域で生活するために必要なアセスメント の実施 ・看護計画（成果・目標）の立案と実施および評価 ・対象者に必要な退院支援・退院調整の実際とそれに関わる 多職種連携 ・継続看護のための地域との情報共有 ・地域との連携・協働、退院後の継続ケア ・地域で生活するための対象者とその家族に対する支援		【実習前】 ・事例をもとに情報収集、アセ スメントを行い、看護計画を 立案する。 【実習時】 ・実施した課題について整理を 行う。 【実習後】 ・看護計画の評価および最終課 題について整理し、レポート 準備を行う。		毎日 1～2 時間	
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	主体的に実習に取り組む姿勢と正しい知識や理論に基づいているかどうか、毎日の実習における言動等、 学修の状況など、実習目的・目標の到達度（60%）、実習準備状況（20%）、学びの共有における主体性（10%） を実習評価表に基づき評価します。					
フィードバックの 方 法	毎日のミーティング時に学修内容をフィールドバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。 日々の実習記録内容等からフィードバックを行い、リフレクションを促します。					
他 の 授 業 と の 関 連	看護学実習で学修した看護過程の展開を基に進めていきます。					
テ キ ス ト	基礎看護で使用した教科書・資料 在宅看護の授業で使用した教科書・資料					
参 考 図 書	参考書等は実習開始前および実習中に、学修内容に応じて適宜提示します。					
履 修 上 の 留 意 点	住み慣れた地域で対象者が生活するために、退院支援や継続看護を深める看護学実習です。シミュレーショ ン実習を中心に、地域を意識した看護について考えましょう。					
オフィシアワー	実習状況に応じて相談等に対応します。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	箕浦 洋子（看護師）、黒江 ゆり子（看護師）、奥津 文子（看護師）、土井 香（看護師）、 山口 夏樹（看護師）、古川 秀敏（保健師）、神谷 千鶴（看護師）、小平 京子（看護師）、 笠岡 和子（看護師）、下舞 紀美代（看護師）、原田 美穂子（看護師）、國政 ちとせ（看護師）、 谷口 英雄（看護師）、松村 恵子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）、神谷 映里（助産師）、 小笠原 百恵（助産師）、永峰 啓子（助産師）、小出水 寿英（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	地域・在宅看護学実習 [Community and Home Health Care Practicum]	担 当 教 員 名	◎古川 秀敏、伊木 智子、臼井 香苗、 松崎 洋子			
期 間	3年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・90時間				●	
授 業 形 態	実習		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポ リ シ ー 番 号	5	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3－①②、4－①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域で生活しているさまざまな健康レベル・ライフステージにある対象（個人・家族・集団・地域）の特性に合わせて展開される看護活動を通して、基本的な知識と技術、展開方法を学修する。また、地域における保健医療福祉システムにおける看護職の役割・機能を学修する。 [学修目標] 1. 地域社会で生活する住民に対する看護活動の実際について説明できる。 2. 在宅における看護過程の展開ができる。 3. 地域の保健医療福祉システムにおける看護職の役割・機能を説明できる。 4. 地域の特性を理解し、生活の場における看護の役割を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
実 習 計 画	対象者とその家族を対象とした訪問看護ステーションでの実習と地域で開催される住民を対象とした活動に参加する地域における多様な場での実習を通して以下を学修する。 ・在宅看護における訪問者としての姿勢 ・在宅看護が行われている環境 ・在宅看護における看護の実際 ・在宅看護におけるコミュニケーション技術 ・身体、心理、社会的側面のアセスメントの方法 ・在宅における看護過程 ・多職種との連携の実際 ・地域における多様な社会資源と協働 ・地域包括ケアシステムにおける看護職の役割、機能 ・地域共生社会における看護の役割・機能 ・対象者を生活者としてとらえる視点		すべての学修目標を達成するため、知識と理論を総集し、訪問看護ステーションおよび地域での活動での実際と統合し論述する。 第1週 【訪問看護ステーション実習】 訪問予定の療養者の疾患や障害、その治療法や使用薬剤等、看護の方法のまとめ。 日々の記録の作成。 課題レポートの作成。 第2週 【地域における多様な場での実習】 参加予定の事業の法的根拠、機能、役割、従事する専門職者等についてのまとめ。 日々の記録の作成。 課題レポートの作成。			毎日 1～2 時間
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	主体的に実習に取り組む姿勢と正しい知識や理論に基づいているかどうか、毎日の実習における言動等、学修の状況と実習目的・目標の到達度100% は、実習評価表に基づく基準評価とします。					
フィードバックの 方 法	現地および学内でのカンファレンス時に学修内容をフィードバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。					
他 の 授 業 と の 関 連	在宅看護学、地域看護学、老年看護学、成人看護学、小児看護学、精神看護学					
テ キ ス ト	地域療養を支えるケア 第7版（ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論 1）（2年時購入済み）					
参 考 図 書	参考書等は実習開始前に、実習中は、毎日の学修内容に応じて適宜提示します。					
履修上の留意点	他領域の既修内容も援用しながら学修します。					
オフィスアワー	月曜日5限					
実 務 経 験 の あ る 教 員	古川 秀敏（看護師・保健師）、伊木 智子（看護師・保健師）、臼井 香苗（看護師・保健師）、 松崎 洋子（看護師・保健師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	成人老年看護学実習Ⅰ [Adult & Geriatric Nursing PracticumⅠ]	担 当 教 員 名	◎原田 美穂子、下舞 紀美代、 笠岡 和子、蔭山 恵美、村田 節子			
期 間	3年後期・4年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・90時間				●	●
授 業 形 態	実習		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	5	ディプロマ・ ポリシー番号	1－①②③④、2－①②③、3－①②、 4－①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 急性期・回復期にある成人期および老年期の対象を理解したうえで、科学的思考に基づく看護を実践・創造 できる基礎的能力を修得する。 [学修目標] 1. 急性期・回復期にある成人期・老年期の健康障害をもつ対象の特性を説明できる。 2. 対象がもつ健康問題について科学的根拠をもって総合的に把握し、その解決のための計画・実施・評価が できる。またその実践課程について看護過程用紙に記述することができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。 4. 保健医療チームにおける看護の役割について説明することができる。また、チームの一員としての責任を 自覚して、チームのメンバーと連携することができる。 5. 臨地実習における今後の自己の学修課題や実習を通して発展させた自己の看護についての考えをレポート に記述することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		目標時間	
実 習 計 画	【急性期・回復期における臨地実習の概要】 外科系病棟、急性期病棟等において、急性期・回復期にある対象者1名を 受け持ち、看護過程を展開する。 計画立案や実施は、臨床指導者や教員の指導を受け、支援を受けながら実 践する。 ①成人または高齢者特有の身体的・心理的・社会的変化、個々の生活過程、 価値観、スピリチュアリティを踏まえた包括的視野で対象をアセスメント する。 ②成人期または老年期の身体的変化ならびに疾患・治療による影響について 病態関連図に記載する。 ③フィジカルアセスメントを活用した観察を行い、必要な情報を収集する。 ④学修した看護学の知識・技術・態度を統合し、根拠に基づき個別性のある 看護を実践する。 ⑤周術期における身体的・精神的苦痛の緩和への援助ができる。 ⑥早期離床の必要性の理解と援助、創傷治療過程促進の援助ができる。 ⑦フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念を説明でき、 予防の看護を実践できる。 ⑧身体機能の変化と生活への影響を理解し、生活を再構築するための援助(退 院指導など)ができる。 ⑨自己の看護を振り返り今後の課題を明確にするためのカンファレンスを行う。 ⑩対象及びその家族の尊厳と人権を重視した会話や実践を行う。 ⑪他者の意見を聞きつつ、自身の看護について意見を述べる。 ⑫個人情報の取り扱い、法的根拠を理解し情報保護ができる。 ⑬患者の安全に留意し、事故や感染を起こさない。 ⑭チームメンバー(指導者等)の指導の下、看護の実践及び報告・連絡・相 談ができる。 ⑮多様な社会資源、サービス、制度の実態を見ることで看護の受け手の生活 に関わる社会資源の意義を説明できる。 ⑯実践の振り返りを通して、看護専門職としての自己の在り方を省察し、看 護の質の向上に向けて自己研鑽する。 ⑰実習を通して発展させた自己の看護についての考えを記述できる。 ※受け持ち患者によって実践、経験できなかった項目については、グループカ ンファレンス等で知識や実践経験を共有し、説明・記述できるように努める。		事前課題：急性期・ 回復期実習に必要な 知識の復習を行う。 学内実習：受持ち対 象者について、解剖 生理学、病態治療学、 看護学全般、看護過 程についての予習・ 復習を行う。 臨地実習：受持ち対 象者に応じて必要な 解剖生理学・病態治 療学・看護学全般に ついての予習復習を 行う。 日々の振り返りの記録 を行う。 次の日の行動計画を 記載する。 臨地実習後の学内実 習：臨地実習におけ る学びについて記録 用紙に記載しまとめ る。		毎日 1～2 時間	
学修評価の方法 基準(割合%)	看護ケアの提供状況と取り組み姿勢50% 対象理解と看護過程における思考の整理(看護過程の記録)25% カンファレンスでの発表と自己の振り返り等25%					
フィードバックの 方 法	毎日のミーティング時に学修内容をフィードバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。また最終 面接を評価基準に従っておこないフィードバックします。					
他 の 授 業 と の 関 連	全ての授業、特に成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、老年看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護過程・看護診断過程に関する 学修理解を前提とします。					
テ キ ス ト	成人看護学・老年看護学のテキストおよび授業資料。その他必要時別途に提示します。					
参 考 図 書	人体構造機能学、病態生理学、基礎看護学の教科書・授業資料全て 病気がみえるシリーズ vol.1-8、11					
履修上の留意点	臨地実習は看護の知識・技術を統合し、実践へ適応する能力を身に付けて行きます。急性期・回復期看護 について、根拠に基づいた個別性のある看護が実践できるよう臨みましょう。					
オフィスアワー	臨地において毎日、実習状況に対応して調整し、相談等に対応します。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	原田 美穂子(看護師)、下舞 紀美代(看護師)、笠岡 和子(看護師)、蔭山 恵美(看護師)、 村田 節子(看護師)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	成人老年看護学実習Ⅱ [Adult & Geriatric Nursing PracticumⅡ]	担 当 教 員 名	◎神谷 千鶴、下舞 紀美代、蔭山 恵美、 笠岡 和子、村田 節子 他			
期 間	3年後期・4年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	2単位 90時間				●	●
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	5	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1 - ①②③④、2 - ①②③、3 - ①②、 4 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 慢性期・終末期にある成人期および老年期の対象を理解したうえで、科学的思考に基づく看護を実践・創造 できる基礎的能力を修得する。 [学修目標] 1. 慢性期・終末期にある成人期・老年期の健康障害をもつ対象の特性を説明できる。 2. 対象がもつ健康問題について科学的根拠をもって総合的に把握し、その解決のための計画・実施・評価が できる。また、その実践過程について、看護過程用紙に記述することができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。 4. 保健医療チームにおける看護の役割について説明することができる。また、チームの一員としての責任を 自覚して、チームのメンバーと連携することができる。 5. 臨地実習における今後の自己の学修課題や実習を通して発展させた自己の看護についての考えをレポート に記述することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容		目標時間
実 習 計 画	【慢性期・終末期における臨地実習の概要】 内科系病棟、緩和ケア病棟等において、慢性期・終末期にある患者1名を受け持ち、看護過程を展開する。 計画立案や実施は、臨床指導者や教員の指導を受け、支援を受けながら実践する。 ①成人または高齢者特有の身体的・心理的・社会的変化、個々の生活過程、価値観、スピリチュアリティを踏まえた包括的視野で対象をアセスメントする。 ②成人期または老年期の身体的変化ならびに疾患・治療による影響について病態関連図に記載する。 ③フィジカルアセスメントを活用した観察を行い、必要な情報を収集する。 ④学修した看護学の知識・技術・態度を統合し、根拠に基づき個別性のある看護を実践する。 ⑤慢性疾患の症状やサインに着目した身体機能悪化予防と回復の促進、症状を自己コントロールするための教育的支援、疾病受容の支援、社会的支持の維持支援を実践できる。 ⑥終末期においては、本人の死がもたらす社会的影響について考え、身体機能を可能な限り良好な状態に維持すること、苦痛の緩和、生活行動の維持、死の受容過程への心理的支援、社会関係の調整について計画に取り入れる。対象及びその家族の尊厳と人権を重視した会話や実践を行う。 ⑦フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念を説明でき、予防の看護を実践できる。 ⑧身体機能の変化と生活への影響を理解し、生活を再構築するための援助（退院指導など）ができる。 ⑨自己の看護を振り返り今後の課題を明確にするためのカンファレンスを行う。 ⑩対象及びその家族の尊厳と人権を重視した会話や実践を行う。 ⑪他者の意見を聞きつつ、自身の看護について意見を述べる。 ⑫個人情報の取り扱い、法的根拠を理解し情報保護ができる。 ⑬患者の安全に留意し、事故や感染を起こさない。 ⑭チームメンバー（指導者等）の指導の下、看護の実践及び報告・連絡・相談ができる。 ⑮多様な社会資源、サービス、制度の実際を見ることで看護の受け手の生活に関わる社会資源の意義を説明できる。 ⑯実践の振り返りを通して、看護専門職としての自己の在り方を省察し、看護の質の向上に向けて自己研鑽する。 ⑰実習を通して発展させた自己の看護についての考えを記述できる。 ※受け持ち患者によって実践、経験できなかった項目については、グループカンファレンス等で知識や実践経験を共有し、説明・記述できるように努める。			事前課題：急性期・回復期実習に必要な知識の復習を行う。 学内実習：受持ち対象者について、解剖生理学、病態治療学、看護学全般、看護過程についての予習・復習を行う。 臨地実習：受持ち対象者に応じて必要な解剖生理学・病態治療学・看護学全般についての予習復習を行う。日々の振り返りの記録を行う。次の日の行動計画を記載する。 臨地実習後の学内実習：臨地実習における学びについて記録用紙に記載しまとめる。		毎日 1～2 時間
学修評価の方法 基準（割合％）	看護ケアの提供状況と取り組み姿勢50％ 対象理解と看護過程における思考の整理（看護過程の記録）25％ カンファレンスでの発表と自己の振り返り等25％					
フィードバックの 方 法	毎日のミーティング時に学修内容をフィードバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。また、最終面接を評価基準に従っておこないフィードバックを行います。					
他 の 授 業 と の 関 連	全ての授業、特に成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、老年看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、看護過程・看護診断過程に関する学修理解を前提とします。					
テ キ ス ト	成人看護学・老年看護学のテキストおよび授業資料。その他必要時別途に提示します。					
参 考 図 書	人体構造機能学、病態生理学、基礎看護学の教科書・授業資料全て 病気が見えるシリーズ Vol.1～8、11					
履修上の留意点	臨地実習は看護の知識・技術を統合し、実践へ適応する能力を身に付けて行きます。慢性期・終末期看護について、根拠に基づいた個別性のある看護が実践できるよう臨みましょう。					
オフィスアワー	臨地において毎日、実習状況に対応して調整し、相談等に対応します。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	神谷 千鶴（看護師）、下舞 紀美代（看護師）、笠岡 和子（看護師）、蔭山 恵美（看護師）、村田 節子（看護師） 他					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	小児看護学実習 [Pediatric Nursing Practicum]	担 当 教 員 名	◎箕浦 洋子、谷口 英雄			
期 間	3 年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2 単位・90 時間				●	
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	3	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シー 番号	3-①②、4-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 小児看護学の基盤となる子どもの成長・発達と健康レベルを踏まえ、健康障害を持つ子どもとその家族を総合的に理解し、子どもの健康回復に向けた看護実践を行う基礎的能力を修得する。 [学修目標] 1. 対象となる子どもの成長・発達段階と健康レベルを説明することができる。 2. 子どもの権利を踏まえ、対象に合わせたインフォームドアセント / コンセントについて説明できる。 3. 対象となる子どもと家族の状況についてアセスメントし、健康障害が子どもと家族に及ぼす影響について説明できる。 4. 対象が持つ健康問題について科学的根拠を持って総合的に把握し、その解決のための計画・実施・評価ができる。 5. 専門職として必要な倫理的態度で実習に臨むことができる。 6. 実習での自己の学びを振り返り、看護に対する考えを俳句で表現することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容		目標時間
実 習 計 画	【臨地実習の概要】 病院において、健康障害を持った子どもに対して、置かれている状態をアセスメントし、健康回復の過程に必要な看護を計画し、看護学生として実践可能な看護を指導者の監督の下で実践する。 【実施および見学内容】 ・対象者の成長・発達状況、健康状態・治療状況および身体・心理・社会的側面に関わる情報収集の実施 ・対象者とその家族に合わせたコミュニケーションの実施 ・得られた情報から健康回復に向けた問題についてアセスメントを実施 ・アセスメントから、対象者の成長・発達、家族に合わせた看護計画（成果・目標）を立案 ・地域で生活するための対象者とその家族に対する支援 ・看護計画を、指導者又は教員の監督の下で実施 ・実施した内容の評価			(準備学修) 内容 学修目標を達成するため、知識と理論を総集し、実習施設での実際と統合し実習記録に論述する。		毎日 1～2 時間
学修評価の方法 基準（割合％）	主体的に実習に取り組む姿勢と正しい知識や理論に基づいているかどうか、毎日の実習における言動、記録、学修の状況などを、実習目的・目標の到達度（100％）は実習評価表に基づき評価します。					
フィードバックの 方 法	毎日のミーティング時に行動目標を中心に学修内容をフィードバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。日々の実習記録内容についてフィードバックを行い、リフレクションを促します。					
他 の 授 業 と の 関 連	小児看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修した内容を中心に、看護学実習で看護過程の実際を学修します。					
テ キ ス ト	小児看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの講義で使用したテキストおよび講義資料、その他、必要時別途提示する。					
参 考 図 書	参考書等は実習開始前および実習中に、学修内容に応じて適宜提示します。					
履 修 上 の 留 意 点	小児看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学修した内容を、実習施設で実際に行います。標準的な子どもの成長・発達の基に、対象者の状況について考えます。対象理解のために、成長・発達および看護過程の展開について基本的な内容を事前に学修しておきましょう。					
オフィスアワー	臨地において毎日、実習状況に対応して調整し相談等に対応します。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	箕浦 洋子（看護師）、谷口 英雄（看護師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	母性看護学実習 [Maternal Nursing Practicum]	担 当 教 員 名	◎松村 恵子、神谷 映里 小笠原 百恵、永峰 啓子、尾筋 淑子			
期 間	3年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・90時間				●	
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポ リ シ ー 番 号	4	デ イ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3-①②、4-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 臨地での実習を通して、母子の健康の意義や健康増進に向けた看護の役割を認識し、マタニティサイクルにある対象および家族に必要な援助ができる基礎的実践能力を修得する。 [学修目標] 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解し、根拠に基づいた看護過程が展開できる。 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康保持や増進のために行う支援について、その根拠や基本的な支援方法を説明できる。 3. 地域における母子保健活動についての実感が説明できる。 4. 褥婦およびその家族に適切な健康教育を立案し、計画に基づいて実践、評価できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
実 習 計 画	【病院施設での実習の概要】 妊婦、産婦、褥婦および新生児を受け持ち、対象およびその家族を通じて看護過程を学ぶ。 ・対象の身体的な健康状態をアセスメントする。 ・対象の心理・社会的な状態をアセスメントする。 ・対象にとっての優先順位を考えた具体的な計画を立案し、計画に基づき安全安楽に援助する。 ・目標に照らし合わせ、実践した看護の評価をする。 【「地域における母子保健活動」実習の概要】 地域における母性看護に関わる施策や事業（妊婦健康診査、産後の健康診査、母乳外来、乳児の健康診査、産前のサポート事業、育児相談事業、産後ケア事業等）に参画する。 ・施策や事業に参画し、地域における母子保健活動を学ぶ。 ・対象者を通して、事業や事業に携わる職種・機関の役割を学ぶ。 ・それぞれの施設の特徴や、利用者の特徴などをカンファレンスで共有する。 【「健康教育の実践」実習の概要】 病院施設で受け持った対象者に必要となる健康教育を立案し、計画に基づいて学生同士で実践する。 行った健康教育に対して、個々にデブリーフィングを行い、カンファレンスで共有する。		実習前に母性看護学Ⅰ、Ⅱ a、Ⅱ b、Ⅲの授業資料や教科書を用いて、今まで母性看護学で学んだ知識を確認して記述整理し、実習で活用できるように復習する。 授業資料や教科書を用いて、学修成果録の作成や提示される課題を作成する。			毎日 1～2 時間
学修評価の方法 基 準（割 合 %）	毎日の実習における学修の状況、実習の目的・目標の到達度は実習評価表に基づき評価します。具体的な配分については「令和6年度 実習要項 母性看護学実習」に記載します。					
フィードバックの 方 法	病院施設での実習および学内のカンファレンス時に学修内容をフィードバックし、必要に応じて個々に課題を提示します。					
他 の 授 業 と の 関 連	母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ a、母性看護学Ⅱ b、母性看護学Ⅲ					
テ キ ス ト	母性看護学の教科書、その他適宜紹介します。					
参 考 図 書	適宜紹介します。					
履修上の留意点	実習期間と実習場所に注意してください。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< k.matsumura@kki.ac.jp >に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	松村 恵子（助産師）、神谷 映里（助産師）、小笠原 百恵（助産師）、 永峰 啓子（助産師）、尾筋 淑子（助産師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	精神看護学実習 [Psychiatric Nursing Practicum]	担 当 教 員 名	◎小出水 寿英			
期 間	3年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・90時間				●	
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	5	ディプロマ・ ポリシー番号	3-①②、4-①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 精神看護の知識・技術の統合を図り、精神看護の受け手との関係形成やチーム医療において必要な対人能力や倫理観を養うとともに、メンタルヘルス上の課題である予防、早期発見、治療、リカバリーについて当事者のストレングスを生かしながら支援するための基礎的実践、ならびに精神看護専門職としての自己の在り方を省察する基礎的能力を学修する。 [学修目標] 1. 精神・心身に健康課題を持つ対象の特性を説明できる。 2. 対象がもつ健康課題を身体的・心理的・社会的側面から統合的に把握した看護過程の実践を記述し説明できる。 3. 精神看護専門職としての倫理観を記述し説明できる。 4. 保健医療福祉チームの機能と専門性と、チーム間での尊敬・連携・協働の必要性、ならびに精神看護の役割について記述し説明できる。 5. 精神看護専門職者としての自己の在り方の振り返りを記述し説明できる。 6. 実践を通して発展させた自己の精神障害者観を記述し説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容		目標時間
実 習 計 画	【病棟実習における概要】 精神疾患を持つ対象者を受持ち、精神科看護を学ぶ。 ・対象者の健康状態をアセスメントする。 ・対象者の心理・社会的な状態をアセスメントする。 ・対象者の優先順位を考えた具体的な計画を立案し援助する。 ・目標に照らし合わせ実施した看護実践を評価する。 ・実施した看護実践を振り返り、カンファレンスにて学びを共有する。 【精神保健福祉施設における概要】 ・精神保健福祉施設での看護実践を通して、多職種との連携の実際、地域における多様な社会資源、対象者を生活者としてとらえる視点などを学ぶ。 ・精神保健福祉法などの法律と関連させながら、施設の概要を捉える。 ・精神保健福祉施設のプロダクトに参加する。 ・対象者の身体、心理、社会的な状態をアセスメントする。 ・精神保健福祉施設での看護実践を評価する。 ・実施した看護実践を振り返り、カンファレンスにて学びを共有する。 ・エンパワメント、ストレングス、リカバリーの観点から対象者を生活者としてとらえる視点について学びを深める。			1) 精神看護学Ⅰ・精神看護学Ⅱ・精神看護学Ⅲで使用した教科書、及び参考図書・文献等、その他必要時別途提示された参考図書の該当箇所を確認する。 2) 実習での課題を理解するために必要な内容をまとめ記述し理解する。 3) 課題レポートを作成し提出する。		毎日 1～2 時間
学修評価の方法 基準（割合％）	別途配布する「2024年度精神看護学実習要項」に記載する。					
フィードバックの 方 法	臨地での実習指導および実習記録の確認を行い、学修目標の達成状況を確認する。 提出された課題は適宜確認し、実習施設および学内講義室等で個別にフィードバックを行う。 実習内容及びメンタルヘルスに関する質問・相談には随時対応する。					
他 の 授 業 と の 関 連	「精神看護学Ⅰ」「精神看護学Ⅱ」「精神看護学Ⅲ」「在宅看護論Ⅱ（援助論）」「公衆衛生看護活動論Ⅱ（対象別公衆衛生看護活動展開論①）」「薬理学Ⅰ（総論）」「薬理学Ⅱ（臨床薬理）」「カウンセリング論」「在宅看護論Ⅰ（概論）」「保健医療福祉行政論Ⅰ」「心理学」「人間と生き方（哲学）」「病態心理学」「生命と倫理」に関する復習は目標志向性を高めるため重要である。本科目は「課題実習」に連動するため継続的に学習を積重ねて下さい。					
テ キ ス ト	精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで使用したテキスト、ならびに講義中に明示した資料および参考図書、その他適宜紹介する。					
参 考 図 書	宮本真巳著：看護場面の再構成 感性を磨く技法Ⅰ、日本看護協会出版会 萱間真美編著：パーフェクト臨床実習ガイド精神看護、照林社、最新版 一般社団法人日本精神科看護協会監修 草地仁史ら編：精神看護学実習ハンドブック、中央法規出版 その他必要時に適宜紹介する。					
履修上の留意点	精神看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学修した内容の復習、事前課題の学修、実習での課題等、必ず自主的に実施して臨んでください。					
オフィスアワー	在室時は来談者の状況に応じ対応し、不在時は< t.koizumi@kki.ac.jp >に連絡して下さい。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	小出水 寿英（看護師）					

【4 学年】

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	英語Ⅵ [English Ⅵ]	担 当 教 員 名	◎西垣 有夏			
期 間	4年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間					○
授 業 形 態	講義		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	1、2	ディプロマ・ ポリシー番号	1－④、2－③、5－①			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療英語に特化した教材を用い、医療現場で交わされる会話文と医療にまつわる英文読解方法を習得する。会話文は音読を徹底し、英文読解は文章構造を把握しながら精読していく。英文で出てくる単語、熟語を活用して医療専門用語増強と用例を習得する。 [学修目標] 1. 看護分野における異文化コミュニケーションの足掛かりを築くために医療に特化した英文を正確に読み取ることができる。 2. 医療現場の視点で異文化を理解、解釈するために医療専門用語を習得することができる。 3. グローバル化の進む現代に生きる医療従事者になるために、継続して英語力に磨きをかけるための英語学習方法を習得することができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	Chapter 1: Polio and Vaccination—Dialogue ・ Do you have an appointment? ・ Are you a regular patient? ・ I vomited twice this morning, and I have a slight fever.		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。			4時間
第 2 回	Chapter 1: Polio and Vaccination— Reading Activity ・ Polio is a disease caused by a virus. ・ The disease used to be very common in the United States. ・ The polio vaccine is administered in one of two ways.		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。			4時間
第 3 回	Chapter 2: A Doctor's Prescription—Dialogue ・ I'll take you to the examination room. ・ What seems to be the problem? ・ I need to take your pulse and blood pressure.		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。			4時間
第 4 回	Chapter 2: A Doctor's Prescription—Reading Activity ・ Personal Prescription ・ Follow the directions for using this medicine provided by your doctor. ・ Store this medicine at room temperature or in the refrigerator.		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。			4時間
第 5 回	Chapter 3: Barometric Pressure—Dialogue ・ Tell me about your problem. ・ What does the pain feel like? ・ Barometric pressure changes may cause headaches and migraines. ・ Do you get any warning signs?		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。			4時間
第 6 回	Chapter 3: Barometric Pressure—Reading Activity ・ Are you a frequent user of painkiller? ・ You need to better understand what precipitate migraines. ・ Migraine suffers need to avoid extremes like intense summer heat.		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。			4時間
第 7 回	Chapter 4: Internal Medical Exam—Dialogue ・ I'll take a look at your stomach. ・ Take a deep breath, in and out. ・ Your pain may be connected to your high blood pressure. ・ There's some trouble with one of your arteries.		①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。			4時間

第 8 回	Chapter 4: Internal Medical Exam—Reading Activity ・ Controls the symptoms of diarrhea. ・ Chew the first dose and take with water. ・ Drink plenty of clear liquids to prevent dehydration.	①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。	4時間
第 9 回	Chapter 5: Colon Polyps—Dialogue ・ Have you had constipation or diarrhea? ・ It sounds like you might have colon polyps. ・ Did you try a clear liquid diet and take a laxative to clear your bowels? ・ It is very important to spot and remove polyps.	①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。	4時間
第 10 回	Chapter 5: Colon Polyps—Reading Practice ・ A colon polyp is a small clump on the lining of the colon. ・ Doctors are not sure exactly why the polyps form. ・ Colon polyps often don't cause symptoms.	①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。	4時間
第 11 回	Chapter 6: Respiratory Symptoms—Dialogue ・ We'll need to get your chest X-rayed. ・ You'll need to have a bronchoscopy done. ・ You'll be given an anesthetic spray. ・ You'll have to wait until the anesthetic has worn off.	①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。	4時間
第 12 回	Chapter 6: Respiratory Symptoms—Reading Practice ・ SARS was first reported in Asia in February 2003. ・ SARS is a viral respiratory illness caused by a coronavirus.	①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。	4時間
第 13 回	Chapter 7: Diabetes—Dialogue ・ Your urine test results show that something is not normal. ・ You need to control the amount of sugar in your blood. ・ Your body doesn't produce enough insulin.	①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。	4時間
第 14 回	Chapter 7: Diabetes—Reading Practice ・ Type II diabetes is a chronic condition that affects the way your body metabolizes sugar. ・ It's important to pay particular attention to what's happening to your blood vessels.	①授業で取り扱うテキストの箇所を予習、構文把握。 ②課題プリントの取り組み。 ③返却された課題プリントの見直し。 ④授業内容の整理、復習。	4時間
第 15 回	Chapter 1~Chapter 7までの復習 ・ Review lesson ・ Read aloud from the textbook. ・ Pronounce the key words and the key phrases.	①返却された課題プリントの見直し。 ②授業内容の整理、復習。	4時間
学修評価の方法 基準（割合％）	課題プリント（30％）、定期試験（70％）		
フィードバックの 方 法	課題プリントを採点し、必要に応じてコメントをつけて返却します。		
他 の 授 業 と の 関 連	積極的に一般教養科目を履修し、学問の裾野を広げてください。看護師として、専門職に関わる人間として幅広い教養を身に着けることは専門性を高め、理解を深めることにつながります。		
テ キ ス ト	西原俊明、西原真弓著 <i>English for Medicine</i> .（金星堂）		
参 考 図 書	英和辞典、『ジーニアス英和辞典第3版』（大修館書店）を推奨しますが、すでに所持している辞書があれば本講義で利用できることがあるので担当者に相談してください。		
履修上の留意点	毎時間課題プリントを配布するので次回授業時までに仕上げて提出してください。授業では毎時間学生にあてて学生の理解を確認しながら授業を進めます。受講生の英語力に合わせて基本的な文法説明を交えて授業進行しますが、主体性をもって取り組むようにしてください。常にテキストとプリント教材を持ち歩き、バスを待つ間など隙間時間を活用して少しでも英語に触れるようにしてください。反復学習が肝心です。		
オフィスアワー	随時。来室者の状況を配慮して調整します。西垣が研究室（1214）に在室し、来室者不在であればいいです。		
実 務 経 験 の あ る 教 員			

【単位の実質化に関する事項】

2単位90時間の学修時間となります。この内訳は、授業30時間授業時間外（準備学修）60時間となります。

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	令和3年度生用 公衆衛生看護活動論Ⅲ [Public Health Nursing Activities]	担 当 教 員 名	◎伊木 智子、臼井 香苗、 松崎 洋子、桂 香織、鮫島 真理子			
期 間	3年後期・4年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間				●保健師	●保健師
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シー 番 号	4 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域で生活する個人や家族、集団、組織に対して、その健康課題に応じた公衆衛生看護活動の展開方法を理解し、その対象の特性に応じた支援計画立案、実施・評価する一連の展開方法について学修する。 [学修目標] 1. 学校保健の目的と理念、制度とシステムについて説明できる。 2. 学校保健活動の実際から養護教諭の果たす役割について説明できる。 3. 産業保健の目的と理念、労働安全衛生関連法規について説明できる。 4. 産業保健活動の実際から産業保健看護職の果たす役割について説明できる。 5. 地域の小集団を対象とした健康教育の目的と理論について説明できる。 6. 地域の小集団を対象とした健康教育において、グループで計画を作成し、実践・評価することで、PDCA サイクルについて説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	オリエンテーション (伊木) ・学校保健の理念と目的 制度とシステム		学修内容から考察を記述			3時間
第 2 回	学校保健活動の実際 (桂) ・養護教諭の役割・機能、特別支援教育		①課題レポートを作成し提出			4時間
第 3 回	産業保健活動 (伊木) ・産業保健の理念と目的、労働安全衛生関連法規		学修内容から考察を記述			3時間
第 4 回	産業保健活動の実際 (伊木)(鮫島) ・産業保健看護職の役割と機能、多職種連携		②課題レポートを作成し提出			4時間
第 5 回	地域の小集団における公衆衛生看護活動① (臼井、伊木、松崎) ・健康教育予演(計画、実践)とディスカッション① 【発表等】		課題学修、成果物の作成			6時間
第 6・7 回	公衆衛生看護活動実践と展開方法① (伊木、臼井、松崎) ・行政における公衆衛生看護活動と展開方法 まとめ 【発表等】		課題学修、成果物記録の作成			7時間
第 8 回	地域の小集団における公衆衛生看護活動② ・健康教育予演(計画、実践)とディスカッション② 【発表等】		課題学修、成果物記録の作成			6時間
第 9・10 回	公衆衛生看護活動実践と展開方法② (伊木、臼井、松崎) ・行政における公衆衛生看護活動と展開方法 まとめ 【発表等】		課題学修、成果物記録の作成			7時間
第 11 回	地域の小集団における公衆衛生看護活動③ (臼井、伊木、松崎) ・健康教育予演(計画、実践)とディスカッション③ 【発表等】		課題学修、成果物記録の作成			6時間

第 12・13 回	公衆衛生看護活動実践と展開方法③ (伊木、臼井、松崎)	課題学修、成果物記録の作成	7時間
第 14・15 回	地域の小集団における公衆衛生看護活動 (臼井) ・健康教育の立案、実践・評価、PDCA サイクル まとめ	最終成果物、記録の作成	7時間
学修評価の方法 基準 (割合 %)	グループワークの参加状況 (No.5 ~ 13) 40%、成果物・記録等の提出物 (No.5 ~ 15) 40% 課題レポート (No.2、4) 20%はルーブリック評価とします。試験10% 合わせて100点評価とする。		
フィードバックの 方 法	発表内容や準備の進捗状況等を鑑み、必要に応じて個別・グループにフィードバックします。		
他 の 授 業 と の 関 連	公衆衛生看護概論、公衆衛生看護活動論1、公衆衛生看護活動論ⅡⅢ、地域看護診断論		
テ キ ス ト	標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 (公衆衛生看護技術論と兼用) 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 (3年次の公衆衛生看護活動論Ⅰで購入済)		
参 考 図 書	必要に応じて授業時間内で紹介します。		
履修上の留意点	授業時間外でのグループワークの取り組みを必要とするため、空き時間を活用し、グループで計画的に進めていくことが重要となります。実習と連動して行われる箇所もあるため、総合的に学習することが必要です。		
オフィスアワー	状況に応じて在室時に随時対応します。不在時は伊木 (t.tiki@kki.ac.jp) 臼井 (k.usui@kki.ac.jp) 森花 (m.morihana@kki.ac.jp) に連絡ください		
実 務 経 験 の あ る 教 員	伊木 智子 (保健師)、臼井 香苗 (保健師)、松崎 洋子 (保健師) 桂 香織 (養護教諭)、鮫島 真理子 (産業保健看護職)		

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	地域看護診断論 [Community Health Assessment]	担 当 教 員 名	◎臼井 香苗			
期 間	3年後期・4年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間				●保健師	●保健師
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	ディプロマ・ ポリシー番号	3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域看護診断の概念と目的を理解し、保健師として人々が生活する地域を対象とした支援技術、地域全体の健康を向上するための方法、臨地実習予定となっている地域に顕在・潜在している課題をアセスメントするための展開方法など基本的な技術を学修する。 [学修目標] 1. 臨地実習予定となっている地域の健康課題を抽出するために、地域看護診断のモデル（コミュニティ・アズ・パートナーモデル）を用いて地域の特性に関わる情報収集を行う。 2. 情報収集したデータの意味を解釈し、アセスメントを行い、地域の健康課題を抽出する。 3. 地域看護診断のモデルを活用して。実習地域のデータ・情報をアセスメントし、地域の健康課題の立案をする。 4. 地区のデータのアセスメントや地区踏査から得られた地区特性と地域の健康課題について、グループごとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		目標時間	
第 1 回	オリエンテーション、地域看護診断の概念と目的、意義 【講義】		実習先の自治体からの地域に関する資料、ホームページを閲覧して情報を整理する。		各 4 時間 合計 60時間	
第 2 回	地域診断の理論 【講義】					
第 3～5 回	コミュニティ・アズ・パートナーモデルの地域の概要とコアの情報収集 【演習】					
第 6～8 回	コミュニティ・アズ・パートナーモデルの地域のサブシステムの情報収集とアセスメント 【演習】					
第 9 回	地区踏査の意義と方法 【講義】					
第 10 回	地区踏査計画の作成 【演習】					
第 11・12 回	地区踏査の実施 【演習】					
第 13 回	データと地区踏査の結果の統合、地域の健康課題の抽出、地区特性の明確化 【演習】					
第 14・15 回	グループ発表、ディスカッション 【演習】					
学修評価の方法 基準（割合％）	1. まとめのテスト（30％） 2. 個人レポート（20％） 3. 地区踏査計画（10％） 4. グループワーク提出物、グループワークやディスカッションでの積極性（40％）					
フィードバックの方法	課題・提出物はコメントをつけて返却するとともに、グループ発表に対しては発表後にフィードバックします。					
他 の 授 業 と の 関 連	公衆衛生看護学実習Ⅱ、保健医療福祉行政論Ⅱと連動して実施する科目です。実習の準備性を高めるためにも重要な科目となります。継続的に学習を深めましょう。					
テ キ ス ト	最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 メヂカルフレンド社（3年次に購入済）					
参 考 図 書	必要に応じて授業時間内で紹介します。					
履修上の留意点	授業時間外でのグループワークの取り組みを必要とするため、空き時間を活用しグループで協力して計画的に作業を進めていくことが重要です。公衆衛生看護学実習（行政実習）において必要とされる基礎的な知識、技術を修得する科目です。主体的に学習を深めてください。					
オフィスアワー	状況に応じて在室時に随時対応します。不在時は k.usui@kki.ac.jp に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	臼井 香苗（保健師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	公衆衛生看護技術論 [Public Health Nursing Skills]	担 当 教 員 名	◎伊木 智子、臼井 香苗、 松崎 洋子、古川 秀敏			
期 間	4年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・30時間					●保健師
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	1、2、3、4	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 公衆衛生看護活動の支援方法のうち、個人や家族を対象とした支援の考え方、保健師による家庭訪問の計画、実施、評価の一連のプロセス、乳幼児健康診査における発達検査や保健指導、地域の小集団を対象とした健康教育の計画・実施・評価によるPDCAサイクルについて実践的に学修する。 [学修目標] 1. 個人や家族を対象とした個別支援の考え方を説明できる。 2. 保健師の行う家庭訪問の計画、実施、評価の一連のプロセスを実施できる。 3. 乳幼児健康診査における発達検査、保健指導、評価を実施できる。 4. 地域の小集団を対象とした健康教育において、グループで計画を作成し、実践・評価を実施することで、PDCAサイクルの視点について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	オリエンテーション (伊木) ・公衆衛生看護に求められる機能と技術		事前に関連個所の教科書熟読 学修内容から考察を記述			2時間
第 2 回	親子(母子)保健活動 (伊木) ・子どもの発達への支援 母子保健体系		課題①：事例の情報整理、解釈、 援助計画立案 (訪問記録様式)			7時間
第 3 ・ 4 回	保健師による家庭訪問 【講義・演習】(伊木、臼井、松崎、古川) ・保健師による家庭訪問の目的、特徴、プロセス 新生児家庭訪問の実際(ビデオ視聴) 家庭訪問において必要な技術と保健師の役割 地区活動への反映、事業化、施策化 ・家庭訪問による支援の実際 事例への新生児訪問演習 新生児家庭訪問ロールプレイ実施、ディスカッション		課題②：訪問後の振り返りの内容 の整理、まとめ、今後の訪問計画 立案(訪問記録様式)			7時間
第 5 ・ 6 ・ 7 回	乳幼児健康診査 【講義・演習】(伊木、臼井、松崎、古川) ・乳幼児健康診査の目的、意義、流れ、未受診児への対応 新版K式発達検査の実施方法 ・乳幼児健康診査ロールプレイの実施、ディスカッション		課題③：事例の情報整理、解釈、 健診の流れイメージ 振り返りの内容を整理 記録作成 (記録様式)			7時間
第 8 ・ 9 回	健康教育の展開① 【演習】(臼井、伊木、古川、松崎) ・健康教育の企画書作成		健康教育企画書の作成			8時間
第 10 回	健康教育の企画書の発表とディスカッション 【発表等】(臼井、伊木、古川、松崎)		発表、ディスカッション後の修正、 まとめなど			7時間
第 11・12 回	健康教育の指導案作成 【演習】(臼井、伊木、古川、松崎)		健康教育指導案の作成			10時間
第13・14・15回	健康教育のシナリオ・媒体作成 【演習】(臼井、伊木、古川、松崎)		健康教育シナリオ・媒体作成			12時間
学修評価の方法 基 準 (割 合 %)	演習時のグループへの参加度(意欲・姿勢)50%、課題①②③、演習後の記録等の提出物：50% 合わせて100点評価とする。					
フィードバックの 方 法	学修過程における目標達成状況は、課題、記録等の提出される記述内容により確認します。記録物などについてはコメントを入れて各自に返却します。演習時、適宜必要に応じて個々にコメントしフィードバックします。評価内容は求めに応じて個々に開示して説明します。					
他 の 授 業 と の 関 連	公衆衛生看護概論、公衆衛生看護活動論1、公衆衛生看護活動論Ⅱ、地域看護診断論					
テ キ ス ト	①標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 ②標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院(3年次の公衆衛生看護活動論Ⅰで購入済)					
参 考 図 書	必要に応じて授業時間内で紹介します。					
履修上の留意点	授業時間外でのグループワークの取り組みを必要とするため、空き時間を活用し、グループで計画的に進めていくことが重要となります。実習と連動して行われる箇所もあるため、総合的に学習することが必要です。					
オフィスアワー	状況に応じて在室時に随時対応します。不在時は伊木(tiki@kki.ac.jp)、臼井(k.usui@kki.ac.jp)、古川(h.furukawa@kki.ac.jp)、森花(m.morihana@kki.ac.jp)に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	伊木 智子(保健師)、臼井 香苗(保健師)、松崎 洋子(保健師)、古川 秀敏(保健師)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	公衆衛生看護学実習Ⅰ [Public Health Nursing PracticumⅠ]	担 当 教 員 名	◎伊木 智子、古川 秀敏、 臼井 香苗、松崎 洋子			
期 間	4年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	2単位・90時間					●保健師
授 業 形 態	実習		●－必修・○－選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	ディプロマ・ ポリシー番号	1、2、3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[概要] 産業・学校における看護職（産業保健看護職・養護教諭）の役割・機能、活動内容の実際、他機関・他職種連携について学修する。この学修から公衆衛生看護学における個人、家族、集団・組織支援に関する基礎能力を修得する。 [学修目標] 1. 児童、生徒の学校生活に接し、学童期、思春期の特性や健康課題について説明できる。 2. 学校保健活動の実際を通じて、養護教諭に必要な知識や基本的技術、学校保健活動の展開方法を説明できる。 3. 学校組織について学ぶと共に、養護教諭と教職員および関係機関との連携について理解し、養護教諭の役割と機能について説明できる。 4. 働く人の労働の特徴について知り、労働条件や労働環境と健康が密接に関連していることを説明できる。 5. 企業体制ならびに安全衛生管理の体制について説明できる。 6. 事業場の産業保健に関するさまざまな事業に参加し、働く人の健康課題に対して、産業保健看護職による健康支援について説明できる。 7. さまざまな産業保健専門職との連携について説明できる。 8. 実習目的に照合し実習目標の達成度を自己評価と課題を論述し説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
実 習 計 画	1 週目【学校保健実習の概要】 1) 学校保健実習オリエンテーション ・学校別のオリエンテーション、実習目的・目標・実習方法 ・小学校・中学校の特徴について既存の資料やホームページから理解し、健康課題から看護支援、地区踏査により学校周辺の地域特性を把握（実習挨拶時）する。 2) 養護教諭に同行し実習を行う ・学校保健年間計画に沿って行われる事業（健康診断等）と養護教諭保健活動の実際 ・保健室での対応、他機関・他職種との連携、特別な配慮を要する児童・生徒の対応の実際 3) グループディスカッション ・学校保健実習での学びの共有、到達目標に照合し達成度を確認 2 週目【事業所における臨地実習の概要】 1) 産業保健実習オリエンテーション ・施設別のオリエンテーション、実習目的・目標・実習方法 ・事業所の特徴について既存の資料やホームページから理解し、健康課題から看護支援、事業所周辺の地域特性を把握する。 2) 事業所の産業保健看護職、安全衛生担当者に同行し実習を行う ・産業保健年間計画に沿って行われる事業と産業保健看護職の役割の実際 ・健康管理活動、他機関・他職種との連携の実際 3) グループディスカッション ・産業保健実習での学びの共有、到達目標に照合し達成度を確認		【実習前】 ・関連科目の復習をする。 ・実習校、事業所について資料、HPなどで調べる。 【実習中】 ・実習記録、臨地における情報収集、参加する事業などについて法的根拠、位置づけなどを調べる。 ・実習での学びを考察し、理解を深める。 【実習後】 ・実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。 ・学生間で実習での学びを共有し、学びを深める。 ・すべての学修目標を達成するため、知識と理論を総集し、学校、事業所での実際と統合し論述する。 ・保健師国家試験の過去問、模擬試験問題を解き、傾向と対策を行う。			毎日 2～3時間 程度
学修評価の方法 基 準（ 割 合 ％）	出席状況10％、実習記録30％ レポート内容20％、プレゼンテーション20％、グループワーク・カンファレンスの貢献度（意欲・姿勢）20％から総合的に評価する。					
フィードバックの 方 法	1. 実習記録における個別指導、2. 実習記録およびレポートにコメントを記入する。 3. カンファレンスでの個別、集団指導					
他 の 授 業 と の 関 連	地域看護学Ⅱ、公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ 公衆衛生看護学Ⅲ					
テ キ ス ト	・児童生徒の健康診断マニュアル、日本学校保健会（最新版） ・標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院（公衆衛生看護技術論と兼用） ・標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院（3年次の公衆衛生看護活動論Ⅰで購入済）					
参 考 図 書	参考書等は実習開始前に、実習中は、毎日の学修内容に応じて適宜提示します。					
履修上の留意点	公衆衛生看護学に関連する講義で学んだことを統合し、理解を深めてください。					
オフィスアワー	状況に応じて在室時に随時対応します。不在時は伊木（tiki@kki.ac.jp）まで連絡ください					
実 務 経 験 の あ る 教 員	伊木 智子（保健師、衛生管理者）、古川 秀敏（保健師）、臼井 香苗（保健師）、 松崎 洋子（保健師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	公衆衛生看護学実習Ⅱ [Public Health Nursing Practicum Ⅱ]	担 当 教 員 名	◎白井 香苗、伊木 智子、 古川 秀敏、松崎 洋子			
期 間	4年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	3単位・135時間					●保健師
授 業 形 態	臨地実習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	5	ディプロマ・ ポリシー 番号	1、2、3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域で生活する人々と地域社会について理解を深め、地域特性と関連づけて実践できる能力や思考する基礎的な能力を養う。個人や家族および集団・組織を支援する公衆衛生看護活動の実際を通して、地域に暮らす人々の健康を高めるための基本的な知識および方法・技術を理解しそのあり方を学ぶ。 [学修目標] 1. 人々の生活の場としての地域の特性を把握し、既存資料・データ、保健師活動等から地域に顕在および潜在している健康課題を抽出し、根拠をもって説明できる。 2. 地域住民の主体性を尊重した公衆衛生看護活動について説明できる。 3. 様々なライフサイクルや健康レベルにある個人、家族、集団、地域全体の公衆衛生看護活動を展開できる。 4. 公衆衛生看護活動における多機関・多職種との連携や地域包括ケアシステムにおける保健師の役割と機能を説明できる。 5. 行政を基盤とした公衆衛生看護活動における保健師の役割について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容		目標時間	
実 習 計 画	・実習地域の地域看護診断を行い、健康課題、住民の健康ニーズ、健康課題の解決に向けた地域特性をふまえた公衆衛生看護活動を理解する。 ・実習地域の保健事業に参加し公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。地域における保健・医療・福祉の関係機関、他職種の連携調整の実際を理解する。 ・地域における個人や家族を対象とした健康課題のアセスメントを行い、看護過程の展開を行う。 ・地域の小集団を対象とした健康教育を企画し、実施・評価を行う。 ・実習を通して学んだことについて考察を行い、まとめを実習報告会で発表し、他グループの学生とディスカッションをする。		【実習前】 ・公衆衛生看護科目および関連科目の復習をする。 ・実習地域の地域看護診断を展開し健康課題を明確にする。 ・公衆衛生看護技術の事前演習を行う。 【実習中】 ・地域看護診断や家庭訪問記録、日々の実習記録の課題を行う。 ・家庭訪問の対象者への支援に必要な情報収集等を行う。 【実習後】 ・学内にて全員が参加した報告会とディスカッションを実施する。 ・実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。		毎日 1～2時間 程度	
学修評価の方法 基準（割合％）	実習への参加状況、記録・レポート内容、グループワーク、プレゼンテーション、カンファレンス、ディスカッションの参加・貢献から実習目標の達成度から総合的に評価する。 内訳：事前学習10％、実習態度・参加状況20％、実習記録20％、地域看護診断・グループワーク参加状況20％、個人レポート30％					
フィードバックの方法	1. 臨地における個別指導 2. 実習記録およびレポートへの助言 3. カンファレンスでの個別、集団指導 また、必要に応じて個別の課題を提示します					
他 の 授 業 と の 関 連	すべての授業、特に公衆衛生看護学関連の授業の学修理解を前提とします。					
テ キ ス ト	厚生労働統計協会編：国民衛生の動向 2022/2023 厚生労働統計協会編：国民福祉の動向 2022/2023 保健師国家試験のためのレビューブック最新版 ※2、3年次の教科書も使用します。					
参 考 図 書	実習開始前および実習に進捗に応じて提示します。					
履修上の留意点	行政における公衆衛生看護学実習の目的・目標を十分に理解し、達成を目指して主体的に実習に臨んでください。					
オフィスアワー	臨地において毎日担当の教員が調整し、相談に対応します。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	白井 香苗（保健師）、伊木 智子（保健師）、古川 秀敏（保健師）、松崎 洋子（保健師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	課題実習 [Subjective Practice]	担 当 教 員 名	◎小出水 寿英 精神看護学他・基礎・在宅・成人・老年・ 小児・母性・公衆衛生看護学領域教員			
期 間	4 年前期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	2単位・90時間					●
授 業 形 態	実習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	5	ディプロマ・ ポリシー 番号	3-①②、4-①②③、5-①②			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 様々な看護の場における看護の機能・役割を理解し、課題実習で選択する看護領域において、組織における看護活動とケアの質改善への取り組みや保健・医療・福祉チーム等における連携と協働について学修する。 [学修目標] 1. 組織における看護の機能と看護活動の在り方、看護の質の管理及び改善への取組を説明できる。 2. 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働について説明できる。 3. 医療機関、在宅、保健機関、福祉施設、産業・職域、学校、研究機関、在日外国人に対する保健・医療活動等の多様な場に応じた看護実践について説明できる。 4. 保健・医療・福祉のケアニーズを持つ人々が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるようにするために、地域包括ケアにおける看護について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
実 習 計 画	各領域の担当教員が提示する課題実習内容に沿って、総合的な看護実践を行い、保健・医療活動などの多様な場における看護実践の在り方、保健・医療・福祉チームにおける他職種連携と協働、地域で暮らす人や在宅療養者とその家族を含めた地域包括ケアについて記述し説明する。 1) 看護実践に必要な情報を収集し記録する。 2) 得られた情報を活用し、望ましい健康状態や問題解決に向けた看護実践を計画し記録する。 3) 計画した看護実践を記録する。 4) 各看護学領域の専門性を探求し記録する。 5) これらの看護実践記録、文献、既習の概念を用いて、各看護領域に生じている現象の多様性を踏まえ記述し説明する。		各領域で使用した教科書、及び参考図書・文献等、その他必要時別途提示された参考図書の該当箇所を復習し、実習課題を理解するために必要な内容をまとめ記述し提出する。			1.5時間/ 日
学修評価の方法 基 準 (割 合 %)	主体的な姿勢・取組み、倫理的態度、実習目的・目標の到達度 (80%)、実習の準備状況 (10%)、学びの共有における主体性 (10%) を、各看護学領域が作成した評価表に基づき評価する。					
フィードバックの 方 法	看護実践においてはカンファレンス等で学修内容をフィードバックする。この時、必要に応じて個別に学修課題を提示し、作成された学修課題に対してもフィードバックを行う。また、実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭または文書にてフィードバックする。					
他 の 授 業 と の 関 連	これまで学修した「基礎分野科目」「専門基礎分野科目」「専門分野科目」に関する復習は目標志向性を高めるため重要である。					
テ キ ス ト	各領域で使用した教科書、資料、文献、参考書等。					
参 考 図 書	必要時、適宜紹介する。					
履 修 上 の 留 意 点	履修に関しては、全看護学領域の臨地実習が終了しており、そのすべての単位認定が見込まれることを原則とする。 看護専門分野の実習科目ですので、必ず自主的に学修し実習に望んでください。					
オフィシアワー	各領域担当教員が提示する連絡先にアクセスする。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	◎小出水 寿英 (看護師)、奥津 文子 (看護師)、黒江 ゆり子 (看護師)、土井 香 (看護師)、山口 夏季 (看護師)、神谷 千鶴 (看護師)、笠岡 和子 (看護師)、小平 京子 (看護師)、原田 美穂子 (看護師)、國政 ちとせ (看護師)、下舞 紀美代 (看護師)、箕浦 洋子 (看護師)、谷口 英雄 (看護師)、松村 恵子 (助産師)、尾筋 淑子 (助産師)、神谷 映里 (助産師)、小笠原 百恵 (助産師)、永峰 啓子 (助産師)、伊木 智子 (保健師)、古川 秀敏 (保健師)、白井 香苗 (保健師)、松崎 洋子 (保健師)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	卒業研究 [Graduation Research]	担 当 教 員 名	◎江川 隆子、○奥津 文子 古川 秀敏、神谷 千鶴、 他看護系教員・基礎系教員			
期 間	4年通年	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	4単位 60時間					●
授 業 形 態	演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	5	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	3、4、5			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護実践に必要な知識を整理・再構築し、看護の対象となる「看護現象」についての知識を深めると共に、研究論文をクリティカルに講読することを通し、看護研究について学修する。 [学修目標] 1. 科学的看護実践に必要な知識を、グループワークを通して再整理できる。 2. 看護における「概念」を明確にすることの重要性が説明できる。 3. 興味・関心を抱く「臨床疑問」から「研究疑問」を明確にし、研究疑問の中核にある「看護現象」「看護概念」を説明できる。 4. 取り上げたい研究論文をクリティークできる。 5. 研究発表の場に参加し、研究についてのディスカッションを体験する。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	看護研究・臨床研究の意義と意味について 研究における「用語」 【講義】(江川)		テキスト第1章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 2 回	研究の枠組み、サブストラクション 【講義】(江川)		テキスト第4、5章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 3 回	研究の種類 看護過程と看護研究の関係性 【講義】(江川)		テキスト第5章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 4 回	研究計画について 【講義】(神谷)		テキスト第6章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 5 回	クリティークについて 【講義】(神谷)		クリティカルシンキングについて復習			1.5時間
第 6 回	量的研究について 文献検討 【講義】(古川)		テキスト第3章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 7 回	量的研究について 統計学、データ収集について 【講義】(古川)		テキスト第7章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 8 回	量的研究について 妥当性について、変数の種類 【講義】(古川)		テキスト第8章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 9 回	量的研究について 変数と変数の関係 データ分析Ⅰ 【講義】(古川)		テキスト第8章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 10 回	量的研究について データ分析Ⅱ 【講義】(古川)		テキスト第8章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 11 回	量的研究について 研究結果の活用 【講義】(古川)		テキスト第9章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 12 回	質的・帰納的研究 質的研究・帰納的研究 【講義】(古川)		テキスト第10章の精読。疑問点の抽出、用語の意味を調べる。			1.5時間
第 13 回	概念分析についてⅠ 概念とは、概念分析の必要性、概念分析の方法 【講義】(奥津)		「便秘」について、定義、病態を調べ、まとめる。			3時間

第 14 回	概念分析についてⅡ 概念分析の実際	【講義】（奥津）	「褥瘡」について、定義、病態を調べて、まとめる。	3時間			
第 15 回	(演習) 前期課題： 用語集 クリティーク論文 サブストラクシヨンの作成の作成		各グループの中で課題を明確にし、グループワークの事前・事後に学習してくる。	6時間× 16回			
第 16 回							
第 17 回							
第 18 回							
第 19 回							
第 20 回					(演習) 後期課題の作成： 論文の選択		
第 21 回					用語集の作成 クリティーク論文		
第 22 回					サブストラクシヨンの作成（グループワーク） クリティーク論文の作成（個人ワーク）		
第 23 回							
第 24 回							
第 25 回							
第 26 回							
第 27 回	看護学研究発表の場への参加						
第 28 回	第30回看護診断学会への参加予定						
第 29 回							
第 30 回							
学修評価の方法 基準（割合％）	グループ評価：評価配点50点 課題の提出とグループワークへの参加状況等を総合して評価する。 個人評価：評価配点50点 別に実施する「卒業前学力考査」における得点率 〈大学が定める卒業認定基準値以上の得点）						
フィードバックの方法	グループワークの中で、個人ならびにグループに対し、適宜行う						
他の授業との関連	看護学原論、看護診断学、情報処理、統計学、看護学全般						
テキスト	南裕子 編集（2020）：看護における研究、株式会社日本看護協会出版会、東京						
参考図書	三田寺裕治（2023）：医療・福祉職のための量的研究 南山堂						
履修上の留意点	課題の内容・提出方法・期日等の詳細は、担当教員を通じて指示する。						
オフィスアワー	事前に連絡すること。調整の上、面談に応じます。						
実務経験のある教員	江川 隆子（看護師）、奥津 文子（看護師）、古川 秀敏（看護師）、神谷 千鶴（看護師）、 他すべての看護系教員						

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	保健医療福祉行政論Ⅱ [Administrative Health and Medical Welfare Ⅱ]	担 当 教 員 名	◎臼井 香苗			
期 間	4年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・15時間					●保健師
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域診断論と公衆衛生看護学実習Ⅱを経て実施した地域診断をもとに、地区課題への対策とその評価の視点について検討することで、保健師業務における地区管理の考え方について理解する。また、グループ間でのプレゼンテーションとディスカッションを通して、それらの能力を修得する。 一連のプロセスから、保健医療福祉行政について学修する。 [学修目標] 1. 地域課題への対策と評価の視点について説明できる。 2. 地域診断論と公衆衛生看護学実習Ⅱにおいて抽出した健康課題への対策について、プリシード・プロセスモデルに基づきグループで分析できる。 3. 各実習地域での分析結果について、グループごとにプレゼンテーションを実施できる。 4. 保健師が行う地区管理の視点を説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	オリエンテーション、地域課題への対策と評価の考え方、 プリシード・プロセスモデル 【講義】		【予習】 教科書の該当箇所や参考書に目を通して概要を把握しておく。			各 3～4 時間 合計 30時間
第 2 回	選定した領域における地域の健康課題の目標設定、要因 の抽出と分類 【演習】		【復習】 教科書や配布された資料の内容、 授業中のノートをもとに理解を深める。			
第 3・4 回	選定した健康課題に対する現行の対策事業の分類 【演習】					
第 5・6 回	選定した健康課題に対する改善計画の検討、評価計画作成 【演習】					
第 7・8 回	グループ発表・ディスカッション、まとめ 【演習】					
学修評価の方法 基準（割合％）	個人レポート40％、グループワーク参加状況30％、グループ成果物30％					
フィードバックの 方 法	課題・提出物はコメントをつけて返却するとともに、グループ発表に対しては発表後にフィードバックします。					
他 の 授 業 と の 関 連	3年次、4年次の地域看護診断論、4年次の公衆衛生看護学実習Ⅱと連動する科目であり、それらを統合する科目となります。					
テ キ ス ト	最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 メヂカルフレンド社（3年次に購入済）					
参 考 図 書	必要に応じて授業時間内で紹介します。					
履修上の留意点	授業時間外でのグループワークの取り組みを必要とするため、空き時間を活用しグループで協力して計画的に作業を進めていくことが重要です。					
オフィスアワー	状況に応じて在室時に随時対応します。不在時は k.usui@kki.ac.jp に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	臼井 香苗（保健師）					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	公衆衛生看護管理論 [Public Health Nursing Management]	担 当 教 員 名	◎伊木 智子、和泉 比佐子			
期 間	4年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1単位・15時間					●保健師
授 業 形 態	講義		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー番号	4	デ イ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	4 - ①②③			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 公衆衛生看護管理の目的および機能を理解し、保健師の担う公衆衛生看護管理の実際、健康危機管理について理解する。さらに地域包括ケアシステムと保健活動について事例をもとに学修する。 [学修目標] 1. 公衆衛生看護管理の目的および機能について理解し、地区管理に必要な具体的方法について説明できる。 2. 事例管理、地区管理に必要な公衆衛生看護管理の方法について説明できる。 3. 政策、施策を視野に入れた予算管理と、それに必要な地区管理について説明できる。 4. 人材育成、人事管理、に理解を深め、キャリア段階に応じて必要な能力を説明できる。 5. 災害や感染症などの健康危機管理における体制、平常時、発生時、回復時の対策及び予防策について説明できる。 6. 地域包括ケアシステムにおける保健師活動について事例を通じて説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容			目標時間
第 1 回	オリエンテーション 公衆衛生看護管理の定義・基本 目的と機能		【講義】(伊木) 事後には自身のノートを整理し、理解を深める (2h)			1時間 2時間
第 2 回	公衆衛生看護管理活動① 事例管理、地区管理、情報管理、予算管理 事業・業務管理、組織運営管理		【講義】(伊木) 【事前学修】 教科書の関連ページ、授業範囲の資料など熟読しておく。			4時間
第 3 回	公衆衛生看護管理活動② 計画策定・施策化と予算のしくみ、事業化、施策化、地方自治体 における保健計画、計画策定のプロセス、施策・事業と予算		【講義】(和泉) 【事後学修】 教科書や配布されたレジメ、資料の内容などをもとに、ノートを整理し、理解を深める。			3時間
第 4 回	保健師に求められる能力と管理機能① 統括保健師、人材育成管理、人事管理、キャリアラダー、OJT		【講義】(和泉)			4時間
第 5 回	公衆衛生看護管理活動③ 地域の健康課題に応じた事業の開発・施策化の プロセス PDCA サイクル		【講義】(和泉)			4時間
第 6 回	地域ケアシステムと保健師活動 地域ケアシステム構築、住民との協働やネットワーク構築		【講義】(伊木)			4時間
第 7 回	健康危機管理① 災害の種類や災害サイクル支援体制、フェイズと各期の保健 師活動		【講義】(伊木)			4時間
第 8 回	健康危機管理② 感染症における保健師活動 まとめ		【講義】(伊木)			4時間
学修評価の方法 基準 (割 合 %)	課題提出物 (20%)、試験 (80%)					
フィードバックの 方 法	授業中の小テストで学習目標の達成状況を確認する。目標到達状況に応じて授業においてフィードバックする。評価内容は求めに応じて個々に提示し説明する。授業の中で課題のフィードバックを行う。随時、講義で行う。					
他 の 授 業 と の 関 連	公衆衛生看護活動論Ⅱ、地域看護診断論、公衆衛生看護学実習Ⅱ					
テ キ ス ト	最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論 平野かよ子 (編) メヂカルフレンド社					
参 考 図 書	都度、紹介する。					
履修上の留意点	公衆衛生看護学の講義や公衆衛生看護学実習で経験したことを振り返りながら学修しましょう。今までの学習成果の整理をし、あらかじめ必要な事項を復習した上で授業に臨んでください。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は<伊木智子:tiki@kki.ac.jp>に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	伊木 智子 (保健師)、和泉 比佐子 (保健師)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	看護管理論 [Nursing Management]	担 当 教 員 名	◎箕浦 洋子			
期 間	4 年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数 ・ 時 間	1 単位 ・ 15時間					○
授 業 形 態	講義 ・ 演習		● - 必修 ・ ○ - 選択			
カリキュラム ・ ポリシー 番号	4	デ ィ プ ロ マ ・ ポ リ シ ー 番 号	3、 4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護管理の基本的概念を学び、質の高い看護サービスを提供するために看護職者個人および看護組織が担う役割を理解し、医療施設等における看護職者の看護実践活動の現状と課題を看護管理の視点で検討し、看護組織運営や変革について学修する。 [学修目標] 1. 看護におけるマネジメントの変遷とこれから求められるマネジメントについて説明できる。 2. 看護職が提供する看護ケアマネジメントについて説明できる。 3. チーム医療における他職種との連携について理解し、看護職の役割について説明できる。 4. 看護職のキャリアマネジメントについて説明できる。 5. 看護サービス提供のためのしくみについて説明できる。 6. 組織目的達成のためのマネジメントについて説明できる。 7. 組織を動かすリーダーシップに説明できる。 8. 看護サービスの質評価について説明できる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容				授業時間外(準備学修)の内容	目標時間
第 1 回	看護とマネジメント 【講義】(箕浦) ・看護管理の概要 ・マネジメントの変遷 ・これからの看護職に求められるマネジメント				学修内容のリフレクション	3時間
第 2 回	看護ケアマネジメント 【講義・グループワーク】(箕浦) ・患者の権利 ・チーム医療				学修内容のリフレクション	3時間
第 3 回	看護ケアマネジメント 【講義・グループワーク】(箕浦) ・看護業務の実践				学修内容のリフレクション	3時間
第 4 回	看護職のキャリアマネジメント 【講義・グループワーク】(箕浦) ・キャリアとキャリア形成 ・看護職のキャリア形成				課題レポート提出	5時間
第 5 回	看護サービスのマネジメント 【講義・グループワーク】(箕浦) ・組織マネジメント ・看護提供方式と人材配置				学修内容のリフレクション	3時間
第 6 回	看護サービスのマネジメント 【講義】(箕浦) ・施設・設備のマネジメント ・物品マネジメント ・情報マネジメント ・組織におけるリスクマネジメント ・サービスの評価				学修内容のリフレクション	4時間
第 7 回	マネジメントに必要な知識と技術 【講義・グループワーク】(箕浦) ・リーダーシップとマネジメント ・パワーとエンパワメント ・変化と変				学修内容のリフレクション	4時間
第 8 回	看護を取り巻く諸制度 【講義・グループワーク】(箕浦) ・医療制度の現状と課題 ・看護専門職の課題				課題レポート提出	5時間
学修評価の方法 基 準 (割 合 %)	レポート課題 (第4回、8回) 100%) (各50%)、ルーブリック評価基準を用いて評価します。					
フィードバックの 方 法	1週間程度を目途に提出レポートにコメントを行い返却します。					
他 の 授 業 と の 関 連	積み重ねてきた学修や看護学実習の経験をもとに、看護実践場面を複眼的に捉え分析することで看護学を深めます。					
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 看護管理 医学書院					
参 考 図 書	学修目標達成状況に鑑み必要に応じて授業中に紹介します。					
履修上の留意点	これまで学修してきた各領域の学修内容と看護学実習などの経験をもとに、看護ケアマネジメントなど、改めて看護管理について、講義・グループワークを通して思考を深めます。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< y.minoura@kki.ac.jp >に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	箕浦 洋子 (看護師)					

授 業 科 目 名 [英 文 表 記]	看護倫理 [Nursing Ethics]	担 当 教 員 名	◎箕浦 洋子			
期 間	4 年後期	履 修 学 年	1	2	3	4
単 位 数・時 間	1 単位・15時間					○
授 業 形 態	講義・演習		● - 必修・○ - 選択			
カリキュラム・ ポリシー 番号	1	デ ィ プ ロ マ・ ポ リ シ ー 番 号	1、2、3、4			
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 高度化する医療と多様な価値観が存在する社会の現状を理解し、看護職が陥りやすい倫理的ジレンマについて事例の分析を通して、倫理理論の理解や価値分析を通して看護職としての倫理的課題の分析を学修する。 [学修目標] 1. 医療の場における倫理的配慮の必要性和問題を論理的に説明できる。 2. 専門職として看護師に求められる倫理について説明できる。 3. 倫理的問題の分析方法について説明できる。 4. 医療を受ける患者の思いを理解し、チーム医療に必要な倫理的配慮と看護師の役割について説明することができる。 5. 事例検討を通して倫理的感受性を高め、倫理問題の解決への取り組みから、社会から求められている看護について自己の考えを述べることができる。					
授 業 回 数	授 業 の 内 容			授業時間外(準備学修)の内容		目標時間
第 1 回	生命倫理の基本的な考え方 1 【講義・グループワーク】(箕浦) ・倫理とは何か・倫理理論について・生命倫理とは何か			学修内容のリフレクション		3時間
第 2 回	生命倫理の基本的な考え方 2 【講義・グループワーク】(箕浦) ・生命倫理と看護職に責務 ・守秘義務とインフォームドコンセント			学修内容のリフレクション		3時間
第 3 回	生命倫理の基本的な考え方 3 【講義・グループワーク】(箕浦) ・性と生殖の生命倫理 ・死の生命倫理			学修内容のリフレクション		4時間
第 4 回	生命倫理の基本的な考え方 4 【講義・グループワーク】(箕浦) ・先端医療と制度をめぐる生命倫理 ・生命倫理を改めて考える			課題レポート提出		5時間
第 5 回	看護倫理の基本的な考え方 1 【講義・グループワーク】(箕浦) ・看護倫理とは何か ・専門職の倫理 ・研究倫理			学修内容のリフレクション		3時間
第 6 回	看護倫理の基本的な考え方 2 【講義・グループワーク】(箕浦) ・倫理的問題へのアプローチ Ver 1			学修内容のリフレクション		3時間
第 7 回	看護倫理の基本的な考え方 3 【講義・グループワーク】(箕浦) ・倫理的問題へのアプローチ Ver 2			学修内容のリフレクション		4時間
第 8 回	事例分析 【講義・グループワーク】(箕浦) ・地域看護における事例分析 ・精神看護における事例分析			課題レポート提出		5時間
学修評価の方法 基準 (割合 %)	レポート課題 (第4回、8回) 100%) (各50%)、ルーブリック評価基準を用いて評価します。					
フィードバックの 方 法	1週間程度を目途に提出レポートにコメントを行い返却します。					
他 の 授 業 と の 関 連	一般教養科目で学修した基本的な知識と専門分野科目・看護学実習等で培った知識や自己の考え方をもとに、看護専門職として更なる看護観の醸成を目指します。					
テ キ ス ト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院					
参 考 図 書	学修目標達成状況に鑑み必要に応じて授業中に紹介します。					
履修上の留意点	これまで学修してきた各領域の学修内容と看護学実習などの経験をもとに、医療倫理および看護倫理について、毎回グループワークを行いながら思考を深めます。					
オフィスアワー	在室時は来室者等の状況で調整し対応、不在時は< y.minoura@kai.ac.jp > に連絡ください。					
実 務 経 験 の あ る 教 員	箕浦 洋子 (看護師)					



関西看護医療大学

〒656-2131 兵庫県淡路市志筑1456-4
TEL 0799-60-1200 FAX 0799-60-1201